令和４年２月１日発行
文部科学省認可通信教育補助教材

令和4年度

教 材 要 綱

（通信授業用シラバス）

2022

日本大学通信教育部

『教材要綱』の利用方法

はじめに

この『教材要綱』は，通信授業（印刷教材）で学ぶ際の補助教材として作成されたもので，印刷教材の概要，学修計画のポイント等が要約されています。面接授業（スクーリング）でのみ履修可能な科目（教材未刊行科目，演習科目等）は掲載されていません。

利用にあたっては，以下の事項に留意の上，有効に活用し，学修効果を高めてください。

なお，本要綱は入学時のみ配布します。以後，教材が改訂され，内容等に変更が生じた場合には，ホームページ内のポータルサイトで告知します。

Ⅰ　履修科目の選択

履修科目の選択にあたっては，『学修要覧』，『コース履修の手引』を熟読してください。

Ⅱ　教材要綱の見方

1　科目コード：平成 27 年度から使用している当該科目固有のコード（英数字 6 桁）です。

2　科　目　名：科目名には「・・・概論」，「・・・概説」等類似した科目名がありますので，注意してください。なお，複数科目で同一の教材を使用しているものがありますので，後掲「Ⅳ同一科目として扱う名称の異なる科目の表記について」で確認してください。

3　単　位　数：当該科目の所定単位数を記載しています。

4　教材コード：当該教材固有のコードです。

5　教　材　名：教材には，市販されているものを通信教育教材としているものもあり，その場合には，教材名に二重括弧（『 』）で書籍のタイトルを記載しています。

6　著 者 名 等：教材の執筆者等を記載しています。

7　出 版 社 名：市販されている教材の出版社等を記載しています。

8　Ｉ Ｓ Ｂ Ｎ：市販されている教材には ISBN コードを記載しています。
最寄の書店で購入する場合は，ISBN コードを伝えると，同一の教材が入手できます。

Ⅲ　留 意 点

1　学修方法･留意点：教材での学修上並びにリポート作成上の留意点を記載しています。

2　参 考 文 献：参考文献を記載しています。なお，※印を付してあるものは，入手が困難な場合がありますので，図書館等で閲覧してください。

【表記の統一について】

平成 27 年度から，『学習』の表記を『学修』に改めることになりました。教材要綱においても，『学修』に変更をしておりますが，「◆教材の概要」，「◆学修到達目標」，「◆学修方法・留意点」などの本文中に，その特性上『学習』の文字を使用している場合があります。また教材別冊の『学修指導書』についても順次『学修』に置き換えておりますが，一部『学習指導書』と表記する場合がありますのであらかじめご容赦願います。

Ⅳ　同一科目として扱う名称の異なる科目の表記について

授業内容（印刷教材）は同一ですが，学部によって名称が異なる科目があります。これらの科目は自学部で一度単位修得すると他学部の科目名称で履修することはできません。

本要綱における表記及び該当科目は以下のとおりです。

＜本要綱での表記例＞

科目コード	科目名	単位数
L30200	国際政治学	４単位
R32700	国際政治論	４単位
S33200	国際政治学概論	４単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

＜同一科目として扱う名称の異なる科目一覧＞

法学部		文理学部		経済学部		商学部	
科目コード	科目名	科目コード	科目名	科目コード	科目名	科目コード	科目名
L30200	国際政治学	L30200	国際政治学	R32700	国際政治論	S33200	国際政治学概論
K32200	日本史概論	Q30200	日本史概説	Q30200	日本史概説	Q30200	日本史概説
K32300	東洋史概論	Q30300	東洋史概説	Q30300	東洋史概説	Q30300	東洋史概説
K32400	西洋史概論	Q30400	西洋史概説	Q30400	西洋史概説	Q30400	西洋史概説
—		—		R32800	外国史概説	S33300	外国史
L20200	経済学原論	R20100	経済原論	R20100	経済原論	R20100	経済原論
L31300	経済学説史	R30100	経済学史	R30100	経済学史	R30100	経済学史
L31500	経済政策	R30700	経済政策総論	R30700	経済政策総論	R30700	経済政策総論
L31400	財政学	R31500	財政学総論	R31500	財政学総論	R31500	財政学総論
L31600	社会政策	R32100	社会政策論	R32100	社会政策論	R32100	社会政策論
T22000	地誌学概論	T21900	地誌学※	T21900	地誌学	T22100	地理学概論（地誌を含む）
R32600	経済地理学	R32600	経済地理学	R32600	経済地理学	S32200	経済地理
—		T22600	法学通論※	T22700	法律学概論（国際法を含む）	T22700	法律学概論（国際法を含む）

※　文理学部で「T21900　地誌学」及び「T22600　法学通論」を履修できるのは，哲学専攻及び史学専攻のみです。

通信教育教材『市販教材』

これまで，通信教育教材の『市販教材』には，大学専用のオリジナルカバーを掛けて配本してきましたが，平成 26 年度からはカバー掛けを廃止しました。

V　複数冊組（セット）の教材について

以下の教材は，複数冊の教材を使用します。

配本申請時はセットコードで申請してください。教材購入時は，それぞれ単体の教材コードで購入します。

科目コード	科目名	使用教材		
		配本申請時（セットコード）	教材購入時（教材コード）	教材名
C10100	英語Ⅰ	200008	000560	Basic College English Seminar
			000595	Basic College English Seminar（学習用ガイド）
C10600	英語基礎	200004	000294	Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門
			000313	Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門（学習用ガイド）
M30700	国文学講義Ⅲ（中世）	200001	000091	国文学講義Ⅲ（中世）
			000370	源氏物語の世界
T23600	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	200006	000587	中学校学習指導要領解説社会編
			000589	高等学校学習指導要領解説地理歴史編
T20600	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	200006	000587	中学校学習指導要領解説社会編
			000589	高等学校学習指導要領解説地理歴史編
T23700	社会科・公民科教育法Ⅰ	200007	000587	中学校学習指導要領解説社会編
			000592	高等学校学習指導要領解説公民編
T20800	社会科・公民科教育法Ⅱ	200007	000587	中学校学習指導要領解説社会編
			000592	高等学校学習指導要領解説公民編
T22400	漢字書法	200002	000237	漢字書法手本
			000238	漢字書法教本（学修指導書）
T22500	かな書法	200003	000239	かな書法手本
			000240	かな書法教本（学修指導書）
T30500	生徒指導・進路指導論	200005	000581	生徒指導提要
			000582	中学校キャリア教育の手引き
			000583	高等学校キャリア教育の手引き
T21700	教育の方法・技術論	200009	000341	教育の方法・技術論
			000620	ICT 活用の理論と実践
T24000	教育方法・ICT 活用論	200009	000341	教育の方法・技術論
			000620	ICT 活用の理論と実践

Ⅵ　学修の流れ

通信学修（テキスト学修）はテキストによる自学自修ですが，自学に必要な時間数は「大学通信教育設置基準」により「１単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容」と規定されています。

教材全体が学修範囲ですから相応の時間が必要なことを理解して，以下に示した学修の流れと時間を目安に学修に取り組んでください。

リポート分冊１作成（２単位）の場合

①　テキスト学修（標準学修時間：60 時間程度）

〇教材の概要や到達目標の理解と確認

〇学修計画を参考にしたテキスト学修

〇リポート課題の趣旨をもとにした学修

〇質問による理解促進

②　リポート作成（標準学修時間：20 時間）

〇リポート課題の確認

〇ポイント・キーワードと参考文献を参照しリポートの推敲

③　テキスト・リポートの復習・発展学修（標準学修時間：10 時間）

〇リポートの返却後の講評を参考にした復習。

Ⅶ　成績評価基準

科目修得試験（100％）ただし，リポート合格が条件となる。

Ⅷ　学修相談（連絡先）

リポート課題集巻末の質問票を利用すること。

Ⅸ　教職科目について

令和元年度以降に入学した学生は，免許状取得にあたり，新法（新課程）に基づく所要資格を満たす必要があります。

ただし，一部学生は改正に伴う経過措置を受け，旧法（旧課程）での所要資格充足を目指すこととなります。

自身がどちらの適用になるか「コース履修の手引」を確認のうえ，履修するようにしてください。

目次
Contents

※目次は，科目コード順で配列しています。

総合教育科目・外国語科目・保健体育科目

ページ	科目コード	教材コード	科目名
1 ▶	B10700	000404	哲学
2 ▶	B10800	000559	論理学
3 ▶	B10900	000405	倫理学
4 ▶	B11000	000004	宗教学
5 ▶	B11100	000393	歴史学
6 ▶	B11200	000308	文化史
7 ▶	B11300	000601	文学
8 ▶	B11400	000310	美術史
9 ▶	B11500	000515	法学（日本国憲法２単位を含む）
10 ▶	B11600	000433	社会学
11 ▶	B11700	000279	政治学
12 ▶	B11800	000610	経済学
13 ▶	B11900	000339	数学
14 ▶	B12000	000434	生物学
15 ▶	B12100	000483	心理学
16 ▶	B12200	000018	統計学
17 ▶	B12300	000611	科学史
18 ▶	C10100	000560/000595	英語Ⅰ
19 ▶	C10200	000561	英語Ⅱ
20 ▶	C10300	000021	英語Ⅲ
21 ▶	C10400	000371	英語Ⅳ
22 ▶	C10500	000023	英語Ⅴ
23 ▶	C10600	000294/000313	英語基礎
24 ▶	D10100	000563	ドイツ語Ⅰ
25 ▶	D10200	000441	ドイツ語Ⅱ
26 ▶	D10300	000547	ドイツ語Ⅲ
27 ▶	D10400	000442	ドイツ語Ⅳ
28 ▶	E10100	000372	フランス語Ⅰ
29 ▶	E10200	000373	フランス語Ⅱ
30 ▶	E10300	000347	フランス語Ⅲ
31 ▶	E10400	000347	フランス語Ⅳ
32 ▶	F10100	000456	中国語Ⅰ
33 ▶	F10200	000457	中国語Ⅱ
34 ▶	F10300	000517	中国語Ⅲ
35 ▶	F10400	000549	中国語Ⅳ
36 ▶	G10100	000295	日本語Ⅰ

ページ	科目コード	教材コード	科目名
37 ▶	G10200	000460	日本語Ⅱ
38 ▶	G10300	000504	日本語Ⅲ
39 ▶	G10400	000461	日本語Ⅳ
40 ▶	H10100	000395	保健体育講義Ⅰ
41 ▶	H10200	000037	保健体育講義Ⅱ

専門教育科目

ページ	科目コード	教材コード	科目名
42 ▶	K20100	000261	憲法
43 ▶	K20200	000612	民法Ⅰ
44 ▶	K20300	000564	刑法Ⅰ
45 ▶	K30100	000613	民法Ⅱ
46 ▶	K30200	000614	民法Ⅲ
47 ▶	K30300	000615	民法Ⅳ
48 ▶	K30400	000616	民法Ⅴ
49 ▶	K30500	000602	商法Ⅰ
50 ▶	K30600	000379	商法Ⅱ
51 ▶	K30700	000603	商法Ⅲ
52 ▶	K30800	000396	刑法Ⅱ
53 ▶	K30900	000565	行政法Ⅰ
54 ▶	K31000	000565	行政法Ⅱ
55 ▶	K31100	000462	国際法
56 ▶	K31200	000064	国際私法
57 ▶	K31300	000566	労働法
58 ▶	K31400	000463	知的財産権法
59 ▶	K31500	000410	税法
60 ▶	K31600	000494	民事訴訟法
61 ▶	K31700	000409	刑事訴訟法
62 ▶	K31900	000049	日本法制史
63 ▶	K32200	000382	日本史概論
64 ▶	K32300	000523	東洋史概論
65 ▶	K32400	000147	西洋史概論
66 ▶	L20100	000353	政治学原論
67 ▶	L20200	000604	経済学原論
68 ▶	L30100	000084	行政学
69 ▶	L30200	000501	国際政治学
70 ▶	L30300	000082	政治思想史
71 ▶	L30400	000452	日本政治史
72 ▶	L30500	000503	西洋政治史
73 ▶	L30600	000495	東洋政治史
74 ▶	L30700	000085	外交史
75 ▶	L30800	000496	地方自治論
76 ▶	L31300	000160	経済学説史

ページ	科目コード	教材コード	科目名
77 ▶	L31400	000609	財政学
78 ▶	L31500	000527	経済政策
79 ▶	L31600	000532	社会政策
80 ▶	M20100	000519	国文学基礎講義
81 ▶	M20200	000089	国文学概論
82 ▶	M20300	000412	国語学概論
83 ▶	M30100	000596	国文学史Ⅰ
84 ▶	M30200	000597	国文学史Ⅱ
85 ▶	M30300	000101	国文法
86 ▶	M30400	000088	国語学講義
87 ▶	M30500	000090	国文学講義Ⅰ（上代）
88 ▶	M30700	000091/000370	国文学講義Ⅲ（中世）
89 ▶	M30800	000093	国文学講義Ⅳ（近世）
90 ▶	M30900	000601	国文学講義Ⅴ（近代）
91 ▶	M31000	000361	国文学講義Ⅵ（現代）
92 ▶	M31400	000266	国語音声学
93 ▶	M31500	000437	漢文学Ⅰ
94 ▶	M31600	000108	漢文学Ⅱ
95 ▶	M31900	000534	文章表現法
96 ▶	N20100	000111	イギリス文学史Ⅰ
97 ▶	N20200	000270	英文法
98 ▶	N20300	000041	英語文学概説
99 ▶	N30100	000112	イギリス文学史Ⅱ
100 ▶	N30200	000536	アメリカ文学史
101 ▶	N30300	000117	英語史
102 ▶	N30400	000120	英作文Ⅰ
103 ▶	N30500	000121	英作文Ⅱ
104 ▶	N30600	000413	英語音声学
105 ▶	N30700	000567	英語学概説
106 ▶	N30900	000123	スピーチコミュニケーションⅠ
107 ▶	N31000	000124	スピーチコミュニケーションⅡ
108 ▶	N31200	000116	英米文学特殊講義
109 ▶	N31300	000128	放送英語
110 ▶	N31400	000129	新聞英語
111 ▶	N31500	000414	英米事情Ⅰ
112 ▶	N31600	000521	英米事情Ⅱ
113 ▶	N31700	000568	異文化間コミュニケーション概論
114 ▶	P20100	000042	哲学基礎講読
115 ▶	P20200	000569	西洋思想史Ⅰ
116 ▶	P20300	000392	東洋思想史Ⅰ
117 ▶	P30100	000044	宗教学基礎講読
118 ▶	P30200	000337	倫理学基礎講読
119 ▶	P30300	000571	哲学概論
120 ▶	P30400	000139	宗教学概論
121 ▶	P30500	000572	倫理学概論

ページ	科目コード	教材コード	科目名
122 ▶	P30600	000570	西洋思想史Ⅱ
123 ▶	P30700	000438	東洋思想史Ⅱ
124 ▶	P30800	000137	日本思想史Ⅰ
125 ▶	P31000	000345	哲学特殊講義
126 ▶	P31300	000573	科学哲学
127 ▶	Q20100	000484	日本史入門
128 ▶	Q20300	000047	西洋史入門
129 ▶	Q20400	000509	考古学入門
130 ▶	Q30100	000600	史学概論
63 ▶	Q30200	000382	日本史概説
64 ▶	Q30300	000523	東洋史概説
65 ▶	Q30400	000147	西洋史概説
131 ▶	Q30500	000510	考古学概説
132 ▶	Q30600	000149	考古学特講Ⅰ
133 ▶	Q30800	000151	日本史特講Ⅰ
134 ▶	Q30900	000558	日本史特講Ⅱ
135 ▶	Q31000	000507	東洋史特講Ⅰ
136 ▶	Q31100	000508	東洋史特講Ⅱ
137 ▶	Q31200	000156	西洋史特講Ⅰ
138 ▶	Q31700	000502	古文書学
67 ▶	R20100	000604	経済原論
139 ▶	R20200	000161	経済史総論
140 ▶	R20300	000610	経済学概論
76 ▶	R30100	000160	経済学史
141 ▶	R30300	000352	価格理論
142 ▶	R30500	000416	日本経済史
143 ▶	R30600	000163	西洋経済史
78 ▶	R30700	000527	経済政策総論
144 ▶	R30800	000486	農業経済論
145 ▶	R30900	000166	工業経済論
146 ▶	R31000	000499	日本経済論
147 ▶	R31100	000281	国際経済論
148 ▶	R312S0	000575	アメリカ経済論
149 ▶	R313S0	000576	中国経済論
150 ▶	R31400	000605	経済開発論
77 ▶	R31500	000609	財政学総論
151 ▶	R31600	000606	地方財政論
152 ▶	R31700	000467	租税論
153 ▶	R31800	000540	金融論
154 ▶	R31900	000440	貨幣経済論
155 ▶	R32000	000174	経済統計学
79 ▶	R32100	000532	社会政策論
156 ▶	R32200	000500	労働経済論
157 ▶	R32300	000453	情報概論
158 ▶	R32600	000233	経済地理学

ページ	科目コード	教材コード	科目名
69 ▶	R32700	000501	国際政治論
159 ▶	R32800	000148	外国史概説
160 ▶	S20100	000356	商学総論
161 ▶	S20200	000617	経営学
162 ▶	S20300	000454	簿記論Ⅰ
163 ▶	S30200	000451	商法
164 ▶	S30300	000401	商品学
165 ▶	S30400	000439	貿易論
166 ▶	S30500	000182	マーケティング
167 ▶	S30600	000578	保険総論
168 ▶	S30700	000184	交通論
169 ▶	S30800	000185	証券市場論
170 ▶	S30900	000599	広告論
171 ▶	S31000	000187	商業政策
172 ▶	S311S0	000540	金融機関論
173 ▶	S31200	000432	国際金融論
174 ▶	S31300	000190	商業英語Ⅰ
175 ▶	S31400	000191	商業英語Ⅱ
176 ▶	S32000	000417	観光事業論
177 ▶	S32100	000555	商業史
158 ▶	S32200	000233	経済地理
178 ▶	S32700	000488	中小企業論
179 ▶	S32800	000482	会計学
69 ▶	S33200	000501	国際政治学概論
159 ▶	S33300	000148	外国史
180 ▶	T10100	000541	現代教職論
181 ▶	T10200	000199	教育原論
182 ▶	T10400	000419	教育の歴史
183 ▶	T20100	000421	教育の社会学
184 ▶	T20200	000579	教育制度論
185 ▶	T20400	000444	国語科教育法Ⅱ
186 ▶	T20600	000587/000589	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ
187 ▶	T20800	000587/000592	社会科・公民科教育法Ⅱ
188 ▶	T21000	000490	英語科教育法Ⅱ
189 ▶	T21200	000619	商業科教育法Ⅱ
190 ▶	T21300	000543	道徳教育の理論と方法
191 ▶	T21500	000591	特別活動論
192 ▶	T21700	000341/000620	教育の方法・技術論
193 ▶	T21800	000529	地理学概論
194 ▶	T21900	000557	地誌学
194 ▶	T22000	000557	地誌学概論
194 ▶	T22100	000557	地理学概論（地誌を含む）
195 ▶	T22200	000422	人文地理学概論
196 ▶	T22300	000236	自然地理学概論
197 ▶	T22400	000237/000238	漢字書法

ページ	科目コード	教材コード	科目名
198 ▶	T22500	000239/000240	かな書法
199 ▶	T22600	000241	法学通論
199 ▶	T22700	000241	法律学概論（国際法を含む）
200 ▶	T22800	000243	政治学概論
201 ▶	T22900	000455	職業指導
202 ▶	T23000	000247	心理学概論
203 ▶	T23100	000593	発達と学習
204 ▶	T23200	000590	特別支援教育概論
205 ▶	T23300	000594	教育課程論
206 ▶	T23400	000591	特別活動・総合的な学習の時間の指導法
207 ▶	T23500	000469	国語科教育法Ⅰ
208 ▶	T23600	000587/000589	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
209 ▶	T23700	000587/000592	社会科・公民科教育法Ⅰ
210 ▶	T23800	000580	英語科教育法Ⅰ
211 ▶	T23900	000618	商業科教育法Ⅰ
192 ▶	T24000	000341/000620	教育方法・ICT 活用論
212 ▶	T30100	000545	国語科教育法Ⅲ
213 ▶	T30200	000446	国語科教育法Ⅳ
214 ▶	T30300	000225	英語科教育法Ⅲ
215 ▶	T30400	000227	英語科教育法Ⅳ
216 ▶	T30500	000581/582/583	生徒指導・進路指導論
217 ▶	T30600	000498	教育相談
218 ▶	U20100	000584	学校経営と学校図書館
219 ▶	U20200	000389	学校図書館メディアの構成
220 ▶	U20300	000585	学習指導と学校図書館
221 ▶	U20400	000607	読書と豊かな人間性
222 ▶	U20500	000473	情報メディアの活用
223 ▶	Y20100	000436	生涯学習論
224 ▶	Y20300	000492	博物館概論
225 ▶	Y20400	000475	博物館経営論
226 ▶	Y20600	000493	博物館資料論
227 ▶	Y20700	000477	博物館資料保存論
228 ▶	Y20800	000598	博物館展示論
229 ▶	Y20900	000598	博物館教育論
230 ▶	Y21000	000480	博物館情報・メディア論
231 ▶	Y21200	000491	民俗学
232 ▶	Y21300	000424	文化人類学

科目コード	科　目　名	単位数
B10700	哲学	4単位

教材コード　000404
教　材　名　『西洋思想の要諦周覧』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　嘉吉　純夫・齋藤　隆
出 版 社 名　北樹出版
I S B N　9784893843487

◆教材の概要

この教材は，哲学，倫理学を中心とした西洋思想の展開・発展を，以下の３つのテーマに即して，古代ギリシアから現代にわたって論じている。第１章「存在」と世界観の問題（神，自然，人間），第２章「認識」と「論理」の問題（言葉，知識，真理），第３章「価値」と人生観の問題（社会，倫理，生の選び）である。したがって，この教材を熟読すれば，大学における一般教養科目「哲学」で講義される問題を思索するための十分な能力が提供されるであろう。

◆学修到達目標

存在論とは，「あり方の究明」であり，古代ギリシア以来の哲学の中心課題であり，中世キリスト教神学，ならびに，スコラ哲学，さらには，近代を経て，現代の実存主義にまで至っている。認識論は，「知り方の究明」であり，存在論の基本だと考えられ，近世のロックやカントにより，認識論的反省が遂行される。また，認識論は真理を知るという観点から論理学と係わり，現代の言語哲学や科学哲学の一部もここに含まれる。以上を考察することで，AI の時代を生きる延びるための哲学力を養うことを目的とする。

◆学修方法・留意点

哲学は「ことば」が理解しにくいので，辞書でよく調べること。文章も複雑な文が多く，何回も読み，そのたびに考え，また読み進めよう。

◆学修計画

1 回目	ソクラテス以前の思想家たち（ミレトス学派からデモクリトスまで）
2 回目	ソクラテス以後の思想家たち（ソクラテス，プラトン，アリストテレス）
3 回目	キリスト教の世界観とスコラ哲学（アウグスティヌス，アンセルムス，トマス・アクィナス）
4 回目	近代の思想家 (1) デカルトの「方法的懐疑」と「物心二元論」
5 回目	(2) ライプニッツの単子論と真理論
6 回目	(3) ベーコンの『学問の新機関』(4 つのイドラと帰納法)
7 回目	(4) 経験論的認識論（ロック，バークリー，ヒューム）
8 回目	(5) カントの伝統的形而上学の否定と批判的認識論の確立（コペルニクス的転回，物自体と現象界）
9 回目	(6) ヘーゲルの弁証的世界観
10 回目	現代の思想家 (1) キルケゴールの実存と絶望
11 回目	(2) フッサールの現象学的世界像
12 回目	(3) ハイデガーの「基礎的存在論」
13 回目	パースのプラグマティズム（探究の理論，pragmatic maxim）
14 回目	科学哲学 (1) 論理実証主義（フレーゲ，ラッセル，ウィトゲンシュタイン，カルナップ，ポパー）
15 回目	(2) 科学論の展開，イギリスの分析哲学（日常言語学派），クワインの哲学

◆参考文献

『21 世紀の哲学』笠松幸一・和田和行編著（八千代出版）

科目コード	科　目　名	単位数
B10800	論理学	4単位

教材コード　000559
教　材　名　『新版　論理トレーニング』
著 者 名 等　野矢　茂樹
出 版 社 名　産業図書
I S B N　9784782802113

◆教材の概要

この教材は，論理力を養うためのトレーニングとしてプログラムされている。論理力とは，「考えをきちんと伝える力」であり，「伝えられたものをきちんと受け取る力」である。つまり，論理力とは，コミュニケーションのための技術，言語能力である。この本では，広い意味の論理として，主張と主張どうしの「接続の論理」を学び，訓練する。つぎに，狭い意味の論理として，「論証」「仮説形成」，とくに「演繹」に関して，多くの例題や章末の練習問題を利用して，存分に論理力をアップするためにトレーニングすることができる。

◆学修到達目標

Ⅰ接続の論理では，文章と文章とを繋げる接続表現を学び，練習問題によりトレーニングすることで，文章表現がより論理的になり明確なものになる。また，Ⅱ論証，Ⅲ演繹では，論証構造を理解し，さらに，「演繹」を主題的に取り上げ，「～でない」（否定），「かつ」と「または」，「すべて」と「存在する」，さらに「ならば」（条件構造）の論理的構造をトレーニングすることにより，文章の「読み書き」の論理力を確実につけていくことができる。

◆学修方法・留意点

学習と 演習（トレーニング）を交互にすること。自動車の運転能力は教習所へ通えばつきます。
同様に，論理力もトレーニングすることで，必ずその能力は身につきます。

◆学修計画

1回目	論理とは何か
2回目	Ⅰ　接続の論理 様々な接続関係
3回目	接続構造
4回目	議論の組み立て
5回目	Ⅱ　論証
6回目	論証の構造と評価
7回目	演繹と推測
8回目	価値評価
9回目	Ⅲ演繹
10回目	否定
11回目	条件構造
12回目	推論の技術
13回目	Ⅳ議論を作る
14回目	批判への視点
15回目	論文を書く

◆参考文献

なし

科目コード	科　目　名	単位数
B10900	倫理学	4単位

教材コード　000405
教　材　名　『21世紀の倫理』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　笠松　幸一・和田　和行
出 版 社 名　八千代出版
I S B N　9784842913100

◆教材の概要

本教材『21 世紀の倫理』は，伝統的な倫理（学）（第１章　倫理学の歴史）と新興の応用倫理（学）（第２章　生命倫理，第３章　環境倫理，第４章　メディア社会の倫理，第５章　グローバル化時代の倫理）から構成される。

特に本教材は，科学技術の急速な進展により引き起こされた，生命，環境，メディア情報，グローバル化等に関する諸問題を取り扱う応用倫理について学ぶことを主眼としております。

◆学修到達目標

倫理・倫理学の学修は，人間（私たち・私）の行為の正・邪・善・悪などについての評価の理論を究明するとともに，さらに日常生活において「正なる，善なる行為の実践」を目標とします。

◆学修方法・留意点

① 倫理･倫理学は，古代，中世，近代，現代それぞれの時代における社会的要請とともに展開してきました。
② 近･現代の倫理は，人間の倫理的能力を信頼する「人間中心主義」の倫理として，市民社会における「法」「契約」等を可能にする根拠として展開してきました。

◆学修計画

1 回目	倫理学の歴史：倫理の語義，実践としての倫理，倫理の変容性，ソクラテスの「無知の知」,
2 回目	プラトンのイデア論，アリストテレスの倫理的徳，ストア派のアパティア，エピクロスのアタラクシア
3 回目	社会契約説（ホッブズ，ロック，ルソー），カント倫理学，功利主義（ベンサム，ミル）。
4 回目	生命倫理：ヒトゲノム解析，遺伝子治療，ゲノム創薬，テーラーメイド医療，人工授精，ドナー情報,
5 回目	ノーベルバンク，昔の死・現代の死，インフォームド・コンセント，パターナリズム，ヒポクラテス,
6 回目	医師―患者関係，ハイデガー，ターミナル期の充実した人生，安楽死，尊厳死，EBM から NBM へ。
7 回目	環境倫理：カーソンの『沈黙の春』,「人間による地球の支配」，ベーコンの自然征服，地球温暖化,
8 回目	世代間倫理，人間中心主義，自然中心主義，自然の権利，土地倫理，生態系中心主義，生物多様性,
9 回目	リン・ホワイトの告発，ディープ・エコロジー，エコフェミニズム。
10 回目	メディア社会の倫理：情報コミュニケーションの南北問題，コミュニケートする権利,
11 回目	メディアリテラシー，広告における倫理，コンピュータ・エシックス，電子民主主義，情報格差,
12 回目	情報強者と情報弱者，著作権，プライバシー，個人情報の保護。
13 回目	グローバル化時代の倫理：多文化主義と承認，ロールズのリベラリズム，ノージックのリバタリアニズム
14 回目	コミュニタリアニズム，フェミニズム，ジェンダー，マイノリティと平等，ローティの会話の倫理,
15 回目	自文化中心主義，会話・対話の継続，強制によらない合意，寛容でリベラルな態度，連帯。

◆参考文献

各節の文末に表記される「参考文献」に確認してください。

科目コード	科　目　名	単位数
B11000	宗教学	4単位

教材コード　000004
教　材　名　宗教学
著 者 名 等　奈良　弘元

◆教材の概要
宗教学は，宗教のあるがままの姿（事実）を明らかにし，宗教についての正確な知識の体系を築きあげようとする学問です。したがって，その学的性格から，テキストは，まず，宗教についての歴史的事実を正しく把握することにつとめた。テキストの構成は，「宗教は人類の歴史とともにはじまる」，「私たちの生活と宗教とのかかわり」，「私たちをとりまく宗教の諸相」，「私たちのまわりから消えてしまった宗教」及び「私たちに身近な宗教の思想」からなっています。

◆学修到達目標
多様な宗教の特徴を理解することを目標とします。その対象は，世界三大宗教をはじめとして，民族宗教やすでに私たちのまわりから消えてしまった未開の宗教や古代の宗教も含まれます。主要な宗教については，開祖の生涯・主要な教義・聖典・儀礼・歴史的展開などについて基本的な知識の習得を目指します。

◆学修方法・留意点
教材を熟読吟味するとともに，その内容を自分の言葉で，正しく説明できるように心がけること。そのためには，具体的な事例を列挙できるように努め，また，説明のための論拠を持つように努めること。あいまいな言葉，意味不明な言葉は，必ず，辞書などで確かめること。

◆学修計画

1回目	「宗教は人類の歴史とともにはじまる」「私たちの生活と宗教とのかかわり」 年中行事・通過儀礼・随時の儀礼・さまざまなタブー・日常用語・宗教芸術
2回目	「私たちをとりまく宗教の諸相」①　キリスト教 イエスの生涯・福音書・キリスト教の展開・東方教会の展開・宗教改革
3回目	「私たちをとりまく宗教の諸相」②　イスラム教 マホメット（ムハンマド）の生涯・開祖の後継者と分派・聖典・六信・五行
4回目	「私たちをとりまく宗教の諸相」③　仏教 ゴータマ仏陀の生涯・インドにおける仏教の展開・アジア諸国への仏教の伝播
5回目	「私たちをとりまく宗教の諸相」④　民族宗教（神道を除く） ユダヤ教・ヒンドゥ教・ジャイナ教・儒教・道教
6回目	「私たちをとりまく宗教の諸相」⑤　神道 神道の分類・古神道・神仏習合・神道主体の神道理論・儒家神道・復古神道・教派神道・国家神道
7回目	「私たちのまわりから消えてしまった宗教」①　未開宗教 アニミズム・アニマティズ・シャマニズム・トーテミズム・高神の観念
8回目	「私たちのまわりから消えてしまった宗教」②　古代宗教 古代エジプト・古代メソポタイミア・古代ペルシアの宗教
9回目	「私たちのまわりから消えてしまった宗教」③　古代宗教 古代ギリシア・古代ローマ・古代ヨーロッパ・アメリカ大陸の古代宗教
10回目	「私たちに身近な宗教の思想」①　キリスト教の思想 イエスの教え・パウロの思想・教父たちの活躍
11回目	「私たちに身近な宗教の思想」②　キリスト教の思想 スコラ哲学・宗教改革・教会合同運動
12回目	「私たちに身近な宗教の思想」③　仏教の思想 初期仏教の思想・部派仏教の思想
13回目	「私たちに身近な宗教の思想」④　仏教の思想 大乗仏教の思想〔空の思想・中観派・唯識説・如来蔵思想・密教の思想〕
14回目	「私たちに身近な宗教の思想」⑤　神道の思想 神社神道・教派神道
15回目	「私たちに身近な宗教の思想」⑥　新宗教の流れ 明治時代・大正～1960年代の終わり・1970年以降

◆参考文献
巻末の主要参考文献中，特に『世界の宗教』岸本英夫著（原書房），『世界の宗教と経典　総解説』（自由国民社），『宗教学辞典』（東京大学出版会）を参照のこと。

科目コード	科　目　名	単位数
B11100	歴史学	4単位

教材コード　000393

教　材　名　歴史学

著 者 名 等　髙綱　博文・竹中　眞幸・藤井　信行・馬渕　彰・粕谷　元・渡邊　浩史・郡司　美枝・須江　隆・鍋本　由徳

◆教材の概要

本教材は，古代から近代にいたる歴史を日本史・東洋史・西洋史の３分野から論述したものです。教材の大きな特徴は，従来の「通史」とは異なり，人物の動向を中心にしながら歴史を考えることを目的としていることです。本教材に登場する人物がどのような時代に生き，その時代の中でどのような理念を持って活動していたのかを考えてください。

◆学修到達目標

歴史学へのアプローチや叙述法を知るために，①人物を通して，その人々の生きた時代と地域について説明できるようにする。②歴史学の方法の多様性を知り，事実を解釈する方法を身につける。③細かい事実を知るだけではなく，人物や事件を歴史の中で位置付ける姿勢を身につける，ことを目標とします。

◆学修方法・留意点

本教材は人物中心です，いわゆる「伝記」ではありません。各章末に挙げられた参考文献などにも目を通すとともに，各国の通史を学修し，地域・時代の概略を併行して理解しておくことが望まれます。リポート課題作成にあたっては，その時代のあり方に着目することが重要です。人物の経歴をまとめるのではなく，その人たちがどのような時期に活動していたのかを整理するように心がけてください。

◆学修計画

1回目	文化装置としての中世	導入	安倍晴明
2回目	文化装置としての中世	一遍	紀伊国牟婁郡の悪女
3回目	近世日本の転換点	導入	享保改革（吉宗・忠相・休愚）
4回目	近代日本の社会と生活	導入	明治天皇
5回目	近代日本の社会と生活	乃木希典	石田伝吉
6回目	日本人民衆の上海体験	導入	岸田吟香・荒尾精
7回目	日本人民衆の上海体験	内山完造	上海日本人引揚者たちのノスタルジー
8回目	中国宋代社会	導入	蘇舜欽
9回目	中国宋代社会	方臘	林二十三娘
10回目	産業革命期前後のイギリス	導入	ジョン＝ウェスレー牧師
11回目	産業革命期前後のイギリス	アレヴィ博士	スティーブンズ牧師
12回目	世俗化とイスラームの相克	導入	アタトゥルク
13回目	世俗化とイスラームの相克	ヌルスィー	ベイ
14回目	第一次世界大戦とヨーロッパ国際関係	導入	エーレンタール外相・ベルヒトルト外相
15回目	第一次世界大戦とヨーロッパ国際関係	ヴィルヘルム２世	グレイ外相

◆参考文献

各章に注記されている参考文献

時代概観は，日本史であれば『日本の歴史』（中央公論新社・講談社，他），外国史は『世界の歴史』（中央公論新社，他）などを参照してもらいたい。

科目コード	科　目　名	単位数
B11200	文化史	4単位

教材コード　000308
教　材　名　『日本文化史（第二版）』
著 者 名 等　家永　三郎
出 版 社 名　岩波書店
I S B N　9784004201878

◆教材の概要

本書は，原始社会から近世社会解体期までの日本文化についての概説書である。「文化」という言葉は非常に幅広く多様な意味に用いられる。本書ではその点を踏まえつつも，「文化」という言葉から一般的に想起される学問・芸術・宗教・思想などの領域を論述の対象としている。新書という制約があるため，上記の各分野について詳細に論じているわけではない。しかし日本文化の特質について通史的な理解を得る上で有益な書といえる。

◆学修到達目標

日本文化の特質についての通史的な理解を得た上で，文化を政治や社会から孤立させることなく，それぞれの時代の文化を各々の時代の特色の中で位置づけることが出来るようになる。

◆学修方法・留意点

教材は日本文化史についてのあくまでも概説書であるので，本書を入り口としてより深く学ぶように努めてほしい。そのためにはより多くの参考文献を熟読する必要がある。また文化をそれぞれの時代の中で位置づけるためには，各時代の特色についても理解も必要となる。文化の表層についての理解に止まらないようにしてほしい。

◆学修計画

1回目	日本文化の課題
2回目	先土器時代の文化
3回目	縄文時代の文化
4回目	弥生時代の文化
5回目	古墳時代の文化
6回目	飛鳥時代の文化
7回目	奈良時代の文化
8回目	平安時代の文化
9回目	平安時代の文化
10回目	鎌倉時代の文化
11回目	室町時代の文化
12回目	室町時代の文化
13回目	安土桃山時代の文化
14回目	江戸時代の文化
15回目	江戸時代の文化

◆参考文献

『全集　日本の歴史』1～16（小学館）
『日本の歴史』1～26（講談社）
『日本の中世』1～11（中央公論新社）
『岩波講座日本歴史』1～22（岩波書店）

科目コード	科　目　名	単位数
B11300	文学	4単位

教材コード　000601

教　材　名　『日本近代小説史』　※国文学講義Ⅴ（近代）と同じ教材です。

著者名等　安藤　宏

出版社名　中央公論新社

ＩＳＢＮ　9784121101105

◆教材の概要

明治初期から戦後にかけての日本の近現代文学の歴史，文芸思潮の流れが個々の作家・作品に具体的に言及しながら概説されている。

◆学修到達目標

明治期から戦後文学（「第三の新人」及び開高健・大江健三郎の文学）までの日本の文学史の流れについて学び，個々の作家・作品の同時代的意義及び文学史的意味付けについて理解し，説明できるようになることを目標とする。また，そうした基礎的な理解の上に立つことで，個別の文学作品を実際に手に取り読み進められるようになる。

◆学修方法・留意点

各回に指定された教科書内容を精読にとどまるのではなく，そこで紹介・解説されている作品をできるだけたくさん実際に手に取って読み，教科書内容を踏まえてその文学史的意味付けを説明できるようにする。とくに読んでもらいたい作家名は各回の「内容」に名前を列記しておいたので参考にしてもらいたい。

◆学修計画

1回目	「Ⅰ　文明開化と「文学」の変容」の学習（14～37ページ） 内容：仮名垣魯文・矢野龍渓・坪内逍遥・二葉亭四迷らの作品を読む
2回目	「Ⅱ　明治中期の小説文体」の学習（38～62ページ） 内容：森鷗外・尾崎紅葉・幸田露伴・樋口一葉・泉鏡花・国木田独歩らの作品を読む
3回目	「Ⅲ　自然主義文学と漱石・鷗外」の学習（63～79ページ） 内容：島崎藤村・田山花袋・徳田秋声・正宗白鳥・岩野泡鳴らの作品を読む
4回目	「Ⅲ　自然主義文学と漱石・鷗外」の学習（79～87ページ） 内容：夏目漱石・森鷗外らの作品を読む
5回目	「Ⅳ　大正文壇の成立」の学習（88～102ページ） 内容：耽美派（永井荷風・谷崎潤一郎ら）と白樺派（武者小路実篤・志賀直哉ら）の作品を読む
6回目	「Ⅳ　大正文壇の成立」の学習（102～111ページ） 内容：芥川龍之介・『青鞜』周辺の女性作家・奇蹟派の作家の作品を読む
7回目	「Ⅴ　マルキシズムとモダニズム」の学習（112～122ページ） 内容：心境小説（志賀直哉ら）とプロレタリア文学（葉山嘉樹・小林多喜二ら）の作品を読む
8回目	「Ⅴ　マルキシズムとモダニズム」の学習（122～135ページ） 内容：横光利一・川端康成・伊藤整・井伏鱒二・梶井基次郎・堀辰雄・牧野信一らの作品を読む
9回目	「Ⅵ　第二次世界大戦と文学」の学習（136～149ページ） 内容：中里介山・江戸川乱歩・菊池寛，徳田秋声・永井荷風・太宰治・高見順らの作品を読む
10回目	「Ⅵ　第二次世界大戦と文学」の学習（149～162ページ） 内容：中野重治・石川淳・武田麟太郎，林芙美子・火野葦平・石川達三・中島敦らの作品を読む
11回目	「Ⅶ　戦後文学の展開」の学習（163～169ページ） 内容：宮本百合子・中野重治・平野謙らの作品（含・評論）を読む
12回目	「Ⅶ　戦後文学の展開」の学習（169～174ページ） 内容：無頼派の作家（太宰治・坂口安吾・織田作之助・石川淳ら）の作品を読む
13回目	「Ⅶ　戦後文学の展開」の学習（174～178ページ） 内容：戦後派の作家（埴谷雄高・野間宏・椎名麟三・梅崎春生ら）の作品を読む
14回目	「Ⅶ　戦後文学の展開」の学習（179～185ページ） 内容：第二次戦後派の作家（大岡昌平・武田泰淳・堀田善衛・三島由紀夫ら）の作品を読む
15回目	「Ⅶ　戦後文学の展開」の学習（185～189ページ） 内容：第三の新人の作家（小島信夫・安岡章太郎・庄野潤三・遠藤周作ら）及び開高健・大江健三郎の作品を読む

◆参考文献

なし

科目コード	科　目　名	単位数
B11400	美術史	4単位

教材コード　000310
教　材　名　『カラー版　日本美術史』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　辻　惟雄
出 版 社 名　美術出版社
I S B N　9784568400656

◆教材の概要

本書は日本美術の流れを時代別にまとめた概説書で，彫刻，絵画，工芸，建築といった美術のジャンルを総合的に扱っている。第1章　先史・古墳時代からはじまり，第7章　現代にまで及んでいる。また，巻末の年表及び付録もあわせて参照されたい。

◆学修到達目標

5～52ページ

縄文時代から奈良時代までを扱うが，特に第2章と第3章の飛鳥・白鳳・天平時代の仏教美術を重点的に学修すること。この時代は仏像が美術の中心的存在であるので，飛鳥・白鳳・天平の各時代の代表的仏像様式の特徴を理解し，その変遷を把握することが重要である。また絵画，工芸に関しては，教材で取り上げている作品について，その特色を把握してほしい。この学修によって，縄文時代から奈良時代までの美術について日本を訪れた外人等から質問を受けた時に説明できるようになる。

53～100ページ

平安・鎌倉・南北朝時代を扱う。彫刻については平安前期・平安後期・鎌倉の各時代の様式や技法上の特徴を理解し，その変遷を把握すること。絵画については，密教絵画や来迎図などの仏教関係の作品を重点的に学修し，あわせて絵巻物や肖像画など，この時代の代表的作品について幅広く学んでほしい。この学修によって，平安・鎌倉・南北朝時代までの美術について日本を訪れた外人等から質問を受けた時に説明できるようになる。

◆学修方法・留意点

① 美術作品のみを見るのではなく，歴史的背景や特に中国様式の伝播の状況についても視野に入れることが美術史を理解する上で重要である。
② 代表的作品については図版を参照して，自分の目で確認しつつ様式を理解すること。

◆学修計画

1回目	縄文時代，弥生時代の美術（教科書5～15ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
2回目	古墳時代の美術（教科書16～20ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
3回目	仏教公伝と飛鳥時代の建築（教科書21～25ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
4回目	飛鳥・白鳳時代の彫刻と絵画，工芸（教科書25～36ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
5回目	天平時代の彫刻（教科書37～45ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
6回目	天平時代の絵画と工芸，建築（教科書45～52ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
7回目	平安時代前期の建築と彫刻（教科書53～60ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
8回目	平安時代前期の絵画（教科書60～65ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
9回目	平安時代前期の書と工芸（教科書66～68ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
10回目	平安時代後期の彫刻（教科書69～75ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
11回目	平安時代後期の絵画（教科書75～82ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
12回目	平安時代後期の工芸と建築（教科書82～84ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
13回目	鎌倉・南北朝時代の建築と彫刻（教科書85～90ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
14回目	鎌倉・南北朝時代の仏画（教科書90～95ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。
15回目	鎌倉・南北朝時代の肖像画（教科書95～100ページ）当該ページを読み内容を要約し理解を深めること。

◆参考文献

本書付録の「参考文献」を参照。そのほか入手しやすいものとして以下のような概説書がある。
『日本仏像史』水野敬三郎　監修（美術出版社）

科目コード	科　目　名	単位数
B11500	法学（日本国憲法２単位を含む）	４単位

教材コード　０００５１５

教　材　名　法学

著 者 名 等　船山　泰範・川又　伸彦・小野　健太郎・松島　雪江

◆教材の概要

物事の理解には「知識」と，それを活かすための「（思考）方法」の二つが揃うことが大切，という観点に立ち，法を学ぶために必要な「知識」と，法的な「見方，考え方（思考方法）」とを習得できるように，本書は構成されている。

「そもそも法とは何か」「法を勉強するとはどういうことか」「法全体でどのような構成や関係性があるのか」「法はその他の社会規範とどう違う（同じ）か」といった概説がはじめにある。

次に，法律の勉強に不可避な法的知識を示し，基本的な情報を提示している。ここでは憲法（法学２で扱う），刑法，民法といった，とりわけ重要な法律領域を取り上げている。そしてその法的知識に基づき，法学に特有な法的方法論を提示して，法的知識を自分自身の事柄として考えられるように工夫されている。

本書は，これから専門的に法律を学ぼうとする人に対しては，全法律科目に通底する基盤になると共に，教養として学ぼうとする人に対しては，社会科学的な物の見方を提示するものである。

◆学修到達目標

1　憲法，刑法，民法をはじめとする法の基礎的概念や理論背景を理解する。
2　そうした基礎的概念に基づき，法が実社会でどのように生かされているのかを知る。
3　法に特有な「正しさを導く方法，正しさの考え方」を理解する。

◆学修方法・留意点

法律用語をきちんと理解すること。提示されたトピックが他の領域や現実問題とどう関連しているかを常に意識しながら読み進めて欲しい。1 章ごとに，その概要をノートにまとめる作業を行うことを勧める。また，言及されている判例については，論点の理解を深めるため，どのような問題に対して裁判所がどう判断したのか，それに対して自分はどう考えるかを整理するとよい。

◆学修計画

1 回目	なぜ法を学ぶのか・法と強制
2 回目	法と道徳・法の歴史
3 回目	法源・法の構造
4 回目	法の解釈と適用・法の効力
5 回目	法的思考・法の現代的展開
6 回目	生活の中の刑法・法の担い手としての市民
7 回目	民法典の形成と特色・権利・義務と民法における人間
8 回目	生活の中の憲法・憲法の意義と基本原理
9 回目	包括的人権と法の下の平等・思想・良心の自由と信教の自由
10 回目	表現の自由・経済的自由と社会権
11 回目	国民主義と参政権・平和主義
12 回目	刑事裁判のしくみ・刑法の基本原則
13 回目	民法のしくみ・民事裁判のしくみ
14 回目	生活の中の民法
15 回目	法と正義

◆参考文献

『新法学入門』山川一陽，船山泰範編著（弘文堂）
『法学入門』田中成明著（有斐閣）
『有斐閣法律用語辞典』法令用語研究会編（有斐閣）
『憲法判例　インデックス』工藤達朗編（商事法務）
『刑法を学ぶための道案内』船山泰範著（法学書院）

科目コード	科　目　名	単位数
B11600	社会学	4単位

教材コード　000433
教　材　名　『社会学講義―人と社会の学―』
著 者 名 等　富永　健一
出 版 社 名　中央公論新社
I S B N　9784121012425

◆教材の概要

社会学の世界を基礎的な説明から，各領域社会学まで，体系的に理解することを目的としています。

社会学的に考えること，社会学的な思考を明らかにし，社会学の世界に導くことを本教材ではめざしています。

社会学とは何か，社会学の基礎理論，人間生活に不可欠な周辺領域をカバーしています。

◆学修到達目標

社会学の対象は，人間がかかわる社会全体であり，そこに生じるさまざまな問題をいかに解決していくのか，人間が生まれてはじめて所属する家族から，近隣社会，地域，都市，国家・国民社会と広がります。さらに今日，メディアの進化がもたらした問題を含め，領域ごとに発生する課題を，社会学の方法論を用いて，分析，対応，解決をめざします。

◆学修方法・留意点

社会学の基本的な性格，社会との関係，社会学の概念を理解すること。研究対象は，個人の行為から集団，家族，地域社会，マスコミ世界へと多彩です。それをどのように分析するには，連続的に社会をみるが大事です。日常心がけてください。

◆学修計画

1回目	社会学の世界（社会学の対象は社会）
2回目	社会的行為（人間生活の基本は意図した目的をもつ行為からはじまります）
3回目	社会集団（人間は集団をつくります。小集団から社会集団へと広がります）
4回目	家族1（伝統家族としての家族類型，家族の機能を考えます）
5回目	家族2（現代家族としての核家族，小家族がもたらした問題，少子化の問題を探ります）
6回目	地域社会（農村社会，村落社会，過疎と過密の流れを考えます）
7回目	都市社会（人びとは都市へと向かい，過密化状況をつくりだしました。大都市一極集中です）
8回目	都市の過密と地方の衰退（地域活性化を考えます）
9回目	産業構造の変化（就業形態が変わり，女性の社会進出増加，家族の結びつき，その結果を考えます）
10回目	マスコミとマス・メディア（メディアの進化がもたらした生活について考えます）
11回目	パーソナル・メディアは個人化を加速（パソコン，スマフォの普及が個人の空間を変えました）
12回目	社会的ネットワークの浸透と人間関係（社会学はSNSとどのように向き合うのかを考えます）
13回目	メディア環境の変化と若者文化（若者たちは何を求めているのか，社会学の研究対象です）
14回目	社会構造と社会変動（歴史的過程をたどることで社会学の役割をあらためて考えます）
15回目	社会学の基本的性格（社会学とはどのような学問なのか，社会学の真価を問うて総括とします）

◆参考文献

『マス・コミュニケーションの世界―メディア・情報・ジャーナリズム―』仲川秀樹（ミネルヴァ書房，2019年）

科目コード	科　目　名	単位数
B11700	政治学	4単位

教材コード　000279
教　材　名　政治学
著 者 名 等　阿部　竹松・秋山　和宏・関根　二三夫

◆教材の概要

本教材は，民主主義国家における政治制度についての理解を深めることに役立つのみならず，政治についての実践的な知識を高めるためにも役立つように記述されています。特徴としては，政治理論に関する解説を簡素化し，実学として政治を理解できるように，議会，内閣，裁判所などの統治機構，国民が政治に直接関与する選挙，政党，圧力団体などの政治過程の解説に重点を置いていることです。

◆学修到達目標

議会や大統領もしくは内閣などの動きを見ますと，政治が難しい現象のように思われます。しかし，法律や予算の制定や執行は，国家や社会及び個人の発展に寄与するために役立ちます。また，選挙や政党，圧力団体などが，政策の立案や決定に大きな影響を及ぼします。政治がわれわれの生活に深い関りを持つと同時に，我々の生活にとって身近な現象であることを理解できるように学びます。

◆学修方法・留意点

政治に関する受講生の問題意識を高め，それに対する解決能力を啓発するように学修を進めます。学修を通じて知り得た内容が如何なる意義を有するのか，それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解できるような課題を設定し，課題に関する解決能力を高めて行きます。そのために，メディアの情報に関心を持ち，テキストを熟読するなど準備学修が必要になります。

◆学修計画

1回目	政治の概念や本質，政治権力の構造などを学びます
2回目	社会の変遷と国家の役割について学びます
3回目	主要な政治思想について学びます
4回目	政治過程と政治意識について学びます
5回目	選挙と投票行動について学びます
6回目	政党について学びます
7回目	圧力団体について学びます
8回目	マスコミュニケーションと政治の関係について学びます
9回目	立憲民主制の統治形態について学びます
10回目	わが国の立法部について，国会の組織を学びます
11回目	わが国の立法部について，国会の活動を学びます
12回目	わが国の行政部について，内閣の組織を学びます
13回目	わが国の行政部について，内閣の職務権限を学びます
14回目	わが国の司法部について，司法権の概念や裁判所の基本組織を学びます
15回目	わが国の司法部について，司法の民主的統制を学びます

◆参考文献

教材に記載されている参考文献を参照して下さい。

科目コード	科　目　名	単位数
B11800	経済学	4単位

教材コード　000610
教　材　名　『やさしく学べる経済学』　※経済学概論と同じ教材です
著 者 名 等　陸　亦群・前野　高章
出 版 社 名　文眞堂
I S B N　9784830951435

◆教材の概要

本教材は，はじめて経済学を学修する受講生を対象にしている。そのため経済学の基礎的概念を理解することを目的とした構成となっており，経済学の基本分野であるミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な理論を一冊にまとめたものである。本教材では経済学とはどのような学問なのかの説明からはじまり，需要と供給の基礎理論とはどのようなものであるのかということを整理し，前半部分（第Ⅰ部）はミクロ経済学の内容であり，家計の行動，企業の行動，要素市場の均衡，市場の均衡，不完全競争市場などについて包括的にまとめられている。後半部分（第Ⅱ部）はマクロ経済学についてまとめられており，マクロ経済学のとらえ方，国民経済計算，国民所得の決定理論，貨幣市場の均衡，IS-LM モデルから財市場と貨幣市場の均衡および経済政策の効果，物価水準の変化などについてについて包括的にまとめられている。

◆学修到達目標

「経済を見る目」を養うことから社会経済が直面している経済問題がどのようなものであるかを把握できるようになり，現在の経済問題の所在とその原因の解明と対処法を，簡単な経済モデルに還元して解き明かし，説明できるようになることを目指す。

◆学修方法・留意点

経済学は暗記科目ではない。日常ありふれている事柄を単純な経済モデルに落とし込み，論理整合的に解き明かすことを心がける。本教材は，ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論のエッセンスが解説されているので，①専門用語の理解，②項目ごとの要点の整理と論旨の組み立て，③理論の結論の明確化，という点に注意し，精読して欲しい。

◆学修計画

1 回目	経済学の基本問題
2 回目	ミクロ経済学のとらえ方
3 回目	市場における需要と供給の理論
4 回目	家計の消費行動
5 回目	企業の生産行動
6 回目	生産要素市場の均衡
7 回目	市場均衡と市場の効率性
8 回目	不完全競争市場と外部性
9 回目	マクロ経済学のとらえ方
10 回目	国民経済計算
11 回目	国民所得の決定理論
12 回目	貨幣市場の均衡と利子率
13 回目	IS-LM モデルと財政金融政策
14 回目	開放経済モデルと経済政策の効果
15 回目	物価水準の変化と国民所得

◆参考文献

『ミクロ経済学　第 3 版』伊藤元重（日本評論社，2018 年）
『入門マクロ経済学　第 6 版』中谷巌（日本評論社，2021 年）

科目コード	科　目　名	単位数
B11900	数学	4単位

教材コード　000339
教　材　名　『教養の数学（改訂版）』
著 者 名 等　矢野　健太郎
出 版 社 名　裳華房
I S B N　9784785306328

◆教材の概要

現代社会において活用されている数学は大別して２つあるといってよい。それは，解析幾何学と微分積分学が発見された 17 世紀の伝統をひいた古典数学と，この範ちゅうにはまらない現代数学である。勿論，これらはどちらも重要であるが，この教科書は現代数学に焦点をあてて書かれたものである。したがって，いかにも数学といった感じのする微分積分学の解説は殆んどなく，専ら，身近な問題を定式化し発展させる事項が多く解説されている。

◆学修到達目標

大学での数学は高校までのそれとは異なり，計算より論理が中心となる。
数学に必要な論理的な思考力の基礎を定着させる。

◆学修方法・留意点

リポート課題に真剣にとりくみ，納得できるまで教科書を読むことです。また教科書の演習問題にあたることは事柄の理解の上で不可欠なことです。

◆学修計画

1 回目	命題について学び，合成，条件文とその逆，裏，対偶について説明できるようになる。
2 回目	命題の真であることを，直接法と間接法の２通りで証明することができるようになる。
3 回目	集合について学び，記述の方法，結び，交わり，捕集合について説明できるようになる。
4 回目	命題関数について学び，集合との関係について説明できるようになる。
5 回目	ベクトルと行列について学び，演算ができるようになる。
6 回目	連立１次方程式について学び，係数法を用いて解を求めることができるようになる。
7 回目	逆行列について学び，係数法を用いて求めることができるようになる。
8 回目	群について学び，集合が演算に関して群を作っているかどうかを判断できるようになる。
9 回目	１次不等式の表わす領域を図示することができるようになる。
10 回目	線形計画法について学び，凸多角集合上で，１次関数の最大値，最小値を求められるようになる。
11 回目	可能性の集合の含む要素の数について求めることができるようになる。
12 回目	確率について学び，確率の計算ができるようになる。
13 回目	マルコフ過程について学び，その推移行列と推移図式について関数が説明できるようになる。
14 回目	確率行列と確率ベクトルについて学び，推移行列に対する不動ベクトルを求めることができるようになる。
15 回目	ゲームについて学び，そのゲームが決定的かどうか，決定的な場合の裁量術策を示すことができるようになる。

◆参考文献

特にありません。教科書をよく読むことが第一です。

科目コード	科　目　名	単位数
B12000	生物学	4単位

教材コード　000434
教　材　名　『人の生命科学（第3版）』
著 者 名 等　佐々木　史江・堀口　毅・岸　邦和・西川　純雄
出 版 社 名　医歯薬出版
I S B N　9784263222775

◆教材の概要

ヒトゲノムの解読が完了した現在，まさに生命科学の時代にあり，そしてポストゲノムの段階に入っている。生命科学の基礎としての生物学の教育目標は，科学的，論理的思考力を育て，人間性を磨き，自由で主体的な判断と行動を培うと同時に，生命倫理や人の尊厳を幅広く理解することである。さらに国際化および情報化社会に対応できる能力を養成することを踏まえて，科学的思考の基礎や人間生活への関わりが教科内容に盛り込まれている。

本教材は，地球生物圏の生物集団から原子・分子のレベルにおける生命体の構成物質，生命の単位としての細胞の構造と機能，個体の構成と機能，生命活動とエネルギー，細胞の増殖，ヒトの配偶子形成，メンデルの法則と遺伝情報（DNA）の働き，動物の初期発生から器官形成，化学進化・原始生命の誕生からヒトへの進化，生態系の仕組みにおける人間活動と地球環境問題などを網羅している。ライフサイエンスとしての生命に関する基本的事項の理解を深めて，我々人間の日常生活との関連を考えながら生物学を理解し，学修してほしい。

◆学修到達目標

ヒトを含めた生命体の共通の特徴を理解する。

◆学修方法・留意点

① 教材各章の「まとめと問題」やコラムもよく目を通してほしい。
② リポート課題は参考文献を利用してまとめることが必要である。
③ リポートを作成する際には，必要に応じて図を描いて説明すると効果的である。

◆学修計画

1回目	生命を支える物質
2回目	細胞を構成する物質
3回目	生命の単位
4回目	ヒトの体の構成と機能
5回目	内部環境の調節
6回目	生体の防御（免疫）
7回目	生命活動とエネルギー
8回目	嫌気呼吸と好気呼吸
9回目	細胞の増殖・生殖細胞の形成
10回目	遺伝―ヒトを中心に
11回目	受精・発生・分化
12回目	ヒトの初期発生
13回目	化学進化・生命の誕生
14回目	ヒトの進化
15回目	生物と地球環境

◆参考文献

『系統看護学講座 基礎分野 生物学』高畑雅一・増田隆一・北田一博共著（医歯薬出版）
『基礎から学ぶ「生物学・細胞生物学」』和田勝著（羊土社）
『「生命科学」改訂3版』 浅島誠監修 東京大学生命科学教科書編集委員会（羊土社）
『「明日の環境と人間」地球をまもる科学の知恵　改訂3版』河合信一郎・山本義和共著（化学同人）

科目コード	科　目　名	単位数
B12100	心理学	4単位

教材コード　000483
教　材　名　『新しい心理学ゼミナール―基礎から応用まで―』
著 者 名 等　藤田　主一・板垣　文彦
出 版 社 名　福村出版
I S B N　9784571200724

◆教材の概要

心理学は，広く心や行動を対象にする大変魅力的な学問です。心を追究し解明したいという願いは，私たちに共通したテーマです。それでは心とは一体何でしょうか。心はどこまで明らかになっているのでしょうか。今日，さまざまな分野において科学の力を結集し神秘的な心の世界に迫ろうとしています。心理学はその中心です。

この教科書は，最新の研究成果を取り入れた心理学の書物です。本書のサブタイトルは「基礎から応用まで」です。心の世界を基礎と応用に分けること自体が奇妙な印象を受けるかもしれませんが，基礎と応用が相まって心の解明に結びつくのです。本書は全部で 12 章から構成され，各章は今日の心理学が対象とする領域を体系づけて取りあげています。学生の皆さんが 1 人で読破することができるようにわかりやすく説明されています。

◆学修到達目標

心理学を学ぶことによって，人の心理や行動を，発達・知覚・性格・認知・学習・感情と欲求・臨床・社会・犯罪・環境・スポーツ・歴史の観点から知識を獲得し，それらを説明できるようになることを目的とします。人の心や行動の特徴を科学的な視点から学ぶことにより，自己理解とともに，他者へ説明できるようになります。

◆学修方法・留意点

心理学には多くの理論があります。また，その理論に関係する多くの学者の名前が登場します。最初は戸惑うこともあると思いますが，心理学に興味を持つ方はなんなくクリアできます。教科書には，現代心理学のエッセンスが網羅されています。1 つひとつのテーマには，きちんとした科学的な根拠が内包されていますので，科学的な視点で人間をとらえる方法を学んでください。教科書の内容では十分に満足できない方，もっともっと専門的な勉強に取り組みたい方，心理学の研究に挑戦したい方は，各領域の専門書や研究書へ進んでください。また，辞典や事典で確認することもできます。

◆学修計画

1 回目	発達の心理学：動物と人間の誕生の姿や人間発達のしくみについて学ぶ
2 回目	発達の心理学：乳幼児期から老年期までの発達段階について学ぶ
3 回目	知覚の心理学：知覚の成立過程や錯視現象について学ぶ
4 回目	性格の心理学：性格の形成や類型論，特性論について学ぶ
5 回目	認知の心理学：人の情報処理，注意や記憶のメカニズムについて学ぶ
6 回目	学習の心理学：試行錯誤，条件づけ，運動学習，洞察学習，モデリングについて学ぶ
7 回目	感情と欲求の心理学：感情や情動の種類，欲求や欲求不満のメカニズムについて学ぶ
8 回目	臨床の心理学：ストレスのしくみや心の病について学ぶ
9 回目	臨床の心理学：心の治療の種類や心理テストについて学ぶ
10 回目	社会の心理学：社会的認知や社会的自己の様相について学ぶ
11 回目	社会の心理学：対人魅力や同調・服従，集団心理について学ぶ
12 回目	犯罪の心理学：犯罪のプロセス，犯罪の種類，少年犯罪，捜査の心理について学ぶ
13 回目	環境の心理学：人と環境との関係，環境への評価や環境と犯罪との関係について学ぶ
14 回目	スポーツの心理学：スポーツと動機づけ，メンタルトレーニング，スポーツと健康について学ぶ
15 回目	心理学の歴史：心理学の成り立ち，心理学の潮流，日本の心理学について学ぶ

◆参考文献

『新こころへの挑戦』藤田主一編著（福村出版）
『心理学辞典』中島義明他編（有斐閣）
『応用心理学事典』日本応用心理学会編（丸善）
『社会心理学事典』日本社会心理学会編（丸善）
『パーソナリティ心理学ハンドブック』日本パーソナリティ心理学会企画（福村出版）
『心理学総合事典』海保博之他編（朝倉書店）

科目コード	科　目　名	単位数
B12200	統計学	4単位

教材コード　000018
教　材　名　『新統計入門』
著 者 名 等　小寺　平治
出 版 社 名　裳華房
I S B N　9784785310998

◆教材の概要

統計学を難しく考えるのではなく，統計学の基本を充分に理解し役に立つ学修も目指します。理論を詳しく述べるよりは，例題を通じて統計学を利用することで，何が理解できるかを重視します。問題が解けるようにならなければ統計学の理論は理解できませんが，問題解決の実力を養うには，定理や公式を記憶するのではなく，多くの問題を考えることが大切です。本教材は，記述統計，確率分布，推測統計，の 3 章からなります。得られているデータを全対象と捉えてその分布の特徴を調べるのが記述統計，得られているデータを全体の一部と見なして全体の特徴を推測するのが推測統計です。推測統計の考え方の土台になるのが確率分布の考え方です。

◆学修到達目標

標本抽出の考え方をよく理解し，置かれた状況下で考察対象とする統計量がどのような確率分布に従うかということを説明できる。推定・検定の基礎的な考え方をそれぞれよく理解し，教材巻末の確率分布表を用いて典型的な問題に対し解答できる。

◆学修方法・留意点

統計学は実際に利用して役に立たなければ意味がありません。そのためには，理論を通じてセンスを磨き，問題を解くことで利用する方法を確立することが大切です。教科書を自身で理解し，例題を自身で解き，課題に挑むことになります。他に，表計算ソフト Excel 等 についても自身で機会を見つけて挑んでください。

◆学修計画

1 回目	度数分布　平均・分散
2 回目	データの相関　共分散・相関係数
3 回目	確率変数と確率分布　離散分布と連続分布・期待値・分散
4 回目	2 次元の確率変数　周辺分布と同時分布・共分散・相関係数・確率変数の独立性・大数の法則
5 回目	二項分布　ベルヌーイ試行・二項分布の期待値・分散
6 回目	正規分布　標準化・標準正規分布表・ラプラスの定理
7 回目	正規分布から派生する確率分布　χ ^2 分布・t 分布・F 分布
8 回目	標本分布　標本抽出・母集団分布・統計量・標本平均の分布・中心極限定理
9 回目	推定（1）推定の考え方・推定量の性質　標本平均の期待値・標本分散の期待値・不偏性・不偏分散
10 回目	推定（2）母分散既知の場合の母平均の区間推定・母分散未知の場合の母平均の区間推定
11 回目	推定（3）母分散の区間推定・母比率の推定
12 回目	検定（1）検定の考え方・検定の手順（帰無仮説と対立仮説・採択と棄却・有意水準・棄却域）
13 回目	検定（2）母分散既知の場合の母平均の検定・母分散未知の場合の母平均の検定
14 回目	検定（3）母分散の検定・母比率の検定
15 回目	検定（4）適合度の検定・独立性の検定

◆参考文献

統計学の文献は多数出ているので，入門的なものを読み比べて下さい。さまざまな角度からの解説を読むことで，より深い理解につながります。

『統計学入門』稲垣宣生・山根芳知・吉田光雄著（裳華房）
『明解演習数理統計』小寺平治著（共立出版）

科目コード	科　目　名	単位数
B12300	科学史	4単位

教材コード　000611
教　材　名　『35の名著でたどる科学史』
著 者 名 等　小山　慶太
出 版 社 名　丸善出版
I S B N　9784621303702

◆教材の概要

本書は16世紀から20世紀までの科学をその時代に発表された名著を通して解説している。歴史的に有名な科学者がその時代の科学の常識をもとにどのような発想で理論を導いたか詳しく説明されている。第1章から第2章は主にガリレオやニュートンによる論文を紹介し科学革命に至るまでの経緯やその後の科学を，また第3～5章は19世紀以降の物理学，生物学，天文学など様々な分野の科学について紹介している。

◆学修到達目標

時代背景を理解した上で各時代の科学の特徴を説明できるようになることである。また様々な分野の科学が現代の科学へと導かれた過程を知り，さらに現代科学の特徴や問題点などを議論できるようになることが目的である。

◆学修方法・留意点

時代背景や社会的環境，思想や知識を十分把握し，科学の内容と発展へ至る経緯も理解すること。歴史的，地理的，社会的状況や科学思想等についてはテキストに詳しく書かれていないため参考書をもとに十分調べ理解を深めておくことも重要である。またテキストに紹介されていないが同じ時期に活躍した科学者についても調べまとめてみるとよい。

◆学修計画

1回目	近代科学の誕生：科学革命
2回目	天動説から地動説へ1：コペルニクス，ケプラー
3回目	天動説から地動説へ2：ガリレオ　「星界の報告」,「天文対話」,「新科学対話」
4回目	古典力学の成立：ニュートン「プリンキピア」
5回目	光とは：ホイヘンス「光についての論考」
6回目	実験による理論の証明：ニュートン「光学」
7回目	電磁気学の研究：フランクリン「フランクリン自伝」
8回目	熱とは：ラヴォアジエ「化学原論」など
9回目	熱力学の発展　カルノー「火の動力についての考察」
10回目	進化論：ダーウィン「種の起源」
11回目	相対性理論，量子論の提唱：アインシュタイン「運動物体の電気力学について」
12回目	原子論：ペラン「原子」
13回目	宇宙論：ハッブル「銀河の世界」
14回目	遺伝子の探求：ワトソン「二重らせん」など
15回目	古生物学と人類の進化

◆参考文献

『近代科学の源流』伊東俊太郎著（中公文庫）
『西洋近代科学＜新版＞』村上陽一郎著　（新曜社）
『科学の発見はいかになされたか』福澤義晴著（郁朋社）
『改訂新版　思想史のなかの科学』伊東俊太郎，広重徹，村上陽一郎著（平凡社）
『知識ゼロからの科学史入門』池内了著（幻冬舎）

科目コード	科　目　名	単位数
C10100	英語Ⅰ	2単位

教材コード　000560／000595　配本申請時セットコード200008

教　材　名　『Basic College English Seminar』
『Basic College English Seminar』（学修用ガイド）
※2冊組み

著者名等　Takamae Fumio 等

出版社名　南雲堂

ＩＳＢＮ　9784523175087

◆教材の概要

各 Unit の最初に易しい英語対話が登場する。この英会話を楽しみながら各課の学習事項がどの程度身についているのか確認する。二番目に文法事項の整理が続き例文を確認する。三番目に文法事項を含む読解部分が続く。異文化理解に適切な内容である。四番目に演習の部分が続く。易から難へのレベルになっている。その他，辞書の使い方，語形成，パラグラフ，発音と強勢が学修できる。このテキストの学修によって大学での学修に必要な英語の力をつけることがきる。

◆学修到達目標

1. 基本的な英文法を修得することができる。
2. 英文法を駆使して英文が読めるようになる。
3. 辞書の使い方，語形成，パラグラフ，発音と強勢を修得することができる。

◆学修方法・留意点

テキスト，学習用ガイド，CD を大いに活用して Unit1 から順番に学修する。わからない単語はこまめに辞書を引き，意味を確認する。文法事項の説明で難しいと感じたら，文法書を読み理解する。テキストを万遍なく何回も繰り返して学修すること。

◆学修計画

1 回目	Unit 1「述語動詞」五文型と述語動詞
2 回目	Unit 2「準動詞」不定詞・動名詞
3 回目	Unit 3「準動詞」現在分詞・過去分詞
4 回目	Unit 4「名詞 : 数えられる名詞・数えられない名詞」
5 回目	Unit 5　人称代名詞・指示代名詞
6 回目	Extra 1 及び Unit6「辞書の引き方」,「形容詞」
7 回目	Unit7 及び Unit8「冠詞」,「副詞」
8 回目	Unit9 及び Unit10「前置詞」,「前置詞の発展的用法」
9 回目	Extra2 及び Unit11「語形成」,「助動詞」
10 回目	Unit12 及び Unit13「句動詞」,「接続詞」
11 回目	Unit14 及び Unit15「接続詞」,「比較の用法」
12 回目	Extra3 及び Unit16「パラグラフ」,「時制」
13 回目	Unit 17 及び Unit18「完了形と未来」,「能動態と受動態」
14 回目	Unit19 及び Unit20「時制」,「条件と仮定」
15 回目	Extra4「発音と強勢」及び Unit1 から Unit20 までの復習

◆参考文献

・各自の英語力に合わせた英文法書
・中型の英和辞書（例文が豊富なもの）

科目コード	科　目　名	単位数
C10200	英語Ⅱ	2単位

教材コード　000561
教　材　名　『Funny Laws in the World』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　石井　隆之・磐田　雅彦・梶山　宗克・Joe Ciunci
出 版 社 名　南雲堂
I S B N　9784523177845

◆教材の概要

テキスト P3 にあるように，“法律の分野に焦点を絞り，世界の異なる国には，異なるユニークな法律が存在すること，そしてその法律は文化や考え方と関わっているかなどを掘り下げつつ，英語をトータルな視座で学ぶ”という趣旨のテキストを使用する。

◆学修到達目標

このテキストで単語や文法など基礎的学力とともに英語 4 技能が身につき，TOEIC テストの得点向上にもつながる。従って英語 4 技能習得，TOEIC テスト向上を目的とする。

◆学修方法・留意点

各章ごとの内容を語句の意味，5 文型を中心とした構文にも注意しながら，よく読み取るようにする。その後で，vocabulaly,comprehension,grammar,composition の問題に挑戦し検討する。その際，辞書，文法書を充分に活用する，CD で英語を聞き，聞く力も養うようにする。

◆学修計画

1 回目	Chapter 1　What’s So Free about Freeways?
2 回目	Chapter 2　Riding a Horse While Drunk Is Illegal?
3 回目	Chapter 3　Walk Your Dog Three Times a Day!
4 回目	Chapter 4　Hungary Introduces a Tax on Chips
5 回目	Chapter 5　Don’t Tie Alligators to Fire Hydrants!
6 回目	Chapter 6　Marriage and Divorce in Different Cultures
7 回目	Chapter 7　Smile!
8 回目	Chapter 8　Silent Sunday?
9 回目	Chapter 9　Want to Be a Pilot?
10 回目	Chapter 10　Napoleon,the Pig?
11 回目	Chapter 11　Don’t Drop Dead Here!
12 回目	Chapter 12　Cheating Does Not Pay
13 回目	Chapter 13　Putting a Stop to Traffic Jams
14 回目	Chapter 14　The Laws of the Jungle
15 回目	Chapter 15　Law! What Is It Good for?

◆参考文献

なし

科目コード	科　目　名	単位数
C10300	英語Ⅲ	2単位

教材コード　000021
教　材　名　英語Ⅲ
著 者 名 等　真野　一雄・金子　利雄

◆教材の概要

Lynd と Russel の随筆と，Tolkien の小説をとりあげている。随筆と小説という形式の違った読み物を通して，前半では正確な構文解釈ができるように文法事項の説明に力点が置かれ，後半では行間の意味を取ることで英語で意味を解釈する構成になっている。

◆学修到達目標

文法事項をよく理解し，正しい構文解釈ができて正確な日本語訳ができるようになる。合わせて随筆・小説の面白さを鑑賞できるようにする。

◆学修方法・留意点

正確な英文和訳ができる。各品詞の働きを理解する。5 文型と動詞の種類を理解する。指示語を理解する。

◆学修計画

1 回目	*Forgetting*（1）（p.1,l.6-p.2,l.16）
2 回目	*Forgetting*（2）（p.2, l.27-p.4, l.3）
3 回目	*Forgetting*（3）（p.4,l.4-p.5,l.3）
4 回目	*Forgetting*（4）（p.5, l.4-p.5,l.23）
5 回目	*Knowledge and Wisdom*（1）（p.6, l.1-p.7, l.19）
6 回目	*Knowledge and Wisdom*（2）（p.7, l.20-p.9, l.2）
7 回目	*Knowledge and Wisdom*（3）（p.9, l.3-p.10, l.2）
8 回目	*Knowledge and Wisdom*（4）（p.10, l.3- p.10,l.20）
9 回目	*Leaf by Niggle*（1）（p.11,l.1-p.14,l.17）
10 回目	*Leaf by Niggle*（2）（p.14,l.18-p.17,l.19）
11 回目	*Leaf by Niggle*（3）（p.17,l.20-p.19,l.24）
12 回目	*Leaf by Niggle*（4）（p.19,l.25-p.23,l.17）
13 回目	*Leaf by Niggle*（5）（p.23,l.18-p.26,l.2）
14 回目	*Leaf by Niggle*（6）（p.26,l.3-p.29,l.1）
15 回目	*Leaf by Niggle*（7）（p.29,l.2-p.33,l.27）

◆参考文献

『英文法解説』（改訂 3 版）江川泰一朗著（金子書房）

科目コード	科　目　名	単位数
C10400	英語Ⅳ	2単位

教材コード　000371
教　材　名　『Get It Write　コーパス活用英文ライティング入門』
著 者 名 等　市川　泰弘・Peter Serafin
出 版 社 名　金星堂
I S B N　9784764739888

◆教材の概要

英語の技能にはReading，Writing，Listening，Speakingの4技能がある。その中でWritingに関して多くの学生は英語の日本語に「置き換える」作業を行い，英語のニュアンスやもっともよく使われる表現を理解しようすることは稀である。この教材はNon-native Speakerが間違いやすい表現を選び，どのようにすれば英語らしい英語を書くことが出来るかを理解するために作られた教材である。さらに日本人が苦手とするパラグラフライティングの基礎を理解するセクションも加えられている。様々な表現が項目ごとにまとめられ，また使い方についてはPassageによって具体例が示されている。

◆学修到達目標

1）英語を母語としない日本人が間違えやすい表現を理解し，その使い方・ニュアンスの違いを理解することによって自然な英語表現を習得し，使えるようになることができる。
2）もっとも使用頻度が高く，アカデミックライティングに使用する表現を理解・習得し，つかえるようになることができる。
3）パラグラフライティングの基本を理解し，簡単なパラグラフが書けるようになることである。

◆学修方法・留意点

すぐにヒントや答えに頼るのではなく，できる限り自分の力で英文を完成させるように努めてください。単語を調べるときも和英辞典で調べるだけではなく，調べた単語の使い方を英英辞典で調べるようにしてください。その上で間違いを理解するために間違えた部分をまとめて，定着するように努力してください。

◆学修計画

1回目	間違いやすい名詞の使い方〔1〕
2回目	パラグラフの基本・指示を与えるパラグラフの書き方：過程と順序を知る
3回目	間違いやすい名詞の使い方〔2〕
4回目	描写をするパラグラフの書き方：人や物を描写する
5回目	名詞の使い方の復習
6回目	間違いやすい形容詞の使い方〔1〕
7回目	主張を述べるパラグラフの書き方：主張を述べ，展開する
8回目	間違いやすい形容詞の使い方〔2〕
9回目	比較と対照を使ったパラグラフの書き方
10回目	形容詞の使い方の復習
11回目	間違いやすい福祉の使い方
12回目	原因と結果についてのパラグラフの書き方
13回目	その他の間違いやすい表現
14回目	私信とビジネス・レターの書き方
15回目	総復習

◆参考文献

Collins COBUILD for Advanced Learner's English Dictionary　Longman Dictionary of Common Errors
Longman Dicctionary of Contemporary English

科目コード	科　目　名	単位数
C10500	英語Ⅴ	2単位

教材コード　000023
教　材　名　英語Ⅴ
著 者 名 等　田室　邦彦

◆教材の概要

Xenophobe's Guides「外国人恐怖症の人のために書かれた，（外国人についての）ガイドブック」と銘打たれた叢書の一冊である本書は，鏡の中の鏡に映っているようなイギリス人自身の外国人恐怖症も含めて，イギリス人の思想・言動及びイギリスの社会制度の，多少なりとひねこびた側面の戯画である。外国人がイギリス人の言語表現に触れるとき，その言語表現の前提となっていて従って明示されていない，イギリス人が共有している思想や相互についての知識などを，その解釈に織り込めないために，理解に苦しむ場合が少なくない。その意味での言語の背景的知識を得るのに本書は益するところが多いであろう。また，一瞬の油断もできないイギリス流のユーモアで一ひねりした文体は，イギリス英語のユーモアの修辞法あるいは論理を知るためのいい素材となると思われる。

◆学修到達目標

「英語Ⅴ」は今後の専門的な学習に必要な英語力を修得することを目指す科目である。これまでに得た英語の語彙，文法を最大限に活用し，論理的な英語の文章を正確に理解できるようになることが目標である。

◆学修方法・留意点

語注はすべて English-English の学習辞典からの引用である。英英辞典の常として，その定義から，それぞれの語句に，それを他の語句から区別するどのような意味要素が含まれているかがよく判るはずである。その用例から，その語句が用いられる典型的な文脈や連語関係（collocation）が見える。しかし語句が本当に理解できるのは，現実の使用の中からである。こう使うのかと頷きながら語句をものにしていただきたい。

◆学修計画

1 回目	Nationalism and Identity（pp.5-9）＜イギリス人と外国人たちの関係＞
2 回目	Character（pp.9-12）＜イギリス人たちの性格＞
3 回目	Attitudes and Values（pp.12-18）＜イギリスの階級社会＞
4 回目	Behavior（pp.18-21）＜イギリス人の他者に対する態度＞
5 回目	Manners and Etiquette（p.21-24）＜イギリス人の変わったマナー＞
6 回目	Sense of Humour（pp.24-25）＜イギリス人と笑い＞　Obsessions（pp.26-29）＜イギリス人の日常＞
7 回目	Leisure and Pleasure（pp.29-33）＜イギリス人の趣味＞
8 回目	Eating（pp.33-35）＜イギリス人と食事，買い物＞　Health and Hygiene（pp.36-37）＜イギリス人と健康＞
9 回目	Custom and Tradition（pp.37-40）＜イギリス人の慣習＞
10 回目	Culture（pp.40-43）＜イギリスの文化＞
11 回目	Systems（pp.43-45）＜イギリスの交通，教育＞
12 回目	Crime and Punishment（pp.45-46）＜イギリスの司法制度＞
13 回目	Government and Bureaucracy（pp.46-48）＜イギリスの行政＞
14 回目	Business（pp.48-50）＜イギリス人と労働＞
15 回目	Conversation and Gestures（pp.50-53）＜イギリス人の会話＞　The Author（p.54）＜著者紹介＞

◆参考文献

英語に関しては『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）など学習用英和辞典を引き，その語彙の使い方をよく参照し，文章を読解して下さい。イギリスに関しては，コリン・ジョイス『「イギリス社会」入門　日本人に伝えたい本当の英国』（NHK 出版新書），川北稔『イギリス近代史講義』（講談社現代新書）などをまず読んでおくと，内容理解が深まる。

科目コード	科　目　名	単位数
C10600	英語基礎	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（英文学）は不配当です。

教材コード　000294／000313　配本申請時セットコード200004

教　材　名　『Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門』
『Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門』(学修用ガイド)
※2冊組み

著者名等　大島　眞・加藤　忠明・菊地　圭子・竹前　文夫・松本　理一郎・W.F.O'Connor

出版社名　南雲堂

ＩＳＢＮ　9784523174622

◆教材の概要

「読む，書く，聞く，話す」のすべての面でコミュニケーション能力を高めることを目標とした総合教材です。各ユニットは，基本英文法のピンポイント解説，日米の異文化を理解しながら内容を読み解く「Culture Note」，習熟度に応じた3段階のレベル別演習問題で構成されています。別冊「学習用ガイド」は詳しい解説，演習問題の解答，訳例などが記されています。

◆学修到達目標

中学校，高校で学んできた英語を基礎から復習することで，英語の語順を身につけ，自分から実際にアウトプットできるようになることをめざします。発音については，CD，DVD，WEBSITE などの音源を繰り返し聞き取り，話すときも読むときも，単語一つ一つの発音より文全体の流れとしての抑揚になれることが目標です。英文記述の場合もモデルとなる文章を繰り返し書き写して練習し，英語らしい自然な語順で英文表現ができることが目標です。

◆学修方法・留意点

「読む，書く，聞く，話す」について，どれも日本語と英語は別の言語であることを認識してください。できるだけ生の英語に接し，音，抑揚，英文の流れに慣れることが大切です。演習問題は基礎段階から順に解き，英文ルールを正しく理解しましょう。自分で問題を何回か解いてみて，その後，学習用ガイドで答え合わせをするとよいでしょう。

◆学修計画

1回目	Units 1 & 2　基本文（5文型，5文型の応用）
2回目	Unit 3　助動詞
3回目	Unit 4　疑問・否定
4回目	Unit 5　時制
5回目	Unit 6　発音とアクセント
6回目	Units 7 & 8　基本動詞の特性
7回目	Unit 9 & 10　名詞と代名詞，名詞と冠詞
8回目	Units 11　英和辞典の使い方
9回目	Units 12 & 13　形容詞と比較，副詞
10回目	Unit 14　接続詞
11回目	Unit 15　関係詞（関係代名詞・関係副詞）
12回目	Units 16 & 17　準動詞（不定詞，ing形・過去分詞）
13回目	Unit 18　条件と仮定
14回目	Unit 19　能動態・受動態
15回目	Unit 20　語の解剖（造語法）

◆参考文献

ロイヤル英文法

科目コード	科　目　名	単位数
D10100	ドイツ語Ⅰ	2単位

教材コード　000563
教　材　名　『初級ドイツ語　フランクフルト四重奏』
著 者 名 等　川嶋正幸・中村憲治・Klaus Schlichtmann
出 版 社 名　朝日出版社
I S B N　9784255254111

◆教材の概要

本教材は，発音に始まり，文法説明，練習，そして長文テキストからなる章が12章続きます。発音については，テキストに書かれているアドレスかQRコードにより，無料で音声を随時聴くことができますので必ず十分に発音練習をするようにしてください。学修の際には，一つ一つの知識を確実にしてから，次の知識を積みあげてください。各章を一つ一つこなしていくと，ドイツ語の文章の構造が，自然に理解できるようになります。

◆学修到達目標

ドイツ語の基礎の文法について学び，問題の練習，テキストの読解を試みることにより，ドイツ語の文法の基礎を身に付け，辞書を使えば基本的なドイツ語の文章を読み取ることができ，ドイツ語検定試験の四級に合格できます。

◆学修方法・留意点

各章のタイトルにある文法項目を意識して学修してください。テキストを読む際には，必ず原文を一文ずつ書き出して，構造を確認しながら訳出してください。注意すべきことは，直訳調で構いませんから，通りのよいこなれた日本語にしようとしないことです。なお参考文献にあげた独和辞典と同様の規模（単語集のようなものは不可）の辞典から，必ず一冊用意するようにしてください。

◆学修計画

1回目	ドイツ語のアルファベットと発音
2回目	動詞の現在人称変化　変化語尾を覚える
3回目	名詞・冠詞　名詞の複数形，定冠詞，不定冠詞の格変化を覚える
4回目	不規則動詞・命令形　：ここまでをまとめる
5回目	冠詞類・人称代名詞　人称代名詞・所有冠詞の格変化を覚える
6回目	前置詞　3・4格支配の前置詞を覚える
7回目	接続詞　副文の構造を理解し，従属接続詞を覚える
8回目	話法の助動詞　話法の助動詞の人称変化を覚える　：ここまでをまとめる
9回目	分離動詞・再帰動詞・非人称動詞　非分離，分離・非分離前綴りを覚える
10回目	形容詞　形容詞の語尾の付け方を理解し，比較変化・形容詞の名詞化を覚える
11回目	動詞の3基本形・過去形　巻末の不規則動詞変化表で一つずつ覚えて行く　：ここまでをまとめる
12回目	未来形・完了形　助動詞を使う時制を理解する
13回目	関係代名詞　関係文について理解する
14回目	受動態　受動態の構造と時制について理解する
15回目	接続法　接続法の形と用法について理解する　：ここまでをまとめる

◆参考文献

『よくわかるドイツ文法』大岩信太郎　著（朝日出版社）
『必携ドイツ文法総合まとめ（改訂版）』中島・平尾・朝倉　著（白水社）
『自習ドイツ語問題集』尾崎盛景　高木実　共著（白水社）
『クラウン独和辞典』（三省堂）『アクセス独和辞典』（三修社）及び同等の独和辞典から一冊

科目コード	科　目　名	単位数
D10200	ドイツ語Ⅱ	2単位

教材コード　000441
教　材　名　『ハンブルグの風　ドイツ語文法読本』
著 者 名 等　川嶋　正幸・中村　憲治・Klaus Schlichtmann
出 版 社 名　朝日出版社
I S B N　9784255253367

◆教材の概要

ドイツの文化･生活･歴史に触れる文章を読みます。テキストに即した練習問題を解きながら,「ドイツ語Ⅰ」で学んだ文法の知識を復習できるように配慮されています。また添付されているCDをよく聞き，自分の口で発音し，それを自分でしっかり聞き取ることによって，単語の発音やアクセントのみならず，文章のイントネーションまでもマスターすることができます。文章を覚えてしまうくらい何度も発音して下さい。

◆学修到達目標

「ドイツ語Ⅰ」で身に付けた基礎文法の知識に基づいて，長文のテキストを読むことによって，確実に長文を読解できるようになり，ドイツ語検定試験の三級に合格できるようになる。

◆学修方法・留意点

第一段階は，発音。動詞の現在人称変化。冠詞類の格変化。第二段階は，前置詞の格支配。話法の助動詞，複合動詞，再帰動詞，非人称動詞の用法。形容詞の用法。第三段階は，動詞の三基本形。時称の形態。 第四段階は，受動文の形態。関係文の構造。接続法の用法。

◆学修計画

1回目	ドイツ語の単語の発音の再確認　動詞の現在人称変化　テキストを訳出する
2回目	名詞・冠詞　不規則動詞　命令形の再確認　テキストを訳出する
3回目	名詞の複数形　テキストを訳出する　:ここまでをまとめる
4回目	不規則動詞・命令形　テキストを訳出する
5回目	冠詞類・人称代名詞　テキストを訳出する
6回目	前置詞　テキストを訳出する　:ここまでをまとめる
7回目	接続詞　テキストを訳出する
8回目	話法の助動詞　テキストを訳出する
9回目	分離動詞・再帰動詞・非人称動詞　テキストを訳出する
10回目	形容詞　テキストを訳出する
11回目	動詞の3基本形　巻末の不規則動詞の3基本形を覚える
12回目	過去形　テキストを訳出する　:ここまでをまとめる
13回目	未来形・完了形　テキストを訳出する
14回目	関係代名詞・受動態　テキストを訳出する
15回目	接続法　テキストを訳出する　:ここまでをまとめる

◆参考文献

『よくわかるドイツ文法』大岩信太郎著（朝日出版社）
『必携ドイツ文法総合まとめ（改訂版)』中島・平尾・朝倉著（白水社）

科目コード	科　目　名	単位数
D10300	ドイツ語Ⅲ	2単位

教材コード　000547
教　材　名　『私たちと環境問題（新訂版）』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　Herman Troll ／大串紀代子
出 版 社 名　郁文堂
I S B N　9784261011937

◆教材の概要

環境問題とは何かを，その発生から実際の環境被害を具体的に描写し，あるべき環境への具体的な提案や将来への展望を，初級のドイツ語文法を理解している学生諸君なら十分に理解が可能な平易な文章で綴っている教材です。環境問題は日本にとっても決して過去の問題ではありませんから，環境先進国といわれるドイツの環境への取り組みはとても興味深いものであり，参考となるものです。

◆学修到達目標

テキストを読み練習問題を解くことによって，「ドイツ語 I,II」で学んだ文法の知識を確実なものにすることができます。またテキストの読解から，ドイツの環境問題の取り組みについて深く知ることができます。

◆学修方法・留意点

テキストの読解の際には，文章の主語と定動詞を確認すること。たとえ文章全体の理解が十分ではないとしても，これがはっきりと理解できていれば文の理解の道筋から外れることはありません。そのうえでテキストの意味を確実に理解するために，文の文法的な構成を検討してください。

◆学修計画

1 回目	第一課 Was braucht der Mensch zum Leben?　テキストを訳出する
2 回目	第二課 Wasser, der größte Schatz der Erde　テキストを訳出する
3 回目	第三課 Zuerst stirbt der Wald ... Und dann der Mensch?　テキストを訳出する
4 回目	第一課から第三課までのまとめ
5 回目	第四課 Der Boden: überdüngt, vergiftet und erodiert　テキストを訳出する
6 回目	第五課 Der Mensch und die Luftverschmutzung　テキストを訳出する
7 回目	第六課 Die Ozonschicht und der Treibhauseffekt　テキストを訳出する
8 回目	第四課から第六課までのまとめ
9 回目	第七課 Artenschutz　Der Mensch im Konflikt mit Tier und Pflanze　テキストを訳出する
10 回目	第八課 Energie und Umwelt　テキストを訳出する
11 回目	第九課 Müll: Recycling und die Abfallberge　テキストを訳出する
12 回目	第七課から第九課のまとめ
13 回目	第十課 Umwelt und Gesundheit Nachsicht statt Voirsicht?　テキストを訳出する
14 回目	第十一課 Deutschland und die Umwelt　テキストを訳出する
15 回目	第十課と第十一課のまとめ

◆参考文献

『中級ドイツ語の研究』信岡資生　藤井啓行　共著（朝日出版社）
『中級ドイツ語のしくみ』清野智昭著（白水社）

科目コード	科　目　名	単位数
D10400	ドイツ語Ⅳ	2単位

教材コード　000442
教　材　名　『フリーダ伯母さん　Tante Frieda』
著 者 名 等　ルードヴィヒ　トーマ・長谷川　つとむ・川嶋　正幸
出 版 社 名　行人社
I S B N　9784905978664

◆教材の概要

教科書の『フリーダ伯母さん』は，ドイツのマーク・トウェインと称せられたルートヴィヒ・トーマ（1867－1921）が，代表作『悪童物語』に続いて20世紀初頭に執筆した小品です。この作品でも，前作で 描かれたトーマの分身ともいうべきいたずらっ子が，ドイツのハックルベリー・フィンさながらに大活躍します。決して難しい文章ではありませんし，巻末に詳細な注解が添えてありますので，一文一文噛みしめながら読んで下さい。

◆学修到達目標

ドイツ文学のテキストを味読することによって，文学のテキストも「ドイツ語 I，II，III」で培った文法の基礎によって十分に読みこなし得ることを体感することができ，ドイツ語の総合力が身に付いたことを確認することができます。

◆学修方法・留意点

基礎の文法力があれば，ゲーテでもトーマでも大筋を理解することができるので，常に文章の文法的な構造（主語，定動詞の確認。時制の確認。）に注意して訳すようにしてください。また日本語に拘って原文から離れた訳を作りがちになりますが，そのような訳には誤訳が隠れている場合が多いので，読む人が主語や目的語をはっきり理解できるように訳を心掛けてください。

◆学修計画

1回目	Seite 3　～ Seite 5 Zeile 9　テキストを訳出する
2回目	Seite 5 Zeile 20 ～ Seite 7 Zeile 25　テキストを訳出する
3回目	Seite 7 Zeile 26 ～ Seite 9 Zeile 1　テキストを訳出する
4回目	Seite 3 から Seite 9 Zeile 1 までをまとめる。
5回目	Seite 9 Zeile 2 ～　Seite 10 Zeile 27　テキストを訳出する
6回目	Seite 11 Zeile 1 ～ Seite 12 Zeile 23　テキストを訳出する
7回目	Seite 12 Zeile 24 ～ Seite 14 Zeile 21　テキストを訳出する
8回目	Seite 9 Zeile 20 から Seite 14 から Zeile 21 までをまとめる
9回目	Seite 14 Zeile 22 ～　Seite 16 Zeile 7　テキストを訳出する
10回目	Seite 16 Zeile 8 ～ Seite 18 Zeile 4　テキストを訳出する
11回目	eite 18 Zeile 5 ～ Seite 19 Zeile 27　テキストを訳出する
12回目	Seite 14 Zeile 22 から Seite 19 Zeile 27 までをまとめる
13回目	Seite 20 Zeile 1 ～　Seite 23 Zeile 19　テキストを訳出する
14回目	Seite 23 Zeile 20 ～ Seite 25 Zeile 21　テキストを訳出する
15回目	Seite 20 Zeile 1 から Seite 25 Zeile 21 までをまとめる

◆参考文献

『中級ドイツ語の研究』信岡資生　藤井啓行　共著（朝日出版社）
『中級ドイツ語のしくみ』清野智昭著（白水社）

科目コード	科　目　名	単位数
E10100	フランス語Ⅰ	2単位

教材コード　000372
教　材　名　『新ゼフィール（フランス語文法の基礎）　Nouverau Zephyr』
著 者 名 等　E.E.F.L.E.U.K.
出 版 社 名　早美出版社
I S B N　9784860420932

◆教材の概要

未修フランス語の習得には 1. 文法面を分かりやすく解説した教科書と 2. 身に付けるべき基本的な単語をその用例と共に可能な限り網羅したもの，の 2 種類が不可欠です。この通信講座では，1 番目の目的に沿ったものとして『新ゼフィール』を（→『教材フランス語Ⅰ』），2 番目の目的に沿ったものとして『フランス語基本 500 語』（→『教材フランス語Ⅱ』）を採択しました。この 2 種類の教科書・参考書はいわば車輪の両輪です。学習者は『報告課題・フランス語Ⅰ』に取り組むにあたっては常にこの両方を参照してください。なお『報告課題･フランス語Ⅰ』は，文法的には『指定教材フランス語Ⅰ』の第 1 課～第 6 課前半（p.8 ～ p.27）に対応しています。また『指定教材フランス語Ⅰ』には各課に「練習問題」が付いていますが，その「練習問題」の＜解答＞を希望される方は教務課にお問い合わせください。

◆学修到達目標

初級フランス語の習得に絶対に必要な , 1. 基本的な単語, 2. 形容詞（指示形容詞･所有形容詞を含む）の変化 , 3. 3 種類の提示の仕方 , 4. 動詞＜ être ＞（= be 動詞）と＜ avoir ＞（= have）の活用，5. ＜第 1 群規則動詞＞の活用，などを徹底して身に付けます。これらは今後フランス語Ⅱ～Ⅳに取り組むうえでの基礎となるものです。またこの講座での『報告課題』の出題はすべて＜発音記号の文字化＞という形式で出題しています。フランス語の発音記号は決して難解なものではなく，フランス語を正確に身に着けるうえで不可欠なものです（フランス語の発音はカタカナで表しうるものではありません）。『フランス語Ⅰ』の段階で，＜発音記号＞と実際の綴り字との対応関係をしっかりマスターしてしまえば，今後『報告課題フランス語Ⅱ～Ⅳ』への取り組みもスムーズに進行するでしょう。

◆学修方法・留意点

文法面では『新ゼフィール』（＝『教材フランス語Ⅰ』）を，単語面では『フランス語基本 500 語』（＝『教材フランス語Ⅱ』）を活用していただければよいのですが，＜フランス語独特の発音記号＞ならびに＜綴り字と発音との対応関係＞（フランス語は英語と異なり両者の間に緊密な対応関係があります）については，『報告課題･フランス語Ⅰ』の「備考」欄にできるだけ分かりやすく解説しておきました。『報告課題フランス語Ⅰ』に取り組むにあたってはまず「備考」欄の内容をしっかりとインプットしてから臨んでください（下記「学習計画」の第 1 回目から第 3 回目に当たります）。

◆学修計画

1 回目	まずフランス語の＜ alphabet ＞を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.2 参照（英語式のアルファベットは一切無用）
2 回目	「複合母音」5 種類，「鼻母音」2 種類を覚える→『報告課題仏語Ⅰ』「備考」欄，『教材仏語Ⅰ』p.4 参照
3 回目	「発音記号」と綴り字との関係をしっかりとマスターする→『報告課題仏語Ⅰ』「備考」欄参照
4 回目	『教材仏語Ⅰ』第 2 課：「冠詞と名詞」を理解する
5 回目	『教材仏語Ⅰ』第 3 課前半：「主語人称代名詞」と「第 1 群規則動詞」を理解する
6 回目	『教材仏語Ⅰ』第 3 課後半：「疑問文」と「否定文」を理解する
7 回目	『教材仏語Ⅰ』第 4 課前半：動詞＜ être ＞（= “be” 動詞）の活用を覚える
8 回目	『教材仏語Ⅰ』第 4 課後半：「提示の仕方」（C’est ～／ Ce sont ～）,「所有形容詞」の形態を覚える
9 回目	『教材仏語Ⅰ』第 5 課：「形容詞」の変化，「指示形容詞」の使い分けを覚える
10 回目	『教材仏語Ⅰ』第 6 課：動詞＜ avoir ＞（= “have”）の活用と，「否定の冠詞」＜ de ＞の用法を覚える
11 回目	（補足 1）『教材仏語Ⅰ』第 1 課：動詞の「命令形」の作り方を覚える
12 回目	（補足 2）『教材仏語Ⅱ』p.142 ～ p.143「数詞 1 ～ 10」をその用例と共に覚える（特に 6, 8, 9, 10 は大切）
13 回目	→『報告課題・仏語Ⅰ』設問 [1][2]（基本的な単語）に取り組む
14 回目	→『報告課題・仏語Ⅰ』設問 [3]（提示の仕方，動詞＜ être ＞と＜ avoir ＞を用いた例文）に取り組む
15 回目	→『報告課題・フランス語Ⅰ』設問 [4]（＜第 1 群規則動詞＞を用いた例文）に取り組む

◆参考文献

上述のように，『教材フランス語Ⅰ』（＝文法面）と並行して『教材フランス語Ⅱ』（＝単語面）をフルに活用してください。『報告課題』の＜発音記号＞を文字化するにあたっては，語順的にこの発音記号の単語は「前置詞」だろう，この単語は「副詞」かな？といった “ 見当 ” が付くはずです。その際『教材フランス語Ⅱ』は収録されている約 500 語がすべて「品詞」ごとに＜アルファベ＞順で配列されているので非常に有用です。なぉ当たり前の話ですが，未修外国語に取り組む以上「仏和辞典」が絶対に必要です。もし新しく購入するのであれば，「白水社」の＜ Le Dico 仏和辞典＞がお薦めです。

科目コード	科　目　名	単位数
E10200	フランス語Ⅱ	2単位

教材コード　000373
教　材　名　『CD・イラストで覚えるフランス語基本500語』
著 者 名 等　財)フランス語教育振興協会
出 版 社 名　朝日出版社
I S B N　9784255980362

◆教材の概要

『報告課題フランス語Ⅱ』は文法的には『教材フランス語Ⅰ』の第6課後半から第8課まで（p.27～p.37）に対応していますが，「曜日」「月」「季節」などの単語面と不規則動詞の活用などは『教材フランス語Ⅱ』をフル活用してください。とりわけ『報告課題フランス語Ⅱ』のメインとなる「不規則動詞」の活用は，すべて＜発音記号＞とCDによる音声付きで『教材フランス語Ⅱ』に収録されています。また本文中のイラストが可愛らしい（＝微笑ましい）のも大きな魅力です。

◆学修到達目標

まず「数」1（11～100),「月」(1月～12月),「曜日」,「季節」など基本表現をしっかりと身に付けます（これらはすべて英語なら中学1年の学習事項です)。次に＜フランス語Ⅱ＞のメインは何といっても「不規則動詞」約15個（英語の“do /make”,“go”, “come”, “take”, “want”など重要なものばかり）の活用です。フランス語と英語の決定的な違いは動詞が「人称変化」するかしないかです。したがってフランス語でも，動詞の「活用」さえしっかりインプットしてしまえば，あとは基本的に英語で言えるものであればフランス語でも言えるようになります。

◆学修方法・留意点

よく「数」「曜日」「月」「季節」や，「不規則動詞」の活用をきちんと身に付けないまま『科目修得試験』を受験する人がいますが，完全に論外です（当然「合格」などありえません)。上記のように，前者は英語なら中学1年の学習事項ですし，後者（＝「動詞の人称変化」）はフランス語に限らずスペイン語・イタリア語など＜ラテン語＞から生まれた言語すべてに共通する特徴です。「動詞の人称変化」など覚えるのが嫌だ＝面倒だというのであれば，フランス語など諦めて英語だけにすることです。逆に，上述のように，動詞の「活用」（＝「人称変化」）さえクリアしてしまえば，あとは基本的に英語と同じです。

◆学修計画

1回目	数（11～100)，月（1月～12月）を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.56,『教材仏語Ⅱ』p.87参照
2回目	曜日（月曜～日曜)，季節（春夏秋冬）を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.56,『教材仏語Ⅱ』p.85～86参照
3回目	1.疑問形容詞＜Quel / Quelle＞の用法を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.24参照，2.「第2群規則動詞」＜finir＞＜choisir＞の活用を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.27,『教材仏語Ⅱ』該当箇所参照
4回目	不規則動詞＜aller＞（＝“go”）と＜venir＞（＝“come”）の活用を覚える→『教材仏語Ⅰ』第7課参照
5回目	「近接未来」と「近接過去」の用法・用例を覚える→『教材仏語Ⅰ』第8課参照
6回目	「男性国名」と「女性国名」の使い分けを理解する→『教材仏語Ⅰ』p.31参照
7回目	不規則動詞＜faire＞（＝“do / make”)，＜prendre＞（＝“take”）の活用と用法を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.33,『教材仏語Ⅱ』該当箇所参照
8回目	不規則動詞＜partir＞と＜sorir＞の活用を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.28,『教材仏語Ⅱ』該当箇所参照
9回目	不規則動詞＜mettre＞と＜attendre＞の活用と用法を覚える→『教材仏語Ⅱ』該当箇所参照
10回目	不規則動詞＜pouvoir＞と＜vouloir＞の活用と用法を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.35,『教材仏語Ⅱ』該当箇所参照
11回目	不規則動詞＜devoir＞の活用と用例を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.35,『教材仏語Ⅱ』該当箇所参照
12回目	→『報告課題・仏語Ⅱ』設問[1]前半に取り組む（「学習計画」1回目～3回目の内容中心）
13回目	→『報告課題・仏語Ⅱ』設問[1]後半に取り組む（「学習計画」4回目～6回目の内容中心）
14回目	→『報告課題・仏語Ⅱ』設問[2]に取り組む（「学習計画」7回目～8回目の内容中心）
15回目	→『報告課題・仏語Ⅱ』設問[3]に取り組む（「学習計画」9回目～11回目の内容中心）

◆参考文献

『教材仏語Ⅰ』『教材仏語Ⅱ』ともに初級フランス語としては通信教育に最適と思われるものをチョイスしてあるので，ここまでの段階（＝動詞の「時制」はすべて現在形，内容的には中学1年生の英語と同じ）ではほかの参考書は不要でしょう。「基本的な単語」にしろ「不規則動詞の活用」にしろ，＜分かる＞＜分からない＞ということはありえず，労力と時間を割いて＜覚える＞かどうかです。外国語にあっては＜覚える＞と＜分かる＞は完璧にイコールです。

科目コード	科　目　名	単位数
E10300	フランス語Ⅲ	2単位

教材コード　000347
教　材　名　『Voilà!　ヴワラ』　※フランス語Ⅳと同じ教材です。
著 者 名 等　伊勢　晃・谷口　千賀子
出 版 社 名　早美出版社
I S B N　9784860420253

◆教材の概要

初級フランス語も＜フランス語Ⅲ＞ともなると次第に複雑になってきます。『教材フランス語Ⅰ』は確かに分かりやすくよくできた教科書ですが，＜フランス語Ⅲ＞以降用に文法的により詳しい教科書を採択しました（当然＜フランス語Ⅳ＞でも継続使用いたします）。またこの教材の良さは，（CD で音声化された）豊富な「練習問題」が付いていることです。『教材フランス語Ⅰ』同様，「練習問題」の＜解答＞を希望される方は教務課にお問い合わせください。

◆学修到達目標

＜フランス語Ⅰ＞＜フランス語Ⅱ＞までは動詞の時制はすべて「現在形」でしたが，＜フランス語Ⅲ＞では「複合過去形」という「過去形」の表現が登場します。フランス語の文の語順は，言うまでもなく英語と同じで「主語」＋「動詞」の語順です。その 2 番目に来る「動詞」（「現在形」と「過去形」）が自由に使いこなせれば，＜フランス語Ⅰ＞＜フランス語Ⅱ＞で培ってきた基本表現（基本的な名詞や形容詞，「数」「曜日」「月」「季節」など）と合わせて，英語にすれば中学 2 年～ 3 年レベルの事柄がフランス語でも十分言えて書けるようになるはずです。

◆学修方法・留意点

『報告課題フランス語Ⅲ』は基本的に『教材フランス語Ⅲ』の第 9 課～第 12 課に相当します。＜フランス語Ⅰ＞＜フランス語Ⅱ＞に比べて文法的にかなり複雑になるので，いきなり『報告課題』に取り組むのではなく，まず『教材フランス語Ⅲ』の説明と「練習問題」に取り組んで十分な基礎学力を培いましょう。その上で『報告課題フランス語Ⅲ』に取り掛かれば，『報告課題』への回答もその後の『科目修得試験』の受験準備もずっと楽になるでしょう。

◆学修計画

1 回目	不規則動詞＜ savoir ＞＜ connaître ＞＜ voir ＞の活用を覚える→『教材仏語Ⅱ』該当箇所参照
2 回目	「人称代名詞」（目的語・強勢形）の用法を理解する→『教材仏語Ⅲ』第 11 課前半参照
3 回目	「人称代名詞」（目的語・強勢形）の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第 11 課後半
4 回目	「複合過去形（1）」（助動詞＜ avoir ＞を使用）の作り方・用例を理解する→『教材仏語Ⅲ』第 9 課前半参照
5 回目	「複合過去形（1）」（助動詞＜ avoir ＞を使用）の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第 9 課後半
6 回目	「複合過去形（2）」（助動詞＜ être ＞を使用）の作り方・用例を理解する→『教材仏語Ⅲ』第 10 課前半参照
7 回目	「複合過去形（2）」（助動詞に＜ être ＞を使用）の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第 10 課後半
8 回目	「代名動詞」（現在形・複合過去形）の用法・用例を理解する→『教材仏語Ⅲ』第 12 課前半参照
9 回目	「代名動詞」（現在形・複合過去形）の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第 12 課後半
10 回目	「関係代名詞」＜ qui ＞と＜ que ＞の用法・用例を覚える→『教材仏語Ⅲ』第 15 課前半参照
11 回目	「非人称表現」（＝「形式主語」＜ Il ＞を用いた表現）の用例を覚える→『教材仏語Ⅰ』p.37 参照
12 回目	→『報告課題・仏語Ⅲ』設問 [1] に取り組む（「学習計画」1 回目～ 3 回目の内容に相当）
13 回目	→『報告課題・仏語Ⅲ』設問 [2] に取り組む（前半）（「学習計画」4 回目～ 7 回目の内容に相当）
14 回目	→『報告課題・仏語Ⅲ』設問 [2] に取り組む（後半）（「学習計画」4 回目～ 7 回目の内容に相当）
15 回目	→『報告課題・仏語Ⅲ』設問 [3] に取り組む（後半）（「学習計画」8 回目～ 11 回目の内容に相当）

◆参考文献

「教材の概要」でも述べたように，『教材フランス語Ⅲ』は文法的な説明がよくなされていますし，「練習問題」も豊富なので，わざわざ他の参考書を購入する必要はないと思います。ただし「人称代名詞」（目的語・強勢形）・「複合過去形」・「代名動詞」（現在形・複合過去形）などの用法・用例を理解する上で，『教材フランス語Ⅰ』の該当箇所（＝第 9 課～第 11 課）の説明を参考にするのは大いに有効です。ぜひそちらも活用してください。

科目コード	科　目　名	単位数
E10400	フランス語Ⅳ	2単位

教材コード　000347
教　材　名　『Voilà!　ヴワラ』　※フランス語Ⅲと同じ教材です。
著 者 名 等　伊勢　晃・谷口　千賀子
出 版 社 名　早美出版社
I S B N　9784860420253

◆教材の概要

『教材フランス語Ⅲ』の所でも述べたように，＜フランス語Ⅳ＞でも『教材フランス語Ⅲ』（＝『ヴワラ』）を継続使用します。『報告課題フランス語Ⅳ』の直接的な対象範囲となるのは，『教材フランス語Ⅲ』の第13課～第20課です。

◆学修到達目標

初級フランス語の学習もいよいよ最終段階に入りました。本講座の＜フランス語Ⅳ＞の内容は十分“中級”と呼べるものです。実際，紙幅の関係で除外せざるを得なかった「比較級・最上級」（『教材仏語Ⅲ』第6課）や「中性代名詞」（『教材仏語Ⅲ』第16課）などをご自分でフォローしていただければ，『実用フランス語技能検定試験』（＝通称「仏検」）の＜3級＞も楽に合格するでしょうし，さらに語彙や熟語表現を少しずつ増やしていけば「仏検2級」も視野に入ります。

◆学修方法・留意点

上述のように,『報告課題フランス語Ⅳ』は基本的に『教材フランス語Ⅲ』の第13課～第20課に相当します。＜フランス語Ⅲ＞同様，いきなり『報告課題』に取り組むのではなく，まず『教材フランス語Ⅲ』の説明と「練習問題」に取り組んで十分な基礎学力を養いましょう。その上で『報告課題フランス語Ⅲ』に取り掛かれば，『報告課題』への回答もその後の『科目修得試験』の受験準備もずっと楽になるでしょう。

◆学修計画

1回目	「半過去形」と「大過去形」の形態と用法を覚える→『教材仏語Ⅲ』第13課前半参照
2回目	「半過去形」と「大過去形」の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第13課後半
3回目	「単純未来形」の形態と用例を覚える→『教材仏語Ⅲ』第17課前半参照
4回目	「単純未来形」の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第17課後半
5回目	「関係代名詞」＜ dont ＞と＜ où ＞の用法・用例を覚える→『教材仏語Ⅲ』第16課前半参照
6回目	「関係代名詞」＜ dont ＞と＜ où ＞の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第16課後半
7回目	「ジェロンディフ」の形態と用法・用例を覚える→『教材仏語Ⅲ』第18課前半参照
8回目	「ジェロンディフ」の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第18課後半
9回目	「条件法現在形」の形態と用法・用例を覚える→『教材仏語Ⅲ』第19課前半参照
10回目	「条件法現在形」の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第19課後半
11回目	「接続法現在形」の形態と用法・用例を覚える→『教材仏語Ⅲ』第20課前半参照
12回目	「接続法現在形」の練習問題に取り組む→『教材仏語Ⅲ』第20課後半
13回目	→『報告課題・仏語Ⅳ』設問[1]に取り組む（前半）（「学習計画」1回目～2回目の内容に相当）
14回目	→『報告課題・仏語Ⅳ』設問[2]に取り組む（後半）（「学習計画」3回目～6回目の内容に相当）
15回目	→『報告課題・仏語Ⅳ』設問[3]に取り組む（後半）（「学習計画」7回目～12回目の内容に相当）

◆参考文献

『教材フランス語Ⅲ』の「教材の概要」でも述べたように，『教材フランス語Ⅲ』は文法的な説明がよくなされていますし，「練習問題」も豊富なので，わざわざ他の参考書を購入する必要はないでしょう。ただし＜フランス語Ⅲ＞同様，「半過去形」や「大過去形」，「単純未来系」，「ジェロンディフ」，「条件法現在形」と「接続法現在形」などの用法・用例を理解する上で,『教材フランス語Ⅰ』の該当箇所（＝第12課～第19課）の説明を参考にするのは大いに有効です。ぜひそちらも活用してください。

科目コード	科　目　名	単位数
F10100	中国語Ⅰ	2単位

教材コード　000456
教　材　名　『中国語キャンパス会話編（改訂版）』
著 者 名 等　関中研
出 版 社 名　朝日出版社
I S B N　9784255451824

◆教材の概要

本教材は会話に重点を置いた中国語入門教材である。各課は基本的に会話体の例文及びヒアリング・和文中訳を中心とした練習問題から構成されており，またそれぞれの課は易から難へ段階を踏みながら進むように配列されている。日常シーンで用いられる会話がほぼ網羅されている。必ず辞書を引いて意味を確認すること。なお，外国語学修においては実際の発音に触れることが不可欠であるが，教材のみでの学修ではなかなか難しい。幸い本教材にはCDが付属しているので，よく聞いて少しでもその欠を補っていただきたい。

◆学修到達目標

中国語の発音の基礎とピンインのシステムを身に着け，初歩的な文法と語彙及び簡体字を覚えることによって，入門レベルの中国語を駆使できるようになる事を目指す。

◆学修方法・留意点

第1課以前は発音編である。付属CDを聞きながら，声に出して何度も口頭練習をし，発音の綴りを書くなどして，正しい発音とピンインのシステムを身に着けていくこと。第1課以降については，特に「バリエーション」「会話」「基本表現」の部分のCDを繰り返し聴き，自ら発音したり，書いたりして，中国語のリズムを体得，基本語彙・文法を理解するとともに，日本語訳がない部分については，辞書などを用いて必ず訳をすること。もちろんドリルにも取り組まねばならない。各例文については，中国語（漢字）⇒日本語，中国語（ピンイン）⇒日本語，中国語（漢字）⇒中国語（ピンイン），日本語⇒中国語（漢字）に変換できるよう繰り返し練習する事をお勧めする。その年度のリポート課題となっている部分は特に重要な例文である。暗記しておくとよい。

◆学修計画

1回目	発音編1 単母音と声調　・発音編2 複母音　・発音編3 子音
2回目	発音編4 鼻母音と音節　・発音編5 発音のまとめ
3回目	第1課 あいさつ（一）你好！　再见！　等　・第2課 あいさつ（二）请进！　谢谢！　等
4回目	第3課 姓名を聞く　・第4課 お詫びをする
5回目	第5課 紹介と自己紹介　・第6課 家族について
6回目	第7課 家はどこですか　・第8課 おいくつですか
7回目	第9課 今何時ですか　・第10課 何時に起きますか
8回目	第11課 これはいくらですか　・第12課 趣味は何ですか
9回目	第13課 大学生のアルバイト　・第14課 誕生パーティーへようこそ
10回目	第15課 電話をかける　・第16課 道を尋ねる
11回目	第17課 レストランにて
12回目	第18課 ホテルにて
13回目	第19課 インターネット
14回目	第20課 中国語が分かりますか
15回目	発音編～第1課～第20課の総復習（特にリポート課題となっている部分を重点的に復習）

◆参考文献

『中日辞典（第3版）』（小学館）
上記の辞書でなくてもかまわないが，学修には中日辞典が必須である。

科目コード	科　目　名	単位数
F10200	中国語Ⅱ	2単位

教材コード　000457
教　材　名　『中国語キャンパス基礎編（改訂版）』
著 者 名 等　関中研
出 版 社 名　朝日出版社
I S B N　9784255451817

◆教材の概要

本教材は文法に重点を置いた中国語初級教材で，中国語Ⅰで使用する教材の続編である。各課は基本的に散文と，それに対するキーワード・補充例文及びポイント（発展的文法）で構成されており，またそれぞれの課は易から難へ段階を踏みながら進むように配列されている。文法は説明を読むだけではなかなか身につかない。練習問題をやることによって理解と定着がすすむ事から，必ず巻末のドリルに取り組んでほしい。なお，外国語学修においては実際の発音に触れることが不可欠であるが，教材のみでの学修ではなかなか難しい。幸い本教材にはCDが付属しているので，よく聞いて少しでもその欠を補っていただきたい。

◆学修到達目標

中国語Ⅰの入門学修をベースとし，発音及びピンインのシステムをより確実に身に着け，基本的な文法と語彙及び簡体字を覚えることによって，初級レベルの中国語を駆使できるようになる事を目指す。

◆学修方法・留意点

第1課～第5課は発音の復習である。付属CDを聞きながら，声に出して何度も口頭練習をし，発音の綴りを書くなどして，正しい発音とピンインのシステムが身に着いているか確認すること。第6課以降については，「キーワード」「ポイント」で文法事項を理解，「本文」「理解を深めよう」の部分のCDは繰り返し聴き，自ら発音したり，書いたりして，中国語のリズムを体得しつつ，語彙・文型の理解を深める。日本語訳がない部分については，辞書などを用いて必ず訳をすること。もちろん巻末のドリルにも取り組まねばならない。各例文については，中国語（漢字）⇒日本語，中国語（ピンイン）⇒日本語，中国語（漢字）⇒中国語（ピンイン），日本語⇒中国語（漢字）に変換できるよう繰り返し練習する事をお勧めする。その年度のリポート課題となっている部分は特に重要な例文である。暗記しておくとよい。

◆学修計画

1回目	第1課 单母音と声調　・第2課 複母音　・第3課 子音
2回目	第4課 鼻母音と音節　・第5課 発音のまとめ
3回目	第6課 我是大学生　・第7課 我的家乡
4回目	第8課 我们的教室
5回目	第9課 我的留学生活
6回目	第10課 我喜欢旅游
7回目	第11課 大学生打工
8回目	第12課 过生日
9回目	第13課 静静打电话
10回目	第14課 北京城像棋盘
11回目	第15課 喝茶
12回目	第16課 国际互联网
13回目	第17課 旅游热
14回目	第18課 汉语难吗？
15回目	第1課～第18課の総復習（特にリポート課題となっている部分を重点的に復習）

◆参考文献

『中日辞典（第3版）』（小学館）
上記の辞書でなくてもかまわないが，学修には中日辞典が必須である。

科目コード	科　目　名	単位数
F10300	中国語Ⅲ	2単位

教材コード　000517
教　材　名　『話す中国語　北京篇３』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　董　燕・遠藤　光暁
出 版 社 名　朝日出版社
I S B N　9784255450735

◆教材の概要

本テキストは，初級からの発展学修から中級レベルへのステップアップを図り，より高度な領域に繋げていく内容となっている。『話す中国語　北京篇』シリーズは，北京に留学した主人公の日常生活を通して，段階的に中国語を学んでいくストーリー仕立ての教材である。こちらはシリーズ4冊中の第3冊目にあたるが，前2冊を見ずとも，本書単体での学修が十分可能である。テキストには日本語訳は載っていない。別冊の「学修指導書」を参考にし，辞書を駆使することで学修を進めてほしい。

◆学修到達目標

すでに中国語の発音，基本的な文法・語彙を修得した者が，中国語Ⅰ・Ⅱまでの学修をベースに，より高度な文法と多くの語彙を覚えることによって，初中級レベル（初級から中級にかかるレベル）の中国語運用能力を身につける事を目指す。

◆学修方法・留意点

『中国語Ⅲ 学修指導書』にも各課学修のタイムテーブル例を記載しているが，そちらは教科書を隅から隅まで学修するための学修計画である。すべて学ぼうとすれば 15 回の学修では難しいが，「替换练习」「表达练习」等を省略すれば，15 回での学修は可能である。1 回の本課学修には当然一定時間をかけての事前・事後学修が必要となる。本文書写や単語の意味は事前学修で解決し，事後学修においては学修内容を身につける反復練習を行うこと。教科書『話す中国語 北京篇 3』は単語訳・日本語訳を掲載しておらず，『中国語Ⅲ 学修指導書』において文法解説例文と応用会話の例文の日本語訳を提供するも，基本的には学修者が辞書を用いて意味を調べる事を推奨している。そういった方法は大きな効果を生むが，辞書を用いての学びに困難を感じる受講者もいるかもしれない。受講者の学修サポートを目的として，インターネットサイト Quizlet に「日大通信 中国語 3」というクラスを作成し，適宜補助教材を提供していくこととする。本サイトは日本大学通信教育部とは無関係で，科目担当者が個人的に民間サイト Quizlet に加入し，教材を公開するものである。希望者はこちらを活用するとよい。Quizlet 利用には無料のユーザー登録が必要である。まずは「参考文献」に記した URL にアクセスし，Quizlet のコンセプトを理解した上で，取り組むこと。

◆学修計画

1 回目	第 1 課 “只有～才～”・“听说～” 等　　第 2 課 “因为～所以～”・“如果～就～” 等
2 回目	第 3 課 “既然～就～”・“对～感兴趣” 等　　第 4 課 “原来～”・「する」を表わす動詞 等
3 回目	第 5 課　講読文　“由于～因此～”・“不但～而且～” 等
4 回目	第 6 課 “虽然～但是～”・見解を表わす動詞 等　　第 7 課 部分否定・“～来说” 等
5 回目	第 8 課 “只要～就～”・“不管～都～” 等　　第 9 課 “难道～吗？”・“连～都～” 等
6 回目	第 10 課　講読文　“以～为～”・“既～又～” 等
7 回目	第 1 課～第 10 課のまとめと復習
8 回目	第 11 課 助動詞 “得”・“～的话～就～（了）” 等　　第 12 課 “越～越～”・“又～又～” 等
9 回目	第 13 課 “一～也～”・“非～不可” 等　　第 14 課 “但愿～”・“肯定～” 等
10 回目	第 15 課　講読文　“不是～而是～”・“就是～也～” 等
11 回目	第 16 課 “以为～”・“等～再～” 等　　第 17 課 “尽管～”・“基本上～” 等
12 回目	第 18 課 “虽说～但～”・“一点儿～也～” 等　　第 19 課 “向～看齐”・ことわざの類 等
13 回目	第 20 課　講読文　“怎么个～法儿呢？”・“比方说～啊～（啊）” 等
14 回目	第 11 課～第 20 課のまとめと復習
15 回目	第 1 課～第 20 課のまとめと復習（特にリポート課題となっている部分を重点的に復習）

◆参考文献

中日辞典（出版社は特に指定しない）
Quizlet「日大通信 中国語 3」で公開する補助教材（書籍ではない。右の URL へアクセス　https://quizlet.com/join/NAPZpThwX）

科目コード	科　目　名	単位数
F10400	中国語Ⅳ	2単位

教材コード　000549

教　材　名　『話す中国語　北京篇４』　（学修指導書別冊）

著 者 名 等　董　燕・遠藤　光暁

出 版 社 名　朝日出版社

I S B N　9784255450742

◆教材の概要

本テキストは，中国語中級レベルから，より高度な領域へのステップアップを図る内容となっている。『話す中国語　北京篇』シリーズは，北京に留学した主人公の日常生活を通して，段階的に中国語を学んでいくストーリー仕立ての教材である。『北京篇 1』で始まった主人公の留学生活は，この『北京篇 4』において完結する。こちらはシリーズ 4 冊中の第 4 冊目にあたるが，前 3 作を見ずとも，この『北京篇 4』単体での学修が十分可能である。テキストには日本語訳が載っていないため，別冊の「学修指導書」に一部日本語訳例を紹介している。それらを参考にしつつ，残りは辞書を駆使する等して学修を進めてほしい。

◆学修到達目標

すでに中国語中級レベルの学修が可能となっている者が，中国語Ⅲまでの知識をベースに，より高度な文法と多くの語彙を覚えることによって，更に高いレベル（中級から上級へステップアップできるレベル）の中国語運用能力を身につける事を目指す。

◆学修方法・留意点

『中国語Ⅳ 学修指導書』にも各課学修のタイムテーブル例を記載しているが，そちらは教科書を隅から隅まで学修するための学修計画である。すべて学ぼうとすれば 15 回の学修では難しいが，「替換练习」「表达练习」等を省略すれば，15 回での学修は可能である。1 回の本課学修には当然一定時間をかけての事前・事後学修が必要となる。本文書写や単語の意味は事前学修で解決し，事後学修においては学修内容を身につける反復練習を行うこと。教科書『話す中国語 北京篇 4』は単語訳・日本語訳を掲載しておらず，『中国語Ⅳ 学修指導書』において文法解説例文と応用会話の例文の日本語訳を提供するも，基本的には学修者が辞書を用いて意味を調べる事を推奨している。そういった方法は大きな効果を生むが，辞書を用いての学びに困難を感じる受講者もいるかもしれない。受講者の学修サポートを目的として，インターネットサイト Quizlet に「日大通信 中国語 4」というクラスを作成し，適宜補助教材を提供していくこととする。本サイトは日本大学通信教育部とは無関係で，科目担当者が個人的に民間サイト Quizlet に加入し，教材を公開するものである。希望者はこちらを活用するとよい。Quizlet 利用には無料のユーザー登録が必要である。まずは「参考文献」に記した URL にアクセスし，Quizlet のコンセプトを理解した上で，取り組むこと。

◆学修計画

1 回目	第 1 課 “ 早就～ ”・“ 看起来～ ” 等　　第 2 課 “ 够～的 ”・“ 该～了 ” 等
2 回目	第 3 課 “ 一直～ ”・“ 不见得～ ” 等　　第 4 課 “ 曾经～ ”・“ 差不多～ ” 等
3 回目	第 5 課　講読文　“ ～不过来 ” 等
4 回目	第 6 課 “ 越来越～ ”・“ 要不然～就～ ” 等　　第 7 課 “ 到底～ ”・“ 合乎～ ” 等
5 回目	第 8 課 過去の動作の進行・継続を表わす表現 等　　第 9 課 “ 终于～ ”・“ 何况～ ” 等
6 回目	第 10 課　講読文　“ 以～ ” 等
7 回目	第 1 課～第 10 課のまとめと復習
8 回目	第 11 課 “ 不在乎 ”・“ 无所谓 ” 等　　第 12 課 方向補語と目的語の位置・“ 只是～罢了 ” 等
9 回目	第 13 課 “ 为了～ ”・“ 让 ” を使った受身 等　　第 14 課 “ ～是～可是～ ”・“ 看样子 ” 等
10 回目	第 15 課　講読文
11 回目	第 16 課 “ 顺便～ ”・“ ～得不得了 ” 等　　第 17 課 “ 不比～ ” 等
12 回目	第 18 課 “ 首先～ ”・“ 舍不得～ ” 等　　第 19 課 諺や古典からの引用 等
13 回目	第 20 課　講読文　“ 不得不～ ”・“ 所 ” 等
14 回目	第 11 課～第 20 課のまとめと復習
15 回目	第 1 課～第 20 課のまとめと復習（特にリポート課題となっている部分を重点的に復習）

◆参考文献

中日辞典（出版社は特に指定しない）

Quizlet「日大通信 中国語 4」で公開する補助教材（書籍ではない。右の URL へアクセス　https://quizlet.com/join/sfd2tXwVk）

科目コード	科　目　名	単位数
G10100	日本語Ⅰ	2単位

教材コード　000295
教　材　名　『どんなときどう使う日本語表現文型 200　初・中級』（学修指導書別冊）
著 者 名 等　友松　悦子・宮本　淳・和栗　雅子
出 版 社 名　アルク
I S B N　9784757422605

◆教材の概要

『どんなときどう使う日本語表現文型 200』を教材にして，どういうときに（どんな場面で，どんなことばを使えばいいかを学修します。教材には各課のはじめに「知っていますか」「使えますか」という“うでだめし”のコーナーがありますから，自分がどのくらい文型を知っているか，正しい使い方をしているかがチェックしてください。学修内容についての理解確認は練習のコーナーで行ないます。

◆学修到達目標

本課は「時間関係」「比較・対比」というような文型別に 20 課に整理されています。各項目は基礎と発展に分かれているので，基礎をしっかり理解してから，発展の文型に進むことで段階をおった目標が達成できます。

話しことば的な表現・書きことば的な表現など，図式された項目名を参考に，使用方法を理解することを到達目標とします。

◆学修方法・留意点

日本語能力の「書く」「読む」「話す」力は，この教材で養えます。文型がある程度理解できるようになったら，ニュースを聞くなどして「聞く」力の向上も心がけてください。聞いている内容を把握するには，語彙力が必要になりますから，教材で充分な語彙力を身につけることが大切です。聞き手に意思を伝える「話す」力には，筋道のたった正しい文型理解とその使用が必要です。教材ではその理解力を養い，実践で発音に関する能力を養うよう，心がけてください。

◆学修計画

1 回目	音の変化を知る「てる」から「てく」「とく」などへ。意味を理解し使えるようにする
2 回目	会話の形　助詞の省略・短縮形・あいまいな表現など
3 回目	会話を進める言い方を練習する　話題の転換と終わり方を練習する
4 回目	会話を進める言い方を練習する　切り出し方を練習する
5 回目	問いかけに対する丁寧な応対の方法を練習する
6 回目	相手の反応を見ながら話す。語末の「ね」「な」の使い方を練習する
7 回目	相手の反応を見ながら話す。語末の「さ」の使い方を練習する
8 回目	さまざまなあいづち　ていねいな会話でのあいづち
9 回目	さまざまなあいづち　くだけた会話でのあいづち
10 回目	もう一度確かめる時のことば「ですね」などの使い方を練習する
11 回目	主張する，主張を伝える「よ」などの練習
12 回目	お礼の言い方とあやまり方の表現が使えるように練習する
13 回目	断り方を練習する
14 回目	申し出を断る言い方を練習する
15 回目	くだけた表現における問いかけ「かな」「かしら」などを練習する

◆参考文献

『なめらか日本語会話（新装版)』富阪容子著（アルク）

科目コード	科　目　名	単位数
G10200	日本語Ⅱ	2単位

教材コード　000460
教　材　名　『にほんご作文の方法（改訂版）』
著 者 名 等　佐藤　政光・戸村　佳代・池上　摩希子
出 版 社 名　第三書房
I S B N　9784808606527

◆教材の概要

中級を対象とした教材だが，テーマや内容の掘り下げによって上級者にも活用できる教材である。

1課から16課までさまざまな表現が「物の形」「前後関係」「因果関係」のようにテーマ別に項目が建てられているので目的に合った作文の技術を習得できる。作文力の向上は全体的な日本語力のアップにつながるので必須の学修項目である。

また各課に作文の技術と重要表現が付されているので，具体的な使用法を自習し，練習問題で実力を養成できるよう構成されている。

◆学修到達目標

作文力は日本語の力を身につける為に必須の項目である。従って作文力を身に着けるための重要表現を理解し，項目に合った内容に使えるようになることが目標である。

◆学修方法・留意点

作文技術に取り上げられている文型を使って作例することが最も効果的な学修方法である。分からないことばや漢字は辞書で調べて正しく理解し，語彙量を増やすことにも留意することに留意してほしい。

◆学修計画

1回目	物の形や状態，場所が書けるようにする。　句読点について学ぶ。
2回目	物事の前後関係を表現することばを学ぶ　―　時間の前後関係を表すことばを学ぶ。
3回目	物事の前後関係を表現することばを学ぶ　―　意志や予定を表すことばを学ぶ。
4回目	物事の仕組みや手順・方法について作文する　―　仕組みや順序を説明する言葉を学ぶ。
5回目	物事の仕組みや手順・方法について作文する　―　病院や銀行，図書館の利用法を説明する文の作成
6回目	物事の因果関係を表現することばを学ぶ　―　原因とその結果を正確にまとめた文の作成
7回目	物事の因果関係を表現することばを学ぶ　―　問題を解説する文章の作成
8回目	理由や目的を述べる　―「ために」「のは」などの使い方を知る
9回目	理由や目的を述べる　―　アルバイトをトピックにして
10回目	共通点や類似点を見つけて作文する　―　母国と日本の週間の違いをまとめる
11回目	共通点や類似点を見つけて作文する　―　比較する時のことばを学ぶ
12回目	伝聞や引用の方法を学ぶ。実際に伝聞，引用をつかって作文する
13回目	変化や過程を表す表現を学ぶ
14回目	具体的事実を集積させて全体的特徴をつかむ　―「たとえば」「と言うことができる」等の表現を学ぶ
15回目	意見文を書く　―　賛成意見・反対意見を明確にした文を作成する

◆参考文献

『なめらかな日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）
『にほんごよむよむ文庫［レベル2］』vol.3（アスク）

科目コード	科　目　名	単位数
G10300	日本語Ⅲ	2単位

教材コード　000504
教　材　名　『新訂版　トピックによる日本語総合演習　―テーマ探しから発表へ―　上級』(学修指導書別冊)
著 者 名 等　安藤　節子・佐々木　薫・赤木　浩文・坂本　まり子・田口　典子
出 版 社 名　スリーエーネットワーク
I S B N　9784883198672

◆教材の概要

本書は1 ～ 5 の五つの単元に分かれているが，どれも現代日本を知る上に必要な情報をもとに①考えのもとになる発想　②グラフを読む力　③読み物を読んで理解する力　④表現上重要な語句　⑤アクティビティの順に構成される。

「1 食文化」を通して日本の食事と文化を知る。「2 仕事」を通して日本人の就労意識を知る。「3 生活習慣と宗教」から日本人が大切にしていることを知る。「4 リサイクル」から循環社会について理解する。「5 ジェンダー」から日本社会の男女の領域意識を知る事ができる。各単元の項目にしたがって学修すると表現上必要な文法項目，読解の力など日本語を運用する上で必要な技能が身につくよう工夫が施されている。

◆学修到達目標

総合的な日本語の運用力を身につけることが目標である。一つ一つの単元には概要で述べたように到達目標があるが，その項目に従って学ぶことにより，トータル的な日本語力を獲得することをねらいとする。

◆学修方法・留意点

出来る限り「読み物」の引用元である原文を読むこと。読解の訓練，表現について多くを学ぶことができる。また単元は前後してもかまわないが，「はじめに」から「調査発表」までは段階を踏んで学修することが望ましい。

教育システム上「発表」は困難だが発表原稿を作成して自分の考えを他者に伝える技術を身に着けて頂きたい。

◆学修計画

1回目	単元「1. 食文化」食事をする時大切と思うものは何か，まとめて書きだす。
2回目	「読み物」を読む。
3回目	表現の欄の項目を用いて，原稿を作成する。
4回目	単元「2. 仕事」あなたにとっての仕事とはなにかを考え，まとめて書きだす。
5回目	「読み物」を読む。「充実した職業生活」とは何かを箇条書きにする。
6回目	表現の欄の項目を用いて，原稿を作成する。
7回目	単元「3. 生活習慣と宗教」あなたのしている「宗教的行為」は何か，まとめて書きだす。
8回目	「読み物」を読む。
9回目	表現の欄の項目を用いて，原稿を作成する。
10回目	単元「4 リサイクル」ごみを出すときのルールとはなにか，家の近所を調査してみる。
11回目	ゴミを減らすとりくみについて，自分のしていることをまとめてみる。
12回目	表現の欄の項目を用いて，原稿を作成する。
13回目	単元「5. ジェンダー」男性が多い仕事，女性が多い仕事はどのようなものか，その理由を考える。
14回目	掲載されている図表から分かることを書き出し，意見を書く。
15回目	表現の欄の項目を用いて，原稿を作成する。

◆参考文献

各項目の「読み物」に引用した文献が記載されている。出来る限り原文を読んで新出語彙や表現を知ることが重要である。

科目コード	科　目　名	単位数
G10400	日本語Ⅳ	2単位

教材コード　000461
教　材　名　『日本への招待（第2版）テキスト』
著 者 名 等　近藤　安月子・丸山　千歌
出 版 社 名　東京大学出版会
I S B N　9784130820110

◆教材の概要

本教材は東大教養学部の短期交換留学生用テキスト（中・上級）として開発されたもので，短期間に効率よく学修できるよう配分されている。上級者にとっては日本語の習得と日本社会の理解は不可分だが，本教材ではこの観点から，意識の喚起―資料の提供―考察の整理（書く，読む，話す）が組織的に学ぶことができる。漢字圏・非漢字圏出身のレベルに合わせ振り仮名の有無が分けられているので，自身の目的意識と能力に合わせて学修していただきたい。

◆学修到達目標

資料を丁寧に読解し，日本社会を知ることが求められる。意識の喚起と活性化をねらいとした「知っていることを話そう」では作文の能力を養うことを一つの目標とする。「知っていることを話そう」―「ここから考えよう」と学修を進めながら語彙・文型を習得していくことが本科目の大きな目的になる。

◆学修方法・留意点

はじめから振り仮名付を読むのではなく，出来る限り振り仮名のない文に挑戦していただきたい。本教材では資料としてイラストやグラフ，図が多用されている。これらをていねいに読んで理解すること。設問だけを解答していく学修とはまた違った確実な実力養成につながる。

◆学修計画

1回目	はじめに　ステレオタイプを考える。日本と日本人のイメージとはなにかをヒントに意見をまとめる。
2回目	ステレオタイプの問題点―あなたの国におけるステレオタイプを考える。
3回目	テーマ1　働く女性について資料から考える―インタビュー内容を読解する。
4回目	テーマ1　キーワードと資料を使って意見文を作成する。
5回目	テーマ2　子どもと教育について，掲載された文章を読解する。
6回目	テーマ2　与えられた資料を選択してまとめる。
7回目	テーマ3　若者の感性について，今と以前を比較する。対照となる事柄を箇条書きする。
8回目	テーマ3　新聞資料を読解する。
9回目	テーマ3　教材に掲載されているトピックから選択して意見文を書く。
10回目	テーマ4　仕事への意識をキーワードと資料を使って意見文を作成する。
11回目	テーマ4　ことわざを集めて，意味を知る。
12回目	テーマ5　日本の外国人について設問に解答する。短文を作る。
13回目	テーマ5　新聞資料を読解する。
14回目	テーマ5　教材に掲載されているトピックから選択して意見文を書く。
15回目	おわりに　脱ステレオタイプについて，与えられている項目をヒントに考えをまとめる。

◆参考文献

教材の終わりに各課で参考として読むべき「参考図書」リストが付してある。各テーマ最低1冊から2冊は読破してほしい。

科目コード	科　目　名	単位数
H10100	保健体育講義Ⅰ	1単位

教材コード　000395
教　材　名　保健体育講義Ⅰ
著 者 名 等　吉本　俊明

◆教材の概要

本教材は，体育・スポーツ・健康に関わる５章（体育の役割，文化としてのスポーツ，体育・スポーツの歴史，運動・スポーツと健康，我々を取り巻く環境）で構成されている。いずれも健康という我々にとって最も基本的な権利に直接的・間接的に関わる知識をまとめたものである。

◆学修到達目標

生涯を通じて最も大切な健康とは何か，また，健康・体力の維持増進のために何が必要かについて，基本的な知識を習得することで，自らの生活習慣として実践できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

５つの章が目指すことは，単なる知識に留まらず，それらの知識を土台とした運動の実践と健康の維持・増進を果たすための管理であることを強調しておく。

◆学修計画

1回目	体育の役割：体育の定義
2回目	体育の目標と内容
3回目	文化としてのスポーツ
4回目	体育とスポーツの関係
5回目	古代の体育・スポーツ
6回目	近世の体育・スポーツ
7回目	近代の体育・スポーツ
8回目	日本における体育・スポーツの発展
9回目	発育期の健康と運動・スポーツ
10回目	青年期・中年以降の健康と運動・スポーツ
11回目	運動・スポーツによる身体機能の向上
12回目	運動・スポーツによる健康への悪影響
13回目	我々を取り巻く環境：物理的・化学的環境
14回目	環境問題
15回目	環境問題への取り組み

◆参考文献

『大学生のための最新健康・スポーツ科学』　日本大学文理学部体育学研究室編（八千代出版，2019）

科目コード	科　目　名	単位数
H10200	保健体育講義Ⅱ	1単位

教材コード　000037
教　材　名　保健体育講義Ⅱ
著 者 名 等　吉本　俊明

◆教材の概要

本教材は，健康が生涯のテーマであるという観点に立って，4章（レジャー・レクリエーション，体力づくり運動とスポーツ振興，体力の維持・増進とトレーニング，運動技能の向上）で構成されている。いずれも，生涯にわたって，どのように運動・スポーツと関わっていくべきかという立場から，実践を伴う知識となることを期待したものである。

◆学修到達目標

生涯を通じて最も大切な健康とは何か，また，健康・体力の維持増進のために何が必要かについて，基本的な知識を習得することで，自らの生活習慣として実践できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

健康的な生活は，規則正しい生活を基盤とした上で，適度な運動を実践することによって形成される。したがって，健康に関連した知識を実践に結び付けて理解する努力が求められる。

◆学修計画

1回目	レジャー：概念と具体的な活動内容
2回目	レクリエーション：概念と具体的な活動内容
3回目	体力づくり運動とスポーツ振興：スポーツ宣言，欧米における体力づくり運動
4回目	日本におけるスポーツ振興
5回目	形態面からみた体力
6回目	機能面からみた体力
7回目	トレーニングの原則
8回目	筋力トレーニングと筋持久力トレーニング
9回目	持久力・柔軟性トレーニング
10回目	体力の維持・増進の勧め
11回目	運動技能の向上：練習の効果とは
12回目	認知構造からみた練習の効果
13回目	練習曲性からみた特徴
14回目	練習効果を高める方法
15回目	指導者の役割

◆参考文献

『大学生のための最新健康・スポーツ科学』　日本大学文理学部体育学研究室編（八千代出版，2019）

科目コード	科　目　名	単位数
K20100	憲法	4単位

教材コード　000261
教　材　名　憲法
著 者 名 等　廣田　健次

◆教材の概要

私たちの社会生活は，そのあらゆる局面において，法律，条例その他さまざまな法による規制の対象となっているが，それらすべての法制度の基礎をなしているのは憲法である。その意味で，憲法は，法律学を学ぶ者が最初に接すべき重要な基礎科目といえる。本教材は，憲法の基礎理論を体系的に整理したうえで，明治憲法から日本国憲法に至る日本の憲法史，日本国憲法に定める基本的人権の意義，国会，内閣，裁判所等の国家機関の組織・権能，さらには憲法保障制度を解説するものであり，日本国憲法の全容を論理的・体系的に把握することができるような構成を心がけている。

◆学修到達目標

憲法の基礎理論を学ぶことで，憲法とは何かを知ることができ，日本国憲法に定める基本的人権と統治機構の概要を理解することで，現代社会のさまざまな問題を，憲法論の観点から捉えることができる。

◆学修方法・留意点

① 基礎理論と日本憲法史。
② 基本的人権の解釈と公共の福祉。
③ 国会や内閣の組織および権能。
④ 司法権の概念と違憲審査制，財政の意義，地方自治の本旨，憲法改正の限界，最高法規性の意味。

◆学修計画

1回目	国家：国家の概念・構成要素・形態
2回目	憲法：憲法の概念・分類・特質
3回目	明治憲法：明治憲法の成立・構造・基本原理
4回目	日本憲法史：日本国憲法の成立・構造・基本原理・最高法規性
5回目	権力分立制
6回目	天皇：地位・権能・皇位の継承・皇室の経済
7回目	国民：概念・要件・皇族
8回目	憲法上の国民の権利
9回目	平等権・自由権・社会権・国務請求権・参政権・国民の基本的義務
10回目	国会
11回目	内閣
12回目	裁判所
13回目	地方自治
14回目	憲法の改正
15回目	憲法の保障

◆参考文献

『憲法―体系と争点』榎原猛著（法律文化社）
『憲法講義（上）・※（下）〔新版〕』小林直樹著（東京大学出版会）
※『憲法Ⅰ・Ⅱ』杉原泰雄著（有斐閣）
※『憲法（第3版）』佐藤幸治著（青林書院）
『憲法（第3版）』樋口陽一著（創文社）
『日本国憲法』名雪健二著（有信堂高文社）

科目コード	科　目　名	単位数
K20200	民法Ⅰ	4単位

教材コード　000612
教　材　名　『新基本民法１　総則編』
著 者 名 等　大村　敦志
出 版 社 名　有斐閣
ＩＳＢＮ　9784641138162

◆教材の概要

民法総則とは，民法典全体に適用される通則（民法全体の共通した決まりごと）である。私権の主体（誰が権利を行使するのか），私権の客体（何を対象とするのか），私権の変動（主体から見ると権利の得喪変更，客体から見ると権利の発生・変更・消滅）について規定している。なお，変動については，意思に基づく変動（法律行為）と，意思に基づかない変動（時効）に分けて規定している。本書は，民法総則について解説したテキストである。

本書は，学界の第一人者の著書であること，不動の定評があること，入門書のみならず専門書としての機能も兼ね備えており，大学における（民法初学者向け）テキストとして相応しいものである。

◆学修到達目標

民法典における民法総則の位置づけ，民法総則の体系（仕組み），主要な条文の解釈（論点）がわかるようになる。

◆学修方法・留意点

本書を基本書と位置づけて，これを読み込み，まずは自分なりの理解をすること。専門用語などで，わからないことがあれば，すぐにネットなどで調べて自分なりに納得するように努め，決してわからないまま放置しないこと（これが溜まると先に進めなくなってしまう）。

◆学修計画

1回目	総　論　民法と民法典（UNIT 1）
2回目	序　章　民法総則の再編成（UNIT 2）
3回目	第1章　契約の成立　第1節　合意の存在（UNIT 3）　第2節　有効性・その1――要件
4回目	第1　意思の完全性（UNIT 4）
5回目	第2　内容の妥当性（UNIT 5）
6回目	第3節　有効性・その2――効果　第1　無効と取消し（UNIT 6）
7回目	第2　第三者の保護（UNIT 7）
8回目	第2章　契約の効力　第1節　債務の発生（UNIT 8）
9回目	第2節　債務の消滅（UNIT 9）
10回目	第3章　代理――契約の主体の分離　第1節　代理一般（UNIT 10）
11回目	第2節　表見代理（UNIT 11）
12回目	第3節　代理にかかわるその他の問題（UNIT 12）
13回目	補　論　民法の基本原則・基本概念（UNIT 13）
14回目	テキスト全部の通読
15回目	ノート等の確認

◆参考文献

本書のほか，民法Ⅱから民法Ⅴで指定した教科書及び参考文献についても読み込むことを推奨する。

科目コード	科　目　名	単位数
K20300	刑法Ⅰ	4単位

教材コード　000564
教　材　名　『刑法総論』
著 者 名 等　設楽　裕文・南部　篤　編
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002359

◆教材の概要

犯罪現象に対して，社会の構成員の利益をまもり，社会秩序を維持するための制度として考案され発展生成してきたシステムが刑事司法制度であるが，その中心に位置するルールが刑法である。本教材は，この刑法，すなわち犯罪と刑罰の実体を定める法の総論を扱う。

刑罰とは何か，国家はなぜ犯人の自由や生命を奪うことができるのか，刑法を支配する基本原則は何か，どのような場合に犯罪は成立するか，こうした問題を，知的好奇心を研ぎ澄まして，自分の頭で考えていくための手がかり・足がかりとなるよう編まれたのが本教材である。

◆学修到達目標

犯罪論・刑罰論の重要テーマを体系的に学び，刑法学の堅牢な基礎を築くことを目的とする。犯罪論と刑罰制度の基礎的理解，および刑法固有の法的思考能力を身につけること，さらに事案を読み解き，論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を獲得すること。

◆学修方法・留意点

刑法総論は，理論的で抽象的なテーマを多く含む分野であるため，初学者にとって，基礎的理解に到達すること自体に努力を要する場合も少なくない。反対に，学修が進んだ者の中には，理論的・体系的整合性に目を奪われがちになる場合も多くみられる。そこで，具体的な設例，事案，裁判例に即して考え，学ぶことを心掛け，そしてその際，犯罪が人間の営為であり，刑罰が人々の社会生活を左右する制度であるという現実感覚を失わないよう注意をすることが肝要となる。

◆学修計画

1回目	刑罰制度と刑法の意義，刑罰とは何か，刑罰の意義と機能，応報刑と教育刑
2回目	刑法の政策的基礎（法益保護の原則，責任主義），刑法の基本原則（罪刑法定主義）
3回目	刑法の適用範囲（刑法の場所的適用範囲・刑法の時間的適用範囲・外国判決の効力
4回目	犯罪成立要件，三分体系（構成要件・違法・有責）
5回目	構成要件とは何か，構成要件要素（主体・客体・行為・結果・因果関係等），構成要件の機能
6回目	構成要件該当性（実行行為，不作為犯，因果関係，法人の犯罪と法人の処罰）
7回目	違法性①（違法性の本質，主観的違法観と客観的違法観，結果無価値と行為無価値）
8回目	違法性②（違法性阻却事由の意義，正当防衛，緊急避難，正当行為）
9回目	責任①（責任の本質，期待可能性，規範的責任論，心神喪失と心神耗弱，刑事未成年）
10回目	責任②（故意と過失，未必の故意と認識ある過失，錯誤論）
11回目	犯罪遂行の過程（陰謀・予備・未遂・既遂，未遂犯の要件と効果，中止犯，不能犯）
12回目	共犯①（共犯の意義と種類，正犯と共犯，直接正犯・間接正犯・共同正犯）
13回目	共犯②（共犯独立性説と従属性説，実行従属性・要素従属性・罪名従属性）
14回目	罪数（狭義の罪数と科刑処理，一罪・法条競合・包括一罪・科刑上一罪・併合罪）
15回目	刑の執行（執行猶予・仮釈放・刑の時効・恩赦等）

◆参考文献

『法学刑法３演習』設楽裕文編（信山社）
『刑法総論』山口厚（有斐閣）
『刑法総論』西田典之（橋爪隆補訂）（弘文堂）
『刑法総論講義』前田雅英（東大出版会）

科目コード	科　目　名	単位数
K30100	民法Ⅱ	4単位

教材コード　000613
教　材　名　『新基本民法２　物権編』
著 者 名 等　大村　敦志
出 版 社 名　有斐閣
I S B N　9784641138896

◆教材の概要

物権とは財産法のひとつであり，人が物を直接かつ排他的に支配する権利である。物権法は，総論（債権との相違点，物権法定主義，一物一権主義，物権変動における意思主義の原則・公示の原則・公信の原則，その他），占有権（本権の裏付け不要な支配権），所有権（本権に基づく支配権），用益物権（使用収益のみ可能な物権），担保物権（換価のみ可能な物権）の各領域によって構成されている。本書は，担保物権を除く物権法の各領域について解説したテキストである。

本書は，学界の第一人者の著書であること，不動の定評があること，入門書のみならず専門書としての機能も兼ね備えており，大学における（民法初学者向け）テキストとして相応しいものである。

◆学修到達目標

民法典における物権の位置づけ，物権の体系（仕組み），主要な条文の解釈（論点）がわかるようになる。

◆学修方法・留意点

本書を基本書と位置づけて，これを読み込み，まずは自分なりの理解をすること。専門用語などで，わからないことがあれば，すぐにネットなどで調べて自分なりに納得するように努め，決してわからないまま放置しないこと（これが溜まると先に進めなくなってしまう）。なお，参考文献についても読み込み，担保物権の領域まで十分に理解すること。

◆学修計画

1回目	総　論　物と財産と所有権（UNIT 1）
2回目	序　章　物権とは何か（UNIT 2）
3回目	第1章　物権変動　第1節　基礎理論（UNIT 3）
4回目	第2節　各論的な検討（UNIT 4）
5回目	第2節　各論的な検討（UNIT 5）
6回目	第3節　動産の場合（UNIT 6）
7回目	第2章　所有権　第1節　所有権の効力（UNIT 7）
8回目	第2節　所有権の制限（UNIT 8）
9回目	第3節　共同所有（UNIT 9）
10回目	第3章　法　人　第1節　法人とは何か（UNIT 10）
11回目	第2節　法人の一般的な法律関係（UNIT 11）
12回目	第3節　法人にかかわる変則的な現象（UNIT 12）
13回目	補　論　民法の解釈について（UNIT 13）
14回目	テキスト全部の通読
15回目	ノート等の確認

◆参考文献

『新基本民法３　担保編』大村敦志著（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
K30200	民法Ⅲ	4単位

教材コード　000614
教　材　名　『新基本民法４　債権編』
著 者 名 等　大村　敦志
出 版 社 名　有斐閣
I S B N　9784641138209

◆教材の概要

債権とは，債権者が債務者に対し，一定の物の給付または一定の作為または不作為を請求する権利である。

債権法は，債権総論（債権債務の通則。債権債務一般に共通する決まりごと）と，債権各論，つまり契約総論（契約の通則。契約一般に共通する決まりごと）と各論（典型契約），および法定債権（合意に基づかない債権債務の発生原因たる事務管理・不当利得・不法行為）の各領域によって構成されるところ，本書は，債権総論について解説したテキストである。

本書は，学界の第一人者の著書であること，不動の定評があること，入門書のみならず専門書としての機能も兼ね備えており，大学における（民法初学者向け）テキストとして相応しいものである。

◆学修到達目標

民法典における債権法と債権総論の位置づけ，債権法と債権総論の体系（仕組み），主要な条文の解釈（論点）がわかるようになる。

◆学修方法・留意点

本書を基本書と位置づけて，これを読み込み，まずは自分なりの理解をすること。専門用語などで，わからないことがあれば，すぐにネットなどで調べて自分なりに納得するように努め，決してわからないまま放置しないこと（これが溜まると先に進めなくなってしまう）。

◆学修計画

1回目	はじめに　総　論　契約債権とその実現（UNIT 1）
2回目	序　章　債権内容の確定（UNIT 2）
3回目	第1章　任意の実現：弁済　第1節　弁済の過程（UNIT 3）
4回目	第2節　弁済の当事者（UNIT 4）
5回目	第2章　強制による実現　第1節　履行の強制（UNIT 5）
6回目	第2節　損害賠償（UNIT 6）
7回目	第2節　損害賠償（UNIT 7）
8回目	第3章　優先的な実現　第1節　相　殺（UNIT 8）
9回目	第2節　債権者代位権（UNIT 9）
10回目	第3節　詐害行為取消権（UNIT 10）
11回目	第4章　当事者の交替　第1節　債権譲渡（UNIT 11）
12回目	第2節　更改・債務引受（UNIT12）
13回目	補　論　歴史と法（UNIT 13）
14回目	テキストの通読
15回目	ノート等の確認

◆参考文献

必要があれば任意に選択されたい。

科目コード	科　目　名	単位数
K30300	民法Ⅳ	4単位

教材コード　000615
教　材　名　『新基本民法５　契約編』
著 者 名 等　大村　敦志
出 版 社 名　有斐閣
ＩＳＢＮ　9784641138315

◆教材の概要

債権とは，債権者が債務者に対し，一定の物の給付または一定の作為または不作為を請求する権利である。

債権法は，債権総論（債権債務の通則。債権債務一般に共通する決まりごと）と，債権各論，つまり契約総論（契約の通則。契約一般に共通する決まりごと）と各論（典型契約），および法定債権（合意に基づかない債権債務の発生原因たる事務管理・不当利得・不法行為）の各領域によって構成されるところ，本書は契約総論と契約各論について解説したテキストである。

本書は，学界の第一人者の著書であること，不動の定評があること，入門書のみならず専門書としての機能も兼ね備えており，大学における（民法初学者向け）テキストとして相応しいものである。

◆学修到達目標

民法典における債権法と債権各論（のうち契約総論と各論）の位置づけ，債権法と債権各論（のうち契約総論と各論）の体系（仕組み），主要な条文の解釈（論点）がわかるようになる。

◆学修方法・留意点

本書を基本書と位置づけて，これを読み込み，まずは自分なりの理解をすること。専門用語などで，わからないことがあれば，すぐにネットなどで調べて自分なりに納得するように努め，決してわからないまま放置しないこと（これが溜まると先に進めなくなってしまう）。なお，参考文献についても読み込み，不法行為の領域まで十分に理解すること。

◆学修計画

1回目	はじめに　総　論　各種の契約（UNIT 1）
2回目	序　章　契約の成立（UNIT 2）
3回目	第1章　財貨移転型の契約：売買　第1節　効力（UNIT 3）
4回目	第1章　財貨移転型の契約：売買　第1節　効力（UNIT 4）
5回目	第2節　売買の解除（UNIT 5）
6回目	第2章　財貨非移転型の契約　第1節　使用型の契約：賃貸借（UNIT 6）
7回目	第2章　財貨非移転型の契約　第1節　使用型の契約：賃貸借（UNIT 7）
8回目	第2節　信用型の契約：消費貸借など（UNIT 8）
9回目	第3節　役務型契約：雇用・請負・委任など（UNIT 9）
10回目	第3章　組織型の契約：組合など（UNIT 10）
11回目	第4章　好意型の契約：贈与・使用貸借など（UNIT 11）
12回目	第5章　その他の契約（UNIT 12）
13回目	補　論　類型思考と法（UNIT 13）
14回目	テキストの通読
15回目	ノート等の確認

◆参考文献

『新基本民法６　不法行為編』大村敦志著（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
K30400	民法Ⅴ	4単位

教材コード　000616
教　材　名　『新基本民法７　家族編』
著 者 名 等　大村　敦志
出 版 社 名　有斐閣
I S B N　9784641136946

◆教材の概要

親族法とは，法律上の身分関係（親族の範囲・親子・婚姻（離婚）・夫婦・扶養など）について規定したところであり（狭義の身分法），相続法とは，被相続人の死亡に伴う相続人（受遺者を含む）への財産関係の承継や祭祀承継（お墓や位牌の引継ぎのこと。「相続」概念には含まれないことに注意）について規定したところである。両者を併せて家族法，または身分法（広義）と呼称することもある。本書は，親族法について解説したテキストである。

本書は，学界の第一人者の著書であること，不動の定評があること，入門書のみならず専門書としての機能も兼ね備えており，大学における（民法初学者向け）テキストとして相応しいことから，これを指定した。なお，本書はスクーリング（面接授業）のテキストではない。

◆学修到達目標

民法典における親族法と相続法（家族法または身分法）の位置づけ，親族法と相続法（家族法または身分法）の体系（仕組み），主要な条文の解釈（論点）がわかるようになる。

◆学修方法・留意点

本書を基本書と位置づけて，これを読み込み，まずは自分なりの理解をすること。専門用語などで，わからないことがあれば，すぐにネットなどで調べて自分なりに納得するように努め，決してわからないまま放置しないこと（これが溜まると先に進めなくなってしまう）。なお，参考文献についても読み込み，相続法の領域まで十分に理解すること。

◆学修計画

1回目	はじめに　総論　個人と家族・親族（UNIT 1）
2回目	序章　女性と老後（UNIT 2　扶養と成年後見）
3回目	第1章　女性と財産　第1節　婚姻継続中の財産（UNIT 3）
4回目	第2節　婚姻解消時の財産（UNIT 4）
5回目	第2章　女性と人格　第1節　氏名（UNIT 5）
6回目	第2節　性（UNIT 6）
7回目	第3節　生殖　第1　産む自由（UNIT 7）
8回目	第2　産まない自由（UNIT 8）
9回目	第3章　女性と結婚　第1節　婚姻の要件（UNIT 9）
10回目	第2節　離婚の要件（UNIT 10）
11回目	第4章　女性と子ども　第1節　親権（UNIT 11）
12回目	第2節　養子縁組（UNIT 12）
13回目	補論　現代における家族法立法（UNIT 13）
14回目	テキストの通読
15回目	ノート等の確認

◆参考文献

『新基本民法８　相続編』大村敦志著（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
K30500	商法Ⅰ	4単位

教材コード　000602
教　材　名　『商事法講義　1（会社法）』
著 者 名 等　松嶋隆弘・大久保拓也編
出 版 社 名　中央経済社
I S B N　9784502360114

◆教材の概要

指定教材は，商法学のうち，講学上，「会社法」に相当する部分を取り扱うテキストである。オーソドックスな目次立てで，判例・通説的見解に従い叙述することを原則としつつも，ケースを用いる等工夫し，最新のトピックスについても言及している。会社法の守備範囲を網羅しているので，下記学修計画に従い，最新版六法を丹念に引きつつ，読み進めていただきたい。

◆学修到達目標

・「会社法」の全体像を一とおり見渡すこと。
・「会社法」に関する法的問題につき，条文を引きつつ考えることができるようになること。

◆学修方法・留意点

・下記学修計画は，指定教材の目次立てに準拠しているので，学修計画に従い，読み進めていけば，おのずから会社法の全体を見渡すことができるはずである。
・必ず，最新版の六法を座右に置き，学習していただきたい。会社法については，令和元年に改正がなされている（指定教材は，改正内容を反映している）。

◆学修計画

1回目	1. 会社法の意義と会社法の目的（指定教材1頁～15頁） 2. 株式の意義，株式に関する諸制度（指定教材15頁～39頁）
2回目	1. 株式譲渡とその制限（指定教材頁39～51頁） 2. 新株の発行（指定教材頁52～65頁）
3回目	1. 新株予約権（指定教材66頁～71頁） 2. 新株発行・差止め・不存在（指定教材72頁～83頁）
4回目	1. 自己株式（指定教材頁84～91頁） 2. 株式に関する残された諸問題（指定教材92頁～101頁）
5回目	1. 社債（指定教材102頁～110頁） 2. 機関総論（指定教材頁111～116頁）
6回目	1. 株主総会（指定教材頁117～135頁） 2. 役員の選解任（指定教材136頁～144頁）
7回目	1. 取締役会（指定教材145頁～152頁） 2. 取締役の義務（指定教材153頁～167頁）
8回目	1. 報酬（指定教材168頁～178頁） 2. 監査機関・会計参与（指定教材頁179～192頁）
9回目	1. 取締役の対会社責任，株主代表訴訟等（指定教材頁193～202頁） 2. 取締役の対第三者責任（指定教材頁203～215頁）
10回目	1. 指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社（指定教材頁216～228頁） 2. 計算（指定教材頁229～240頁）
11回目	1. 株式会社の設立（指定教材241頁～255頁） 2. 株式会社の解散・清算・特別清算（指定教材頁256～264頁）
12回目	持分会社（指定教材頁265～280頁）
13回目	1. 組織変更・事業譲渡（指定教材281頁～289頁） 2. 合併（指定教材頁290～302頁）
14回目	1. 株式交換・株式移転・株式交付（指定教材頁303～312頁） 2. 会社分割（指定教材313頁～325頁）
15回目	1. キャッシュアウト（指定教材326頁～334頁） 2. 罰則（指定教材335頁～345頁）

◆参考文献

『会社法判例百選（第3版）〔別冊ジュリスト229号〕』岩原紳作他編著（有斐閣，平成28年）
『六法』　いくつか市販のものがあり，どのものでもよいが，必ず最新版を用いること。

科目コード	科　目　名	単位数
K30600	商法Ⅱ	4単位

教材コード　000379
教　材　名　『会社法』
著 者 名 等　神田　秀樹
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335315510

◆教材の概要

本教材は，「第1章　総論」，「第2章　会社法総則」，「第3章　株式会社」，「第4章　持分会社」，「第5章　社債」，「第6章　組織再編」，「第7章　国際会社法および外国会社」からなる。条文数が979条と大部な会社法の全体像をコンパクトに説明する。前半は，会社制度の全体像を示すとともに，株式会社に関する規律を詳しく説明する。後半は，株式会社の規律に加えて，持分会社や企業グループについても取り扱っている。

◆学修到達目標

会社法上の会社は，株式会社と持分会社にわかれる。それぞれに共通する法的な特徴は何か，特に株式会社の特質は何か，株式会社の規模や企業グループに関する規整はどのように定められているのかについて理解する。そして株式会社の設立，株式，機関，計算，社債，組織再編の規制について考察し，会社がどのような機能を果たしているのかを学修する。

◆学修方法・留意点

(1)テキストを十分に読み込む。その際，(2)必ず最新の六法で条文に当たりながら読む。それとともに(3)会社法上の重要な判例・学説はどのように理解すべきか，考えつつ読むことが必要である。必要であれば図書館等で判例の原典を探して読むことが望ましい。辞書で用語を調べることも必要になる。また，(4) 会社法は改正が頻繁にされるので，注意しながら読む。他の法律の改正に関連して会社法が改正されることもあるので，それにも注意が必要である。

◆学修計画

1回目	総論　事業と法形態，会社の概念，会社の類型と種類，会社法の法源と構造
2回目	会社法総則　通則，会社の商号，会社の使用人と代理商，事業の譲渡，登記
3回目	株式会社（1）総説，設立
4回目	株式会社（2）株式
5回目	株式会社（3）新株の発行，新株予約権
6回目	株式会社（4）機関（1）株主総会
7回目	株式会社（5）機関（2）取締役
8回目	株式会社（6）機関（3）監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社
9回目	株式会社（7）機関（4）監査役設置会社
10回目	株式会社（8）計算，定款の変更，解散・清算
11回目	持分会社
12回目	社債
13回目	組織再編（1）組織変更
14回目	組織再編（2）事業譲渡，合併，会社分割，株式交換・株式移転
15回目	国際会社法および外国会社

◆参考文献

『会社法（第4版）』伊藤靖史＝大杉謙一＝田中亘＝松井秀征（有斐閣，2018年）
『会社法（第2版）』田中亘（東京大学出版会，2018年）
『会社法講義30講』松嶋隆弘編著（中央経済社，2015年）

科目コード	科　目　名	単位数
K30700	商法Ⅲ	4単位

教材コード　000603

教　材　名　商事法教材－商法総則・商行為・支払決済法－

著 者 名 等　松嶋隆弘・大久保拓也編

出 版 社 名　中央経済社

◆教材の概要

指定教材は，講学上，商法総則・商行為法及び手形小切手法と呼ばれる分野に関するスタンダードな教科書である。商法における各分野のうち，これらの分野は抽象的な規定が少なくなく，実際の商取引においてどのような形で適用されているのか，わかりにくいと言われているが，指定教材は具体的な裁判例や事例を用いて平易に解説しているものである。学修計画に沿って通読することによって，全体像を網羅し得る内容になっている。

◆学修到達目標

商法総則・商行為法ではどのような規定があるのか，そして，どのような形で適用されているのかを知り，関連する法的問題に対して自ら考え答えを導くことができる。また，支払手段の一つである手形や小切手に関する法律関係の全体像を知り，そこで生じた法的問題について自分なりの見解を導き出すことができる。

◆学修方法・留意点

法律学修一般に言えることであるが，教材を読む際には，必ず六法を参照しながら学修すること。商法は平成30年に改正されたことから，最新版の六法を用いなければ教材を読むことができないことがあるので注意すること。

◆学修計画

1回目	1. 商法の意義―形式的意義の商法と実質的意義の商法とは何か？（指定教材3頁～9頁） 2. 商人概念と商行為概念―商人とはどのような存在か，商行為にはどのようなものがあるのか？（指定教材10頁～16頁）
2回目	1. 営業の意義―営業や事業とは何か，営業（事業）譲渡の要件と効果（指定教材17頁～26頁） 2. 商業登記制度―商業登記の意義とその効力（指定教材25頁～33頁）
3回目	1. 商号制度―商号制度の概要と名板貸し責任（指定教材34頁～42頁） 2. 商業帳簿制度―商業帳簿の意義と内容（指定教材43頁～51頁）
4回目	1. 商人の補助者①―商業使用人の種類と代理権の範囲（指定教材52頁～60頁） 2. 商人の補助者②―補助商（代理商・仲立人・問屋）をめぐる法律関係（指定教材61頁～71頁）
5回目	1. 商事売買―商行為法通則と商事売買の特則（指定教材73頁～82頁） 2. 商品の引渡し―荷渡指図書（指定教材83頁）
6回目	1. 代金の支払確保―商事債権の担保（指定教材84頁～92頁） 2. 代金支払いの決済―交互計算・債権管理（指定教材93頁～106頁）
7回目	1. 運送契約法通論―運送契約と運送人・荷送人・荷受人の権利義務（指定教材107頁～112頁） 2. 運送人の責任―運送人の損害賠償責任とその特則規定（指定教材113頁～124頁）
8回目	1. 運送証券―送り状・船荷証券（指定教材125頁～128頁） 2. 運送取扱営業―運送取扱営業の意義（指定教材129頁～132頁）
9回目	1. 倉庫営業―倉庫営業の意義，倉庫営業者の責任と権利（指定教材133頁～143頁） 2. 場屋営業―場屋営業の意義と責任（指定教材144頁～152頁）
10回目	1. 支払決済の意義と有価証券法総論（指定教材153頁～168頁） 2. 約束手形の仕組みと記載事項（指定教材169頁～182頁）
11回目	1. 約束手形の振出（指定教材183頁～197頁） 2. 手形上の権利移転（指定教材198頁～224頁）
12回目	1. 手形上の権利の請求とその効果（指定教材235頁） 2. 抗弁による対抗（指定教材235頁～255頁）
13回目	1. 手形上の支払確保の制度（指定教材256頁～266頁） 2. さまざまな手形の利用（指定教材267頁～278頁）
14回目	1. 手形の喪失（指定教材279頁～281頁） 2. 手形の時効（指定教材282頁～288頁）
15回目	1. 為替手形（指定教材289頁～292頁） 2. 小切手（指定教材293頁～299頁）

◆参考文献

『商法判例百選』神作裕之＝藤田友敬編（有斐閣，2019年）
『商法Ⅲ―手形・小切手法（第5版）』大塚龍児＝林竧＝福瀧博之（有斐閣，2018年）

科目コード	科　目　名	単位数
K30800	刑法Ⅱ	4単位

教材コード　000396
教　材　名　刑法Ⅱ
著 者 名 等　船山　泰範

◆教材の概要

刑法の中心は犯罪の成立要件である。そのうち，主に構成要件該当性にかかわるのが刑法各論である。一つひとつの構成要件には解釈論上，激論のあるものもあるが，それは，犯罪とそうでないものとの区別に役立つ。

本書は，「個人的法益に対する罪」に力点が置かれているが，「公務に関する犯罪」についても国民の視点から位置づけている。なお，刑法各論の焦点は事例による理解である。本書は，その点で「事例を学ぶ」ことに力点を置いている。

◆学修到達目標

現代社会に生起する諸問題に対し，刑法がどのように対応しているかを知ることにより，現代の刑事的規定について理解できるようになる。

◆学修方法・留意点

さまざまな犯罪現象に対して，刑法がどのような視点から犯罪類型として捉えているのかを考えたい。

その場合，何が法益かが大切である。本書は，刑法第２編の順序に捉われず「個人的法益に対する罪」から叙述されているので，法律用語も個人の視点から捉えることに注意したい。

ひととおり学修したら，指導書の〔付録〕〔主な犯罪・早わかり〕で確認するとよい。

◆学修計画

1回目	刑法総論との関係：犯罪成立要件の中で刑法各論はどのⅠにあるか
2回目	犯罪の分類：法益によって大きく３つに分けられる
3回目	生命・身体を害する罪：殺人罪を中心に
4回目	人身の自由を侵す罪：監禁罪・誘拐罪
5回目	精神的自由・生活の平穏を害する罪：名誉毀損罪を中心に
6回目	性犯罪：性の宣言が保護法益
7回目	財産犯罪：窃盗罪・強盗罪・詐欺罪
8回目	公共の平穏を害する罪：放火罪の刑罰が重い理由
9回目	国民の健康を害する罪：薬物犯罪は特別刑法にある
10回目	経済犯罪：現代型犯罪の一つ
11回目	偽造犯罪：通貨偽造罪・文書偽造罪
12回目	社会生活感情を侵す罪：道徳との違いを明らかに
13回目	公務員による罪：拷問は犯罪
14回目	公務を害する罪：公務執行妨害罪・犯人蔵匿罪
15回目	国家の存在を危うくする罪：内乱罪

◆参考文献

『刑法（全）（第４版）』（有斐閣双書）藤木英雄著，船山泰範補訂（有斐閣）
『刑法がわかった（改訂第６版）』船山泰範著（法学書院）
『裁判員のための刑法入門』船山泰範・平野節子著（ミネルヴァ書房）
『刑法の礎・各論』船山泰範著（法律文化社）
『刑法を学ぶための道案内』船山泰範著（法学書院）

科目コード	科　目　名	単位数
K30900	行政法Ⅰ	4単位

教材コード　000565
教　材　名　『行政法（第4版）』　※行政法Ⅱと同じ教材です。
著者名等　池村　正道
出版社名　弘文堂
ＩＳＢＮ　9784335002489

◆教材の概要

この教材は，大学における講義用の教科書として執筆されたものである。行政法の初学者にも理解しやすいように，基礎的事項について平易に解説をしている。標準的な内容になるよう判例・通説の立場に立った上で，最新の重要判例にも触れている。行政法の分野を全部で14の章に区分し，現代行政の実態に即した法理論のあり方を多角的に理解できるよう構成している。

◆学修到達目標

本講座は，行政法体系の概要，特にその制度と理論を把握し説明できるようになることを目標としている。行政法Ⅰでは，主に「法律による行政の原理」や行政組織・行政作用を中心に取り扱う。その過程で，行政と行政法に対する関心を深め，行政の仕組みを理解し説明できるようになることを行政法Ⅰの目標とする。

◆学修方法・留意点

指定教科書において説明されている事項を理解することを，まず優先してください。行政法には，憲法・民法典・刑法典といった一般的な法典がありません。そのため，行政法領域の様々な個別の法令に共通する基本事項や基本原理を理解することが重要になります。指定教科書で指摘する条文については，必ずご自身の六法と照らし合わせて内容や文言を確認しましょう。その際に，どのような法的効果が，どのような法的要件を充足した場合に発生するかに着目してください。それぞれの要件と効果が，理論的にどのような位置づけになるかを把握することによって，行政法の理解が深まります。その上で，ご自身で理解した諸々の事柄を，問い掛けに応じて適切な分量と内容で説明できるようにしましょう。基本的に指定教科書の前から順番に第10章まで，下記の学修計画に従って学修を進めてください。

使用する六法は小型のもので構いません。三省堂『デイリー六法』と有斐閣『ポケット六法』を推薦します。どちらかを購入して使用してください。行政法の分野では毎年のように法改正がありますので，必ず最新の六法を使用してください。

◆学修計画

1回目	行政と法。第1章の内容を理解すること。高等学校までに学修した社会科の内容を思い出しておくこと。
2回目	行政法の法源。第2章までの内容を理解すること。
3回目	行政活動の担い手。第3章までの内容を理解すること。行政主体や行政機関の各用語に注意すること。
4回目	法律による行政の原理。主に第4章の2までの内容を中心に理解を進めていくこと。
5回目	行政手続。主に第4章の3までの内容を中心に理解を進めていくこと。
6回目	行政情報管理と行政調査。第4章の末尾までを理解すること。
7回目	行政行為の種類と効力。主に第5章の3までの内容を中心に理解を進めていくこと。
8回目	行政裁量，行政行為の瑕疵，行政行為の職権取消しと撤回，附款。第5章の末尾までを理解すること。
9回目	行政立法・行政基準。第6章までの内容を理解すること。
10回目	行政計画。第7章までの内容を理解すること。
11回目	行政指導。第8章までの内容を理解すること。
12回目	行政計画。第9章までの内容を理解すること。
13回目	行政上の義務履行確保の類型と強制執行。主に第10章の6までの内容を中心に理解を進めていくこと。
14回目	行政罰と即時強制（即時執行）。第10章まで全ての内容を理解すること。
15回目	行政法Ⅰで学んだ事柄を総復習して，各事象を正確に説明できるようにしましょう。

◆参考文献

本講座の受講において必須ではありませんが，行政法の理解を深めるのに有益な文献を紹介します。それぞれ最新版が出た場合はそれに準拠してください。

(1)　判例百選（主要で著名な実例について，裁判所の判断と学術的な説明をまとめた解説書）
　①別冊ジュリスト235号（行政判例百選Ⅰ第7版）有斐閣2017年
　②別冊ジュリスト236号（行政判例百選Ⅱ第7版）有斐閣2017年

(2)　行政法について更に理解を進めていきたい場合は，下記の2冊の体系書を参考にしてください。
　①櫻井敬子・橋本博之『行政法（第6版）』（弘文堂，2019年）
　②稲葉馨ほか『行政法（第4版）』（有斐閣，2018年）

科目コード	科　目　名	単位数
K31000	行政法Ⅱ	4単位

教材コード　000565
教　材　名　『行政法（第4版）』　※行政法Ⅰと同じ教材です。
著 者 名 等　池村　正道
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002489

◆教材の概要

この教材は，大学における講義用の教科書として執筆されたものである。行政法の初学者にも理解しやすいように，基礎的事項について平易に解説をしている。標準的な内容になるよう判例・通説の立場に立った上で，最新の重要判例にも触れている。行政法の分野を全部で14の章に区分し，現代行政の実態に即した法理論のあり方を多角的に理解できるよう構成している。

◆学修到達目標

本講座は，行政法体系の概要，特にその制度と理論を把握し説明できるようになることを目標としている。行政法Ⅱでは，行政法Ⅰで扱った行政作用法・行政法総論の内容を踏まえて，行政救済法全般について理解を進めていく。様々な行政活動の実態を理論的に把握し，具体的な行政救済の仕組みを理解し説明できるようになることを行政法Ⅱの目標とする。

◆学修方法・留意点

指定教科書において説明されている事項を理解することを，まず優先してください。行政法には，憲法・民法典・刑法典といった一般的な法典がありません。そのため，行政法領域の様々な個別の法令に共通する基本事項や基本原理を理解することが重要になります。指定教科書で指摘する条文については，必ずご自身の六法と照らし合わせて内容や文言を確認しましょう。その際に，どのような法的効果が，どのような法的要件を充足した場合に発生するかに着目してください。それぞれの要件と効果が，理論的にどのような位置づけになるかを把握することによって，行政法の理解が深まります。その上で，ご自身で理解した諸々の事柄を，問い掛けに応じて適切な分量と内容で説明できるようにしましょう。指定教科書の第11章以降を順番に，下記の学修計画に従って学修を進めてください。必要に応じて，自主的に第10章までの内容も点検・確認してください。

使用する六法は小型のもので構いません。三省堂『デイリー六法』と有斐閣『ポケット六法』を推薦します。どちらかを購入して使用してください。行政法の分野では毎年のように法改正がありますので，必ず最新の六法を使用してください。

◆学修計画

1回目	行政救済の仕組み，行政不服申立ての概要。主に第11章の1から3.B.までの内容を理解すること。
2回目	不服申立事項，不服申立ての種類，審査請求の要件，教示制度。主に第11章3.F.までを理解すること。
3回目	行政不服審査の審理手続，タイムライン。第11章の3の末尾までの内容を理解すること。
4回目	行政審判と苦情処理制度・オンブズマン。第11章全体を理解して次回の行政訴訟へつないでいくこと。
5回目	行政事件訴訟の意義・根拠・体系，特徴・立ち位置，平成16年改正，基本構造。第12章4まで進める。
6回目	取消訴訟の訴訟要件の概要，処分性，原告適格，狭義の訴えの利益。第12章の5.D.まで進める。
7回目	被告適格，出訴期間，不服申立てとの関係，管轄，教示制度，審理。第12章の7まで進める。
8回目	執行停止制度，訴訟終了，無効等確認訴訟，不作為の違法確認訴訟，義務付け訴訟。10.D.まで進める。
9回目	差止訴訟，仮の救済，当事者訴訟，民衆訴訟，機関訴訟。第12章の末尾まで理解を進めること。
10回目	国家補償制度の概要，国家賠償法の沿革・意義。第13章の2までの内容を理解すること。
11回目	違法な公権力の行使に関する賠償。第13章の3までの内容を理解すること。
12回目	営造物の瑕疵に関する賠償。第13章の末尾までの内容を理解すること。
13回目	損失補償制度の意義，法的根拠，補償の要否。第14章の1.C.まで理解を進めていくこと。
14回目	損失補償の内容，補償の方法，国家補償の谷間。第14章の末尾まで理解を進めること。
15回目	行政法Ⅱで学んだ事柄を総復習して，各事象を正確に説明できるようにしましょう。

◆参考文献

本講座の受講において必須ではありませんが，行政法の理解を深めるのに有益な文献を紹介します。それぞれ最新版が出た場合はそれに準拠してください。

(1)　判例百選（主要で著名な実例について，裁判所の判断と学術的な説明をまとめた解説書）
　①別冊ジュリスト235号（行政判例百選Ⅰ第7版）有斐閣2017年
　②別冊ジュリスト236号（行政判例百選Ⅱ第7版）有斐閣2017年

(2)　行政法について更に理解を進めていきたい場合は，下記の2冊の体系書を参考にしてください。
　①櫻井敬子・橋本博之『行政法（第6版）』（弘文堂，2019年）
　②稲葉馨ほか『行政法（第4版）』（有斐閣，2018年）

科目コード	科　目　名	単位数
K31100	国際法	4単位

教材コード　000462
教　材　名　『国際法（第４版）』
著 者 名 等　渡部　茂己・河合　利修　編
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002472

◆教材の概要

本書は，初学者や法学部以外の学生も読むことを考慮して，国際法の基本事項をひと通りわかりやすく解説した教科書である。解説はなるべく簡潔にし，最新の情報を提供するように心がけている。また，重要な条約や国際機構の決議，国際判例をできる限り取り上げている。巻末には参考文献と詳細な索引が，各章末には練習問題が収録されており，それらは学修や理解度を確認するうえで役立つだろう。国際法を学ぶ学生諸君は，本書を熟読することにより，国際社会における国際法の機能を理解し，さまざまな国際問題を法的に理解する眼を養ってほしい。

◆学修到達目標

国際法の特徴を理解し，国際法が現代国際社会の秩序維持や組織化，紛争解決に果たしている機能を学ぶ。それにより，国家の行動を法的に評価する知識を身につけることを目的とする。

◆学修方法・留意点

国際法も法であるが，国内法とはかなり性質が異なる。それは，国際社会には，法を定立・適用・執行するための中央集権的機関が国家社会と同じような形では存在していないことに起因する。学生諸君は，まず国際法の特徴を理解することからはじめてほしい。教材で引用されている条約や判例は，国際条約集や国際判例集によって確認することが必要である。

◆学修計画

1回目	国際社会と国際法：近代国際法の成立，現代国際法への発展
2回目	国際法の主体：国家・国際機構・個人
3回目	国際法の法源：条約，国際慣習法，法の一般原則，判例・学説
4回目	国際法と国内法の関係：国際法の国内的適用，両者の優劣関係
5回目	国家承認・政府承認：国家の構成要素，国際法上の国家の成立手続，国家承継
6回目	国家の権利義務①：主権，主権平等，国家の裁判権免除，不干渉義務
7回目	国家の権利義務②：自衛権（個別的自衛権と集団的自衛権）
8回目	国家の領域：領域主権，領土・領海・領空の法的地位
9回目	国家領域の取得形式：原始取得と承継取得
10回目	日本の領土問題：北方領土，尖閣諸島，竹島
11回目	海洋法：内水，領海，排他的経済水域，大陸棚，深海底，紛争解決制度
12回目	外交関係法：外交使節と領事機関の構成員，任務，特権免除
13回目	国際人権法：発展過程，主要な人権条約，履行確保措置
14回目	国際機構：発展過程，構造，加盟国の権利義務，意思決定
15回目	紛争の平和的解決：政治的手続と裁判手続

◆参考文献

『国際条約集』岩沢雄司・植木俊哉・中谷和弘編集代表（有斐閣）
『判例国際法』（第３版）薬師寺公男・坂元茂樹・浅田正彦・酒井啓亘編集代表（東信堂）
『国際法判例百選』（第３版）森川幸一・兼原敦子・酒井啓亘・西村弓編（有斐閣）
『現代国際法講義』（第５版）杉原高嶺ほか著（有斐閣）
『講義国際法』（第２版）小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編（有斐閣）
『国際法学講義』（第２版）杉原高嶺（有斐閣）
『プラクティス国際法講義』（第３版）柳原正治・森川幸一・兼原敦子編（信山社）
『国際法』岩沢雄二著（東京大学出版会）

科目コード	科　目　名	単位数
K31200	国際私法	4単位

教材コード　000064
教　材　名　国際私法　（補遺別冊）
著 者 名 等　北脇　敏一

◆教材の概要

国際私法という学問を理解するために，その意義，必要性，定義，性質および適用範囲について言及し，その国内法としての法源である「法例」の解釈，適用，ならびに運用について説明するものである。特に，外国法との抵触の問題やその場合に適用される法の選択，指定の問題は，法律行為によって生じた問題の解決に欠かすことのできない概念である。本書は各論的問題にもふれているが，国際紛争解決のための裁判管轄権の問題は重要な意義をもつものである。

◆学修到達目標

国際契約，国際的不法行為，国際的な婚姻・離婚，国際的親子関係などの様な国境を超えて発生する私的紛争について，国際私法がそれをどの様に解決しようとしているかについて知り，説明できるようになることを目的とする。また，通則法上の各規定を知ることで，個々の私的紛争について適用される準拠法を得る方法を知り，基本的な説明することができるようになる。

◆学修方法・留意点

①　概念および定義の理解。　②　学説・判例の理解。　③　準拠法の決定過程の理解。
④　法の適用による解決過程の精査。

◆学修計画

1回目	国際私法の必要性と基礎的観念，及び法的性質と機能：国際私法がなぜ必要とされるのか，またどの様に理念に基づいて国際的な私的紛争の解決を図っているかについて学ぶ。
2回目	隣接法分野，沿革・法源：国際私法と深く関連する法分野と国際私法の歴史・法源を学ぶ。
3回目	法律関係の性質決定と連結点：準拠法の選択における最初の問題である法律関係の性質決定の問題と，準拠法を決定するために用いられる各種の「連結点」について学ぶ。
4回目	準拠法の指定と反致：地域的・人的に法が不統一法である国家の法の指定に関する問題，及び国際私法における独自の制度である反致について学ぶ。
5回目	外国法の適用と公序，先決問題と適用問題：準拠法として外国法が指定されることの意味を理解し，その外国法の内容が日本の公序に反する場合の問題，先決問題と適用問題と呼ばれる問題を学ぶ。
6回目	自然人と法人：自然人の権利能力，失踪宣告，後見等の開始審判の準拠法，法人の権利能力の準拠法，及び外国法人の権利義務について学ぶ。
7回目	法律行為と物権：法律行為の方式と代理行為の準拠法，更に物権の準拠法について学ぶ。
8回目	契約債権：契約の準拠法について学ぶ。
9回目	法定債権：不法行為を中心とする各種の法定債権の準拠法について学ぶ。
10回目	婚姻の成立と身分的効力：婚姻の実質的・形式的成立要件と身分的効果の準拠法について学ぶ。
11回目	婚姻の財産的効力と離婚：婚姻の財産的効果と離婚の準拠法，更に離婚の国際裁判管轄について学ぶ。
12回目	実親子関係と養子縁組：嫡出親子関係・嫡出でない子の親子関係の準拠法と養子縁組の準拠法について学ぶ。
13回目	親子間の法律関係，扶養義務，後見・保佐：親子間の法律関係，扶養義務，更に後見・保佐の準拠法について学ぶ。
14回目	相続と遺言：相続と遺言の準拠法，及び遺言の方式の準拠法について学ぶ。
15回目	国際民事訴訟法：国際裁判管轄，外国判決の承認執行，国際的訴訟競合及び国際送達について学ぶ

◆参考文献

『国際私法〔第8版〕』澤木敬郎・道垣内正人（有斐閣双書，2018年）
『国際私法〔第2版〕』中西康・北澤安紀・横溝大・林貴美（有斐閣，2018年）
『国際私法判例百選［第2版］』櫻田嘉章・道垣内正人編（有斐閣，2012年）

科目コード	科　目　名	単位数
K31300	労働法	4単位

教材コード　000566
教　材　名　『労働法（第2版）』
著者名等　新谷　眞人　編
出版社名　弘文堂
ＩＳＢＮ　9784335002373

◆教材の概要

現代社会において，労働法は，労働者，使用者の双方にとって必須の法律知識が求められている。労働法は，個別的労働法（労働基準法など）と集団的労働法（労働組合法など）に分けられるが，本書はその両分野を扱っており，労働法の全体像を学修することができる。また，2018年に成立した働き化改革に関連する法改正も反映されている。

◆学修到達目標

賃金，労働時間などの個別的労働条件はどのように決まるのか，またその最低限度の法規制は何かを説明できる。労使関係における労働組合の重要性を理解し，団体交渉などがどのように保護されているかを説明できる。

◆学修方法・留意点

① 特殊な法律用語を理解すること。
② 六法で直接条文を確認すること。
③ 労働問題に関する新聞報道などに注意すること。

◆学修計画

1回目	第1章　労働法の原理
2回目	第2章　労働基準法の理念と労働契約
3回目	第3章　就業規則と労働契約
4回目	第4章　配転・出向・転籍
5回目	第5章　賃金の保護
6回目	第6章　労働時間の規制
7回目	第7章　休憩・休日・年次有給休暇
8回目	第8章　労働災害の予防と災害補償
9回目	第9章　女性・非正規労働者と労働法
10回目	第10章　雇用の終了
11回目	第11章　団結権保障と労働組合法
12回目	第12章　不当労働行為制度
13回目	第13章　団体交渉と労働協約
14回目	第14章　争議行為
15回目	復習；働き方改革と労働法

◆参考文献

『労働判例百選・第9版』別冊ジュリスト（有斐閣）
『労働法の争点』ジュリスト増刊（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
K31400	知的財産権法	4単位

教材コード　000463
教　材　名　『標準　特許法』
著 者 名 等　高林　龍
出 版 社 名　有斐閣
I S B N　9784641243453

◆教材の概要

知的財産権法は特許法を初めとして，商標法・不正競争防止法・著作権法など広いカバー範囲を持つ法域分野である。したがって，本来的には知的財産権法全般を扱う教材が適切かも知れない。しかしながら，知的財産権法全般を扱う教材は，概略的な説明に終始するものが多く，深い理解を得るためには重要判例にも言及するこの教材が適切と考える。

◆学修到達目標

工業所有権各法の保護の対象，登録要件や権利の内容，権利化までの手続きを理解する。

◆学修方法・留意点

この教材はまず初めに大きな文字の本文部分のみを読み終え，さらに，次には細かを文字で記述される注釈等まで読み進めば特許法の適切な理解が得られるものと思料する。その上で，他の商標法，著作権法等の以下の参考文献を読み進めば知的財産権法全般についての理解が得られると考える。従って，以下のような学習計画に沿って学んでほしい。

尚，各法は，共通した規定も多ため，各法の基本となる特許法からレポート課題を出題し，科目習得試験も特許法から出題する。

◆学修計画

1回目	知的財産権法の概要を理解する
2回目	特許法の目的及び特許権成立までの概略を理解する
3回目	特許要件（発明，産業上の利用可能性）を理解する
4回目	特許要件（新規性，進歩性）を理解する
5回目	特許要件（新規性喪失の例外及び不特許事由・）を理解する
6回目	特許要件（先願主義と拡大された先願の地位＋発明の単一性）を理解する
7回目	出願公開制度と補償金請求権を理解する
8回目	特許権の効力と効力が及ばない範囲を理解する
9回目	職務発明制度を理解する
10回目	知的財産権条約（パリ条約・PCT）の制度概要を理解する。
11回目	知的財産権条約（TRIPS・EPC）の制度概要を理解する。
12回目	実用新案制度の概略を理解する
13回目	意匠法（概要，登録要件，特殊な意匠）を理解する
14回目	商標法（概要，登録制度，マドリッドプロトコル）を理解する
15回目	著作権法（概要，著作権，著作隣接権，二次的著作物）を理解する

◆参考文献

(1)『知的財産法入門第二版』茶園成樹（有斐閣）
(2)『ゼミナール意匠法（第2版)』峯唯夫（法学書院）
(3)『商標法（第2版)』茶園成樹（有斐閣）
(4)『パリ条約講話― TRIPS 協定の解説を含む（第13版)』後藤晴夫（発明協会）
(5)『著作権法（第2版)』中山信弘（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
K31500	税法	4単位

教材コード　000410
教　材　名　『税法学原論』　（学修のしおり別冊）
著 者 名 等　北野　弘久
出 版 社 名　勁草書房
I S B N　9784326403745

◆教材の概要

税法学の基礎理論を具体的諸問題を素材として解明する。これによって，各人が租税問題に法的にアプローチする手法を理解してほしい。税法学という学問はどういう学問か，またどうあるべきか，に力点をおいている。税法学の特質，方法にかなりのペースを充て，税法学の基本原理を具体的に展開している。

◆学修到達目標

我々が生活する上で切っても切り離せないのが税です。税法に関する具体的問題を考えながら，税法の基礎理論の修得を目指す。

◆学修方法・留意点

日本国憲法についての学修が大切，日本国憲法は租税国家（財政収入のほとんどを租税に依存する体制）を前提。その使途面を含む租税のあり方はすべての憲法の理念に適合するものでなければならない。その意味でも憲法典を参照にしながら学修を深めてください。

◆学修計画

1回目	税法学の特質と課題，租税の法的概念
2回目	税法の体系，納税者基本権
3回目	租税法律主義の原則，実質課税の原則
4回目	応能負担原則，税法と信義誠実の原則
5回目	租税の立法過程，租税の法源と通達行政
6回目	税務行政機構，税法の解釈と適用
7回目	租税法律関係の性質
8回目	納税義務の成立，納税義務の確定
9回目	連帯納税義務制度，第二次納税義務制度
10回目	税務行政処分の瑕疵論
11回目	物納・延納・納期限の延長等の法的性質
12回目	源泉徴収制度，地方財政権，税務調査権
13回目	「適正手続」と租税手続，税務職員の守秘義務
14回目	税理士制度
15回目	税務争訟制度，税務制裁制度

◆参考文献

『日本税制の総点検』北野弘久・谷山活雄編（勁草書房）
『納税者の権利』（岩波新書）北野弘久著（岩波書店）
※『納税者基本権利の展開・現代法学者著作選集』北野弘久著（三省堂）
『現代税法の構造』北野弘久著（勁草書房）
※『サラリーマン税金訴訟』北野弘久著（税務経理協会）
『税理士制度の研究・増補版』北野弘久著（税務経理協会）
『5％消費税のここが問題だ』北野弘久著（岩波ブックレット）
『質問検査権の法理』北野弘久著（成文堂）など

科目コード	科　目　名	単位数
K31600	民事訴訟法	4単位

教材コード　000494
教　材　名　民事訴訟法
著 者 名 等　松本　幸一

◆教材の概要

民事訴訟法は，私人間の紛争解決手段である民事訴訟を規律する法律である。本教材は，民事訴訟法の基礎的知識を提供することを目的として作成されたものである。それとともに，最新の学説・判例をフォローすることもでき，知識の確認のための問題も付されている。

◆学修到達目標

民事訴訟法の流れを理解するとともに，基礎的な概念，および条文の意味を把握する。また，同法における重要な諸論点を理解し，それらに関する判例を読み，関連する学説を理解して，論点に対する自己の意見を表現することができるようにする。

◆学修方法・留意点

必ず六法は座右に置き，条文がでてきたら，必ず六法で条文を確認する。民法，商法の条文や概念が登場することがあるので，できるかぎり民法，商法等の私法全体とともに学習する。

◆学修計画

1回目	民事紛争の解決と民事訴訟
2回目	裁判所
3回目	当事者
4回目	訴え・訴えの提起の効果
5回目	訴えの適法性・訴えの利益
6回目	当事者適格
7回目	審理の進行
8回目	裁判資料の収集
9回目	口頭弁論
10回目	証拠調べと事実認定
11回目	訴訟の終了
12回目	複数請求訴訟
13回目	多数当事者訴訟
14回目	上訴・再審
15回目	略式訴訟手続

◆参考文献

『民事訴訟法判例百選 第5版（別冊ジュリスト 226)』高橋宏志・高田裕成編（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
K31700	刑事訴訟法	4単位

教材コード　000409

教　材　名　刑事訴訟法

著 者 名 等　板倉　宏・南部　篤・設楽　裕之・船山　泰範・関　正晴・尾田　清貴・沼野　輝彦

◆教材の概要

本教材は，これから刑事訴訟法を学ぶ者のために，刑事手続の全体像と刑事訴訟を構成する各制度の理解を促す目的で執筆された概説書である。そのため，初学者がまずもって勉強する捜査から第一審公判が終了するまでの手続と証拠法の解説に重点を置きつつ，わかりやすい専門用語と重要判例を平易な文章で説明に努めている。このことによって，本教材は，学生が刑事訴訟法に対する理解を深め本格的な体系書による学習の前提となることを目指している。

◆学修到達目標

刑事訴訟の基本構造と手続の流れを習得して，刑事裁判を進める手続の内容を理解することを目的とする。特に，捜査手続と公判手続の具体的な問題点について基本判例の検討を通して，両者の手続の具体的な内容を理解し説明できることを目標とする。

◆学修方法・留意点

本教材を事前に読んで，刑事訴訟法の制度と基礎知識について予習しておくことを勧める。本教材で取り扱ったテーマ等について，さらに詳しく学ぶためには，他の教材によって補充することが必要なので，判例集，演習書等の参考書によって本教材を補いつつ学修することを勧めます。

◆学修計画

1回目	刑事訴訟法の特色と刑事訴訟手続の概要（特に捜査手続と公判手続の概要）
2回目	訴訟主体（裁判所，検察官，司法警察職員，被疑者・被告人，弁護人等の法的地位）
3回目	任意捜査・強制捜査とこれらに対する規制する原理
4回目	逮捕の種類とそれぞれの異同（通常逮捕，現行犯逮捕，緊急逮捕）及び勾留制度
5回目	逮捕・勾留をめぐる諸問題（二重逮捕の許否・勾留，再逮捕・勾留の許否，別件逮捕・勾留の許否）
6回目	令状による捜索・差押，逮捕に伴う無令状の捜索・差押，化学捜査（写真撮影，通信傍受）
7回目	被疑者の取調べ，被疑者の黙秘権と弁護人依頼権，被疑者等と弁護人との接見交通権
8回目	起訴独占主義と起訴便宜主義，公訴権の運用を規制する制度（検察審査会，付審判請求と準起訴手続，公訴権乱用論）
9回目	訴因制度，訴因の明示・特定の要請，訴因変更の要否，訴因変更の許否（公訴事実の同一性，時機的限界，訴因変更命令
10回目	証拠法総論（証拠）裁判主義，自由心象主義，挙証責任）
11回目	自白法則と補強法則
12回目	伝聞法則と同法則の適用外，伝聞法則の例外（刑事訴訟法321条以下の例外とそれらに関する裁判例）
13回目	違法収集証拠の排除法則の根拠と適用要件，毒樹の果実の理論
14回目	裁判の効力，上訴制度（控訴，上告，抗告）
15回目	再審と非常上告

◆参考文献

『刑事訴訟法（第6版）』池田修・前田雅英著（東京大学出版会）
『別冊ジュリスト　刑事訴訟法判例百選（第10版）』

科目コード	科　目　名	単位数
K31900	日本法制史	4単位

教材コード　000049
教　材　名　日本法制史Ⅰ
著 者 名 等　佐藤　邦憲・斎川　真

◆教材の概要

本書では，国家成立以後の法・法制度を国家と結びつけて理解できるよう，8世紀以降―律令法成立から，江戸幕府―天保改革と法までを中心に記述した。本書は，この時期の国家を，基本的に農業経済に依拠した農業国家段階に位置づけ，それを典型的にあらわすのが，土地制度―班田制・荘園公領制・守護領国制・戦国大名領国制・幕藩制と考え，主にこれに対応する法・法制度―律令法・荘園法・武家法・戦国家法・幕藩法を理解，学修できるよう論述した。

◆学修到達目標

古代から近世までの法的事象を現代的視点から振り返り，これを説明・解釈し再構成できるようになることを目的とする。またその過程において，法律学だけでなく歴史学，政治学，経済学など隣接する学問分野との関係性を理解できるようになる。

◆学修方法・留意点

① 本書をよく読む。特に，本文内容と提示の史料に注意し，その流れ・構図などを大きく俯瞰して，その単元における法・法制度の在り方・変遷などの特徴を丁寧にまとめる。
② 以下の「参考文献」などを利用する。

◆学修計画

1回目	古代の法　天津罪・国津罪の内容と刑罰の内容は，どのようなものであったか。
2回目	冠位十二階と憲法十七条　推古朝の国家体制や法はどのようなものであったか。
3回目	律令の編纂　律令の編纂の過程は，どのように進められたか。
4回目	律令期の国家体制　律令体制下の天皇・中央官制・地方官制は，どのようなものであったか。
5回目	律令における犯罪と刑罰　律における犯罪と刑罰・裁判制度の特徴はどのようなものであったか。
6回目	律令国家の財政　律令国家の税制・戸籍制度・班田制の内容は，どのようなものであったか。
7回目	荘園制　荘園制の発生から発展の過程・荘園整理令の内容は，どのようなものであったか。
8回目	鎌倉幕府の成立　武家政権の成立過程や鎌倉幕府の中央・地方の統治機構は，どのようなものであったか。
9回目	御成敗式目の制定　鎌倉時代の三つの法系の内容，特に御成敗式目の内容と特徴は，どのようなものであったか。
10回目	鎌倉時代の裁判制度　鎌倉時代の裁判制度および犯罪と刑罰の特徴は，どのようなものであったか。
11回目	室町幕府の成立と建武式目　室町幕府の統治機構や裁判制度は，どのようなものであったか。
12回目	分国法　代表的な戦国家法とそれらの特徴は，どのようなものであったか。
13回目	織豊政権の法　織豊政権下の経済政策・身分秩序政策は，どのようなものであったか。
14回目	江戸幕府の成立　江戸幕府の統治機構，特に幕府と天皇の関係・各大名の統制は，どのように行われていたか。
15回目	江戸幕府の法と裁判制度　幕府法の内容や裁判制度･犯罪と刑罰の特徴は，どのようなものであったか。

◆参考文献

『日本法制史概説』石井良助著（創文社，1960年）
『日本法制史』浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文雄編（青林書院，2010年）
『概説　日本法制史』出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著（弘文堂，2018年）
『日本法史から何が見えるか』高谷知佳・小石川裕介編（有斐閣，2018年）
その他，「日本史」「日本歴史」の教科書・概説書・通史・全書・叢書・図説など。

科目コード	科　目　名	単位数
K32200	日本史概論	4単位
Q30200	日本史概説	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000382
教　材　名　『概論　日本歴史』
著 者 名 等　佐々木　潤之介
出 版 社 名　吉川弘文館
I S B N　9784642077101

◆教材の概要

日本史の概要について，古代（含原始）・中世・近世・近代・現代〔1998（平成 10）年の小淵恵三内閣の成立まで〕に分けて述べています。1970 年代以降，日本史の各分野で研究がすすめられた成果を踏まえて書かれたコンパクトな概説書となっています。日本史を学ぶ機会がなく大学へ進んだ学生が，史学（日本史）を専攻する，あるいは歴史的分野の教員免許状を取得者にとっても基本的な知識を得るために必要な内容が盛り込まれています。

◆学修到達目標

日本史の全体像を知るために，基本的な歴史の流れと基本的歴史事実の内容が理解できるようになることを目標とします。その目標を達成するため，①旧石器から 1990 年代までのそれぞれの時代概要を説明できる，②歴史事実が生み出される原因とその影響を考えることができる，③歴史事実の時代的意義を史料の使い方や解釈の仕方を身につける，④未知の用語や学説に対して積極的に調べる姿勢を身につけること，をめざします。

◆学修方法・留意点

印刷教材で学修を進める時，各章を独立して勉強するだけでは学修効果が出ません。概説の学修は，まず細かい事実を追求することより，全体の流れを把握することが大切です。その上で，個々の歴史事象がどのような時代に起こったのか，そのできごとの意義は何かを考えます。概説は古代から現代まですべての時代を扱う科目ですので，一つ一つのできごとの詳細にこだわりすぎると，その時代のなかでの位置付けや，日本史全体での位置付けを見落としてしまいます。今後，自身の研究テーマを決める指針やヒントを得たり，社会科・地歴科の「歴史的分野」の基礎知識を得るようこころがけてください。

◆学修計画

1 回目	古代の成立	原始の列島の様相	倭王権から古代国家へ
2 回目	律令国家	律令国家の形成と展開	古代の社会と文化
3 回目	摂関政治	摂関政治の展開	地方支配と武士・荘園
4 回目	中世社会	院政の成立と平氏政権の展開	鎌倉時代の政治と社会
5 回目	内乱と一揆	南北朝内乱と室町政治	対外関係と戦国時代
6 回目	中世文化	中世前期の文化	中世後期の文化
7 回目	幕藩体制の成立	統一政権の成立	幕藩体制の元禄・享保期の政治・社会
8 回目	幕藩体制の動揺	幕藩体制の動揺と危機	内憂外患と開国・倒幕
9 回目	都市と民衆文化	近世前期・中期元禄文化	近世後期化政文化と洋学
10 回目	近代国家の成立	明治政府の成立と民権運動	政党の誕生と帝国憲法・議会
11 回目	政党政治と社会運動	日清戦争後の政治・社会	大正デモクラシーと普選・治安維持法
12 回目	アジア・太平洋戦争	恐慌の時代と積極外交への転換	軍部の台頭とアジア・太平洋戦争
13 回目	戦後改革	敗戦と戦後改革	経済再建と戦後政党政治
14 回目	戦後復興	高度経済成長と朝鮮戦争	通貨危機とオイルショック
15 回目	現代の日本	経済大国への歩み	五五年体制の崩壊と国民生活

◆参考文献

『岩波講座日本歴史』『岩波講座日本通史』（岩波書店）
※日本歴史は 1960 年代・1970 年代・2010 年代，日本通史は 1990 年代です。図書館で閲覧のこと
そのほか教材に記された参考文献を参照のこと

科目コード	科　目　名	単位数
K32300	東洋史概論	4単位
Q30300	東洋史概説	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000523
教　材　名　『中国の歴史』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　岸本　美緒
出 版 社 名　筑摩書房（ちくま学芸文庫）
I S B N　9784480096913

◆教材の概要

中国文明の成立から辛亥革命による中華民国の誕生，さらに中華人民共和国の建国をへて改革開放政策にいたるまでの中国の歴史をあつかう。中国文明の多元性，20 世紀初頭までの歴代王朝の変遷，周辺諸国や諸地域との争いや文化交流，これらとともに中国社会の特質にもふれてダイナミックな中国史の流れを概観する。

◆学修到達目標

中国の古代から現代までの歴史を理解し，どのような展開があって現在に至ったのかを学ぶ。これらをふまえて中国史の概述について説明できることを目標とする。

◆学修方法・留意点

基本的な歴史事実をしっかりおさえ，概念や歴史用語，中国社会に関する事項を正確に把握したい。テキストのより深い理解には，多くの参考文献にあたることが不可欠である。是非ともみずから学習して理解の深まりを実感し，大学での学びの醍醐味を味あっていただきたい。

◆学修計画

1 回目	「中国」とは何か　多様性「天下」の概念
2 回目	中国初期王朝の形成　殷王朝と周王朝
3 回目	春秋・戦国から秦の統一へ　春秋戦国の動乱　春秋戦国の社会変容　秦の全国統一　皇帝政治
4 回目	漢帝国と周辺地域　前漢・新・後漢　漢王朝と匈奴
5 回目	分裂と融合の時代　三国の鼎立　五胡十六国　東晋の成立　北魏の華北統一　南北朝時代
6 回目	隋唐帝国の形成　律令国家　国際的な文化の展開
7 回目	宋と北方諸民族　宋王朝　遼・西夏・金
8 回目	元から明へ　モンゴル帝国と元王朝　明王朝の成立と発展
9 回目	清朝の平和　清の成立と「中国支配」
10 回目	清末の動乱と社会変容　アヘン戦争・アロー戦争　太平天国　朝貢国の喪失
11 回目	中国ナショナリズムの形成　列強による侵略と抵抗
12 回目	五・四運動と中国社会　五・四運動　中国共産党の誕生　国共合作　北伐と「国民党による統一」
13 回目	抗日戦争と中国革命　国共内戦と「長征」日本の侵略と抗日民族統一戦線
14 回目	社会主義建設の時代　ソ連型社会主義建設　毛沢東型社会主義
15 回目	現代中国の直面する諸問題　改革開放への転換

◆参考文献

参考文献については，テキスト・「教材要綱」で紹介された文献のほかに，以下のものがあります。
『概説　中国史　上・下』冨谷至・森田憲司編（昭和堂）
『中国の歴史 1 ～ 12』（講談社）
『シリーズ中国近現代史 1 ～ 6』（岩波書店）

科目コード	科　目　名	単位数
K32400	西洋史概論	4単位
Q30400	西洋史概説	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000147

教　材　名　西洋史概説／西洋史概論

著 者 名 等　坂口　明・赤澤　計真・長沼　宗昭・中村　英勝・林　義勝・松浦　義弘・岸田　達也

◆教材の概要

この教材は，古代ギリシアから東西冷戦末期までの広い範囲を扱っている。概説であるため，個々の問題をそれほど深く掘り下げて論じてはいない。むしろ歴史の流れに記述の重点が置かれている。

◆学修到達目標

西洋の歴史を概観することで「ヨーロッパ」という社会の成り立ちと，何故ヨーロッパが現代に至るまでひとつの社会の単位として存続しているのかを学修することで，現在のヨーロッパに関わる諸問題への理解が深まる。

◆学修方法・留意点

個々の事件にせよ，歴史的な概念にせよ，その背景となる歴史の流れを考えて理解してほしい。

◆学修計画

1 回目	西洋史という学問の概要（教科書 1 ～ 5 頁）　西洋史とは何か，その範囲と時代区分
2 回目	古代地中海世界（教科書 7 ～ 48 頁）　ギリシアのポリス社会，アレクサンドロスとヘレニズム世界，古代ローマ文明
3 回目	中世ヨーロッパ世界の成立と展開（教科書 49 ～ 94 頁）　東西ヨーロッパ世界の展開，ヨーロッパ封建社会，カトリック教会と十字軍，中世都市
4 回目	中世後期のヨーロッパ（教科書 95 ～ 122 頁）　教会勢力の衰退，封建制度の解体，中央集権国家の成長
5 回目	近世初期のヨーロッパ（教科書 123 ～ 142 頁）　ルネサンス時代，宗教改革
6 回目	大航海時代のヨーロッパ（教科書 143 ～ 159 頁）　大航海時代，商業国家の盛衰
7 回目	絶対主義の時代（教科書 160 ～ 188 頁）　英仏絶対王政の発展，イギリス議会政治の発達，中･東ヨーロッパ社会
8 回目	ブルジョワ革命の時代（教科書 189 ～ 209 頁）　アメリカ独立革命，フランス革命
9 回目	ナポレオン時代（教科書 210 ～ 230 頁）　ナポレオン帝国，ウィーン体制，産業革命
10 回目	19 世紀のヨーロッパ（教科書 231 ～ 252 頁）　1848 年革命，イタリアとドイツの統一
11 回目	ヨーロッパ周辺領域のナショナリズム（教科書 253 ～ 266 頁）　アメリカ南北戦争，東欧の動向
12 回目	世界大戦の時代 1（教科書 267 ～ 283 頁）　帝国主義，第一次世界大戦
13 回目	世界大戦の時代 2（教科書 284 ～ 312 頁）　ヴェルサイユ体制，第二次世界大戦
14 回目	戦後の東西対立の時代（教科書 313 ～ 333 頁）　東西冷戦，第三世界
15 回目	現代の世界（教科書 334 ～ 348 頁）　近年の世界情勢と日本，現代文明と価値の転換

◆参考文献

教材の各章末に付されている参考文献。

科目コード	科　目　名	単位数
L20100	政治学原論	4単位

教材コード　000353
教　材　名　政治学原論
著 者 名 等　藤原　孝・杉本　稔

◆教材の概要

本テキストは政治学原論のテキストであり，政治学一般の知識があることを前提として執筆されている。

その前半部（第１編）は政治学の中心的課題を扱い，「政治学とはいかなる学問であるか」という問に答えることを目的としている。一方，後半部（第２編）は議院内閣制をキーワードとして，現実の政治現象を政治理論を通して分析することを目的としている。

読者はこの第１編と第２編の目的の相違を十分に認識した上で，学修に取り組んでほしい。

◆学修到達目標

政治概念の歴史変容をたどることで，政治とはどのような現象なのかを包括的に理解すること。

◆学修方法・留意点

政治学の学修にはさまざまな資質が要求されるが，とりわけ思想と歴史の知識は不可欠である。テキストを読んで十分に理解できない部分があれば，その都度，各章末に紹介されている参考文献などにより，確かな知識を身につけておくべきである。

◆学修計画

1回目	これまでの政治研究・政治学研究の新しい革命とその成果
2回目	脱行動論革命以後の政治学・政治のダイナミズムと社会変容
3回目	大衆社会の形成
4回目	構造力としてのイデオロギー・デモクラシーと政治社会
5回目	政治権力
6回目	現代国家論
7回目	議院内閣制
8回目	イギリス型議院内閣制の特質
9回目	日本の議院内閣制
10回目	政党と政党システム
11回目	イギリスの政党政治
12回目	日本の政党政治
13回目	選挙制度の類似学
14回目	イギリスの選挙政治
15回目	日本の選挙政治

◆参考文献

個々の文献はテキストの各章末にある参考文献の項を参照して欲しい。ここではこのテキストと同じ業者の『現代政治へのアプローチ（増補版）』藤原・杉本編著（北樹出版）のみを紹介しておく。

科目コード	科　目　名	単位数
L20200	経済学原論	4単位
R20100	経済原論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000604
教　材　名　『ミクロ・マクロ経済理論入門』
著 者 名 等　藤本訓利・陸　亦群・前野高章
出 版 社 名　文眞堂
I S B N　9784830951046

◆教材の概要

本教材は経済学という学問を通じて現代経済社会を分析・学修するために必要な基礎的概念を包括的に学修することを目的としたものであり，経済学の基礎であるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を一冊でまとめたものとなっている。本教材では経済学とはどのような学問であるのか，需要と供給の基礎理論とはどのようなものであるかということを整理し，前半部分（第Ⅰ部）はミクロ経済学についてまとめられており，家計の行動，企業の行動，市場の効率性についての学修に加え，独占や寡占などの不完全競争市場や外部性と公共財の問題，ゲームの理論，情報とリスクの経済学についても包括的にまとめられている。後半部分（第Ⅱ部）はマクロ経済学についてまとめられており，マクロ経済学とはどのような学問であるのか，国民所得の諸概念，均衡国民所得の決定メカニズムと乗数効果，投資の諸概念，そして，貨幣の機能及び貨幣の需要と供給の関係, IS-LM 分析から財市場と貨幣市場の均衡及び経済政策の効果について整理されており，最後に開放経済のもとでのマクロモデルや長期マクロ経済モデルなどについて包括的にまとめられている。

◆学修到達目標

ミクロ経済理論の学修を通じて，家計，企業，政府といった経済主体の行動をミクロ的な視点で捉え，またマクロ経済理論の学修を通じてマクロ経済の分析手法を修得し，いわゆる「経済を見る目」を養い，今日の経済の動きや経済政策について自分なりの考えを述べることができるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

本教材は，ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論のエッセンスが解説されているので，①専門用語を確実に理解すること，②項目ごとに要約をすること，③論旨を箇条書きに組み立てること，④結論は何かを明確に述べること。この 4 点に注意し，精読して欲しい。

◆学修計画

1 回目	需要と供給の理論，市場経済の特徴，マクロ経済学とミクロ経済学の特徴
2 回目	家計の消費行動－効用最大化と最適消費について－
3 回目	生産要素市場と所得分配－労働市場について－
4 回目	企業の生産行動－利潤最大化と最適生産について－
5 回目	完全競争市場の均衡－市場の効率性と経済余剰について－
6 回目	不完全競争市場－独占市場，寡占市場，独占的競争市場について－
7 回目	外部性と公共財－政府の役割について－
8 回目	ゲームの理論，情報とリスクの経済学－ゲーム論の基本的考え方，不確実性について－
9 回目	国民所得の諸概念と物価－国民所得の諸概念，マクロ経済循環，三面等価の原則について－
10 回目	均衡国民所得と乗数－均衡国民所得のメカニズムについて－
11 回目	投資の諸概念－投資量の決定について－
12 回目	貨幣の機能－貨幣の需要と供給の関係について－
13 回目	IS-LM 分析－経済政策の効果について－
14 回目	開放経済体系のマクロモデル－為替相場と経済政策について－
15 回目	長期マクロ経済モデルと物価の理論－長期モデル，インフレーションとデフレーションについて－

◆参考文献

『入門ミクロ経済学　第 3 版』井堀利宏（新世社，2019 年）
『入門マクロ経済学　第 6 版』中谷巌（日本評論社，2021 年）

科目コード	科　目　名	単位数
L30100	行政学	4単位

教材コード　000084
教　材　名　行政学
著 者 名 等　本田　弘

◆教材の概要

行政国家化は権力分立制の中で行政の機能や役割を拡大してきた。そうした行政の実態を総合的に考察することが行政学の主たる目的である。それゆえ本書では，「第1章行政と行政学」「第2章現代国家と合成」「第3章地方行政と自治制度」「第4章行政組織の機能と構造」「第5章　官僚制と公務員制度」「第6章公務員の研修」「第7章行政管理の動向」「第8章意思決定と稟議制度」「第9章計画行政の展開」「第10章行政情報の公開」「第11章行政相談と行政監察」「第12章オンブズマン制度」の流れで行政の概要を順序だてて説明している。

◆学修到達目標

行政国家への対応を目的として，行財政改革が継続されてきている。その歴史をそれぞれの項目を通して分析していき，時代の要請と行財政改革の方向性や現状を分析し，今後の時代に求められている行財政改革のあるべき方向性や具体的な内容について自分自身の考えを確立する。

◆学修方法・留意点

行政サービスのあるべき方向性や内容は，法律と予算によって示されることになる。それらはマスメディア等を通じて逐次報道され，それに対する様々な見解も提示されている。それゆえ教科書を通じてこれまでの歴史を分析し理解するとともに，現状についての理解も必要となる。それゆえ五大新聞のいずれかは毎日目を通し，現状についても理解することを心掛けてほしい。

◆学修計画

1回目	行政とはどのようなものかを，法律学（三権分立論）と政治学・行政学（五権分立論）から理解する
2回目	官房学・警察学・シュタイン行政学・アメリカ行政学の歴史を中心に行政学を理解する
3回目	立法国家（夜警国家・消極国家）から行政国家（福祉国家・積極国家）への転換と行政の変質を理解する
4回目	国家と地方の相違と関連性を分析し，地方行政改革の目的と方向性を理解する
5回目	行政組織の特色を，スタッフ・ライン・ヒエラルヒーを軸に分析し理解する
6回目	官僚制優位論と官僚制の逆機能論を対比し，行政組織の特徴と問題点更に改革の方向性を理解する
7回目	公務員制度の誕生と変質を，スポイルズシステム・メリットシステム等を対比し理解する
8回目	公務員研修の目的や実態について，NPMの視点も加えて分析し理解する
9回目	行政管理の動向を ,POSDCoRBやリーダーシップを例に分析し理解する
10回目	意思決定の合理モデル・満足モデル・インクリメンタリズムを比較し日本の稟議制も含めて理解する
11回目	行政にとって計画行政が必要な理由と，その見直しの必要性を，行財政改革の視点から理解する
12回目	民主的行政の推進・民衆統制等にとってどのような形での情報公開が必要なのかを理解する
13回目	行政への要望や問題提等の手段としての行政相談や行政監察のあり方や実態を理解する
14回目	オンブズマン歳暮の特色と日本における導入の特色や今後の方向性を理解する
15回目	これまで学んできた内容の整理をし，今後の行財政改革の目的や方向性を理解する

◆参考文献

『行政学の基礎』風間規男他著（一藝社）
『行政学』西尾勝著（有斐閣）
『行政学講義』金井利之著（ちくま新書）

科目コード	科　目　名	単位数
L30200	国際政治学	4単位
R32700	国際政治論	4単位
S33200	国際政治学概論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000501
教　材　名　『国際関係論』（第3版）
著 者 名 等　佐渡友　哲・信夫　隆司・柑本　英雄
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002335

◆教材の概要
この教材は，国際社会で起きている事象を，国際政治学をはじめとする社会科学の方法論を使って，どのように理解していくのかを提供する。特に，国家間関係だけでなく，非国家アクターについても視野を広げ，国境を越えるグローバルな問題群の理解へも接近を試みている。

◆学修到達目標
国際関係論の理論を国際社会のさまざまな現実に照らして，今，起こっている問題をどう考えればよいのかの方法論を得られる。国際政治におけるパワーの概念や平和構築概念を使って，グローバル化がもたらす貧困の問題，歴史的な宗教的対立など，「格差」と「相違」の問題を論理的に把握できるようになる。

◆学修方法・留意点
タブレット端末や PC などを使い，ニュースまとめサイトや Web の新聞記事にも着目し，今の世界の動きを追ってほしい。また，各章の参考文献リストも挙げてあるので，関連する参考文献にも目を通すと理解が進むであろう。また，教材各章の章末にある「知識を確認しよう」は，ぜひ，毎回，その章をレビューするのに役立ててほしい。

◆学修計画

1回目	国際関係論はどのような学問なのか 国際関係論の学び方を知り，国際関係論の研究領域とその特徴を把握する。
2回目	20世紀の国際関係をどう理解するのか 第一次世界大戦，第二次世界大戦，冷戦，ポスト冷戦の意味を考える。
3回目	今日の国際関係をどう読むのか ポスト「9.11」時代からオバマ政権成立後のアメリカ外交から自国第一の時代を考察する。
4回目	グローバリゼーションの時代をどう読むのか グローバリゼーションの光と陰を検証し，グローバリゼーションを論理的に理解する。
5回目	現代の安全保障をどう読むのか 集団安全保障などの概念を使いながら，伝統的安全保障と非伝統的安全保障について考える。
6回目	北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか 朝鮮半島の政治，日中韓関係の外交関係の現状と問題を把握する。
7回目	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか 日本の安全保障，領土問題，経済外交など，国際社会における日本の貢献を検討する。
8回目	国際関係理論とは何か リアリズム，ネオリベラリズム，コントラクティビズムなどの国際関係における理論を理解する。
9回目	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論 国際レジームやグローバル・ガバナンスは平和を実現するのかを検証する。
10回目	リージョナリズムと欧州統合 ヨーロッパにおけるリ―ジョナリズム，欧州統合の歴史，諸問題を理解し，EU の現状を考える。
11回目	南北問題をどう解決するのか 途上国支援のあり方を貿易構造の問題から考え，MDGs や SDGs などの取り組みについて考察する。
12回目	地球環境問題をどう解決するのか 地球環境問題の現状を知り，解決のための国際的枠組み，地球環境ガバナンスについて概観する。
13回目	非国家アクターの台頭をどう見るのか 地球公共空間における国家アクターと非国家アクターの役割とその変化について検証する。
14回目	市民社会は世界を動かすことができるのか 現代の国際社会における市民社会の役割を理解し，市民社会の可能性と限界を探る。
15回目	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか 人間の安全保障から平和構築の方法論を検討する。

◆参考文献
『国際政治経済辞典（改訂版）』川田侃・大畠英樹（東京書籍，2003年）

科目コード	科　目　名	単位数
L30300	政治思想史	4単位

教材コード　000082
教　材　名　政治思想史
著 者 名 等　藤原　孝

◆教材の概要

本教材は,「序　思想史研究の方法と課題」「第１章　近代の夜明け」「第２章　自由主義の思想的源流」「第３章　自由主義思想の諸潮流」「第４章　フランス革命を契機とする２つの思想的潮流」「第５章　社会主義思想の諸潮流」「第６章　現代の政治思想」および各章ごとの「学習の手引き」によって構成されている。

内容的には，前半でホッブズやロック，ルソーによる社会契約説を取り扱い，後半では保守主義や社会主義といった市民革命後（リベラル・デモクラシー成立後）の政治思想について取り上げている。

◆学修到達目標

近現代の政治思想・政治哲学の学習・研究を通して，西洋の政治思想が個人の権利と尊厳，そして自由を求める思想的営為であったことを理解する。

また，現代社会に生きる人間に不可欠な資質である人間の尊厳の尊重，公共性への配慮，弱者に対する共感共苦，適切な批判精神，そして自らの行動・言動・思考を省みる自省的姿勢を習得する。

◆学修方法・留意点

一般に教科書は中立的な立場から執筆されることが多いが，それでも執筆者の主観から免れることはできない。学習者には，広く参考文献等も参照し，多角的かつ俯瞰的に内容を理解するように努力してもらいたい。また，積極的に，それぞれの思想家が著した数々の古典に触れるように願う。

◆学修計画

1回目	思想史研究の方法と課題
2回目	近代の幕開け①　ルネサンスと宗教改革
3回目	近代の幕開け②　ニッコロ・マキアヴェリ
4回目	近代の幕開け③　トマス・ホッブズ
5回目	自由主義の思想的源流①　ジョン・ロック
6回目	自由主義の思想的源流②　ジャン＝ジャック・ルソー
7回目	自由主義思想の諸潮流①　ダビッド・ヒューム
8回目	自由主義思想の諸潮流②　ジェレミー・ベンサム
9回目	自由主義思想の諸潮流③　ジョン・ステュアート・ミル
10回目	フランス革命を契機とする２つの思想的潮流①　保守主義思想の諸潮流
11回目	フランス革命を契機とする２つの思想的源流②　フランス初期社会主義
12回目	社会主義思想の諸潮流①　マルクス，レーニン
13回目	社会主義思想の諸潮流②　ドイツ社会民主主義思想・ヨーロッパ社会主義思想
14回目	現代の政治思想①　自由主義政治思想の課題
15回目	現代の政治思想②　社会主義政治思想の課題

◆参考文献

『政治学史』福田歓一（東京大学出版会，1985年）
『近代政治原理成立史序説』福田歓一（岩波書店，2012年〔オンデマンド版〕）
『西洋政治思想史』宇野重規（有斐閣，2013年）

科目コード	科　目　名	単位数
L30400	日本政治史	4単位

教材コード　000452
教　材　名　日本政治史
著 者 名 等　黒川　貢三郎

◆教材の概要

本教材は，日本が西洋との出会いを通じて近代国家としてスタートした幕末から明治，大正，さらには，それまでの政治体制を大きく変えることになった第2次世界大戦を経て，経済大国として再生していった昭和時代までを取り上げている。なお本教材は，黒川貢三郎・瀧川修吾『近代日本政治史Ⅰ・Ⅱ』（南窓社）を紙幅の関係から大幅に圧縮し加筆したものであるため，併せて参照することをお薦めしたい。

◆学修到達目標

本教材の精読を通じ，幕末から昭和に至るまでの近代日本政治史を学び，故きを温ねて新しきを知るための眼（教養・洞察力・分析力）を養う。

◆学修方法・留意点

まずは目次を縦覧してみよう。本教材は，章の中に2，3の節があり，さらにその中に幾つかの項が設けてある（[1]…[6]と表記）。学修の方法は人それぞれだが，各項で主題とされているテーマを意識しつつ，重要なキーワードを簡単な説明と共にノートに書き出すなどしながら，整理をしておくと良い。年表を用いて事件等が大きな歴史の流れに占める位置を俯瞰したり，日本史辞典等を用いて特定のキーワードにつき，深く調べてみたりするのも良い。「自分が歴史上の人物○○であったとしたら，どうしたか…」，「あの時，あんな失敗やこんな偶然がなかったら…」といった，いわば身近な視点で歴史との対話を楽しもう。

◆学修計画

1回目	学習内容の俯瞰：概説や目次を読み，これから学ぶ内容の全体像を把握する
2回目	第1章　幕藩体制とその瓦解
3回目	第2章　幕末政治の展開
4回目	第3章　明治新政府の誕生
5回目	第4章　近代国家の形成
6回目	第5章　明治憲法体制の展開
7回目	第6章　議会政治の展開
8回目	総括①：書き出したキーワード等を手がかりに，1～6章までの学習内容を振り返り，復習する。
9回目	第7章　大正デモクラシー
10回目	第8章　軍部支配と戦争への歩み
11回目	第9章　大日本帝国の崩壊
12回目	第10章　新生日本の誕生
13回目	第11章　経済成長の中の政治
14回目	第12章　政党再編への胎動
15回目	総括②：書き出したキーワード等を手がかりに，7～12章までの学習内容を振り返り，復習する。

◆参考文献

本教材の巻末に参考文献一覧が記載されているので，そちらを参照されたい。

科目コード	科　目　名	単位数
L30500	西洋政治史	4単位

教材コード　000503
教　材　名　『西洋政治史』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　杉本　稔
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002021

◆教材の概要

本教材は近代市民社会の出発点ともいえる「市民革命」から記述される。こうした市民革命を通じて形成されたのが市民社会である。それぞれの市民革命には当然，差異があるが，その差異がそれに続く市民社会の有り方を規定している。

さらに第3章以下においては「現代」が扱われる。現代は第一次世界大戦の勃発によって幕が開いた。第一次世界大戦前後から現代社会に特徴的な現象が顕著に見られるようになったことに着目すべきである。またかつては世界政治の主体であったヨーロッパ世界に代わって，アメリカとソ連が世界政治の主役の座を占めるようになった。しかし冷戦の終焉によって世界政治は新たな段階へと入っていった。

◆学修到達目標

政治史を学ぶのは「現在」を理解するためである。「現在」をより良く理解するためにこそ，「過去」を学ぶべきであろう。

◆学修方法・留意点

政治史の勉強とは，断片的，個別的な知識を「記憶すること」ではない」。1つ1つの歴史上の出来事を政治史的文脈の中に位置づけて，その政治史的意義を「理解すること」こそが重要である。

◆学修計画

1回目	テーマ「政治史研究の意義」　教科書「序」を熟読し，政治史の勉強にはいかなる意味があるかを理解する。
2回目	テーマ「市民革命」および「イギリス革命」　市民革命とはどのような革命なのかを明らかにし，次いでイギリスの事例を検討する。
3回目	テーマ「アメリカ独立革命」「フランス革命」および「ドイツ三月革命」　独立革命がなぜ「市民革命」なのかを理解し。また「フランス革命」の概要を把握する。またドイツの革命はなぜ「未完」と言われるのか検討する。
4回目	テーマ「市民的政治体制」　イギリス議院内閣制の萌芽・生成・展開を整理する。
5回目	テーマ「1848年革命」　1848年はヨーロッパ政治の大きな曲がり角であったが，その意味を解明する。
6回目	テーマ「イギリスにおける古典的議会政治の展開」　イギリスの選挙法改正を手掛かりに，19世紀イギリス政治の変容を解明する。
7回目	テーマ「第一次世界大戦」および「ロシア革命」　第一次世界大戦の特質を明らかにする。併せてロシア革命の意義を理解する。
8回目	テーマ「ヴェルサイユ条約」　条約の概要を整理し，併せてそれがヨーロッパ政治に及ぼした影響を検討する。
9回目	テーマ『ナチスの台頭』　ナチス台頭の過程を整理し，さらにヒトラー政府の政策を明らかにする。
10回目	テーマ「第二次世界大戦」　第二次世界大戦の勃発から終戦に至る経緯を整理する。
11回目	テーマ「冷戦」および「第二次世界大戦後のヨーロッパ政治」　冷戦の起源および冷戦の特質を理解する。さらに英・独・仏の戦後政治を概観する。
12回目	テーマ「ヨーロッパ統合」　ECSCから欧州憲法に至る統合の深化と拡大のプロセスを整理する。
13回目	テーマ「冷戦の終焉と東欧市民革命」　冷戦の終焉とは何かを明確にすると共に，旧ソ連圏の変容を確認する。
14回目	テーマ「アメリカとヨーロッパ」　イラク戦争などを手掛かりにして，アメリカとヨーロッパとの関係を政治史的に考察する。
15回目	テーマ「NATOの変容」　NATOが結成された目的を明らかにし，次いで冷戦終焉後のNTATOの役割を検討する。

◆参考文献

参考文献は教科書の各章末に掲載されているので，ここでは杉本稔『現代ヨーロッパ政治史　増補版』北樹出版　2012年のみを指摘しておく。

科目コード	科　目　名	単位数
L30600	東洋政治史	4単位

教材コード　000495
教　材　名　東洋政治史
著 者 名 等　孔　義植・松村　修一

◆教材の概要

本書は，中国と韓国の現代政治史，政治制度，政治過程を総合的に理解することを目的として書かれた。

中国編では，中国の現代政治を社会主義国家建設と改革開放政策という観点から説明して，これからの中国を展望している。

韓国編では，韓国の現代政治を軍部独裁と民主化という観点から分析して，韓国現代政治のダイナミックな変化の様子を明らかにしている。

◆学修到達目標

現代中国のあゆみを理解し，また，今日の中国のかかえる諸問題についても考察できる能力を養う。また，中国の政治制度などについても学ぶことで，現在の中国政治を理解できるようにする。

韓国の歴代政権の政策及び南北朝鮮の関係について理解する。また，韓国の政治制度などについても学ぶことで，現在の韓国政治を理解できるようにする。

◆学修方法・留意点

政治史の全体的な流れを把握した上で，様々な事件や出来事の関連性についてよく考えることが大切である。

◆学修計画

1回目	中華人民共和国の建国までのあゆみ，中華人民共和国の建国と過渡期の社会主義国家建設
2回目	毛沢東型社会主義への移行
3回目	文化大革命と中国政治の混乱
4回目	鄧小平体制の成立と政治変動
5回目	江沢民体制と政治の制度化，胡錦濤体制，習近平体制
6回目	中国憲法，中国共産党
7回目	国家機関
8回目	非共産党政治組織と大衆組織，中国と台湾との関係
9回目	アメリカによる軍政期，大韓民国政府の樹立と李承晩政権，議院内閣制の張勉政権
10回目	軍部権威主義体制の朴正熙政権，軍部権威主義体制を延長した全斗煥政権
11回目	疑似民主主義体制の盧泰愚政権，軍人政治の終焉と金泳三政権，政権交代を実現した金大中政権
12回目	権威主義政治の解消と盧武鉉政権，民主主義を後退させた李明博政権，朴槿恵政権
13回目	韓国憲法，大統領と行政府，国会と立法過程
14回目	政党，選挙制度，地方自治制度
15回目	市民運動と利益集団，裁判制度，韓国と北朝鮮との関係

◆参考文献

『現代中国政治　第3版　グローバル・パワーの肖像』毛利和子著（名古屋大学出版会）
『21世紀の中国　政治・社会篇』毛利和子・加藤千洋・美根慶樹著（朝日新聞出版）
『韓国現代政治を読む』孔義植・鄭俊坤著（芦書房）
『韓国政治と市民社会』清水敏行著（北海道大学出版会）

科目コード	科　目　名	単位数
L30700	外交史	4単位

教材コード　000085
教　材　名　外交史
著 者 名 等　深津　榮一・工藤　美知尋

◆教材の概要

日本の近代から現代にいたる国際社会における外交の展開を学修の課題としている。近代国民国家の成立による国際社会の誕生から第二次世界大戦後の国際情勢までを取り上げる。論点として取り上げるのは，(1) 日本は，開国後，同盟協商体制を選択したこと，(2) 第一次世界大戦の結果として，ヴェルサイユ体制が確立されたこと，(3) 第二次世界大戦の結果，日本が敗戦国となったこと，(4) 第二次世界大戦後の世界が，超大国による冷戦外交によって主導されたことである。

◆学修到達目標

教科書の第1章と第2章では，外交とはどういうものかを学ぶ。第3章では，日本の国際社会への参加と日本の選択，すなわち，日英同盟とはどのようなものであったのかを理解する。第4章・第5章では，第一次世界大戦の結果として成立したヴェルサイユ体制について学修する。第6章では，ヴェルサイユ体制以降，日本はどのような外交を展開し，中国大陸に関与していったかを考え，問題点を整理してみる。また，第二次世界大戦の経過および終結について学ぶ。第7章では，超大国の出現と冷戦外交とはいかなるものであったのかを理解する必要がある。

◆学修方法・留意点

(1) 日本の国際社会への参加，その選択として日英同盟が日本の外交においてどのように位置づけにあったのかについて特に留意すること。(2) 第一次世界大戦に日本はどのような形で参加し，それがどのように評価されたのかを考えること。(3) 戦間期を通じ，日本の外交はどういうものであったか，具体的に日本の中国大陸への関与はいかなるものであったのかを整理してみること。(4) 第二次世界大戦とはいかなるものであったのか，その経緯・終結について検討しておくこと。(5) 東西対立下の冷戦外交にはどのような特徴があったのかを整理しておくこと。

◆学修計画

1回目	近代世界外交史の概要
2回目	近代国家と国際社会
3回目	現代外交の始まり
4回目	日本の同盟協商体制
5回目	第一次世界大戦の概要
6回目	第一次世界大戦の終結と講和
7回目	ヴェルサイユ体制の成立と崩壊
8回目	戦間期の日本外交
9回目	第二次世界大戦の勃発
10回目	第二次世界大戦の経緯
11回目	第二次世界大戦の終結
12回目	日本の降伏
13回目	第二次世界大戦後の世界情勢
14回目	超大国の出現と冷戦外交
15回目	植民地解放とナショナリズム

◆参考文献

入手が容易で，かつ，読みやすい参考文献として，半藤一利『昭和史― 1926-1945』平凡社，2009年，および，同じ著者による『昭和史―戦後篇』平凡社，2009年を挙げておく。いずれも文庫版である。

科目コード	科　目　名	単位数
L30800	地方自治論	4単位

教材コード　000496
教　材　名　地方自治論
著 者 名 等　外山　公美・福島　康仁

◆教材の概要

我々の生活は，地方公共団体の事務事業なしには成り立たず，また，地方分権社会が進行する現代では地方公共団体の役割はますます大きくなっている。したがって，我々が地方自治に関する基礎的理論を理解することは自治の主役である住民としての責務であり必須事項である。本教材は，前半部においては「地方自治制度の理論と制度」,「地方公共団体の現状」で構成されている。後半部は「分権社会と地方公共団体」,「比較地方自治」で構成されている。すなわち，前半部は地方自治に関する基礎理論と制度概要，後半部は応用編として現代社会における地域社会での現代的な諸問題に対する政策展開，海外で地方自治の展開についての検討である。本教材を通じて地方自治について単なる知識だけでなく，自ら考え行動できる力を養うことを目的としている。

◆学修到達目標

日本の地方自治について歴史，理論，制度の多方面から理解し，地方自治がどのように展開され課題を抱えているのか，またその課題をどのように克服してきたかを学ぶ。また，地方自治のための必要な知識をもとに住民自治を体現し自ら行動できるようになることを姥久手杭とする。

◆学修方法・留意点

地方自治の改革の動きはとてもはやいので，古い参考書や古い条文は参考にならないことも多い。テキストを基調としながら内閣府や総務省のホームページなどを参考にしながら新しい情報を接巨的に入手するように努めてほしい。新聞は毎日必ず読み，情報検索にはインターネットなどで調べてほしい。

◆学修計画

1回目	地方自治の制度　地方自治とはなにか，地方自治の起源，自治権の根拠
2回目	日本の地方自治制度の変遷　明治維新と地方自治，大日本国憲法下の地方自治，日本国憲法下の地方自治
3回目	地方公共団体の種類と区域　地方公共団体の意義と種類，地域連携の手法，地方公共団体の区域
4回目	地方分権と地方公共団体　地方分権の意義，第1次分権改革と第2次分権改革
5回目	地方公共団体の規模の適正化，広域行政　地方公共団体の効率的な規模の意義，定住自立圏構想
6回目	道州制　道州制の意義，第28次地方制度調査会，
7回目	ローカルガバナンス　ローカルガバナンスの意義，協働とパートナーシップ
8回目	国と地方公共団体の関係　国と地方公共団体の新たな関係の形成，団体自治と住民自治の変化
9回目	地方公共団体の議事機関　地方議会の意義，議会の権限，議員，本議会と委員会
10回目	地方公共団代の政府機構　地方公共団体の長，補助機関，事務組織，付属機関，行政委員会制度
11回目	分権社会と地方公共団体　自治基本条例，地域間競争と地域の独自性
12回目	住民と地方公共団体　コミュニティの再生，行政評価，住民参加と協働
13回目	地方公共団体の最近の動向　新しい公共，コミュニティビジネス，共生のまちづくり
14回目	地方自治制度の類型化　地方公共団体の編成，中央地方関係，首長主義と議会主義
15回目	北米における地方自治制度　アメリカの地方自治制度，カナダの地方自治制度

◆参考文献

『地方自治論』福島康仁編（弘文堂，2018年）
『地方自治論入門』松井望ほか（ミネルヴァ書房，2012年）

科目コード	科　目　名	単位数
L31300	経済学説史	4単位
R30100	経済学史	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000160

教　材　名　経済学史／経済学説史

著 者 名 等　戸田　正雄

◆教材の概要

通常「経済学史」のテキストは，イギリス重商主義ないし，イギリス古典派から開始されている。しかし本教材は，古典ギリシャ時代からの経済を巡る様々な思想・学説から説き起こし，20 世紀のケインズ経済学までをカバーする。なかでもヨーロッパ中世のスコラ神学・哲学の経済思想が詳述されている点が注目されよう。これは経済学が宗教倫理から「独立」し，自己の「科学性」を確立していく過程でもある。経済学は，論理整合性，数理性，そして実証性を武器にして，理性的な「科学」へと進化してきた。この歴史が「経済学史」である。同時に経済学者たちは，自分の時代が直面する経済問題に取り組み，その「解決」を目指してきた。しかしその「解決」が，問題の「根本的解決」なのか，あるいは単なる「問題の先送り」であったのかは，歴史の判定に委ねられてきている。本教材を通じて，経済学のなかに隠された時代の制約を認識し，経済学と時代との関係を解き明かし理解する。これが経済学史を学ぶ意味である。

本教材は，第 1 分冊の経済学の成立前史，第 2 分冊の経済学の成立としての古典派経済学，第 3 分冊の反古典派としての歴史学派とマルクス，そして第 4 分冊のミクロ経済学とマクロ経済学の新古典派とケインズの 4 つに区分されている。本教材を通じて，経済学者がどのようにして時代の抱える問題と戦ってきたのかが理解できよう。

◆学修到達目標

経済学とは，経済学者が時代の問題に取り組み解決しようとした成果であることを，学習者が理解できることを目指す。

それぞれの経済学者が活躍した時代が抱える問題が何であったのかを明かにする。そして経済学者がどのように対処したのかを解明する。本教材通じて学習者が，このような考察ができるようになり，経済学と時代の関係性を明確に把握できることを目指す。

◆学修方法・留意点

この科目は「専門科目」である。従って本科目を履修するためには，既にミクロ・マクロの経済学の基本的理論を習得していることが求められる。必要に応じて，「経済学」の入門テキストを参照されたい。

経済学と時代の関係を解き明かすためには，西欧経済史についても基本的な知見を得ていることが望まれる。

第 3･4 分冊は，経済理論が数学的に説明されている箇所がある。そのレベルは中学･高校数学で足りよう。経済学は論理整合性に基づいて構築されている。このためある程度の文章読解能力が必要とされる。

◆学修計画

1 回目	古代および中世の経済思想の特徴：倫理と経済思想の関係
2 回目	重商主義：時代背景と重商主義政策　イギリス重商主義を中心に
3 回目	フランス重農主義：18 世紀のフランスとケネーの経済表
4 回目	アダム・スミスの時代：資本主義体制の形成期と資本主義の経済論理
5 回目	スミスの経済理論：分業論，労働価値説，資本蓄積論，自由経済思想
6 回目	マルサスとリカードの時代背景：産業革命の進展と資本主義体制の確立
7 回目	マルサスの「人口原理」
8 回目	マルサスとリカードの「穀物法論争」の行方
9 回目	リカードの差額地代と資本主義の行方
10 回目	ミルの経済学と資本主義の将来像
11 回目	ドイツ歴史学派：19 世紀のドイツとリストの国民経済学
12 回目	マルクスの経済学：剰余価値と資本主義の命運
13 回目	限界革命とは：限界効用理論の成立
14 回目	マーシャルの経済学：ミクロ経済学として新古典派経済学
15 回目	ケインズ革命：有効需要の原理，マクロ経済学の成立

◆参考文献

『コア・テキスト　経済学史』井上義朗（新世社）
『これならわかるよ！経済思想史』坪井賢一（ダイヤモンド社，Kindle 版あり）
『経済学のすすめ』佐和孝光（岩波新書）

科目コード	科　目　名	単位数
L31400	財政学	4単位
R31500	財政学総論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000609
教　材　名　『コンパクト財政学』 第2版
著 者 名 等　上村敏之
出 版 社 名　新世社
I S B N　9784883841967

◆教材の概要

この教材は，財政学の現状，制度，理論を網羅的に扱ったものである。そのような教材は得てして難解なものになりがちだが，本書は1はじめて財政学を学ぶ初学者を対象としている，2経済学の初学者でも読み通せるような工夫がなされている，3直感的に理解できる図表によって展開される，という特徴を有する。このような特徴を持つ本書で学習を進めることで，財政再建，地方分権，税制改革，社会保障などの現実のテーマに関する理解を深めることが可能となる。

◆学修到達目標

なぜ政府が存在するかという基本的なロジックを理解する。さらに，歳出及び歳入，地方財政の現行制度とその課題について学ぶ。その過程において，歳出の理論，例えば公共財の理論，歳入の理論，例えば超過負担の理論や公債の財政に与える効果を理解することで，現行の財政政策や制度を評価する力を身に着ける。

◆学修方法・留意点

本書の最大の特徴は，本来数式をもって説明されているミクロ経済学の内容について，図表を用いた直感的な理解を促している点である。図表の理解には，慣れが必要だが，決して難しい説明にはなっていないため，粘り強く取り組んで，それを応用した財政学理論の理解に努めてほしい。ただし，現状の解説に関してはやや古い数値が記述されているきらいがあるため，財務省，総務省，厚生労働省のホームページなどを併せて調べることで，教材の内容がどのように変化しているのかも把握して欲しい。

◆学修計画

1回目	財政と財政学（第1章）　政府の存在意義と財政の機能
2回目	公共財（第2章）　公共財とは，公共財の政治的な選択，国と地方自治体の公共財の供給
3回目	公共財（第2章）　地方分権と公共財の供給，地方自治体の人口規模，社会資本，まとめ
4回目	租税の基礎（第3章）　租税原則，税負担の公平
5回目	租税の基礎（第3章）　課税の経済効果，租税の帰着
6回目	租税の基礎（第3章）　租税による所得再分配，租税体系，まとめ
7回目	租税の各論（第4章）　累進税と逆進税，所得課税，消費課税
8回目	租税の各論（第4章）　法人課税，まとめ
9回目	公債（第5章）　公債とは，国債をめぐる資金のながれ，財政の持続可能性
10回目	公債（第5章）　国債管理政策，公債の負担，まとめ
11回目	国と地方の財政関係（第6章）　地方財政の役割，地方財政の資金の流れ，国庫支出金
12回目	国と地方の財政関係（第6章）　地方交付税，特定補助金の一般財源化，地方財政の指標，まとめ
13回目	社会保障（第7章）　社会保障とは，公的年金，医療保険と介護保険
14回目	社会保障（第7章）　生活保護，少子高齢化の進展，まとめ
15回目	全体のまとめ　日本の公共部門がかかえる財政問題を最新のデータで復習

◆参考文献

『グラフィック財政学』釣雅雄，宮崎智視共著（新世社，2013年）
財務省のホームページ：https://www.mof.go.jp/
総務省のホームページ：https://www.soumu.go.jp/
厚生労働省のホームページ：https://www.mhlw.go.jp/index.html

科目コード	科　目　名	単位数
L31500	経済政策	4単位
R30700	経済政策総論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000527
教　材　名　『経済政策入門第２版』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　酒井　邦雄・村上　亨・吉田　雅彦・寺本　博美　著
出 版 社 名　成文堂
ＩＳＢＮ　9784792342340

◆教材の概要

テキストは，13 章で構成されています。第 1 章「経済政策」，第 2 章「個人と集団」，第 3 章「民主主義のパラドックス」，第 4 章「政策決定過程」，第 5 章「市場の効率性」，第 6 章「市場の失敗」，第 7 章「経済成長政策」，第 8 章「経済安定化政策」，第 9 章「競争政策」，第 10 章「所得分配と社会保障政策」第 11 章「環境政策」，第 12 章「国際経済政策」，第 13 章「現代の経済政策課題」からなり，経済政策に関して体系的に理解を深めることができます。

◆学修到達目標

現在の日本における公共経済政策の重要な課題の背景と現状を理解し，説明できることを目標とします。各政策課題に対し立案，決定，実施された制様の内容と効果について説明できることを目標とします。日本の経済政策の現状と課題，今後のあるべき方向を理解，説明できることを目標とします。

◆学修方法・留意点

テキストは，入門的な概念について分かりやすく説明しているので，経済学の基礎知識をマスターしていない人でも理解できると思いますが，なお，理解困難な箇所がある場合には，ミクロ経済学やマクロ経済学のベーシックな教科書を参照してください。

◆学修計画

1 回目	経済政策総論　経済政策の必要性，目的，手段など
2 回目	個人と集団　個人的選択，集団的選択，社会的厚生関数など
3 回目	民主主義のパラドックス　政策の短期的影響と長期的影響，予算配分，政策決定メカニズムなど
4 回目	政策決定過程　政策決定過程の意味，政策決定モデル，政策決定過程の主体，公共選択論など
5 回目	市場の効率性　市場の最適資源配分機能，パレート最適の機能と概念的限界性など
6 回目	市場の失敗　市場の制度的不備，不完全競争，外部性，公共財，費用逓減型産業，不確実性など
7 回目	経済成長政策　経済成長論，物的資本，人間資本，技術進歩，インフラ政策，ルール形成政策など
8 回目	経済安定化政策　景気循環と雇用の関係，失業の分類に対応した雇用政策，発生原因別にみたインフレ抑制政策など
9 回目	競争政策　不完全競争下の資源配分，日本の独占禁止政策，規制緩和と競走政策，規制改革と市場制度など
10 回目	所得分配と社会保障政策　分配の公正基準，社会保障の基本原則，社会保障の体系と増大要因，社会保障制度の弊害など
11 回目	環境政策　環境政策の意義・目的・評価，環境の法と経済，環境政策と国際関係など
12 回目	国際経済政策　貿易の理論，貿易制限政策，貿易摩擦に伴う政策，ルールの設定，国際金融に関する問題など
13 回目	現代の経済政策課題　財政赤字，デフレの問題，生活者，労働者，消費者，納税者としての人間の立場と政府の関係など
14 回目	租税政策：税制改革の課題　金融所得一体課税，二元的所得税，アベノミクスと税制上の課題：金融所得課税，法人税改革など
15 回目	社会保障政策：少子・超高齢社会の社会保障のあり方　社会保障と税の一体改革，少子化対策，医療制度改革，年金制度改革など

◆参考文献

内閣府「経済財政白書」ほか各省庁の白書，各年版
また，テキストの各章末に参考文献が掲げてあるので，参照してください。

科目コード	科　目　名	単位数
L31600	社会政策	4単位
R32100	社会政策論	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000532
教　材　名　『増補改訂　総説現代社会政策』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　成瀬　龍夫
出 版 社 名　桜井書店
I S B N　9784905261025

◆教材の概要

日本の社会政策研究の歴史を概観すると，労働力の創出（労働者政策）におもきが置かれてきた。しかし近年は労働者のみの政策だけでなく，国民全般の生活を保障する社会保障制度との連携も重要視される。

教材は，社会政策の概念，歴史，各種制度の仕組みや問題点を，雇用政策と社会保障をふくめて体系的に説明している。各章で取り上げられているテーマと用語をよく理解しながら，学習してもらいたい。

◆学修到達目標

社会政策にかかわる諸問題について，問題の発生要因や国家の対応などの動向をふまえて，歴史的な流れ，現状および現行制度の概要を説明できるようになる。また，社会政策のあり方などについて論理的に自分の考えを示すことができるようになる。

◆学修方法・留意点

社会政策の原理および歴史的な流れを理解し，日本と諸外国の違いについても整理すること。労働者政策だけでなく，社会保障制度の役割にも目を向けること。また，たびたび制度改正がおこなわれるので，最新の制度内容を調べること。

◆学修計画

1回目	社会政策とは何か　社会政策の対象領域や社会政策と市場原理の関係
2回目	社会政策の法的根拠と基準　社会政策の原則や基準
3回目	社会政策の歴史　資本主義の誕生から戦後の福祉国家までの世界の社会政策の展開
4回目	日本の社会政策の展開　諸外国との比較からみる日本の社会政策の展開の特徴
5回目	労働時間決定の歴史的展開　諸外国と日本の比較からみる労働時間に関する問題点と日本の政策
6回目	賃金の特質と歴史的展開　最低賃金の必要性と賃金決定方法および賃金をめぐる格差
7回目	労働市場と社会政策　労働市場の仕組みと雇用対策の歴史的展開
8回目	日本的雇用慣行のゆらぎ　労働市場の変化と雇用・失業対策
9回目	社会保障制度のしくみ　社会保障の対象と社会保障を構成する制度の概略
10回目	現行の社会保険の種類と役割　現行の社会保険が対応するリスクと各種制度の具体的内容
11回目	公的扶助等の制度と社会保障の課題　生活保護や社会福祉の役割と現在の社会保障制度の抱える課題
12回目	少子高齢化がもたらしたもの　少子高齢化がおよぼす問題や対応策
13回目	福祉国家から福祉社会へ　福祉国家の歴史的意義と福祉社会への動き
14回目	これからの社会政策　グローバル化がもたらした変化
15回目	グローバルな課題の社会政策　持続可能な社会の構築と日本の取り組み

◆参考文献

『はじめての社会保障』椋野美智子・田中耕太郎著（有斐閣アルマ）
『よくわかる社会政策』石畑良太郎・牧野富夫著（ミネルヴァ書房）

このほか，テキストの 227 ～ 230 ページに参考文献があげられているので，それを可能な限り読んでおくこと。

科目コード	科　目　名	単位数
M20100	国文学基礎講義	4単位

教材コード　000519
教　材　名　『日本古典文学』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　近藤　健史　編
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002090

◆教材の概要

本教材は，日本古典文学として古代から近世までの文学の中から，各時代における散文と韻文の代表的な作品を取り上げ，多様な視点から作品を「読む」ということを中心にまとめている。また，近代作家たちの古典評価を通して古典文学を捉え直すという意味で，近代における古典文学の行方も加えてある。

◆学修到達目標

日本古典文学の概要と作品についての「読み方」の基礎を身につけることにより，国文学専門科目の学修に対応できるようになることを目標とする。

◆学修方法・留意点

本教材は，独習や予習ができるように学修の目標を「本章のポイント」としてまとめてある。また，学修を手助けするために「理解を深めるための参考文献」や「関連作品の案内」を付し，最新の研究から「トピック」を挙げている。さらに各章の最後には「知識を確認しよう」を付し，学習成果の確認ができるようにしてある。この方法に従って学修を進めてほしい。

各章ごとにある引用作品の意味について理解しておくこと。また，基本的には，作品の時代背景，成立事情，構成，内容，表現，特色などについて解説してあるので，よく理解しておいてほしい。

◆学修計画

1回目	日本古典文学の概要を学ぶ。
2回目	第1章古代，記紀と風土記の成立事情，構成，内容について学ぶ。
3回目	第2章古代，記紀歌謡と万葉集の成立事情，古代における万葉集，万葉歌人について学ぶ。
4回目	第3章中古，源氏物語の世界と作品を学ぶ。
5回目	第4章中古，古今歌集の成立事情，構成，内容，などを学ぶ。
6回目	第5章中世，方丈記を読む。
7回目	第5章中世，徒然草を読む。
8回目	第6章中世，新古今集の成立事情，時代背景などを学ぶ。
9回目	第6章中世，新古今和歌集秀歌の鑑賞を学ぶ。
10回目	第7章近世，井原西鶴の文学を学ぶ。
11回目	第7章近世，近松門左衛門の文学を学ぶ。
12回目	第8章近世，松尾芭蕉の文学を学ぶ。
13回目	第9章近代，近代文学に生き延びる「江戸」について学ぶ。
14回目	第10章近代，近代によみがえる古典文学，源氏物語・王朝ものについて学ぶ。
15回目	第10章近代，森鴎外，夏目漱石と古典文学の関わりについて学ぶ。

◆参考文献

テキスト内の各章と『国文学基礎講義学修指導書』に記してある。

科目コード	科　目　名	単位数
M20200	国文学概論	4単位

教材コード　000089
教　材　名　国文学概論
著 者 名 等　高木　市之助

◆教材の概要

古代から近代にいたるまでの日本文学の主要なジャンルについて，それぞれの文学形態の特質，発生と展開の様相を概観している。各分野とも執筆された時点からかなり時間が経過しているので，脚注その他に掲出された参考書等に入手困難なものがあり，その後の新しい研究成果を追加すべき点もある。この教材をステップとして，自分なりの「国文学」に対する考え方や興味・関心を持てるように各自で問題点を発見し，整理，発展させていくことが望まれる。

◆学修到達目標

国文学全体にわたって大要を学修することにより，国文学の概観や研究法の基礎的な知識を身につけ，各ジャンルにおける作品を理解できるようになることを目標とする。

◆学修方法・留意点

① 教材を読むだけでなく，引用されている作品の全体や原文にも目を通して理解する方法を取ってほしい。
② 関連する研究書を読み，研究の動向，現状などにも留意するように努力してほしい。
③ 参考書の解説や見解は，できるだけ批判的にとらえる姿勢も身につけるようにすることが望ましい。
④ リポートや答案は，くれぐれも教材の単なる要約にならないように注意してほしい。

◆学修計画

1回目	古代和歌：和歌の意義や発生，和歌と短歌の形態・形成などについて学修する。
2回目	説話文学：説話の意義や文学性，古代文学作品の説話性などについて学修する。
3回目	物語文学：物語文学の概念・本質・構成などについて学修する。
4回目	物語文学：構想の叙述，発達と展開，種類と系統などについて学修する。
5回目	軍記物語：軍記物語の本質，発生と展開などについて学修する。
6回目	軍記物語：各作品における「語り」「語りもの」としての軍記物語の特質について学修する。
7回目	連歌：連歌の名義，形式，分類，特性について学修する。
8回目	俳諧：俳句の名義，形成，特性と発句の特性について学修する。
9回目	謡曲：謡曲の特性や文章の特徴などについて学修する。
10回目	狂言：狂言の本質，作者，種類や題材・詞章の特徴について学修する。
11回目	浄瑠璃：浄瑠璃の本質，歴史，取題と構成，趣向について学修する。
12回目	歌舞伎狂言：歌舞伎狂言の特質，種類，作者，構成，作劇法などについて学修する。
13回目	近代小説：近代小説の概要，特性について学修する。
14回目	近代韻文：近代韻文の概念，韻文とは何かなどについて学修する。
15回目	近代詩・近代短歌・近代俳句：詩，短歌，俳句の成立思潮，表現，韻律について学修する。

◆参考文献

『新日本古典文学大系』（岩波書店）所収の作品，解題，参考文献
『別冊国文学　新・古典文学研究必携』（学燈社）などの『必携』シリーズ
『国文学　解釈と教材の研究』（学燈社），『国文学　解釈と鑑賞』（至文堂）
上記により基本的な研究情報を体系的に知ることができる。

科目コード	科　目　名	単位数
M20300	国語学概論	4単位

教材コード　000412
教　材　名　『現代日本語学入門』
著 者 名 等　荻野　綱男
出 版 社 名　明治書院
I S B N　9784625704093

◆教材の概要

「国語学」は国語つまり日本語に関する研究の全体である。したがって，国語学は，その中の研究領域として，非常に多彩な内容を含んでいる。また，周辺領域とも密接な関連を持っている。学生諸君は，この教材を通じて，国語学とその周辺分野の幅広い側面について知識を持つようになる。

この教材は，そのようなアプローチに適したものになっているので，ぜひ，全体を理解するよう，努力してほしい。

◆学修到達目標

この教材を学ぶことで，国語学の全体像および個々の分野，さらにはその周辺領域に関する概観的知識が身につき，さまざまな日本語の問題に関して，考える基盤が持てるようになる。

◆学修方法・留意点

国語学は，分野ごとに考え方の道筋がかなり異なる面もあるから，それぞれの分野ごとに発想を切り替えるつもりで（それぞれの章ごとに新たな気持ちで）学修するとよい。書いてあることの理解のためには，日常見聞きするものを例にして考え，自分のことばで説明できるようになる必要がある。

◆学修計画

1回目	（日本語学とは）日本語は単独で存在するものではなく，世界の諸言語の一つである。
2回目	（音声と音韻）日本語が音声面でどういう特徴を持っているかを全体として理解する。
3回目	（語彙）語彙とは何か，どういう特徴があるのか，それを出自（語種）とともに理解する。
4回目	（意味）語の意味を自分で考えて確認しながら教科書を読み進める。
5回目	（文法）高校までの「国語」の文法と異なる考え方を理解する。
6回目	（文章と文体）文章を対象にすると，どんな見方・考え方ができるのかを理解する。
7回目	（文字と表記）日本語の文字の特色と表記の多様性に目を向ける。
8回目	（敬語）敬語の体系（言語体系）とともに，敬語の使い方の体系（行動体系）も合わせてとらえる。
9回目	（方言と共通語）なぜ日本語の中に方言があるのか，これから方言はどうなっていくのかを考える。
10回目	（日本語教育）国語教育との違いを理解する。
11回目	（社会言語学）教科書では個人の言語行動を中心に記述してある。
12回目	（コンピュータ言語）普段から電子機器を実際に使い，日本語との関わりをとらえる。
13回目	（心理言語学）言語習得には，母語の習得と第二言語の習得がある。
14回目	（対照言語学）日本語を外国語と比べて違っているところを意識する。
15回目	（文化人類学）ことばは文化（ものの見方）と関連する。

◆参考文献

教材の各章末に参考文献が挙がっているので，それを見てほしい。
もう少し深く学びたい人には，各種講座ものが便利である。
また，日本語の歴史的な変遷については，『日本語の歴史』山口仲美著（岩波新書）がわかりやすい。

科目コード	科　目　名	単位数
M30100	国文学史Ⅰ	4単位

教材コード　000596
教　材　名　『日本文学史序説（上）』
著 者 名 等　加藤　周一
出 版 社 名　筑摩書房
I S B N　9784480084873

◆教材の概要

本教材は，日本人の精神や文学史の特徴，外来思想による影響などについて，幅広い視座に立って，その歴史的発展や固有の構造を浮かび上がらせている。そして，その構造の枠組みの中で，時代と共に変わってきた日本文学の歴史を説いている。

本教材の章立ては，一般的な文学史とは違って日本文学の特徴で区切っている。時代区分としては，上代（第一章），中古（第二章・第三章），中世（第四章・第五章），近世（第六章・第七章）である。

◆学修到達目標

上代から近世までの日本文学の歴史を概観したうえで，日本人の精神や文学史の特徴，外来思想にどう対応したかなど，その歴史的発展や構造を学び，日本文学を理解するために必要な知識を身につけることを目標とする。また，単に暗記する「文学史」ではなく，理解し説明できる力を養うことを到達目標とする。

◆学修方法・留意点

基本的には，教材をよく読み理解するという方法である。全体的に「文学史とは何か」ということを基本として学ぶことが大切である。この教材は，論述の構成が明解であり論理的であることから，流動的展開，複数ある特徴，時代背景などを容易に理解できる。

特に日本文学の特徴は,「文化全体のなかでの文学の役割」「その歴史的発展の型」「言語とその表記法」「文学の社会的背景」「文学の世界観的背景」に関わるとし，その特徴相互の関係の検討により，時代を一貫して日本文学という現象に固有の構造が明らかになるという考えで論じていることに留意してほしい。

◆学修計画

1回目	「文学史とは何か」・「日本文学の特徴」を学ぶ。
2回目	「『万葉集』の時代」（7・8世紀）の時代的特徴と作品との関わりについて学ぶ。
3回目	『古事記』『日本書紀』『風土記』『古代歌謡』『万葉集』の成立事情と特徴について学ぶ。
4回目	「最初の転換期」(8世紀末～10世紀初)における大陸文化の「日本化」の時代的背景と特徴について学ぶ。
5回目	9世紀における「知識人の文学」の成立事情と特徴について学ぶ。
6回目	「最初の鎖国時代」（10世紀～12世紀末）の時代的背景と特徴について学ぶ。
7回目	「最初の鎖国時代」における「文学の制度化」「小説的世界の成立」「女の日記」について学ぶ。
8回目	『源氏物語』の成立事情と特徴，その影響などについて学ぶ。
9回目	『今昔物語』の成立事情と特徴について学ぶ。
10回目	「再び転換期」（13世紀）の時代的背景と特徴，新興仏教の影響とその新しい階級の文学について学ぶ。
11回目	「再び転換期」における「貴族階級の反応」と「読者層の拡大と武士･大衆」に関わる文学について学ぶ。
12回目	「能と狂言の時代」（14世紀・15世紀）の時代的・文化的背景と作品の特徴について学ぶ。
13回目	「第三の転換期」（16世紀半ば～17世紀半ば）の時代的背景と「知識人の文芸」や「大衆的な文芸」などの特徴について学ぶ。
14回目	「元禄文化」（17世紀末～18世紀）の時代的・文化的特徴について学ぶ。
15回目	「近松門左衛門」「井原西鶴」「松尾芭蕉」の文学の特徴について学ぶ。

◆参考文献

案内・知識の整理として，『日本文学の古典』西郷信綱他（岩波新書），『日本文学の古典50選』久保田淳（岩波ジュニア新書）。

科目コード	科　目　名	単位数
M30200	国文学史Ⅱ	4単位

教材コード　000597
教　材　名　『日本文学史序説（下）』
著者名等　加藤　周一
出版社名　筑摩書房
ＩＳＢＮ　9784480084880

◆教材の概要

本教材は，江戸期町人の文化から国学・蘭学を経て近世国学者から戦後文学までを述べている。従来の文学史とは違い，戦前と戦後で分けることなく，日本人の心の奥底にあるもの，土着的世界観などが外部の思想にどのように反応したかに言及する。つまり，明治維新後西洋の思想や文化を取り入れてどのように変質したのかという視点で，小説や詩歌はもとより思想，宗教，歴史，百姓一揆の檄文までを文学として視野に収めて説いている。その意味では，日本人固有の土着的世界観をさぐる日本文化思想史概論ともいえる。

『日本文学史序説（下）』の時代区分は,明治維新を境にして文学史を「近代」と「近代以前」とに大別する従来の習慣に従わない。しかし，ここでは便宜的に，近世（第八章），近代（第九章・十章・十一章），現代（終章）と区分する。なお,『日本文学史序説（上）』は,「国文学史Ⅰ」の教材として使用している。時代的には，上代（第一章），中古（第二章・三章），中世（第四章・五章），近世（第六章・七章）である。併せて読んで欲しい。

◆学修到達目標

近世後期から現代までの日本文学の歴史を概観したうえで，日本人の精神や文学史の特徴，外来思想にどう対応したかなど，その歴史的発展や構造を学び，日本文学を理解するために必要な知識を身につけることを目標とする。また，単に暗記する「文学史」ではなく，時代と文学との関わりや特徴などを説明できる力を養うことを到達目標とする。

◆学修方法・留意点

基本的には教材をよく読み理解するという方法である。全体的に「文学史」とは，何かということを基本として学ぶことが大切である。この教材は，論述の構成が明解であり論理的であることから，流動的展開，複数ある特徴，時代背景などを容易に理解できる。

特に日本文学の特徴は,「文化全体のなかでの文学の役割」「その歴史的発展の型」「言語とその表記法」「文学の社会的背景」「文学の世界観的背景」に関わるとし，その特徴相互の関係の検討により，時代を一貫して日本文学という現象に固有の構造が明らかになるという考えで論じていることに留意してほしい。

◆学修計画

1回目	「文学とは何か」・「日本文学の特徴」を学ぶ。
2回目	町人の時代：18世紀前半の注目すべき文人・思想家たちとその時代を学ぶ。
3回目	町人の時代：「忠臣蔵と通俗小説」を学ぶ。
4回目	町人の時代：18世紀後半の国学者たちとその時代を学ぶ。
5回目	町人の時代：「歌舞伎と木版画」「笑いの文学」を学ぶ。
6回目	第四の転換期（上）：19世紀幕末から明治維新，支配層の分裂について学ぶ。 西欧文明の影響，「国体と蘭学」について学ぶ。
7回目	詩人たち，町人たち，農民たちについて学ぶ。 第四の転換期（下）：明治維新を青壮年として生き，鋭く政治化した1830年代生まれの群像を学ぶ。
8回目	明治維新前後に少年時代を送った群像，1868年の世代の文人たちを学ぶ。
9回目	明治維新前後におけるキリスト教の影響について学ぶ。
10回目	「自然主義」の小説家たちの特徴について学ぶ。
11回目	明治維新後の作家，有島武郎と永井荷風の特徴について学ぶ。
12回目	工業化の時代：20世紀，1885年の世代の作家たちについて学ぶ。
13回目	1900年の世代の作家たちについて学ぶ。
14回目	「マルクス主義」と「大正教養主義」の文学について学ぶ。
15回目	第二次世界大戦後の社会状況と文学状況について学ぶ。

◆参考文献

教材を読み込むとともに，文学全集，文庫本などで近代から現代における文学作品をひとつでも多く読むことが大切である。自宅学修や課題の学修を進める上で必要な情報は，『日本近代文学大事典』（全6巻，講談社，1977年～），『日本現代文学大事典』（2冊，明治書院，1994年）『岩波講座　日本文学史』（岩波書店，1996年），「近代デジタルライブラリー」（インターネットで，明治期から大正期の10万冊以上の図書の本文が無料で閲覧可能。書名や目次をもとに検索することもできる）などを利用してほしい。

科目コード	科　目　名	単位数
M30300	国文法	4単位

教材コード　000101
教　材　名　『日本語文法』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　岩淵　匡
出 版 社 名　白帝社
I S B N　9784891743765

◆教材の概要

本教材は，日本語の文法について体系的に概説したものである。文法は，その名称のごとく，文を構成している法則を明らかにするものである。本教材は，小中高と学んできた文法が単語の分類やその働きを知る品詞論中心のものであったのに対し，文を構成する各要素が現実の文の中でどのような規則によって構成され，また機能しているのかといった，統語論（構文論）を中心にまとめられている点に特徴がある。また，現代語と古典語との両面から，広く日本語の文法的性質が捉えられるようにまとめられている。

◆学修到達目標

日本語の文法が統語論的にどのように整理，記述されているのかを把握できる。また，教材中に挙げられている実例の分析を通して文法的な考え方を学び，自身でも日本語の文法規則について整理，記述できるようになる事を目指す。

◆学修方法・留意点

本教材は，高校までに学んできた文法の知識は既習の事項として，改めて触れることはしていない。よって，それまでの文法知識に不安のある受講者は，中高生向けの文法テキストや古語辞典を読み直し，用語の名称や定義などをしっかりと理解しておくこと。また，教材の文法の捉え方は，新しい考え方にしたがっているので，その用語・考え方に慣れるようにしてほしい。

◆学修計画

1回目	文法と文法論
2回目	文法研究の単位／文節論による文の構造と文節論の持つ問題点
3回目	入子型構造
4回目	述語句の構造／文の階層的構造／文の種類
5回目	格
6回目	連用修飾
7回目	連体修飾
8回目	現代語の活用
9回目	古典語の活用
10回目	ヴォイス
11回目	現代語のテンス・アスペクト
12回目	古典語のテンス・アスペクト
13回目	現代語のモダリティ
14回目	古典語のモダリティ
15回目	「は」・主題・とりたて

◆参考文献

『日本語学大辞典』日本語学会（東京堂出版，2018年）
『日本語の世界6　日本語の文法』北原保雄（中央公論社，1989年）
『ガイドブック日本語文法史』高山善行・青木博史（ひつじ書房，2010年）

科目コード	科　目　名	単位数
M30400	国語学講義	4単位

教材コード　000088
教　材　名　国語学講義
著 者 名 等　小久保　崇明

◆教材の概要

国語学講義（国語史）とは，日本語の歴史をいう。本教材は，その日本語の歴史を明らかにするために記述した教材である。本来ならば上代から現代までの日本語の変遷を説くことが望まれるが，都合により，上代から中世前期すなわち鎌倉時代までの日本語の歴史の大要を時代的に示した。なお，学修の便を考え，各時代とも，概説・文字表記・文章文体・音韻・語彙・文法・敬語・方言に分けて記述してみた。

◆学修到達目標

日本語の歴史について知り，具体的な用例に接したときに，日本語の歴史的特徴を説明できるようになる事を目標とする。

◆学修方法・留意点

① 学修計画のポイントで示したことを，よく記憶しておくこと。
② 重要な事項は，ゴシックで組んである。それらを理解しておくこと。

◆学修計画

1回目	国語史概説
2回目	奈良時代までの文字・表記・文章・文体
3回目	奈良時代までの音韻・語彙
4回目	奈良時代までの文法
5回目	奈良時代までの敬語・方言
6回目	平安時代の文字・表記・文章・文体
7回目	平安時代の音韻・語彙
8回目	平安時代の文法
9回目	平安時代の敬語・方言
10回目	院政鎌倉時代の文字・表記・文章・文体
11回目	院政鎌倉時代の音韻・語彙
12回目	院政鎌倉時代の文法
13回目	院政鎌倉時代の敬語・方言
14回目	国語史資料―源氏物語まで―
15回目	国語史資料―雲州往来以降―

◆参考文献

『日本語学大辞典』日本語学会編（東京堂出版，2018年）
『日本語大事典』佐藤武義ほか編（朝倉書店，2014年）
『実例詳解古典文法総覧』小田勝著（和泉書院，2015年）
『日本語文法事典』日本語文法学会編（大修館書店，2014年）
『日本語文法大辞典』山口明穂・秋本守英編（明治書院，2001年）
ほか日本語史に関する概説書。

科目コード	科　目　名	単位数
M30500	国文学講義Ⅰ（上代）	4単位

教材コード　000090
教　材　名　国文学講義Ⅰ（上代）
著 者 名 等　竹内　金治郎

◆教材の概要

本教材は，上代文学の中の歌謡，和歌，説話を扱っている。歌謡は，古事記と日本書紀，和歌は万葉集に収められているものを取りあげている。記紀歌謡では，約90首の表現の技巧，とりわけ修辞法について形式的類型的な説明がされている。万葉集では，「雑歌」「相聞」「挽歌」という三大部立のなかの「相聞歌」を取りあげ，その名義と表現様式について解説している。また「羇旅歌」の意義，在り方，内容の分類などについて説明している。説話では，古事記，日本書紀ならびに風土記に収められた農耕説話の内容や農耕習俗について解説している。

◆学修到達目標

現存最古の古事記，日本書紀，風土記，万葉集における歌謡，和歌，説話について学ぶ。その知識は，作品の味読によって具体化され，機械的な記憶にとどまらず現代社会における生きた教養として身につけることを目標とする。

◆学修方法・留意点

テキストを熟読してほしい。例にあげた歌謡や歌について，その意味，文学性，特色などについて理解することを勧める。また，上代文学の背景として，政治的背景，社会的背景，文化的背景，風土的背景も学んでほしい。

◆学修計画

1回目	記紀歌謡の概説（歌数，作者，誦謡性など）について学ぶ。
2回目	記紀歌謡の内容について学ぶ。
3回目	記紀歌謡の修辞法（由来，概念，分類など）について学ぶ。
4回目	記紀歌謡の修辞法（枕詞・序詞・譬喩法の意義，種類，特質など）について学ぶ。
5回目	記紀歌謡の修辞法（反復法，対句法，対照法，擬人法，漸層法の起源や特質など）について学ぶ。
6回目	万葉集相聞歌（名義，各巻における位置・特徴など）について学ぶ。
7回目	万葉集相聞歌の表現様式「正述心緒的表現」について学ぶ。
8回目	万葉集相聞歌の表現様式「寄物陳思的表現」について学ぶ。
9回目	万葉集相聞歌の表現様式「譬喩的表現」について学ぶ。
10回目	万葉集の羇旅歌（意義，在り方など）について学ぶ。
11回目	内容上より見た万葉集の羇旅歌について学ぶ。
12回目	万葉集の羇旅歌「留守者の歌」について学ぶ。
13回目	上代文学の農耕説話（意義，類型など）について学ぶ。
14回目	上代文学に現れた農耕説話（7種類）について学ぶ。
15回目	上代文学に現れた農耕習俗（5種類）について学ぶ。

◆参考文献

『万葉集を知る事典』櫻井満監修（東京堂出版，2003年）
『古事記・日本書紀を知る事典』武光誠（東京堂出版，2007年）
『上代説話事典』大久間喜一郎ほか編（雄山閣出版，1993年）

科目コード	科　目　名	単位数
M30700	国文学講義Ⅲ（中世）	4単位

教材コード　000091／000370　配本申請時セットコード200001
教　材　名　国文学講義Ⅲ（中世）／『源氏物語の世界』　※2冊組み
著者名等　岸上　慎二　／日向　一雅
出版社名　／岩波書店（『源氏物語の世界』）
ＩＳＢＮ　9784004308836（源氏物語の世界）

◆教材の概要

本教材は単位の4に対応すべく，四つの柱から成っている。第1単位が『枕草子』，第2単位が『新古今和歌集』，第3単位が『能・狂言』であり，第4単位の『源氏物語』を市販のテキストによっている。これらの四つの柱は，中世というよりは，平安朝（古代後期）と中世を代表する基本のジャンルを考えて構えられたのである。日記・随筆的なる『枕草子』，勅撰和歌集と和歌への目配りをし『新古今和歌集』，演劇と文学を考える『能・狂言』，物語文学の頂点である『源氏物語』がそれだ。

◆学修到達目標

代表する四つの柱から，中世における学問のあり方について理解する。

◆学修方法・留意点

① 毎回，試験範囲のポイントが異なっているので注意すること。
② 教材を手掛りとして，さらに新しい情報に目配りするように心がけること。
③ 出題の意図を考えること。
④ 課題に対して，発展的に考え，解答することが望まれる。

◆学修計画

1回目	中世文学とは
2回目	枕草子：概略
3回目	枕草子：内実への深化
4回目	枕草子：新形態の発生について
5回目	勅撰和歌集
6回目	新古今集：その特異さ
7回目	能楽の発生とその史的展開
8回目	能楽の大成期
9回目	謡曲の曲数，番組，種別
10回目	謡曲の構成・脚色
11回目	隅田川
12回目	狂言の歴史
13回目	狂言の内容及び素材
14回目	源氏物語の世界：多面的な構造
15回目	源氏物語の世界：桐壺巻に仕掛けられた「謎掛け」

◆参考文献

研究状況は，常に発展している。
※『国文学　解釈と教材の研究』，『同　解釈と鑑賞』（至文堂）等の市販の雑誌に目配りすること。
※『別冊国文学』の必携シリーズ（学燈社）も手掛りになる。

科目コード	科　目　名	単位数
M30800	国文学講義Ⅳ（近世）	4単位

教材コード　000093
教　材　名　国文学講義Ⅳ（近世）
著 者 名 等　永井　啓夫・大澤　美夫・井草　利夫

◆教材の概要

本教材は，「第一章　俳諧」「第二章　小説」「第三章　浄瑠璃・歌舞伎」から成る。俳諧，浄瑠璃・歌舞伎は近世に成立した新しい文芸，小説は近世になってより盛んになったジャンルであり，いずれも近世文学を特徴づける文芸である。前半は俳諧と小説（前期），後半は小説（後期）と浄瑠璃・歌舞伎にあてた。

◆学修到達目標

近世文学の成立とその背景，各ジャンルの成立・意義を理解し，各作品を解釈できるようになる。作者・読者のあり方やメディア，文化，政治等，近世文学の置かれた状況についても理解を深め，多角的に近世文学を捉えられるようになる。

◆学修方法・留意点

① 俳諧の成立および変遷を理解する。
② 小説（前期）をジャンル，種類に分けて考察する。
③ 小説の特色と代表作・作者について学修する。
④ 浄瑠璃・歌舞伎の代表的作者と代表作について学修する。

◆学修計画

1回目	俳諧の成立と貞門俳諧・談林俳諧の特徴
2回目	芭蕉の俳諧の特徴と変遷
3回目	芭蕉の旅（紀行文）の内容
4回目	俳諧の完成
5回目	仮名草子の成立と特徴
6回目	浮世草子の成立と井原西鶴の活動
7回目	西鶴浮世草子作品とその特徴
8回目	秋成と『雨月物語』
9回目	馬琴と『南総里見八犬伝』
10回目	黄表紙・合巻・洒落本の特徴と内容
11回目	滑稽本・人情本の特徴と内容
12回目	浄瑠璃の成立と近松門左衛門の活動
13回目	近松以降の浄瑠璃の特徴
14回目	歌舞伎の成立と江戸歌舞伎大成期までの歌舞伎の特徴と内容
15回目	鶴屋南北・河竹黙阿弥ら江戸爛熟期の歌舞伎の特徴と内容

◆参考文献

『新編日本古典文学全集70，71　松尾芭蕉集①②』（小学館）
『新編日本古典文学全集64　仮名草子集』（小学館）
『日本古典文学大系90　仮名草子集』（岩波書店）
『新編日本古典文学全集66－69　井原西鶴集①－④』（小学館）
『新編日本古典文学全集78　英草子・雨月物語・西山物語・春雨物語』（小学館）
『新編日本古典文学全集64　黄表紙・川柳・狂歌』（小学館）
『新編日本古典文学全集74－77　近松門左衛門集①－③，浄瑠璃集』（小学館）

科目コード	科　目　名	単位数
M30900	国文学講義Ⅴ（近代）	4単位

教材コード　000601
教　材　名　『日本近代小説史』　※文学と同じ教材です。
著 者 名 等　安藤　宏
出 版 社 名　中央公論新社
I S B N　9784121101105

◆教材の概要
明治初期から大正期，戦前から戦後にかけての日本の近代小説の歴史，文芸思潮の流れが個々の作家・作品に言及しながら概説されている。

◆学修到達目標
明治の開化期から大正期，昭和初頭までの文学史の流れについて学び，個々の作家・作品の同時代的意義及び文学史的意味付けについて理解し，説明できるようになることを目標とする。また，そうした基礎的な理解の上に立ち，個別の文学作品を実際に手に取り読み進められるようになる。

◆学修方法・留意点
各回に指定された教科書内容を精読にとどまるのではなく，そこで紹介･解説されている作品を実際に読み，その文学史的意味付けを説明できるようにすること。とくに読んでもらいたい作家名は各回の「テーマ」内に名前を記しておくので参考にしてもらいたい。また，理解を深めたい受講生は適宜参考文献も参照すること。

◆学修計画

1回目	「Ⅰ　文明開化と「文学」の変容」の学習（14～29ページ） テーマ：戯作・翻訳小説・政治小説の時代（仮名垣魯文・矢野龍渓）
2回目	「Ⅰ　文明開化と「文学」の変容」の学習（29～37ページ） テーマ：「小説」とノベル・二葉亭四迷の苦闘（坪内逍遥・二葉亭四迷）
3回目	「Ⅱ　明治中期の小説文体」の学習（38～49ページ） テーマ：　言文一致の挫折と森鷗外の登場・硯友社と紅露時代（森鷗外・尾崎紅葉・幸田露伴）
4回目	「Ⅱ　明治中期の小説文体」の学習（49～62ページ） テーマ：雑誌『文学界』と樋口一葉の時代・泉鏡花と国木田独歩
5回目	「Ⅲ　自然主義文学と漱石・鷗外」の学習（63～70ページ） テーマ：『破戒』と『蒲団』（島崎藤村）
6回目	「Ⅲ　自然主義文学と漱石・鷗外」の学習（71～74ページ） テーマ：芸術と実生活（田山花袋）
7回目	「Ⅲ　自然主義文学と漱石・鷗外」の学習（74～79ページ） テーマ：自然主義と写生文の動向（徳田秋声・正宗白鳥・岩野泡鳴）
8回目	「Ⅲ　自然主義文学と漱石・鷗外」の学習（79～87ページ） テーマ：反自然主義と漱石・鷗外の時代（夏目漱石・森鷗外）
9回目	「Ⅳ　大正文壇の成立」の学習（88～94ページ） テーマ：耽美派の成立（永井荷風・谷崎潤一郎）
10回目	「Ⅳ　大正文壇の成立」の学習（95～102ページ） テーマ：白樺派の作家たち（武者小路実篤・志賀直哉・有島武郎）
11回目	「Ⅳ　大正文壇の成立」の学習（102～111ページ） テーマ：「新思潮」と大正期教養主義（芥川龍之介・『青鞜』と女性作家・奇蹟派の作家）
12回目	「Ⅴ　マルキシズムとモダニズム」の学習（112～115ページ） テーマ：「心境小説」の成立（志賀直哉・芥川龍之介）
13回目	「Ⅴ　マルキシズムとモダニズム」の学習（116～122ページ） テーマ：プロレタリア文学の隆盛（葉山嘉樹・平林たい子・小林多喜二）
14回目	「Ⅴ　マルキシズムとモダニズム」の学習（122～127ページ） テーマ：新感覚派と横光・川端（横光利一・川端康成）
15回目	「Ⅴ　マルキシズムとモダニズム」の学習（127～135ページ） テーマ：モダニズム文学の系譜（伊藤整・井伏鱒二・梶井基次郎・堀辰雄・牧野信一・坂口安吾）

◆参考文献
『日本文学史　近代・現代篇二』ドナルド・キーン（中公文庫，2011年初版）
『日本文学史　近代・現代篇三』ドナルド・キーン（中公文庫，2011年初版）

科目コード	科　目　名	単位数
M31000	国文学講義Ⅵ（現代）	4単位

教材コード　000361
教　材　名　『現代日本文学史』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　大久保　典夫・高橋　春雄・保昌　正夫・薬師寺　章明
出 版 社 名　笠間書院
I S B N　9784305001382

◆教材の概要

本教材は，日本の近代から現代に至る文学的特性と作家群像を把握するように執筆されている。それぞれの章立てが概説と具体的作品例から成り立っている。作品の主題や問題点の理解にはそれぞれの作品内容の概要を把握しておかないと不可能なので，用例を丹念に読み込み文学史的意義や特色を把握していただきたい。そのためには簡単な文学辞典などの参考書を座右に置いてほしい。

◆学修到達目標

昭和期の文学史のながれについて学び，個々の文学者・文学作品の同時代的意義および文学史的意味付けについて理解し，説明できるようになることを目的とする。また，そうした基礎的な理解を踏まえつつ，個別の文学作品を実際に手に取り読み進められるようになる。

◆学修方法・留意点

作品名を覚えるのではなく，作品を実際に一つでも読み終えるようにしてください。

◆学修計画

1回目	「昭和文学の出発」について学ぶ（63~75ページ）
2回目	「モダニズム文学の系譜」について学ぶ（76～90ページ）
3回目	「プロレタリア文学の展開」について学ぶ（91～103ページ）
4回目	「転向と文芸復興」について学ぶ（104～116ページ）
5回目	「戦時下の文学」について学ぶ（117～129ページ）
6回目	「昭和二〇年代の文学」について学ぶ（130～147ページ）
7回目	「昭和三〇年代の文学」について学ぶ（148～160ページ）
8回目	「昭和四〇年代の文学」について学ぶ（161～174ページ）
9回目	「昭和五〇年代以降の文学」について学ぶ（175～190ページ）
10回目	「昭和の評論」について学ぶ（193～204ページ）
11回目	「昭和の女流文学」について学ぶ（205～220ページ）
12回目	「昭和の大衆文学」について学ぶ（221～234ページ）
13回目	「昭和の児童文学」について学ぶ（235～248ページ）
14回目	「昭和の演劇」について学ぶ（249～267ページ）
15回目	「昭和の詩」および「昭和の短歌俳句」について学ぶ（268～296ページ）

◆参考文献

特になし。

科目コード	科　目　名	単位数
M31400	国語音声学	4単位

教材コード　000266
教　材　名　国語音声学
著 者 名 等　栗林　均

◆教材の概要

教科書は第1章から第6章までの6章によって構成される。これを，第1章から第4章までの前半と，第5章から第6章までの後半に分ける。

前半は国語音声学や音声学の基本的な理解と，母音・子音という分類に基づいて日本語に用いられている個々の音声を学ぶ。

後半はそれらの音声が結合する際に生じる現象，音声が結合して構成される日本語の音節，さらに音節にかぶさる形で存在しているアクセントやイントネーションについて学修する。

◆学修到達目標

・日本語の音声・アクセント等についての基礎的な知識を習得するとともに，その研究方法を学ぶ。
・音声学，日本語音韻論を学ぶことにより，国際音声記号での音声表記ができるようになる。
・音声を音韻に抽象化していく方法を知り，各自の音韻体系が明示できるようになる。

◆学修方法・留意点

国語音声学では，難しい発音を練習して習得するということは必要ない。国語の音声は日常の生活にあふれており，私たちが普段耳にし，自分でも発しているものである。見慣れない発音記号は難しく思われるかもしれないが，実際の音と対応させながら学ぶようにすることが大切である。「実際の発音」「発音記号」「調音的な特徴」を切り離さずに学ぶと効率が上がる。アクセントの場合も，「実際のアクセント」「アクセント表記」「アクセント型」の3つを1つとして，学修を進めていただきたい。

◆学修計画

1回目	音声学とは何か
2回目	国際音声記号
3回目	音声器官，発音の仕組み
4回目	母音（1）母音の特徴
5回目	母音（2）日本語の母音
6回目	母音（3）色々な母音
7回目	子音（1）子音の特徴
8回目	子音（2）日本語の子音
9回目	子音（3）色々な子音
10回目	異音
11回目	日本語のリズム（拍・音節・フット）
12回目	日本語のアクセント
13回目	日本語のイントネーション
14回目	方言の音声
15回目	音声の記述・調査

◆参考文献

『新明解アクセント辞典　第2版　CD付き』秋永一枝編（三省堂　2014）
『NHK日本語発音アクセント新辞典』NHK放送文化研究所（NHK放送文化研究所　2016）
『朝倉日本語講座3　音声・音韻』上野善道編（朝倉書店　2003）
『国語アクセントの史的研究　原理と方法』金田一春彦（塙書房　1974）　※金田一春彦（2005）『金田一春彦著作集7』玉川大学出版に再録
『現代言語学入門2　日本語の音声』窪薗晴夫（岩波書店　1999）
『講座方言学』日野資純・飯豊毅一・佐藤亮一編（国書刊行会）　※ブロック別
『日本のことばシリーズ』平山輝男監修（明治書院）　※都道府県別，刊行中
『日本語アクセント入門』松森晶子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古編著（三省堂　2012）

科目コード	科　目　名	単位数
M31500	漢文学Ⅰ	4単位

教材コード　000437
教　材　名　漢文学Ⅰ
著 者 名 等　舘野　正美

◆教材の概要

本教材は「基礎編」と「詩文編」とから成り，漢文学全般を網羅した内容となっている。いわゆる“漢文”の基礎を学び，少しずつ漢文が読めるようになるための，いわば“トレーニング”の書である。しかし，実際のところ，内容を考えることなく，ただその字面だけを追うのは，大学で学問としての“漢文学”を修めることではない。中国の古典文献，すなわち“漢文”の持つ，深く豊かな内容に触れながら，そして，少しずつでもその内容を理解しながら“学問の力”をつけていただきたい。

◆学修到達目標

漢文の基礎を学び，漢文が読めるようになることを目的とする。また，漢文の語法や漢字の意味を覚えることにとどまらず，常に問題意識を持って，中国の古典文献を読む習慣を身につける。

◆学修方法・留意点

漢文学の内容は極めて広く深淵である。したがって，文学史全体を概観した上で，それぞれの詩文について学ぶことが重要である。単なる字面の解釈や丸暗記ではなく，その深く豊かな内容をじっくりと味わっていただきたい。

◆学修計画

1回目	「基礎編」漢文とは　訓点について　書き下し文（訓読）・漢文の基本文型について
2回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『詩経』
3回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『楚辞』
4回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『論語』
5回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『孟子』
6回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『荀子』
7回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『易経』
8回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『老子』
9回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『荘子』
10回目	「詩文編」春秋戦国時代の詩文　『韓非子』
11回目	「詩文編」秦代の文　『呂氏春秋』「尽数篇」における中国古代思想の概観　具体的な養生方
12回目	「詩文編」秦代の文　『呂氏春秋』〈形気〉の流動　「尽数篇」の作者　「尽数篇」の基本的な医学思想
13回目	「詩文編」秦代の文　『呂氏春秋』『呂氏春秋』全書に亘る，中国古代医学思想の概観　基本的な認識
14回目	「詩文編」秦代の文　『呂氏春秋』　気の液体病理学説　　運命論との関係　　まとめ
15回目	「詩文編」『呂氏春秋』における神話的記述

◆参考文献

テキストの該当箇所をご覧ください。

科目コード	科　目　名	単位数
M31600	漢文学Ⅱ	2単位

教材コード　000108
教　材　名　漢文学Ⅱ
著 者 名 等　青山　宏

◆教材の概要

本教材は，「詩編」と「文編」とから成り，漢文学全般を網羅した内容となっている。「詩編」では，各時代の詩の特徴を簡潔に述べた後，代表的な詩人と，その作品を紹介している。「文編」では，儒家の典籍から，我が国の文化習俗に関係の深い晋・梁の文，並びに宋代以降の文までを扱っている。

なお「詩編」と「文編」のいずれの詩文にも，訓読が付せられており，語釈と解説も充実している。これにより，漢文学の基礎知識の確認と，それぞれの詩文の，文学史上の位置づけを知ることができる。また，学習の便宜とより深い理解のために，参考書と研究問題とが付せられている。

◆学修到達目標

「詩編」においては，詩について正しく解釈すると同時に，その詩の文学史上の位置づけについても理解する。

「文編」においては，各章ごとの目標を明確に理解し，さらに自ら問題意識を持つ態度を身につける。

◆学修方法・留意点

基本の理解が第一である。そのためには教材を繰り返し読み，不明な点を後に残さないこと。教材中の本文に付せられた語釈で足りないところは，漢和辞典や参考書を活用すること。

◆学修計画

1回目	「詩編」　宋詩　王禹偁から蘇軾まで
2回目	「詩編」　宋詩　黄庭堅から楊萬里まで
3回目	「詩編」　宋詩　陸游から范成大まで
4回目	「詩編」　宋詩　王質から蕭立之まで
5回目	「詩編」　詞（晩唐，南唐，宋）
6回目	「詩編」　金の詩　　元の詩
7回目	「詩編」　明の詩　　清の詩
8回目	「詩編」　研究問題
9回目	「文編」　儒家の典籍　『易』
10回目	「文編」　儒家の典籍　『論語集註』「學而時習之」，「巧言令色」，「貧而無諂」
11回目	「文編」　儒家の典籍　『論語集註』「道之以政」，「季路問事鬼神」，『大學』
12回目	「文編」　晋・梁の文
13回目	「文編」　宋代の文
14回目	「文編」　明・清の文
15回目	「文編」　研究問題

◆参考文献

参考文献は教材の各単位の後に掲げてあるので，よく目を通すこと。また，『漢文学Ⅰ』に掲げられた参考書類や注意書きを参照のこと。

科目コード	科　目　名	単位数
M31900	文章表現法	4単位

教材コード　000534
教　材　名　『テキスト　日本語表現』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　中村　昭　編著
出 版 社 名　明治書院
I S B N　9784625703027

◆教材の概要

本教材は，日本語表現において，現代社会に日本人の話し書く表現行動を総合的に考察し，日常の言語生活に役立つ基本的な情報を簡潔にまとめている。その構成は全六章からなり，第Ⅰ章と第Ⅱ章が総論にあたり，第Ⅲ章から第Ⅵ章までが各論に相当する。加えて，別冊の「ワークブック」が付属しており，各章末にある【課題】についての解説・解答例などが示されている。

◆学修到達目標

「人と話す」「文章を書く」という現代に生きる表現行動の基本を学び，表現力を高めることにより，各自の必要に応じて活用し，実践的な運用力を身につけることを目標とする。

◆学修方法・留意点

各章の理解と把握の後，【課題】に取り組み，別冊「ワークブック」を併読して，より理解を深めてほしい。なお，教材の箇条書きにして列挙している事柄，それに伴う解説，【課題】および付随の「ワークブック」の解説などに留意することが大切である。

◆学修計画

1回目	文章を書くための準備段階として人間の生活を支えることばの役割について学ぶ。
2回目	第Ⅰ章前半，日本語らしい表現の奥にいる日本人を考えた本質論について学ぶ。
3回目	第Ⅰ章後半，視点・伝達・語感・表現法の基本などの技術論について学ぶ。
4回目	第Ⅱ章，表現行動の基盤における表現行動のひろがり，仕組み，多様性の要素について学ぶ。
5回目	第Ⅱ章，表現行動の多様性の構成要素「人・場面・形式・の要素」について学ぶ。
6回目	第Ⅰ章，第Ⅱ章の課題に取り組む。付属の「ワークブック」を読む。
7回目	第Ⅲ章，文章を書く心構えと基本的な技術を学ぶ。
8回目	第Ⅲ章，基本的な技術，主題を生かす題材，文章構成などについて学ぶ。
9回目	第Ⅲ章，最適な用語，漢字の書き分け，句読点のルール，引用のエチケットなどについて学ぶ。
10回目	第Ⅳ章，人と話すことの基本的な心情について学ぶ。
11回目	第Ⅳ章，各種の談話場面での技術や留意事項について学ぶ。
12回目	第Ⅴ章，ジャンル別の文章を書き分ける基本とコツについて学ぶ。
13回目	第Ⅴ章，内容を中心とした各種文章の書き分けの具体的なことについて学ぶ。
14回目	第Ⅵ章，行動別の言語表現における具体的な留意点について学ぶ。
15回目	第Ⅳ章，第Ⅴ章，第Ⅵ章の課題に取り組む。付属の「ワークブック」を読む。

◆参考文献

付属の『学修指導書』に参考文献がある。

科目コード	科　目　名	単位数
N20100	イギリス文学史Ⅰ	4単位

教材コード　000111
教　材　名　イギリス文学史Ⅰ
著 者 名 等　岡崎　祥明・関谷　武史

◆教材の概要

教科書の前半部では，英文学の起りから18世紀のロマン主義前衛にいたるまでの変貌の姿を，社会的・思想的背景を視野に入れて説明してある。後半部では，前半部での説明をより確実に身につけるように，アンソロジーが編纂されている。重点主義を編纂の方針としてあるため，重要と思われる作品が厳選され，かなりの分量の引用がなされている。精読することによって作品への興味が自然に湧いてくる筈である。

◆学修到達目標

紀元前から18世紀初期までの主要なイギリス文学の流れとその特徴を学び，英文化・文学の理解を深める事を目的とする。

◆学修方法・留意点

① 教科書の前半部で時代背景と文学の流れを理解すること。
② 教科書の後半部で引用されている作品を，説明文と注釈を参考にして精読すること。

◆学修計画

1回目	第1章　Anglo-Saxon Englandの文学（歴史的背景，Anglo-Saxonの詩歌）
2回目	第1章　Anglo-Saxon Englandの文学（キリスト教の伝来とその影響，Anglo-Saxonの散文）
3回目	第2章　中世英語時代の文学（歴史的背景，ノルマン文化とその影響）
4回目	第2章　中世英語時代の文学（宗教文学，物語文学）
5回目	第2章　中世英語時代の文学（15世紀の英詩・散文）
6回目	第3章　文芸復興時代の文学（歴史的背景，文芸復興）
7回目	第3章　文芸復興時代の文学（英国文芸復興初期の文学，エリザベス朝の詩壇）
8回目	第3章　文芸復興時代の文学（エリザベス朝の散文文学・劇文学）
9回目	第4章　17世紀の英文学（歴史的背景）
10回目	第4章　17世紀の英文学（17世紀前期の英文学）
11回目	第4章　17世紀の英文学（王政復古時代の文学）
12回目	第5章　18世紀の英文学（歴史的背景）
13回目	第5章　18世紀の英文学（18世紀初期の英文学）
14回目	第5章　18世紀の英文学（ジョンスン博士の時代の英文学）
15回目	原作・原文の鑑賞，まとめ

◆参考文献

特になし。

科目コード	科　目　名	単位数
N20200	英文法	4単位

教材コード　000270
教　材　名　英文法
著 者 名 等　小川　睦子

◆教材の概要

英文理解のための基本的な文法事項だけをまとめてあります。取り上げている主な事項は，英文の構造・文を構成する語の分類と文中での機能・語のグループである句および節の構造と機能・その他です。それぞれの事項について２～３の例文を挙げてありますが，例文については独りでも理解できるようにできるだけ詳しく説明してあります。所々に簡単な練習問題があり，巻末に回答と説明をあげてあります。

◆学修到達目標

英文法全般の知識それを説明できる技術を身につける。

◆学修方法・留意点

英文法の基本は品詞とその機能です。これは語のレベルだけでなく句・節のレベルでも繰り返されますので，その繰り返しに気づき，覚えて下さい。

◆学修計画

1回目	第1章　文 (1-1 文とは；1-2 主部と述部；1-3 文の構成単位；1-4 英語構造と日本語構造；1-5 文の種類)
2回目	第2章　品詞とその機能 (2-1 名詞；2-1-1 名詞の機能；2-1-2 名詞の格；2-1-3 名詞相当語（類)；2-2 代名詞)
3回目	第2章　品詞とその機能 (2-3 形容詞；2-3-1 形容詞の種類；2-3-2 形容詞の機能；2-3-3 形容詞の語順；2-3-4 形容詞の比較；2-3-5 形容詞相当語（類))
4回目	第2章　品詞とその機能 (2-4 副詞；2-4-1 副詞の機能と位置；2-4-2 副詞の比較；2-4-3 副詞相当語（類))
5回目	第2章　品詞とその機能 (2-5 動詞；2-5-1 動詞の種類；2-5-2 動詞の活用)
6回目	第2章　品詞とその機能 (2-5-3 時制；2-5-4 動詞の法；2-5-5 動詞の態)
7回目	第2章　品詞とその機能 (2-5-6 句動詞；2-5-7 助動詞)
8回目	第2章　品詞とその機能 (2-6 前置詞；2-6-1 前置詞の機能；2-6-2 前置詞の目的語)
9回目	第2章　品詞とその機能 (2-7 接続詞；2-7-1 接続詞の種類と機能；2-7-2 従属節の種類と機能；2-8 間投詞)
10回目	第3章　準動詞 (3-1 句と語群；3-2 句の種類；3-3 循環性；3-4 準動詞の特徴)
11回目	第3章　準動詞 (3-4-1 動名詞；3-4-2 現在分詞；3-4-3 過去分詞)
12回目	第3章　準動詞 (3-4-4 分詞構文；3-4-5 不定詞)
13回目	第4章　関係詞節 (4-1 関係詞の種類；4-2 関係詞の機能；4-3 制限的用法と非制限的用法)
14回目	第4章　関係詞節 (4-4 関係詞が導く形容詞節；4-5 関係詞が導く名詞節；4-6 複合関係詞)
15回目	第5章　その他 (5-1 話法；5-2 分裂文；5-3 倒置；5-4 否定)

◆参考文献

『英文法解説　改訂三版』江川泰一郎著（金子書房，1991 年）
『ことばの意味と使用－日英語のダイナミズム』澤田治美・高見健一編（鳳書房，2010 年）

科目コード	科　目　名	単位数
N20300	英語文学概説	4単位

教材コード　000041
教　材　名　『ENGLISH LITERATURE』
著 者 名 等　Laurence D.Lerner
出 版 社 名　英宝社
I S B N　9784269230200

◆教材の概要

教材『ENGLISH LITERATURE』は英語を母国語としない外国人学生のために，詩，小説，劇を通して英米文学の鑑賞に至る道を教えてくれている。学生諸君は，著者の言わんとしていることに耳を傾けると同時に，各章に引用されている例文を，一片の例証として済ましてしまうのではなく，繰り返し熟読して，真の文学の鑑賞の方法を身につけなければならない。

◆学修到達目標

英米の文学作品の読み方を，豊富な例文と共に，原点から学び，詩，小説，劇を自らの力で鑑賞できるようにする。Lerner も言うように，作品を読む際は，批評を直ぐに読んだり，その作者の生涯を先に知ろうとはせずに，その作品と１対１で向き合うことで得るものがある。優れた作品に多く触れることは，文学を読む力を付け，その感動を味わうことにより，実り豊かな学びとなる。

◆学修方法・留意点

下記の「学修計画」に沿って勉強すること。引用例文を疎かにしてはいけません。

◆学修計画

1 回目	Literature and Language（1）　優れた文学は言葉の適切な使用にある。
2 回目	Literature and Language（2）　simplicity と freshness について学ぶ。
3 回目	Literature and Language（3）　precision と vigour について学ぶ。
4 回目	Literature and Society（1）　文学作品はそれが生まれた社会の人々によってしか鑑賞され得ないのか否か。
5 回目	Literature and Society（2）　Shakespeare などの文学作品の例を読む。
6 回目	Literature and Society（3）　Wordsworth などの文学作品の例を読む。
7 回目	Poetry（1）　詩の言葉の特性を日常の言葉と比較する。
8 回目	Poetry（2）　詩の法則について学ぶ。
9 回目	Poetry（3）　Hopkins などの詩の例を読む。
10 回目	The Novel（1）　優れた小説とは何であるか。
11 回目	The Novel（2）　小説の story と characterization について学ぶ。
12 回目	The Novel（3）　小説の plot と atmosphere について学ぶ。
13 回目	Drama: Shakespeare（1）　劇のねらいと特徴とは何か。
14 回目	Drama: Shakespeare（2）　劇の story と characterization について学ぶ。
15 回目	Drama: Shakespeare（3）　劇の plot と atmosphere について学ぶ。

◆参考文献

特になし。

科目コード	科　目　名	単位数
N30100	イギリス文学史Ⅱ	4単位

教材コード　000112
教　材　名　イギリス文学史Ⅱ
著 者 名 等　阪田　勝三・原　公章

◆教材の概要

イギリス文学史Ⅰに続いて，前半は「ロマン主義の時代」・「ヴィクトリア時代」・「第一次大戦までの時代」及び「現代まで」の主要なイギリス文学史の流れを，時代背景・主要作家・作品を解説しながら略述している。短い言葉の中に豊富な内容が込められている。後半は主要作品のアンソロジーで，ここに挙げられたまとまった長さの抜粋を熟読し，付けられたNotesを参照にすることにより，前半部の解説の具体的な肉付けが可能となる。

◆学修到達目標

18世紀後期から現代までの主要なイギリス文学の流れとその特徴を学び，英文化・文学の理解を深める事を目的とする。

◆学修方法・留意点

① ロマン主義詩人とヴィクトリア朝詩人の違い，また小説の発達という観点から流れを知る。
② 20世紀は19世紀と根本的にどのように異なるかを考えること。
③ 何より，ここに挙げられた作品を十分に読むこと。
④ Notesを十分に活用して，大小説の第1章がどのように書かれているかを理解すること。

◆学修計画

1回目	第1章　ロマン主義の時代（時代背景と想像力）
2回目	第1章　ロマン主義の時代（英詩の黄金時代）
3回目	第1章　ロマン主義の時代（散文文学）
4回目	第2章　ヴィクトリア朝時代（時代背景）
5回目	第2章　ヴィクトリア朝時代（ヴィクトリア朝時代思潮に対する批判）
6回目	第2章　ヴィクトリア朝時代（小説）
7回目	第2章　ヴィクトリア朝時代（詩）
8回目	第3章　世紀末から第一次大戦まで（時代背景）
9回目	第3章　世紀末から第一次大戦まで（小説）
10回目	第3章　世紀末から第一次大戦まで（詩）
11回目	第3章　世紀末から第一次大戦まで（演劇）
12回目	第4章　第一次大戦後から現代まで（時代背景，現代小説）
13回目	第4章　第一次大戦後から現代まで（現代詩）
14回目	第4章　第一次大戦後から現代まで（現代演劇）
15回目	第4章　第一次大戦後から現代まで（批評）

◆参考文献

市販の各種「イギリス文学史」を参考にするのもよいが，何よりまず教材を十分理解することが先決である。できれば英語で書かれた文学史を一読してほしい（初心者用にはロングマンや金星堂から出版されているものがよい）。教材に挙げられている作品の中から興味を感じたものを少しずつ読み進めるとよい。

科目コード	科　目　名	単位数
N30200	アメリカ文学史	4単位

教材コード　000536
教　材　名　『アメリカ小説入門』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　井上　謙治
出 版 社 名　研究社
I S B N　9784327375096

◆教材の概要

本教材は，アメリカ植民地時代から今日に至るまでのアメリカ文学の変遷を概観した書である。アメリカ合衆国は2世紀にわたりイギリスの植民地だったことにより，文学面にもイギリスの影響が多く見られる。しかしイギリスには無い広大な平原や，原住民との関係，そして歴史の浅さ故に新しい神話を築こうとする意志が，クーパーやメルヴィルやホーソンなどの多様な作品を生み出す動機となっている。各章に各作家の英語原典からの引用ページが有り，作家の英語に直に触れることができる。

◆学修到達目標

アメリカ文学の歴史と潮流，代表的作家の特徴と代表作を学ぶ。

教材 Chapter 1 の「独立から南北戦争まで」から Chapter 2 の「南北戦争以後第1次大戦前まで」を，前半とする。学修者は，まず教材を読み，各章ごとにその内容をノートにまとめる作業をする。有名作品は映画化されている場合が多いので，該当する DVD を図書館で借りれば良い。興味を覚えた作家は実際に英語原典を借りて，翻訳書と同時に読み進めれば良い。

教材 Chapter 3 の「二つの大戦の間」から Chapter 4 の「第二次大戦以降」を，後半とする。学修者は，まず教材を読み，各章ごとにその内容をノートにまとめる作業をする。興味を覚えた作家の作品は DVD を観て，実際に英語原典を借りて，翻訳書と同時に読み進めれば良い。原典に直に触れることが大事である。

◆学修方法・留意点

科目修得試験については，『科目修得試験の手引』で学習上のアドバイスとして指示する場合があるが，教材内容の理解にとどまらず，平素から自らが数多くの作家･作品に直接触れることが何よりも大切である。それから英語の基本文法はしっかり身につけるように努力すること。

◆学修計画

1回目	初期のアメリカ小説
2回目	アメリカン・ゴシック小説のはじまり
3回目	ニッカーボッカー派の作家
4回目	アメリカン・ルネッサンス
5回目	アメリカン・リアリズムの完成
6回目	自然主義小説
7回目	地方主義小説
8回目	ロスト・ジェネレーションの小説
9回目	1930年代の小説～社会小説～
10回目	第二次大戦後の小説
11回目	エスニック小説
12回目	ニューヨーカー派の小説
13回目	ビート・ジェネレーションの小説
14回目	白人女性作家
15回目	ポスト・モダニズム以後の小説

◆参考文献

アメリカ文学に関する著書は，和書・洋書を問わず無数に出版されている。何よりも心がけていただきたいのは自らが作品そのものに直接触れるという点である。

科目コード	科　目　名	単位数
N30300	英語史	4単位

教材コード　000117
教　材　名　『ブルック英語史　A HISTORY OF THE ENGLISH LANGUAGE』(学修指導書別冊)
著 者 名 等　G.L.BROOK・石橋　幸太郎・中島　邦男
出 版 社 名　南雲堂
I S B N　9784523300205

◆教材の概要

第１章「英語の発達」では英語の一般的な歴史的記述だけでなく，それ以前のインド･ヨーロッパ祖語（及び語族），ゲルマン祖語（及び語派）にまで説き及んで英語の成り立ちを述べる。第２章以降は「音韻論（音の変化）」「綴り字」「語形論（屈折の変化）「統語論（文構造の変化）について，古英語，中英語，近代英語と，各時代ごとの変化について概観する。

◆学修到達目標

英語はどういう系統の言語か，また，どのような歴史を経て今日の姿になったか，すなわち英語と英国社会との関係，また，音の史的変化，屈折の史的変化，文構造の史的変化について説明できるようになる。

◆学修方法・留意点

学修指導書を参考にして，テキストの重要・キーポイントとなる部分の英文を正確に理解する。

◆学修計画

1 回目	(p.1,l.1-p.8,l.11) Ch.I, Introduction
2 回目	(p.3,l.28-p.13,l.25) Ch.I, Indo-European & Germanic
3 回目	(p.13,l.26-p.28,l.28) Ch.I, Old English & Middle English
4 回目	(p.28,l.29-p.33,l.27) Ch.I, Modern English
5 回目	(p.34,l.1-p.41,l.16) Ch.II, Introduction & Indo-European
6 回目	(p.41,l.17-p.44,l.16) Ch.II, Germanic & Old English
7 回目	(p.44,l.17-p.48,l.19) Ch.II,
8 回目	(p.48,l.20-p.65,l.29) Ch.II, Middle English & Modern English
9 回目	(p.66-P.81) Ch.III Spelling
10 回目	(p.82,l.1-p.90,l.15) Ch.IV, NOUN, ADJECTIVE, ADVERB
11 回目	(p.90,l.16-p.99,l.1) Ch.IV, PRONOUN
12 回目	(p.99,l.2-p.114,l.2) Ch.IV, VERB
13 回目	(p.115,l.1-p.122,l.24) Ch.V, 統語法の変化，ラテン語・フランス語の影響 , false concord, genitive
14 回目	(p.122,l.25-p.128,l.3) Ch.V, It is me, relative pronoun, impersonal verb
15 回目	(p.128,l.4-p.136,l.20) Ch.V, verb, subjunctive, infinitive

◆参考文献

『図説英語史入門』中尾俊夫・寺島廸子著（大修館書店）他については『学修指導書』を参照

科目コード	科　目　名	単位数
N30400	英作文Ⅰ	2単位

教材コード　000120
教　材　名　英作文Ⅰ
著 者 名 等　上杉　明

◆教材の概要

本教材は，与えられた日本語を英文に翻訳する技術を養うことを目的に，そのために必要な知識や練習問題から成り立っている。よい英文を書くための注意，アドバイスに始まり，英文で頻繁に使われる動詞に焦点を置いた練習，主語の工夫の仕方，イディオム中心の英作文の練習となっている。

◆学修到達目標

8つの動詞を使って自分で英文を作れるようになる。

◆学修方法・留意点

① 辞書をまめに引くこと。
② 提出する前に，よくチェックし，基本的な誤りがないようにすること。

◆学修計画

1回目	英作文に取り組む前に
2回目	読むことと書くことと
3回目	英作文を実際に書くにあたって
4回目	チャレンジ―動詞句を主に
5回目	EXERCISE：8つの動詞を使って英文の作成
6回目	主語をどう工夫するか：His
7回目	主語をどう工夫するか：動名詞を用いる
8回目	主語をどう工夫するか：名詞節
9回目	主語をどう工夫するか：that で始まる主語
10回目	主語をどう工夫するか：形式主語の it
11回目	EXERCISE ＜ A ＞
12回目	EXERCISE ＜ B ＞
13回目	EXERCISE ＜ C ＞
14回目	EXERCISE ＜ D ＞
15回目	EXERCISE ＜ E ＞

◆参考文献

英和辞典
英英辞典

科目コード	科　目　名	単位数
N30500	英作文Ⅱ	2単位

教材コード　000121
教　材　名　英作文Ⅱ
著 者 名 等　上杉　明

◆教材の概要

本教材は，様々なイディオムの学修を通して和文英訳の練習をする前半と，エッセイを書くためのステップを踏んだ解説と学修をする後半とで成り立っている。

◆学修到達目標

動詞に名詞やその他の要素の加わったもの，前置詞句からなるイディオムを修得する。
英文のエッセイが書けるようになる。

◆学修方法・留意点

① 辞書をまめに引くこと。
② 提出する前に，よくチェックし，基本的な誤りがないようにすること。

◆学修計画

1回目	英語の様々なイディオムに親しもう：動詞＋名詞・その他の語句から成るイディオム
2回目	EXERCISE Ⅰ：日本文を英語に訳してみた後，解答を比べてみる
3回目	EXCERCIE Ⅰの回答を確認し，繰り返し音読する
4回目	英語の様々なイディオムに親しもう：前置詞から始まる成句の一群
5回目	EXERCISE Ⅱ：日本文を英語に訳してみた後，解答を比べてみる
6回目	EXCERCIE Ⅱの回答を確認し，繰り返し音読する
7回目	EXERCISE Ⅲ：日本文を英語に訳してみた後，解答を比べてみる
8回目	EXCERCIE Ⅲの回答を確認し，繰り返し音読する
9回目	自由英作文からエッセイへ：エッセイの形式についての説明を精読する
10回目	EXERCISE
11回目	EXERCISE：解説
12回目	エッセイの形式Ⅰ
13回目	EXERCISE
14回目	エッセイの形式Ⅱ
15回目	EXERCISE

◆参考文献

英和辞典
英英辞典

科目コード	科　目　名	単位数
N30600	英語音声学	4単位

教材コード　000413
教　材　名　『新装版　英語音声学入門』
著 者 名 等　竹林　滋・斎藤　弘子
出 版 社 名　大修館書店
I S B N　9784469245301

◆教材の概要

調音音声学の枠組みに基づき，英語音声の特徴が詳細かつ体系的に解説されているテキストです。付属のCD を利用し実際の音声を確認することができ，様々な発音練習と聴き取りの問題に取り組むことができます。日本語音声の解説が随所にありますから，身近なところから観察を始めて，英語音声の特徴を理解することに結びつけていくことができます。

◆学修到達目標

英語音声学の学修を進めていくにあたって，ふたつの目標があります。ひとつは「英語の音声・音韻体系の主要な特徴を理解すること」で，もうひとつは，「英語音声を自覚的に運用するための音声学的視点を身につけること」です。

◆学修方法・留意点

英語音声の特徴を２つに大別して学修を進めます。前半（ページ３～123）は分節的特徴で，様々な母音や子音と呼ばれる個々の音を対象とします。後半（ページ 125 ～ 224）は，音の連続とプロソディ（超分節的特徴）で，話しことばにおける発音の変化，アクセント，イントネーションを対象とします。付属 CD を利用して，必ず実際の音声を確認しながら学修を進めて下さい。CD をジッと聞いているだけでは英語音声を体験することはできません。皆さん自身がモデル・スピーカーの発音を再現することを目標に，ひとつひとつ注意深く観察しながら，大きな声で発音練習をしてみましょう。

◆学修計画

1 回目	現代英語の標準発音
2 回目	音声器官と音の分類
3 回目	母音（1）母音の分類，強母音と弱母音，短母音，長母音
4 回目	母音（2）二重母音，三重母音，弱母音，半弱母音
5 回目	子音（1）子音の分類，閉鎖音，摩擦音
6 回目	子音（2）破擦音，鼻音，側面音，半母音
7 回目	音の連続（1）音節，子音の結合，音節主音的子音を含む子音結合
8 回目	音の連続（2）語中の子音連続，語間の子音連続，音の脱落，同化
9 回目	アクセント（1）語アクセントと複合語アクセント
10 回目	アクセント（2）句アクセントと文アクセント
11 回目	アクセント（3）強形と弱形，リズム
12 回目	イントネーション（1）機能と構造
13 回目	イントネーション（2）各音調の用法と特殊なイントネーション
14 回目	音素，綴り字と発音（1）子音字と母音字に関係する規則性
15 回目	綴り字と発音（2）重子音字，弱音節と綴り字，注意すべき綴り字と発音

◆参考文献

参考文献は，テキスト巻末に解説付きで紹介されています。ここでは，そこに紹介されていないものを挙げます。

【International Phonetic Association のホームページ】https://www.internationalphoneticassociation.org/
【英語発音辞典】
Daniel Jones, Roach, Peter, James Hartman and Jane Setter.（2011）Cambridge English Pronouncing Dictionary. 18th Edition. Cambridge：Cambridge University Press.（CD-ROM 付）
Wells, John.（2008）Longman Pronunciation Dictionary. Third Edition. Harlow：Pearson Education Ltd.（CD-ROM 付）

科目コード	科　目　名	単位数
N30700	英語学概説	4単位

教材コード　000567
教　材　名　『日英対照英語学の基礎』
著 者 名 等　三原　健一・高見　健一
出 版 社 名　くろしお出版
I S B N　9784874246009

◆教材の概要

本教材は，英語学がどのような研究分野であるのかを学び，その上で，言語研究を行う上で必要な知識ならびにアプローチ方法にはどのようなものがあるのかを扱うものである。扱う領域は，音の構造（音韻論），語の構造（形態論），文や情報の構造（統語論），語や文の意味（意味論），会話で生じる含意（語用論），など多岐に渡る。

音韻論の章では，音素や音節など音に関わる性質や構造について学ぶ。形態論の章では，語を成り立たせている要素（形態素）に注目し，各形態素がどのような規則に基づき語を形成しているのかを学ぶ。統語論の章では，句の構造，移動，情報構造，視点など生成文法と機能的統語論の基礎を学ぶ。意味論の章では，語彙概念構造など述語分解のアプローチやメタファーやメトニミーなどこの分野で典型的に取り上げられる概念を学ぶ。語用論の章では，会話の含意が生じる仕組みになどについて考える。

◆学修到達目標

中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する，英語学的知見を身に付ける。具体的には，英語の音韻，形態，統語，意味，語用，そして，歴史的変遷及び国際共通語としての英語についての基礎的知識を修得することを目標とする。これら広範囲に渡る内容を，特に日本語と比較しながら学ぶことで，両言語にみられる様々な言語現象の不思議とそこに秘められたことばの面白さを感じてもらいたい。

◆学修方法・留意点

よりよい理解のためには，教科書をよく読むとともに参考文献はもとより他の関連する文献なども含めて，自ら積極的に学修を進めることが必要となる。

◆学修計画

1回目	音韻論入門（1）：母音と子音
2回目	音韻論入門（2）：音節とモーラ
3回目	形態論入門（1）：語という単位
4回目	形態論入門（2）：語形成のメカニズム
5回目	生成文法入門（1）：句構造
6回目	生成文法入門（2）：移動
7回目	機能的構文論入門（1）：文の情報構造
8回目	機能的構文論入門（2）：視点
9回目	語彙意味論入門（1）：意味関係，多義
10回目	語彙意味論入門（2）：意味役割，述語分解
11回目	認知意味論入門（1）：カテゴリー化
12回目	認知意味論入門（2）：抽象概念とメタファー
13回目	語用論入門（1）：発話の論理形式，表意と推意
14回目	語用論入門（2）：記述的使用と帰属的使用
15回目	その他関連領域：言語獲得，言語変化，など

◆参考文献

『探検！ことばの世界』大津由紀雄著（ひつじ書房，2004年）
『ことばに魅せられて　対話編』大津由紀雄著（ひつじ書房，2008年）
『日英語対照による英語学概論』西光義弘編（くろしお出版，1999年）
『ファンダメンタル英語学　改訂版』中島平三著（ひつじ書房，2011年）

科目コード	科　目　名	単位数
N30900	スピーチコミュニケーションⅠ	２単位

教材コード　０００１２３
教　材　名　Effective Communication Ⅰ
著 者 名 等　Kenneth E. Williams

◆教材の概要

Your text, “Effective Communication I” is a tasked based program. In this book you will move through a number of real life situations. You will “meet people”, “go shopping”, “call friends on the telephone”, and more. Try to do all of the conversations as well as you can! Have fun!

◆学修到達目標

This book is aimed at improving communication skills with a focus on speaking.
Efforts will be directed at using English in natural context and develop fluency.

◆学修方法・留意点

Your test will relate to your text and I will look to see if you understand the book!

◆学修計画

1 回目	Introduction
2 回目	Unit 1: Greeting Friends
3 回目	Unit 1: Greeting strangers
4 回目	Unit 2: Warm up and small talk with friends
5 回目	Unit 2: Getting to know strangers
6 回目	Unit 3: Giving personal information
7 回目	Unit 3: At a restaurant
8 回目	Unit 3: Shopping at a store
9 回目	Unit 4: Talking about your family
10 回目	Unit 5: Physical features
11 回目	Unit 5: Clothes and accessories
12 回目	Unit 5: Personality types
13 回目	Unit 6: Visiting foreign countries
14 回目	Unit 7: Using the telephone
15 回目	Unit 8: When we part

◆参考文献

A good, simple English-English dictionary will help you.

科目コード	科　目　名	単位数
N31000	スピーチコミュニケーションⅡ	２単位

教材コード　０００１２４
教　材　名　Effective Communication Ⅱ
著 者 名 等　Kenneth E. Williams

◆教材の概要

This book is designed to help you understand and communicate in English. The fill-in portions are designed to help you see how words and phrases are used to express what you want. You should spend time working on the parts in each unit and then see and use them in larger conversations.

◆学修到達目標

This book is aimed at improving communication skills with a focus on speaking.
Efforts will be directed at using English in natural context and develop fluency.

◆学修方法・留意点

Your test will cover information from the text. Therefore, I will check to see if you understand the book.

◆学修計画

1 回目	Introduction
2 回目	Unit 1: Requesting assistance
3 回目	Unit 1: Responding to requests
4 回目	Unit 1: Thanking someone
5 回目	Unit 2: Getting people to notice you
6 回目	Unit 2: Asking people to repeat statements
7 回目	Unit 2: Controlling the speed and volume of other people's speech
8 回目	Unit 3: Express yourself
9 回目	Unit 4: Time is on my side
10 回目	Unit 5: Everybody has one
11 回目	Unit 6: Likenesses and differences
12 回目	Unit 6: Appearances
13 回目	Unit 7: Whole numbers
14 回目	Unit 7: Number alternatives
15 回目	Unit 7: Measurements

◆参考文献

A good, simple English-English dictionary will help you.

科目コード	科　目　名	単位数
N31200	英米文学特殊講義	4単位

教材コード　000116

教　材　名　英米文学特殊講義

著 者 名 等　関谷　武史・原　公章・當麻　一太郎・寺崎　隆行

◆教材の概要

テキストは四人の執筆者がそれぞれ専門とする作品について論じた内容から成っています。各執筆者が長年に亘って研究してきた文学作品を論じたものであるだけに，内容はいずれも堅実かつ刺戦的です。扱われている作品を読み，本テキストを読むという行為を繰り返して，文学作品の読みの力を身に着けてください。

◆学修到達目標

1. 英文精読のポイントがわかる。
2. 論文の書き方がわかる。

◆学修方法・留意点

第１編では W.Shakespeare の４作品が取り上げられ，登場人物の心の探層が読解されています。また現代思想との関連で，「主体性」「アイデンティティ」「他者性」「無意識」等が問題とされ，Shakespeare 作品の今日的意味が論じられています。第２編では N. Hawthorne の２作品が取り上げられ，人物像，登場人物の言動，庭園の象徴性が作品のテーマとの関連において論じられています。また「愛」，「闇の力」，「原罪」等の問題が作家の宗教観と思想との関連において論じられています。第３編では G. Meredith の小説が Victoria 朝の精神風土との関連において論じられています。また，彼の作品に見られる「反逆精神」，彼が期待する「新しい読者」，彼が定義する「喜劇」または「喜劇精神」等の問題が論じられています。そして処女作から中期迄の作品が青年の心を表現したものとして論じられています。第４編では H. James の代表的作品が「自我」描写の変容の様を通して論じられています。初期から後期の作品に至る人物像の変遷，文体の変化，更には「アイロニー」，「リアリティー」，「視点」，「語り手」等の問題が作品に即して論じられています。

◆学修計画

1回目	第１編　ウィリアム・シェイクスピア　第１章 The Taming of the Shrew 論　第２章 The Merchant of Venice 論
2回目	第３章　Julius Caesar 論　第４章 Macbeth 論
3回目	第２編　ナサニエル・ホーソーン　第１章ナサニエル・ホーソーン　その I
4回目	第２章　ナサニエル・ホーソーン　その２ The Scarlet Letter（1850）
5回目	第３編　ジョージ・メレディスとヴィクトリア朝の精神風土　第１章と第２章
6回目	第３章　“the invisible hand of God”
7回目	第４章　“laisssez-faire”
8回目	第５章　“sentimentalism”
9回目	第６章　“the period of growth”
10回目	第７章　“the Comic Spirit”
11回目	第４編　ヘンリー・ジェイムズの小説　第１章　ジェイムズ的アイロニー
12回目	第２章　批評的態度と創造的態度
13回目	第３章　選択と自由幻想
14回目	第４章　短編小説の場合
15回目	第５章　「喜劇性」と「悲劇性」

◆参考文献

各論文の註または学習指導書に挙げられている文献を読んで下さい。更にそれらの文献の巻末に挙げられているものを読むといったようにして勉強の幅を広げていってください。

科目コード	科　目　名	単位数
N31300	放送英語	2単位

教材コード　000128
教　材　名　放送英語
著 者 名 等　真鍋　輝明

◆教材の概要

衛星放送などにより世界中のできごとが，リアルタイムで茶の間に入ってくる今日，実社会で活躍するにはTV & Radioの英語ニュースを直接理解することは極めて重要である。

この科目では，聴いて理解されることが目的である放送のスクリプトはどの様な特徴と要領をもって準備されるのか，また，放送送出の際，アンカーパーソン（キャスター，アナウンサー等）は，どの様な要領でニュースを伝えていくのか，その技術面などについても研究し，ニュース理解に役立てる。

◆学修到達目標

放送英語の活用法（How to make effective use of English Radio &TV Broadcasts）を修得する。

◆学修方法・留意点

① ニューススクリプト作成の基本（用語・文の特徴など）新聞英語との違いも。
② ニュースにおける即時性を重視したライティングの要領。
③ アナウンスに求められる自然なfl ow,clarityなどの習得のコツ。
④ 口語表現の活用とインタビューの要領，およびニュース聴取の演習（反復聴取）。

◆学修計画

1回目	放送英語ニュースのスクリプト作成
2回目	記事構成のあり方
3回目	放送英語ニュースの時制
4回目	スクリプトライティングについての実際上の注意
5回目	構成分譲の特徴と注意事項
6回目	News1~News60
7回目	News61~News110
8回目	“News announcing on TV & Radio” の研究
9回目	放送英語ニュースの自然なflow
10回目	音声の ”clarity” をめざして
11回目	アナウンスはpersonaltyまでも伝える
12回目	放送英語ニュースから多くの運用技術を学びとろう
13回目	News111~News160
14回目	News161~News220
15回目	学習指導書のEXERCISEに挑戦

◆参考文献

※『The Latest NEWS in English』茅ヶ崎方式月刊英語教本　北山節郎著（茅ヶ崎出版）

テキストには勿論，CDもついているので，反復聴取練習し，さらに，VOA, BBCの“Special English”（1分間120語程度の速さ）を努めて聴き，TVニュースもできるだけ頻繁に視聴するように努めることが参考となる。

科目コード	科　目　名	単位数
N31400	新聞英語	2単位

教材コード　000129
教　材　名　新聞英語
著 者 名 等　那須　弘三郎

◆教材の概要

この教材は第1単位〈1. News Story（a～e)〉，第2単位〈同（f～g)・2～5〉，付録の〈学習指導書〉の3部より構成されています。重点度をもとにした学修順序としては,① Headline の読み方(201 ～208 ページ)② Laed(書き出し)の語法と文法(209 ～ 212 ページ)続いて a. Social Life(社会面), e. Accidents(事故) Disasters（災害）Environment（環，境），Weather（天気），f～g Politics（政治），Bus, iness, Economy,, Money Market（企業，経済，市況）となっています。しかし広く学修する事を重視するならば，各項目の中より5～6問を選び，新聞記事らしく訳することを薦めます。　2～5の項目はリポート学修用としてかなり長時間をかけてください。

◆学修到達目標

英字新聞の記事の構造を理解して，英字新聞の英語の特徴を学び，英字新聞の記事をよむことになれるのを第一の目的とする。

◆学修方法・留意点

① ニューズストーリーは，如何なる場合でも“見出し”と“書きだし”だけは絶対に正確に訳すること。
② コラム，レヴィュー，レターズは最小限，全文の趣旨を把握しておくこと。
③ 新聞英語は Headline, Lead, Body という3つの構成部分から成っています。Headline は読者の注意を喚起するものであり，より簡潔な表現を求めて特有の表現法が試みられています。Lead は全文を要約するもので, その中には記事内容の要点が含まれており, その後の Body には補足説明が記されています。したがって，Lead 部を中心に 5W1H（who, what, where, when, why や how）の要素を把握し，全体の要旨を捉えるような読み方を心がけて下さい。

◆学修計画

1回目	ニュース・ストーリーを理解する
2回目	新聞英語の構成を理解する
3回目	Socaial life, Human Interest を訳してみよう
4回目	Culture を訳してみよう
5回目	Sports を訳してみよう
6回目	Science を訳してみよう
7回目	Nature, Accident, Disasters, Environment, Weather を訳してみよう
8回目	各項目中で最も興味を持てる記事を精読し，記事の製作者になったつもりで訳す
9回目	Politics を第3パラグラフまで速読しよう
10回目	Buisiness, Economy, Money Market を第3パラグラフまで速読しよう
11回目	News Story f.g の中から異種のもの1問を精読し訳してみよう
12回目	Columm, Review, Letters を精読・和訳してみよう
13回目	Advertisments を精読・和訳してみよう
14回目	Editiorial を精読・和訳しよう
15回目	News Flash を精読・和訳しよう

◆参考文献

※『新聞英語の学び方―語法中心』安田哲夫著(ジャパンタイムズ)その他, ジャパンタイムズ出版のものはもっとも Reliable でしょう。

科目コード	科　目　名	単位数
N31500	英米事情Ⅰ	2単位

教材コード　000414
教　材　名　『アメリカ社会文化史　American Society』
著 者 名 等　Robert H. Walker
出 版 社 名　南雲堂
I S B N　9784523066415

◆教材の概要

米国の文化的，歴史的，さらには宗教的背景を知ることで，国民性や精神性への理解が深まり，それが異文化理解の発端ともなる。アメリカ合衆国の成り立ちから現代へ移るアメリカ人の抱く基本的概念を紹介しながら，アメリカ人の自意識形成が説明されている。経済，工業，文化そしてヤンキーズムなどを，アメリカ社会の発展の中に描いている。特に，社会の変容に注目して読むこと。英文教材である。

◆学修到達目標

第1章から第4章までは初期のアメリカ合衆国のさまざまな歴史的変遷を説明している。アメリカ人の精神的考え方や支えが生まれている。ヨーロッパ文化 vs アメリカ文化の対比などに注目する。第5章から第8章までは近代文化のアメリカ合衆国である。経済, 工業, 近代社会へのアメリカ都市などを論じているので, それぞれの年代に応じながらまとめる。

◆学修方法・留意点

初期のアメリカ合衆国も大切であるが，第7章，第8章を理解することにより，現代のアメリカ社会を分析しやすくなる。現代アメリカ社会と初期のアメリカ社会を比較した上で共通点などを見つける。教材は英語で書かれている。教材の注を参照しながら，この英文教材中心にまとめておくこと。英文が読めるのが前提なので，日本語で書かれた理解しやすい他の参考文献中心にまとめないこと。

◆学修計画

1回目	序論，アメリカ合衆国の顕著な特徴
2回目	これから読む各章の内容と短いまとめ
3回目	植民地時代のアメリカについて
4回目	時代背景，宗教の時代と理性の時代
5回目	国民主義の形成，教育の展開
6回目	南部の綿工業と奴隷制
7回目	科学技術の衝撃
8回目	鉄道網の発達と科学技術への信仰
9回目	科学技術から都市の形成へ
10回目	工業化から近代都市文化の形成
11回目	第一時大戦後のアメリカ合衆国全盛の時代
12回目	1960年代後半からの反省の時代
13回目	反省から新しい思想の模索の時代
14回目	今日のアメリカ合衆国
15回目	マーシャル・プラン，キューバ危機，湾岸戦争

◆参考文献

教材135ページの参考文献紹介を参照する。

科目コード	科　目　名	単位数
N31600	英米事情Ⅱ	2単位

教材コード　000521
教　材　名　『Welcome to Britain ―英国の「いま」を知りたい』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　Tim Knight 編著
出 版 社 名　音羽書房鶴見書店
I S B N　9784755303616

◆教材の概要

本教材は英国の実情を多角的に紹介するものである。文化，教育，社会，政治などの題材から英国を知り，深く理解する。

◆学修到達目標

文化，教育，社会，政治などの現実に即したトピックに焦点を当てることで，英国がいかに英国らしさを保つかを理解する。また，その理解のうえで米国などの諸外国と比較し，類似点や相違点を通して英国の理解をさらに深めることができるようにする。

◆学修方法・留意点

リーディングのパートが大部分を占めるので辞書を使用して根気強く取り組むこと。また，内容理解の問題が精読の助けになる
ため大いに活用してほしい。

◆学修計画

1 回目	Chapter 1 The United Kingdom?
2 回目	Chapter 2 Tea
3 回目	Chapter 3 Social Class
4 回目	Chapter 4 Schools and education
5 回目	Chapter 5 University students and higher education
6 回目	Chapter 6 Women in society
7 回目	Chapter 7 Science, inventions and business
8 回目	Chapter 8 Politics and government
9 回目	Chapter 9 Multicultural Britain
10 回目	Chapter 10 Food
11 回目	Chapter 11 Music and fashion
12 回目	Chapter 12 Fantasy and castles
13 回目	Chapter 13 Language
14 回目	Chapter 14 The arts
15 回目	Chapter 15 Homes, gardens and the countryside

◆参考文献

特に指定はないが，英国に関する文献を必要に応じて参照してほしい。

科目コード	科　目　名	単位数
N31700	異文化間コミュニケーション概論	2単位

教材コード　000568
教　材　名　『Beyond Boundaries ―グローバル社会の異文化コミュニケーション―』
著 者 名 等　池口　セシリア・八代　京子
出 版 社 名　金星堂
I S B N　9784764739895

◆教材の概要

この教材は異文化間コミュニケーションの基礎知識を習得することを目的としたものである。異文化間コミュニケーションの理論を日常的な例を多く示しながら平易に解説している。国際化した社会で日常的に遭遇する異文化間コミュニケーションを建設的で有意義な体験とすることが出来るようになることが期待される。

◆学修到達目標

Unit I: Non-verbal Communication　文化による非言語コミュニケーションの違いを比較し，時間の概念についても注目する。
Unit II: Communicating with Words　言語によるコミュニケーション・スタイルの違いを理解し，アクティブ・リスニングによる問題解決の方法を知る。
Unit III: Diversity in Values　価値観の違いによるコミュニケーションの障壁を分析する。

◆学修方法・留意点

各チャプターの Warm-up セクションには，写真やイラストが含まれており，テーマを理解する手助けとなるので，考えてみると良い。

◆学修計画

1回目	表情とアイコンタクト
2回目	身振りと手振り
3回目	対人距離
4回目	時間の概念
5回目	男女のコミュニケーション・スタイル
6回目	文化とコミュニケーション・スタイル
7回目	自己開示
8回目	自分の意見や考えを主張する
9回目	アクティブ・リスニング
10回目	問題の解決
11回目	価値観の違い
12回目	自文化中心主義
13回目	コミュニケーションの障壁：ステレオタイプ
14回目	コミュニケーションの障壁：偏見
15回目	コミュニケーションの障壁：差別

◆参考文献

『異文化コミュニケーション・ワークブック』（八代京子著　三修社）

科目コード	科　目　名	単位数
P20100	哲学基礎講読	4単位

教材コード　000042

教　材　名　哲学基礎講読

著 者 名 等　宮原　琢磨

◆教材の概要

本教材は，17 世紀哲学上の古典であるアルノー，ニコル共著『論理学，別名思考の技法』の全訳に，訳者による「『論理学，別名思考の技法』研究序説」を付したものです。同書は，著者たちが属するポールロワイヤル修道会付属の「小さな学校」の教科書でもあり,「観念」「判断」「推理」「方法」の 4 部からなります。科学革命と宗教革命が進行し，かつての常識が通じなくなった時代に，過ちを避け，思考を正しく導くにはどうしたらよいと人々は考えたのでしょうか？　著者たちは，思考を,「観念（思い懐くこと）」から始まり，思い懐いたことについて「判断」を下し,そうした判断から「推理」を組み立てていくプロセスとして分析し，思考を正しく導く「方法」を確立しようとしました。デカルト，パスカルの影響の下に執筆されており,「方法」を重んじた近代合理主義を代表する著作といえるでしょう。　理性と信仰との間で揺れ動いた時代の精神史を考える上でも重要な作品です。

◆学修到達目標

『論理学，別名思考の技法』の読解を通して，西洋哲学の基本用語と問題意識を学ぶとともに，哲学書に親しみ，基礎的な哲学書を独力で読んでいくための力を身につけていく事を目的とします。また，併せて，近代的な人間の思考法の特質を理解することを目的とします。

◆学修方法・留意点

『論理学，別名思考の技法』は，様々な論点を含む著作です。最初から，すべての言葉を理解しようとしたり，議論の細部にこだわりすぎることはお勧めしません。この著作は，教科書として執筆されたものでもあり，分からない言葉が出て来ても，前後に説明があるか，おおよその理解で読み進めることができるように書かれています。哲学書の読解は，なれることが重要です。とにかく繰り返し，丁寧に読み込んでみて下さい。なお，同書はデカルト・パスカルの影響下に書かれた第一部，第四部と，古代以来の伝統的な内容の第二部，第三部に分かれると言えます。慣れていない人は，第一部と第四部から入るのが良いでしょう。また，下記の学習計画は，第一序説から順を追ってテーマ別に分けたものであり，時間配分などは考慮していません。実際の読解にあたっては，一章ずつ，ゆっくりと呼んでいくのが最善と思われます。訳者による解説が手引きとなるでしょう。

◆学修計画

1 回目	・良識とは何か？　論理学とは何か？　・観念の本質と起源
2 回目	・観念の対象，アリストテレスのカテゴリーへの批判　・事物の観念と記号の観念，記号の三分類
3 回目	・観念の単純と複合，そして抽象について　・観念の全称・特称―義性と多義性，内包と外延，スコラの 5 つの普遍概念，複合語の問題
4 回目	・観念の明晰性と判明性，曖昧性と不分明性―誤謬の原因 I. 子供時代の偏見　・同上―誤謬の原因 II. 原罪，ここでは道徳の観念が論じられる
5 回目	・同上―誤謬の原因 III. 言葉の多義性　・名前の定義と事物の定義　・指示語の曖昧性―化体について I.
6 回目	・判断（命題）の構成要素（名詞，動詞，等）に関する考察　・命題の種類，命題の対当
7 回目	・命題の単純，合成，複合　・特殊な命題における主辞と述辞を識別する規則，また全称と特称とを識別する規則
8 回目	・不分明な主辞―化体について II.　・命題が比喩として理解される際の規則―化体について III.　・学問における二種類の命題―分析命題と定義命題　・命題の換位について
9 回目	・推理の本性と分類　・単純三段論法について―非複合三段論法と複合三段論法
10 回目	・接続三段論法について―ストア派の論理学，　・それ以外の諸種の三段論法―両刀論法（ディレンマ），その他
11 回目	・拠点とその分類　・詭弁的（ソフィスト的）と呼ばれる誤謬推理
12 回目	・日常生活と普段の談話のなかで犯される誤謬推理　・オネット・オムについて
13 回目	・学的知識とその限界　・学的知識の方法―分析と総合
14 回目	・学的知識における定義，公理，証明の諸規則，学的知識の方法の統括　・独力で獲得できる知識と保証者の権威を必要とする知識
15 回目	・人間的出来事の判断を導く諸規則　・理性と信仰との関係―「第五版の編集者ニコル氏の緒言」を考える

◆参考文献

1.『ジャンセニスム』ルイ・コニュ（白水社）
2.『方法序説』岩波文庫，『デカルト＝エリザベト往復書簡』デカルト（講談社学術文庫）
3.『リヴァイアサン 1』「第一部，第四章，ことばについて」ホッブズ（岩波文庫），『物体論』「第一部，計算すなわち論理学」京都大学学術出版会

科目コード	科　目　名	単位数
P20200	西洋思想史Ⅰ	4単位

教材コード　000569
教　材　名　『西洋哲学史〔古代・中世編〕　フィロソフィアの源流と伝統』
著 者 名 等　内山　勝利・中川　純男　編著
出 版 社 名　ミネルヴァ書房
ＩＳＢＮ　9784623026630

◆教材の概要

本書では，古代ギリシア・ローマからキリスト教的中世世界までの西洋哲学思想の全体像が，網羅的に考究されている。膨大な原典資料を基礎とする史的考察を通して，哲学の伝統と本来のあり方が明確に描き出されるとともに，近年の文献学的研究成果をも踏まえて，今日的課題の解明にも寄与しうる新たな哲学的示唆が提示されている。古代と中世の思想的連続性を明示していること，東方神学やイスラム哲学も含めて中世思想の全体像を詳述していること，本文を補完するさまざまなトピックを扱ったコラムがあることも本書の特徴である。

◆学修到達目標

古代ギリシア哲学は西洋哲学の始まりであるとともに，一つの頂点でもある。中世キリスト教哲学は後の西欧思想の基底となっている。西洋思想の源流となるこれらの時代の哲学を学ぶことで，西洋思想の根幹を理解するとともに，西洋の歴史と文化への理解を深めることができる。それぞれの思想・学説の動機と意義を歴史的・社会的文脈の中で理解すると同時に，それらをたんなる過去の知識としてではなく，現代の問題を考える上でも役立てることができるようになることを目標とする。

◆学修方法・留意点

個々の思想家の説を独立したものとしてではなく，先行思想や，歴史的・社会的背景との関連において理解するよう心がけること。細部にこだわることもときには必要だが，思想の流れを歴史的文脈の中で大局的に理解することも重要である。教科書の修学と並行して，重要文献に関してはできるだけ原典の翻訳を読むことを勧める（教科書巻末の「文献一覧」を参照）。

◆学修計画

1回目	哲学の始まり（タレスからヘラクレイトスまで）
2回目	実在・運動・世界（エレア派から原子論まで）
3回目	ソフィストとソクラテス
4回目	プラトン
5回目	アリストテレス
6回目	エピクロス派とストア派
7回目	ヘレニズムの認識論
8回目	新プラトン主義と古代哲学の終焉
9回目	アウグスティヌス
10回目	スコラ哲学への道（偽ディオニュシウス・アレオパギタ，エリウゲナ，アンセルムス）
11回目	東方の神学とイスラムの哲学
12回目	アリストテレスとスコラ哲学（ボエティウス，十二世紀ルネサンス，オックスフォード学派，シゲルス）
13回目	トマス・アクィナスとその時代（アルベルトゥス，トマス，ボナヴェントゥラ）
14回目	後期スコラ哲学（ヘンリクス，スコトゥス，オッカム）
15回目	スコラ哲学の内面化（エックハルト，クザーヌス）

◆参考文献

『哲学の歴史　第1巻―哲学誕生【古代Ⅰ】』内山勝利編（中央公論新社，2008年）
『哲学の歴史　第2巻―帝国と賢者【古代Ⅱ】』内山勝利編（中央公論新社，2007年）
『哲学の歴史　第3巻―神との対話【中世】』中川純男編（中央公論新社，2008年）

科目コード	科　目　名	単位数
P20300	東洋思想史Ⅰ	4単位

教材コード　000392
教　材　名　東洋思想史Ⅰ
著 者 名 等　舘野　正美

◆教材の概要

この『東洋思想史Ⅰ』では，中国古代の春秋戦国時代から秦に至る年代の哲学思想が述べられています。いずれも東洋哲学の最も基本的な内容を今に伝えるものであると考えられます。

従って，それぞれに独自な内容を理解すると共に，それらを一貫して流れている基本的な考え方にも注意を払って勉強してください。

◆学修到達目標

テキスト中の中国古代の哲学者・思想家たちの哲学思想を理解する。それぞれの哲学思想相互の内容的なつながり―発展過程―に留意しつつ，それぞれの哲学思想の特質を把握する。

◆学修方法・留意点

中国古代の哲学者・思想家たちの深い哲学的思惟のポイントを押さえて理解し，頭の中で明確に把握できるように努めてください。

◆学修計画

1回目	中国古代の哲学思想Ⅰ　―春秋・戦国時代―　孔子の思想とその淵源
2回目	中国古代の哲学思想Ⅰ　―春秋・戦国時代―　孟子の性命論―その人性論と運命論―
3回目	中国古代の哲学思想Ⅰ　―春秋・戦国時代―　墨子における〈天〉と〈命〉―〈上帝〉の復活と宿命論―
4回目	中国古代の哲学思想Ⅱ　―戦国時代末期―　荀子における〈礼〉と〈命〉―荀子の定命論的礼理論について―
5回目	中国古代の哲学思想Ⅱ　―戦国時代末期―　『易経』の成立―“占い”の哲学的深化とその思想史的意義―　易占と『易経』についてなど
6回目	中国古代の哲学思想Ⅱ　―戦国時代末期―　『易経』の成立―“占い”の哲学的深化とその歴史的意義―　『易経』における定命論的運命論など
7回目	中国古代の哲学思想Ⅱ　―戦国時代末期―　老子と荘子―市中の隠者と山中の隠者―　老子―市中の隠者
8回目	中国古代の哲学思想Ⅱ　―戦国時代末期―　老子と荘子―市中の隠者と山中の隠者―　荘子―山中の隠者
9回目	中国古代の哲学思想Ⅲ　―先秦～秦代―　〈勢〉の理論―韓非子の政治理論の哲学的本質―　韓非子の人物・生涯など
10回目	中国古代の哲学思想Ⅲ　―先秦～秦代―　〈勢〉の理論―韓非子の政治理論の哲学的本質―　韓非子の人間観―その政治理論の哲学的背景―など
11回目	中国古代の哲学思想Ⅲ　―先秦～秦代―　秦代哲学思想概観―『呂氏春秋』における運命論の諸相，その基礎的理論の概観―
12回目	中国古代の哲学思想Ⅲ　―先秦～秦代―　『呂氏春秋』における運命論の諸相―更なる展開―
13回目	中国古代の哲学思想Ⅲ　―先秦～秦代―　『呂氏春秋』にみる中国古代医学思想の原初形態　「尽数篇」における中国古代医学思想の概観など
14回目	中国古代の哲学思想Ⅲ　―先秦～秦代―　『呂氏春秋』にみる中国古代医学思想の原初形態　全書に亘る中国古代医学思想の概観など
15回目	中国古代の哲学思想Ⅲ　―先秦～秦代―　『呂氏春秋』「本味篇」に見える伊尹説話についての，神話学的・哲学的視点からの概観

◆参考文献

テキストの該当箇所をご覧ください。

科目コード	科　目　名	単位数
P30100	宗教学基礎講読	4単位

教材コード　000044
教　材　名　『世界の宗教』
著 者 名 等　岸本　英夫
出 版 社 名　原書房
I S B N　9784562090020

◆教材の概要

わが国の宗教学を代表し得る執筆者たちが，客観的立場から世界の諸宗教について，その特徴と歴史とを記述したテキストです。個々の宗教について一応独立にあつかわれていますが,「インド人の宗教」と「仏教」,「ユダヤ教」と「キリスト教」「イスラム教」のように深い結びつきのあるものもあります。そういった結びつきにはよく注意して全体を読むように心がけて下さい。

◆学修到達目標

日本人には特に，戦後そして，新興宗教による刑事事件，近年仏教伝統宗派などで起こる不道徳な事件報道などにより,「宗教」というものに対する拒否反応を起こす人は多い。しかし,日本人の伝統･文化の中には,宗教的な思想が染み渡っており，宗教を除いては，身近な文化の理解もできない。そのため，宗教に対する偏見を取り除き，宗教とは何かを考え，その知識を前提とした世界や日本の宗教に対する基本的な知識を獲得する。

◆学修方法・留意点

宗教学は客観的な知識を問う学問です。信仰の深い理解や主観的な感想を求めるものではありません。客観的知識を得て，自らの経験などをもとに，できうる限り客観的に示すことがリポートでも試験でも求められます。そのつもりで学修して下さい。

◆学修計画

1回目	第一章　総説：宗教の定義や宗教の分類など
2回目	第二章　先史・未開社会の宗教：未開宗教研究の意義，未開宗教の特徴や変容など
3回目	第三章　古代宗教：古代西アジア・ヨーロッパ，アメリカ大陸の古代宗教など
4回目	第四章　ユダヤ人の宗教：起源と歴史的展開など
5回目	第五章　キリスト教：起源と古代教会の形成など
6回目	第五章　キリスト教：中世及び近世のキリスト教
7回目	第六章　イスラム：イスラム以前のアラビアと概観など
8回目	第七章　インド人の宗教：インドの自然，社会と文化，宗教
9回目	第八章　仏教：成立の背景，原始仏教から部派仏教へなど
10回目	第八章　仏教：大乗仏教の興隆と仏教哲学など
11回目	第九章　中国人の宗教：中国の風土と文化，中国社会の近代化と宗教など
12回目	第十章　日本人の宗教Ⅰ：日本列島の人文，古代日本人の文化と宗教など
13回目	第十章　日本人の宗教Ⅰ：神道理論の展開と現代神道など
14回目	第十一章　日本人の宗教Ⅱ：大陸宗教の受容と仏教の諸潮流
15回目	第十一章　日本人の宗教Ⅱ：諸宗教の役割と現代の状況

◆参考文献

テキストに文献目録があります。さらに勉強したい人は参照するとよいでしょう。街の書店にある信仰の立場にたつものや，あまりに大きなテーマのものはすすめられません。あわせてつかうなら，通信教育教材の『宗教学』や『宗教学概論』がよいでしょう。

科目コード	科　目　名	単位数
P30200	倫理学基礎講読	4単位

教材コード　000337
教　材　名　『ソクラテスの弁明ほか』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　田中　美知太郎・藤澤　令夫　訳
出 版 社 名　中央公論新社
I S B N　9784121600226

◆教材の概要

テキストには，プラトンの『ソクラテスの弁明』『クリトン』（以上二篇，第一分冊），『ゴルギアス』（第二分冊）が収められています。『ソクラテスの弁明』『クリトン』では，ソクラテス裁判とその後の出来事が取り上げられていますが，それらを通じて，ソクラテスの生き方（そして，死に方）が描かれ，私たち人間にとって「よく生きる」とはどのようなことかという問題が考察されています。『ゴルギアス』では，「弁論術とは何か」という問題を出発点としながらも，善，幸福，正義などの倫理的な問題が考察されていきます。

◆学修到達目標

倫理学（哲学）書の基本的な読み方を習得することを目標とします。それは，具体的には，1）作品の中でどのような問題が提起されているのかを理解し，2）その問題に対して著者（あるいは登場人物）がどのような主張をしているのかを読み解き，3）その上で，読み手であるわれわれ自身がその問題について主体的に考察する，というものです。上記の手法によって，倫理学（哲学）書を批判的に読解することができるようになります。

◆学修方法・留意点

この「倫理学基礎講読」の学修にあたっては，上記の手法に則り，何よりもまずテキストの三作品をじっくり読んで，それらの作品中の議論の筋道を正確に捉えるように心がけてください。そして，展開される議論や結論について，それが自分自身にとって納得できるものかどうかを主体的にじっくり考えてみてください。そして，もしそれが納得できないものであったなら，自分にとってはどのような点がどのような理由で納得できないのかをよく考えてみてください。

◆学修計画

1回目	『ソクラテスの弁明』の講読（1～10章）
2回目	『ソクラテスの弁明』の講読（11～20章）
3回目	『ソクラテスの弁明』の講読（21～30章）
4回目	『ソクラテスの弁明』の講読（31～33章）および，作品全体にわたる議論の整理・総括
5回目	『クリトン』の講読（1～10章）
6回目	『クリトン』の講読（11～17章）および，作品全体にわたる議論の整理・総括
7回目	『ゴルギアス』の講読（1～10章）
8回目	『ゴルギアス』の講読（11～20章）
9回目	『ゴルギアス』の講読（21～30章）
10回目	『ゴルギアス』の講読（31～40章）
11回目	『ゴルギアス』の講読（41～50章）
12回目	『ゴルギアス』の講読（51～60章）
13回目	『ゴルギアス』の講読（61～70章）
14回目	『ゴルギアス』の講読（71～80章）
15回目	『ゴルギアス』の講読（81～83章）および，作品全体にわたる議論の整理・総括

◆参考文献

あえて参考文献を挙げるならば例えば以下のものですが，これらはあくまでも「参考」文献であり，何よりも指定の三作品を自分の力で読み解くことが最も大切なことです。

『増補ソクラテス』岩田靖夫著（ちくま学芸文庫）
『プラトン―哲学者とは何か』納富信留著（日本放送協会）

科目コード	科　目　名	単位数
P30300	哲学概論	4単位

教材コード　000571
教　材　名　『哲学』
著 者 名 等　石浜　弘道・笠松　幸一・小山　英一・雨宮　久美・齋藤　隆・平野　明彦
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002199

◆教材の概要

本教材の構成は以下のとおりである。

「序論　哲学とは何か」「第1章　哲学と科学」「第2章　哲学と倫理（道徳）」「第3章　哲学と芸術」「第4章　哲学と宗教」「第5章　哲学と論理」「第6章　現代の哲学」。

各章は，哲学と密接に関係する領域（科学，倫理，芸術，宗教，論理）に着眼しつつ，哲学における主要な学説（理論）を説明する。「現代の哲学」では，ある主要学説が批判的に検討されて新たな人間観・世界観が提示される。

◆学修到達目標

私たちそれぞれが，自らの生活経験において自己の「有限性」を自覚し他者と「対話」し「懐疑・批判」の精神を保ちながら，「善（よ）く生きること」を目標とする。

◆学修方法・留意点

本教材の根幹は「人間とは何か」「私たちはいかに生きるべきか」である，このことを常に留意してください。（本教材「はじめに」）

◆学修計画

1回目	哲学とは何か：哲学すること，真とみなすことの諸相，哲学の効用。
2回目 3回目	哲学と科学：科学哲学とは何か，論理実証主義，科学的世界把握，プラグマティズム，探究の過程，統一科学運動，パラダイム論，新科学哲学，ローティのネオ・プラグマティズム，生態学的世界把握。
4回目 5回目	哲学と倫理（道徳）：倫理・倫理学，道徳・道徳哲学，ソクラテス，プラトン，アリストテレスの倫理，カント倫理学，功利主義倫理学（ベンサム，ミル），現代の正義論（ロールズ）。
6回目 7回目	哲学と芸術：美・芸術・美学，プラトンの美のイデア，アリストテレスの美学，プロティノス，美学理論（カント），ハイデガー，日本の芸道論（神道，華道，茶道，能楽・歌舞伎など）。
8回目 9回目	哲学と宗教：宗教に対する哲学の役割，宗教の超越性，宗教の合理化（カント，ティリッヒ），宗教の暴走，宗教の新たな可能性，霊性，ティリヒと大拙。
10回目 11回目 12回目	哲学と論理：思考の科学とオルガノン，言語と論理，論理学の基礎（1）概念・名辞，判断・命題，周延・不周延，思考の三原理，推理の種類（直接推理，間接推理），論理学の基礎（2）命題論理学，真理表，述語論理学，単称命題，量化命題（特称命題と全称命題）。
13回目 14回目 15回目	現代の哲学：近代哲学（カント以前），カントの「啓蒙の精神」，近代理性批判（キルケゴール，ニーチェ），理性への反省（ヴェーバー，ハイデガー，ヤスパース），コミュニケーション論，アドルノ，ホルクハイマーの現代文化批判，アーレントの近代批判，レヴィナスの「顔」と他者。

◆参考文献

各章における文末の「注」または最終頁の「参考文献」に確認してください。

科目コード	科　目　名	単位数
P30400	宗教学概論	4単位

教材コード　000139
教　材　名　宗教学概論
著 者 名 等　奈良　弘元

◆教材の概要

個々の宗教流派や宗派，教派などを対象とするのではなく，宗教全般を対象として，その事実を明らかにすることによって，宗教について正確な知識を得ることを前提とした教材です。歴史的な諸宗教を概観すると，宗教を構成している主たる要素は，思想・行動・集団・体験の四つと考えられます。これらの四つの構成要素を考察することによって，宗教についての全体像が明らかとなり，その基礎的知識が得られるものと考えられます。

◆学修到達目標

最初に，宗教学という学問が成立した背景やその立場を理解することを目標とします。その後，上記の概要でも述べた通り，個々の宗教や宗派に限定するのではなく，宗教現象全般を対象として，その基本的な特徴を四つの視点を柱とした概説を考察していくことによって，宗教全般に関する基本的知識の習得を目指します。

◆学修方法・留意点

教材を熟読吟味するとともに，その内容を自分の言葉で，正しく説明できるように心がけること。そのためには，具体的な事例を列挙できるように努め，また，説明のための論拠を持つように努めること。あいまいな言葉，意味不明な言葉は，必ず，辞書などで確かめること。

◆学修計画

1回目	宗教学の立場と分野①　宗教学成立の歴史的背景を学び，マックス・ミュラーに始まる宗教学の学問的立場を理解する。
2回目	宗教学の立場と分野②　宗教学の専門分野である宗教史学・比較宗教学・宗教現象学・宗教心理学・宗教社会学などを学ぶ。
3回目	宗教の諸類型　宗教の伝播性〔世界宗教・民族宗教・部族宗教〕，宗教の分化過程による諸類型について学ぶ。
4回目	宗教の構成要素　宗教思想・宗教行動・宗教行動・宗教体験からなる宗教の四つの構成要素を理解する。
5回目	宗教思想の諸相①　信仰の対象となる宗教的実在観の特徴，宗教的人間観について考察する。
6回目	宗教思想の諸相②　引き続き，宗教的世界観〔他界観・来世観〕を学び，宗教的なものの見方や考え方を考察する。
7回目	宗教行動①　信仰の表出としての行動形態である宗教儀礼の類型とその機能について考察する。
8回目	宗教行動②　祈り（礼拝）・修行・呪術・布教伝道と宗教的奉仕活動などの宗教行動について考察する。
9回目	宗教集団①　宗教集団の諸類型（チャーチ・セクト・デノミネーションなど）と組織化について学ぶ。
10回目	宗教集団②　宗教と経済・政治・社会変動（科学技術の発達・人口変動・経済的発展など）との関係性を学ぶ。
11回目	宗教体験①　宗教体験の特徴，宗教神秘主義についてシュライエルマッハーやオットーらの学説を通して学ぶ。
12回目	宗教体験②　宗教体験と無意識，宗教的人格の形成と成熟についてフロイトやオルポートらの学説を通して学ぶ。
13回目	宗教の機能①　宗教と人間，宗教の社会（政治・経済）へりかかわりについて多角的に考察する。
14回目	宗教の機能②　宗教と他の文化との調和・対立について学び，宗教の果たす役割を多角的に考察する。
15回目	宗教学の諸分野とその主要な業績　歴史学的研究・心理学的研究・社会学的研究・人類学的研究・比較現象学的研究について概観する。

◆参考文献

教材の主要参考文献（175 ～ 182 ページ）に示してあるとおりである。

科目コード	科　目　名	単位数
P30500	倫理学概論	4単位

教材コード　000572
教　材　名　『倫理学案内―理論と課題』
著 者 名 等　小松　光彦・樽井　正義・谷　寿美　編
出 版 社 名　慶應義塾大学出版会
I S B N　9784766412512

◆教材の概要

本書は「理論」と「課題」という二つの部分から構成されている。第Ⅰ部「理論」では，倫理的問題の所在が明らかにされ，それらに応えようとするさまざまな理論が提示される。倫理を問う現代の議論の中でおそらくもっともしばしば引き合いに出される義務論と功利主義，20世紀に生まれた現在進行形の理論であるメタ倫理学，討議倫理学，正義論，徳倫理学，ポストモダニズム，これらに先行し，それぞれ独自の視点で現在に続く問題を捉えている社会主義，生の哲学，実存哲学が論じられる。第Ⅱ部「課題」では，現代社会が直面する多様な課題をめぐる倫理学の取り組みが検討される。これらはしばしば応用倫理学と呼ばれるが，倫理学理論がたんに応用される場ではなく，むしろ理論が試され，鍛えられ，形成される場である。医療倫理と環境倫理を包括する生命倫理，情報倫理，経済倫理の課題とならんで，科学技術と倫理，貧困と飢餓，戦争と平和という地球規模の課題にも取り組む。

◆学修到達目標

第Ⅰ部では，さまざまな倫理学説を学ぶことで，倫理学の基本を理解するとともに，それらを現代社会と自分自身の問題を考えるうえでも役立てられるようになることを目標とする。さらに第Ⅱ部では，それぞれのテーマについて知識として理解するとともに，現代社会を生きる自分自身の問題として主体的に考察できるようになることを目標とする。

◆学修方法・留意点

教科書を読んでたんに知識として理解するだけでなく，自分自身の問題として主体的に考察を深めるように心がけること。教科書での修学と並行して，関心を持った事項については，教科書掲載の参考書等を用いてさらに知識と理解を深めること。

◆学修計画

1回目	義務論（義務論とは何か，カントの倫理学，批判と応答）
2回目	功利主義（古典的功利主義，修正と批判への応答，現代における展開）
3回目	社会主義（市民社会の理想と現実，社会主義の形成と展開）
4回目	生の哲学（ショーペンハウアー，ニーチェ，ベルクソン）　実存主義（キルケゴール，ヤスパース，ハイデガー，サルトル，マルセル）
5回目	メタ倫理学（メタ倫理学の展開,「知ること」と「行うこと」）　討議倫理学（討議倫理学の成り立ち,コミュニケーションの構造，討議倫理学の射程）
6回目	正義論（正義とは何か，ロールズの社会正義論，批判と応答）
7回目	徳倫理学（ソクラテスとプラトン，アリストテレス倫理学，徳倫理学の展開）
8回目	ポストモダニズム（フーコー，デリダ，ドゥルーズ，リオタール）
9回目	世代間倫理（世代間倫理の特性と必要性，ヨナスの未来倫理，理論と実践）
10回目	自然中心主義，動物の権利（西欧における動物と自然に対する態度，人間中心主義から動物の権利へ）
11回目	生命の始まりと終わり（生殖補助医療，ヒト胚の利用，安楽死）
12回目	福祉と優生学（福祉とは何か，どのような制度が必要か，だれが判断するのか）
13回目	科学技術（ゴジラ，ハクスリー『すばらしい新世界』，池澤夏樹『すばらしい新世界』）　情報（情報社会の光と影，情報社会におけるモラル，情報社会における倫理学）
14回目	経済活動（経済活動はいかになされるべきか，労働契約，企業における意思決定はどうあるべきか）
15回目	貧困と飢餓（現状，なぜ困窮者を助けねばならないのか，飢餓の問題をいかに解決するか）　戦争と平和（思想史的概観，基本的立場，現代の諸問題と展望）

◆参考文献

『倫理学概説』小坂国継・岡部英男編著（ミネルヴァ書房，2005年）
『21世紀の倫理』笠松幸一・和田和行編著（八千代出版，2004年）

科目コード	科　目　名	単位数
P30600	西洋思想史Ⅱ	4単位

教材コード　000570
教　材　名　『もういちど読む山川倫理』
著 者 名 等　小寺　聡
出 版 社 名　山川出版社
I S B N　9784634590717

◆教材の概要

指定した教科書のうち，本科目で「教材」として用いるのは，第2章及び第4章第2節である。第2章では，ルネサンスから現代にいたるまでの西洋思想，第4章第2節では環境倫理を取り上げている。なお，第2章にも環境問題を取り上げた箇所があるので，第4章第2節の学修にあたっては，まず第2章を学ぶことが必要である。

本教材を通じて，現代に生きる私たちの考え方がどのような源泉から生じてきたものなのかを学修する。

◆学修到達目標

ルネサンスに始まる西洋近代思想の流れを概観し，そのうえで20世紀の西洋思想を考察することにより，現代の考え方がどのような出発点から始まりどのような展開を経てきたものなのかを，理解できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

1）リポート作成にあたっては，「ポイント（課題の要点）」及び「キーワード」を，必ず確認すること。
2）科目修得試験は，下記の学修計画の1回目から15回目の範囲で出題される。
3）学修にあたっては，参考文献にあげる用語集を活用して，理解を深めていただきたい。
4）関心をもった哲学者がいたら，まずは翻訳でよいので，ぜひその哲学者の著作を直接読んでいただきたい。

◆学修計画　※下記の「　　」は教材の各項のタイトルを示す

1回目	・「ルネサンスと近代的人間像」（ピコ＝デラ＝ミランドラ，マキャヴェリなど）　・「宗教改革と信仰の心」（ルター，カルヴァン）
2回目	・「モラリストの人間観察」（モンテーニュ，パスカル）　・「近代科学の誕生」（ガリレイなど）
3回目	「経験論と合理論」（ベーコン，イギリス経験論の流れ＜特にロック・バークリー・ヒューム＞，デカルト，スピノザとライプニッツ）
4回目	・「自然法の思想」（グロティウス）　・「社会契約説」（ホッブズ・ロック・ルソー）
5回目	「カントと人格の尊重」（啓蒙思想，カントの批判哲学，理性と道徳法則，人格と目的の王国）
6回目	「ヘーゲルと精神の発展」（公共性，ヘーゲルと精神の哲学，弁証法の論理，人倫の三つの段階，哲学の使命，ドイツ観念論の流れ）
7回目	「社会主義の思想」（マルクスなど）
8回目	・「自由で公正な社会像」（アダム＝スミス，ロールズなど）　・ベンサム：最大多数の最大幸福，ミル：副産物としての幸福（以上2人の哲学者については，第2章第6節第1項「功利主義と幸福の追求」から）
9回目	「プラグマティズムと創造的知性」（パース，ジェームズ，デューイ，ポパー）
10回目	19世紀の実存主義思想＜キルケゴール，ニーチェ＞（第2章第7節第1項「実存としての自己」から）
11回目	20世紀の実存主義思想＜特にヤスパース，ハイデッガー，サルトル＞（第2章第7節第2項「現代の実存主義」から）
12回目	「生命への畏敬と非暴力」（シュヴァイツァーなど）
13回目	・「近代の理性への批判」（フランクフルト学派，ハーバマス）　・「構造主義と近代社会への批判」（フーコー，レヴィ＝ストロース）
14回目	・ハンナ＝アーレント：全体主義の起源（第2章第9節第3項「全体主義と大量虐殺への批判」から）　・ウィトゲンシュタイン：言葉についての哲学，クーン：パラダイムの変換，リオタール：「大きな物語」から「小さな物語」へ（以上3人の哲学者については，第2章第9節第4項「新しい思索の試み」から）
15回目	・レイチェル＝カーソン（第2章第2節第3項「科学技術と平和・環境問題」から）　・地球環境問題と私たち（第4章第2節）

◆参考文献

『倫理用語集』濵井修監修・小寺聡編（山川出版社，2014年）

科目コード	科　目　名	単位数
P30700	東洋思想史Ⅱ	4単位

教材コード　000438
教　材　名　東洋思想史Ⅱ
著 者 名 等　舘野　正美

◆教材の概要

この『東洋思想史Ⅱ』では，中国の漢の時代と，それに続く魏晋六朝の時代の思想史が取り扱われている。それぞれの哲学思想の有機的な連関について論及されているので，ただ単に時代順に記述を追うのではなく，それぞれの内容的な連関，いわば“ヨコのつながり”にも十分に留意して勉強していただきたい。

◆学修到達目標

中国の漢代から魏晋六朝時代の諸思想について理解する。それぞれの哲学思想相互の内容的なつながり―発展過程―に留意しつつ，それぞれの哲学思想の特質を把握する。

◆学修方法・留意点

常に通信教育教材『東洋思想史Ⅰ』を座右に置いて，それを参照しつつ勉強されたい。

◆学修計画

1回目	漢魏六朝思想概観　漢～三国時代の思想概況　曹操の思想
2回目	漢魏六朝思想概観　漢～三国時代の思想概況　諸葛亮の思想
3回目	漢魏六朝思想概観　魏晋六朝時代の思想概況　―竹林の七賢の思想―　阮籍の思想
4回目	漢魏六朝思想概観　魏晋六朝時代の思想概況　―竹林の七賢の思想―　嵇康の思想
5回目	漢魏六朝思想概観　魏晋六朝時代の思想概況　―竹林の七賢の思想―　山涛の思想
6回目	漢魏六朝思想概観　魏晋六朝時代の思想概況　―竹林の七賢の思想―　劉伶の思想
7回目	漢魏六朝思想概観　魏晋六朝時代の思想概況　―竹林の七賢の思想―　阮咸の思想
8回目	漢魏六朝思想概観　魏晋六朝時代の思想概況　―竹林の七賢の思想―　向秀の思想
9回目	漢魏六朝思想概観　魏晋六朝時代の思想概況　―竹林の七賢の思想―　王戎の思想
10回目	魏晋思想概説　何晏の思想　何晏の生涯，何晏の易学―その基本的思惟
11回目	魏晋思想概説　何晏の思想　荀子の易学
12回目	魏晋思想概説　何晏の思想　何晏の〈無〉，何晏と韓非子―その〈無為〉をめぐって
13回目	魏晋思想概説　王弼の思想　絶対無―〈至無〉―
14回目	魏晋思想概説　王弼の思想　運命論，王弼の運命論
15回目	魏晋思想概説　王弼の思想　〈自然〉の内容，〈至無〉―絶対無―

◆参考文献

テキストの該当箇所をご覧ください。

科目コード	科　目　名	単位数
P30800	日本思想史Ⅰ	4単位

教材コード　000137
教　材　名　『日本思想論争史』
著 者 名 等　今井　淳・小澤　富夫
出 版 社 名　ぺりかん社
I S B N　9784831502407

◆教材の概要

日本人の思想の歴史をみると，神道・仏教・儒教・キリスト教などの諸思想が複雑に交渉し合い，あるときは対立し，またあるときは融合しながら展開している。ある時代の新しい思想と思われるものも，何らかの意味で前時代の思想と関連し，また次代の思想に影響している。こうした日本思想史の流れを考察し，日本人の思惟方法の特色を明らかにするのが本教材のねらいである。

◆学修到達目標

古代から近世初期までの思想論争を学ぶことを通して，日本人の思想的営為について理解を深めるとともに，日本人の物の考え方やその現代的意義について考察する際の視野を広げることを目的とする。

◆学修方法・留意点

・それぞれの論争の焦点がどこにあるか，また両者の主張の違いはどこか理解すること。
・各論争の時代的背景について学修すること。
・各思想の，その当時における意義，また現代のわれわれの問題とどのようにするか考えてみること。
・原典の引用について，自分なりの現代語訳を付けておくと，内容が理解しやすくなる。

◆学修計画

1回目	古代・中世の仏教思想（第1章第1節　貴族仏教と民衆仏教をめぐる論争）
2回目	古代・中世の神をめぐる思想（第1章第2節　神道理論の成立と神仏習合論争）
3回目	『愚管抄』と『神皇正統記』（第2章第1節　中世における歴史意識をめぐる対立）
4回目	中世の美意識（第2章第2節　中世における文芸理論と美意識の対立）
5回目	キリスト教批判（第3章第1節　儒教・仏教とキリスト教の論争）
6回目	儒教の仏教批判（第3章第2節　儒教と仏教の論争）
7回目	徂徠学と反徂徠学（第3章第3節　儒教内部の論争）
8回目	国学と儒教（第3章第4節　国学と儒教の論争）
9回目	新旧武士道論の対立（第3章第5節　武士道論争）
10回目	赤穂浪士討入りの是非（第3章第6節　赤穂浪士討入り事件をめぐる論争）
11回目	近世の和歌と茶の湯（第3章第7節　近世における文芸理論と美意識をめぐる論争）
12回目	尊攘論と開国論（第4章第1節　幕末・維新における国家のあり方をめぐる論争）
13回目	明治初期知識人の問題意識（第4章第2節　『明六雑誌』における諸論争）
14回目	廃仏毀釈と仏教者（第4章第3節　廃仏毀釈論争）
15回目	国民道徳論について（第4章第4節　国民道徳論をめぐる論争）

◆参考文献

教材巻末の文献目録を参照すること。

科目コード	科　目　名	単位数
P31000	哲学特殊講義	4単位

教材コード　000345
教　材　名　哲学特殊講義
著 者 名 等　宮原　琢磨

◆教材の概要

本教材は，アルノー（1612–94）の『真なる観念と偽なる観念』（1683）の全訳に，訳者による解説論文「アルノーにおける知のシステム」を付したものである。同書は，近代の重要な哲学論争であるアルノー＝マルブランシュ論争を代表する著作である。論争の中心は，認識の基礎となる「観念」をめぐるものであり，デカルト主義の核である自己認識の明証性にも関わる。共にデカルト主義者でありながら，マルブランシュは自己認識の明証性を否定し，アルノーは擁護したが，こうした違いは，「観念」に対する理解の違いから生じたものである。彼らの議論は，ロックやヒュームなどイギリス経験論にも影響を与え，近代哲学の発展に大きな影響を及ぼすことになった。同書は，アルノーの認識論の核心を伝える，近代認識論の要ともいうべき著作である。

◆学修到達目標

本講座の目標とするのは，古典とされる哲学書を丁寧に読み解いていくという事それ自体である。また読解を通して，近代哲学のなかで観念がいかに重要な役割を担っていたのかを理解し，近代の黎明期に，哲学がどのような可能性と問題を含んでいたのか，そして彼らの論争の後になぜイギリス経験論やカントの批判哲学が現れることになったのかを考えてもらうことである。

◆学修方法・留意点

アルノーの『真なる観念と偽なる観念』は，マルブランシュの『真理の探究』への論駁書である。あらかじめ同書「第三巻第二部観念の本性について」を読んでおくことが望ましい。アルノーは，マルブランシュを一方的に批判するのではなく，彼の著作から多くの引用を行っており，いわば対話篇のような構成をとっている。多様な観点からなされる議論を理解するためには，読者も，性急に結論を下すのではなく，その対話に加わり，共に考えることが求められる。なお，下記学習計画はほぼ教材の章立てを踏まえおり，議論はいくつかのブロックに分かれている。両名による観念の定義の違い，マルブランシュによる観念の定義の変遷を押さえた上で，各章の中で，観念という言葉が，どのような意味で扱われており，何が争点となっているのかを常に意識して読解を行うことが求められる。

◆学修計画

1回目	・真理の探究のために守られるべき諸規則について　・人は自らの魂について何を知りうるか
2回目	・観念とは何か―思考，知覚，表象的存在（マルブランシュによる観念の定義の変遷 I.）　・少年期の偏見について（「現前」という言葉について）
3回目	・マルブランシュの観念説への論駁のための定義，公理，公準　・「無媒介的」という言葉について
4回目	・表象的存在への反駁，1.「それ自体によって」事物を認識するとはどのような事か　・同　2. 人は魂から隔たった対象を認識しうるかー場所的現前と思念的現前
5回目	・同　3. 実際に存在する物体の認識に表象的存在は役立つのか　・同　4. 神の意志は最も単純な方法によって実現される
6回目	・同　5. 叡知的物体について，「まなざす」と「見る」について　・マルブランシュは観念の意味を表象的存在から拡大した―数，延長，本質，永遠真理（マルブランシュによる観念の定義の変遷 II.）
7回目	・マルブランシュは表象的存在について自らのテーゼを変更した―無限なる叡知的延長（マルブランシュによる観念の定義の変遷 III.）　・無限なる叡知的延長について，その矛盾点（形相的と優勝的，その他）
8回目	・無限なる叡知的延長について，その有効性　・無限なる叡知的延長について，感覚経験についての考察
9回目	・神のうちに事物を見る事と神を見る事　・マルブランシュへの反駁を受け入れさせない3つの先入見
10回目	・マルブランシュによる事物を認識する4つの方法について　・自己認識の問題―物体認識と自己認識の在り方が異なることは論証されない
11回目	・自己認識の問題―観念の明晰さに関する10の議論
12回目	・自己認識の問題―前回の議論から引き出される4つの先入見　・他我認識の問題
13回目	・神認識の問題―神の観念について，神の存在証明について
14回目	・観念の起源について―自由の問題が含まれる
15回目	・物体の存在は知られうるか

◆参考文献

「観念の本性について」山田弘明訳，山田弘明著『真理の形而上学』マルブランシュ（世界思想社）所収
『マルブランシュ―マルブランシュとキリスト教的合理主義』アルキエ，藤江泰男訳（理想社）
『論理学，別名思考の技法』アルノー，ニコル共著，宮原琢磨訳（通信教育教材）

科目コード	科　目　名	単位数
P31300	科学哲学	4単位

教材コード　000573
教　材　名　『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）
著 者 名 等　野家　啓一　著
出 版 社 名　筑摩書房
I S B N　9784480095756

◆教材の概要

本教材は，「科学とは何か」という問いに，歴史的・哲学的・社会的観点からのアプローチがなされている。まず，科学の誕生・発展を明らかにするために，科学革命のプロセスが言及される。次に，科学理論の経験的基盤や論理的構造，あるいは理論転換のメカニズムなどを解明する方法論的分析が取り上げられ，20世紀に出現した科学哲学の潮流の間の論争を振り返りつつ，科学という知的な営みの本質を理解へと導いている。最後に，科学が技術と結合して「科学・技術」へと変貌していく過程を，科学社会学の観点から，トランスサイエンスとして把握している。

◆学修到達目標

この講座の目標は，近世の科学革命のプロセスをたどり，現代の科学という知的な営みの本質を理解し，さらには，科学技術の先端化と社会的リスクの増大とが表裏一体であることに言及することにより，科学技術の実践に必要不可欠な「倫理」あるいは「社会的説明責任」について考察できる能力を養うことにある。

◆学修方法・留意点

各章，各節を熟読してください。第1章は，科学革命に至る流れをしっかり把握すること。第2章は，論理実証主義がどのようにして乗り越えられていくのかをつかむこと。第3章は，科学技術神話がいかにして崩壊したか，そして，その哲学的背景である，事実と価値が，現代には，峻別不可能であることを読み取ること。

◆学修計画

1回目	「科学」という言葉　知識から科学へ，科学という日本語，科学者の登場
2回目	アリストテレス的自然観　古代ギリシアのコスモロジー，古代天文学と運動論のセントラル・ドグマ
3回目	科学革命1　コスモスの崩壊（コペルニクス，円の魔力，ケプラー）
4回目	科学革命2　自然の数学化（ガリレオ，天と地の統一，ニュートン）
5回目	科学革命3　機械論的自然観（デカルト，心身問題，「心の哲学」）
6回目	科学の制度化　科学と大学，自由学芸と機械技術，第二次科学革命
7回目	科学の方法　演繹と帰納，仮説演繹法，発見の論理
8回目	科学の危機　決定論的自然観，数学の危機，物理学の危機
9回目	論理実証主義と統一科学　論理学の革命，意味の検証理論，統一科学
10回目	批判的合理主義と反証可能性　反証主義，反証可能性と境界設定，進化論的認識論
11回目	知識の全体論と決定実験　経験主義の二つのドグマ，決定実験の不可能性，プラグマティズムの科学論
12回目	パラダイム論と協約不可能性　クーンの問題提起，パラダイム論争，ラカトシュのリサーチ・プログラム
13回目	科学社会学の展開　科学社会学の成立，科学知識の社会学，サイエンス・ウォーズ
14回目	科学の変貌と科学技術革命　科学技術という言葉，科学技術革命，科学の変貌と再定義
15回目	科学技術の倫理　地球環境問題，その社会的責任，科学技術と公共性，3·11以後の科学技術と人間

◆参考文献

科目コード	科　目　名	単位数
Q20100	日本史入門	4単位

教材コード　000484
教　材　名　『方法教養の日本史』
著 者 名 等　竹内　誠・君島　和彦・佐藤　和彦・木村　茂光
出 版 社 名　東京大学出版会
I S B N　9784130090704

◆教材の概要
歴史への興味は多くの人が持つものであるが，それを歴史への“研究”へと結びつけるのは容易な事ではない。本書は古代から現代にかけての日本史にかかわる様々な事例を挙げて，単なる歴史への興味から研究へと進むための方法を具体的に追求しようとした書である。本書はまず，「身近な体験」の項で，歴史学の対象は歴史上の有名な人物や事件のみではなく，ごく身近な事柄の中にも存在する事を示し，次に「歴史への接近」・「テーマの発見」の項で，興味を抱いた対象をいかに研究し，歴史叙述へと深めていくかが語られている。

◆学修到達目標
各章ごとに2～4つのトピックにわけられた内容を通じて，個々のトピックに関する基本的な史知識を修得する。さらに，身近なものを手がかりに，その歴史を学び，研究テーマを見つける学修姿勢を身につける。これらの学修活動を通して，自身の研究テーマを考えることができるようにする。

◆学修方法・留意点
本書に収まられた各論文を読み進めながら，自分の研究課題は何か，それをどのような視点で把握し，研究を進めていくかを常に考えるようにしてください。

◆学修計画

1回目	〈歴史への誘い〉　はじめと序章から，韓国への観光旅行を素材にして歴史とテーマ発見を考える。 ①下関に関する歴史　②日本の占領政策についての研究方法。
2回目	〈文学からの歴史探究〉　歴史小説『破軍の星』を素材にして，この小説の舞台である南北朝時代を学ぶ。 ①内乱期の社会　②当該期の分業や流通の実態についての研究方法。
3回目	〈映画からの歴史探究〉　近代の中国映画などを素材にして，植民地研究を考える。 ①中国・朝鮮と日本との歴史的関係　②映画を素材にした歴史の研究方法
4回目	〈時代劇からの歴史探究〉　近世を扱う時代劇「大岡越前」を素材にして，江戸時代を考える。 ①大岡忠相に関わる歴史事実　②虚構と実像の比較を通した享保改革の研究方法
5回目	〈祭からの歴史探求〉　古代の祇園祭を素材にして，祭礼の持つ歴史的意義を考える。 ①祇園祭の歴史と農業との関係性　②朝廷や貴族・寺社の年中行事についての研究方法
6回目	〈浅草からの歴史探究〉　近世・近代移行期の浅草を素材にして，盛り場としての町形成を考える。 ①江戸時代から近代にかけての浅草の歴史，②町の形成をめぐる研究方法
7回目	〈マンションからの歴史探究〉　現代のマンションのある街としての川口を素材にして，都市形成を考える。 ①近代日本の都市開発の歴史　②都市開発をめぐる研究方法
8回目	〈クレジットカードからの歴史探究〉　現代のクレジットカードを素材にして，金融の歴史を考える。 ①債権・債務関係の歴史的経緯　②信用経済の歴史と伝統についての研究方法
9回目	〈レシートからの歴史探究〉　古代・中世のレシートを素材にして，日本の租税史と社会関係を考える。 ①租税徴収と領収書の歴史，②民衆の権利と文書の機能をめぐる研究方法
10回目	〈儀礼からの歴史探究〉　近代ビルの定礎プレートを素材にして，権力と民衆の関係を考える。 ①棟札を通した権力・民衆関係　②建築儀礼などを使った民俗学的な研究方法
11回目	〈住居からの歴史探究〉　近代の住居を素材にして，人々の生活と社会政策の関係を考える。 ①近現代における住宅の歴史　②住宅政策からの社会生活をめぐる研究方法
12回目	〈天体異変からの歴史探究〉　中世の天体異変を素材にして，自然と人間との関係を考える。 ①天体異変と政治との関係　②徳政などから権力と社会の関係をめぐる研究方法
13回目	〈唱歌からの歴史探究〉　近代の唱歌を素材にして，政治と思想との関係を考える。 ①日露戦争前後の唱歌の変容　②唱歌と民衆の行動・政治意識をめぐる研究方法を学ぶ。
14回目	〈出産からの歴史探究〉　出産を素材にして，人としての生き方について考える ①出産に関する習俗と歴史　②習俗と政策から都市衛生をめぐる研究方法を学ぶ。
15回目	〈墓と「自分を知る」からの歴史探究〉　墓や個人を素材にして，死生観，人間と歴史の関係を考える。 ①都市と埋葬にみる死生観の歴史　②戦争責任・戦争体験を通じた「個」の認識をめぐる研究方法

◆参考文献
各論文の文末，又は欄外に記された文献，及び巻末の参考文献を参照すること。

科目コード	科　目　名	単位数
Q20300	西洋史入門	4単位

教材コード　000047
教　材　名　『歴史とは何か』
著 者 名 等　E.H. カー
出 版 社 名　岩波書店
I S B N　9784004130017

◆教材の概要

歴史は暗記物と思ってきた人にじっくり読んでほしい教材です。本書は50 年以上前に書かれながら，歴史を研究する者の基本的な姿勢を教えてくれる点で，今なお新鮮な名著です。歴史とはどういうものか，歴史書をどのように読み，どのように研究をしていくべきかを著者は語りかけます。著者の博識に面くらい，難しいと思ってしまうかもしれませんが，何度も読めば「歴史は現在と過去の対話である」という言葉に凝縮されるカーの歴史哲学には，教えられることが多いでしょう。

◆学修到達目標

＊旧教材要綱「学習計画のポイント」を少し書き直しました。

①歴史的事実は不動の「真実」なのだろうか。そうではなく，歴史家の目を通した選択・解釈と深いかかわりがあることを理解する。②その意味で，歴史は歴史家によってつくられ，またその歴史家も社会の産物であり，時代の影響を免れないものであることを理解する。③科学としての歴史学と自然科学との共通点と相違点を理解する。④歴史は「過去と未来の対話」であるという意味を理解する。

◆学修方法・留意点

① 「歴史家が歴史を作る」とはどういうことか。
② 「科学としての歴史」の仮説，判断基準，教訓と予言。
③ 歴史的事件における因果関係。
④ 「進歩する科学」としての歴史における客観性。

◆学修計画

1回目	歴史家と事実①：　歴史的事実とは何か
2回目	歴史家と事実②：　文書が語るもの
3回目	歴史家と事実③：　歴史家が歴史を作る
4回目	社会と個人①：　過去は現在を通して
5回目	社会と個人②：　時代の流れと歴史家
6回目	社会と個人③：　歴史の産物としての歴史家
7回目	歴史と科学と道徳①：　歴史は科学であること
8回目	歴史と科学と道徳②：　歴史における法則の観念と道具としての仮説
9回目	歴史における因果関係①：　歴史の研究は原因の研究
10回目	歴史における因果関係②：　歴史における偶然とは何か
11回目	歴史における因果関係③：　現実的なものと合理的なもの
12回目	進歩としての歴史①：　歴史における進歩の概念
13回目	進歩としての歴史②：　過去と未来との対話―歴史における客観性
14回目	広がる地平線①：　現代の歴史的転換
15回目	広がる地平線②：　世界的バランスの変化

◆参考文献

『新しい史学概論（新版）』望田幸男・芝井敬司・末川清著（昭和堂）
※『歴史をみる眼』堀米庸三著（日本放送出版協会）
『有斐閣シリーズ歴史学入門』浜林正夫・佐々木隆爾編著（有斐閣）
『ヨーロッパとは何か』（岩波新書）増田四郎著（岩波書店）
※『歴史学概論』（講談社学術文庫）増田四郎著（講談社）
『西洋近現代史研究入門（増補改訂版）』望田幸男他編著（名古屋大学出版会）
※『世界大百科事典』（平凡社），『新編　西洋史事典（改訂増補）』（東京創元社）等の事典類

科目コード	科　目　名	単位数
Q20400	考古学入門	4単位

教材コード　000509
教　材　名　『考古学入門』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　鈴木　公雄
出 版 社 名　東京大学出版会
I S B N　9784130220514

◆教材の概要

考古学は歴史学の一分野であることを理解させるとともに，自然科学系学問を取り入れていく必要のある学問であることが書かれている。考古学という学問で行われている研究方法や理論を体系的に解説し，資料を入手するための方法（発掘・調査）に触れ，資料からどのようなことがわかるのかについて具体的事例を多数挙げながら述べられている。

考古学の研究方法として，型式学を取り上げ，相対年代と絶対年代の関連，分布と考古学的文化，機能の解明方法の紹介がなされ，考古学から歴史復元へのアプローチが説明される。また，考古資料が発掘調査によって採集されることから，その方法と種類，整理作業についても触れられている。

◆学修到達目標

考古資料（遺跡・遺構・遺物）について知り，具体例を挙げながら説明できるようになる。また，形式学を理解し，身の回りのもので置き替えて考えることができるようになる。

◆学修方法・留意点

巻末に掲載されている参考文献を可能な限り読み，テキストの内容を覚えるだけでなく，自分で考古資料を分類することができるようになるよう，集成資料などを読んだり，博物館で実物を見たりするとよい。

疑問に感じた内容や知らない単語は，必ず調べながら読むこと。考古学の学術用語が理解できるようにする。

◆学修計画

1回目	考古学の目的―研究対象となる時代はいつからいつまでか―
2回目	考古資料の種類― - 遺跡・遺構・遺物とは何か―
3回目	遺構について①―竪穴住居・掘立柱建物・土坑などの様々な構築物の痕跡―
4回目	遺構について②―各遺構が時代や時期ごとにどのように使用されているのか―
5回目	遺物について①―土器・石器・金属製品・骨角器・ガラス製品など，素材による分類―
6回目	遺物について②―時代・時期を分類することに用いられる土器を時代を追って知る―
7回目	遺物について③―縄文土器を古い時期から順番に学ぶ―
8回目	形式学①―浜田耕作の『通論考古学』を一週間かけて読む―
9回目	形式学②―山内清男の研究について学び，貝塚の発掘調査の学史を知る―
10回目	形式学③―相対年代と絶対年代―
11回目	形式学④―交差年代法と層位学―
12回目	形式学⑤―分布圏と年代を組み合わせた編年表（編年図）を読みとく―
13回目	発掘調査の手順とその目的
14回目	整理作業の流れと資料化の方法と目的
15回目	発掘調査報告書を図書館でみつけ，自分の目で一次資料に触れる

◆参考文献

テキスト巻末の文献を参照。

科目コード	科　目　名	単位数
Q30100	史学概論	4単位

教材コード　000600
教　材　名　『歴史的に考えるとはどういうことか』
著 者 名 等　南塚信吾・小谷汪之
出 版 社 名　ミネルヴァ書房
I S B N　9784623086351

◆教材の概要

歴史から何を学び，どう思考するのかを８テーマにわけて叙述しています。大きく２部にわかれ，歴史との出会い・他者との出会い・史料論・意義・歴史観を論ずる第Ⅰ部と，歴史的思考・教え方と学び方・大学での学修・日常との関わりを論ずる第Ⅱ部にわかれます。学術研究書とは異なり，これから歴史学を学ぶ人にとって読みやすい文体です。史学専攻生の歴史に対する姿勢を改めて問い直す内容でもあり，具体的事例が多く挙げられながらも，歴史理論や歴史的思考を問う専門性の高い内容となっています。

◆学修到達目標

歴史学の基本的な学修姿勢「歴史的に考える」ことを身につけるため，基本的な歴史像の形成過程と，大学内外での「歴史的思考」について理解できるようになることを目標とします。その目標を達成するため，①歴史学が抱える問題とそれに対する専門家の見解を説明できる，②史実を明らかにするための方法論を説明できる，③歴史学の社会への還元法について考えることができる，④歴史学を学修するための姿勢を考え，見直すことができる，ことをめざします。

◆学修方法・留意点

一般読者をも対象にした書籍ですが，専門教育科目（唯一の必修科目）の教材としての専門性は非常に高く，そのことを意識してください。歴史学を学ぶ根幹ですので，まず全体の構成を把握し，各章・節での著者の主張が何かを理解し，まとめることが大切です。歴史へのアプローチから，「歴史像」はどう作られるのか，「史料」とどう向き合うのかをより深く学ぶため，巻末の「読書案内」（参考文献）を日本史・東洋史・西洋史・考古学の分野を問わず，「歴史学」として学修することが望まれます。

◆学修計画

1回目	第1章　与えられる多様な歴史	「歴史の大切さ」とは
2回目	第2章　さまざまな「他者」	土人とはどのような「他者」か
3回目	第2章　「他者」を「知る」	自己を「知る」
4回目	第3章　史料を読み解く	ミクロな世界からマクロの文脈へ
5回目	第3章　土地と現在	史料から読み取れることと読み取れないこと
6回目	第4章　歴史への問いかけ	教科書にみるフランス革命
7回目	第4章　研究・日本にとってのフランス革命	歴史の意味づけの変化
8回目	第5章　「西洋中心主義」の落とし穴	「近代化」にかかわる「歴史の見方」
9回目	第5章　「領土」にかかわる「歴史の見方」	「西洋中心主義」からの脱却
10回目	第6章　「歴史」と「歴史的に考える」	「歴史的に考える」ことは教えられているか
11回目	第6章　「歴史的に考える」ことの学び	「歴史的に考える」ことの促進と阻害，出会い
12回目	第7章　大学の授業での出会い	学生は歴史的に考えられるか（調査結果）
13回目	第7章　学生は歴史的に考えられるか（学習観）	「歴史的に考える」ために大学で何ができるか
14回目	第8章　「面白い」からの卒業と「偏見」の自覚	誰が歴史を書いているか
15回目	第8章　「史実」の重視と作られ方	歴史への「判断」と未来への「展望」

◆参考文献

『新しい史学概論』望田幸男他（昭和堂）
『歴史学入門』（新版）福井憲彦（岩波書店）

科目コード	科　目　名	単位数
Q30500	考古学概説	4単位

教材コード　000510
教　材　名　『はじめて学ぶ考古学』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　佐々木　憲一・小杉　康・菱田　哲郎・朽木　量・若狭　徹
出 版 社 名　有斐閣
I S B N　9784641124349

◆教材の概要

前半は考古学の研究方法について，「機能論」「編年論」「分布論」といった項目ごとに，様々な時代の具体的事例を挙げながら説明している。また，日本人の研究者だけでなく，諸外国の先学を紹介し，モノの分析方法がどのように行われてきたのか，そして，最新の研究方法にはどのような方法があるのかを紹介している。

後半では，旧石器時代から近現代までの各時代ごとに概説されている。特に，奈良時代以降の考古学資料を用いた説明がなされており，考古学の研究対象とする範囲がどこからどこまでなのかを明確に知ることができる。また，日本列島の歴史で欠かすことのできない，北海道と南西諸島にも触れられている。

◆学修到達目標

時代区分と時期区分を理解し，絶対年代と合わせて各時期の概略を説明できるようになる。旧石器時代から近現代までが考古学の対象であることを知る。

◆学修方法・留意点

本テキストだけでなく，各時代のことについて書かれた概説書や，地方自治体や博物館で運営されているホームページなどを参照されたい。そのさい，まずは時代区分と時期区分は実年代をふまえてしっかりと行えるようにしておきたい。そのためにも，旧石器時代は石器による編年，縄文時代から近世までは土器・陶磁器による編年がほぼ出来上がっているので，自分の住む地域だけでも確認しておくとよい。

◆学修計画

1回目	時代区分―旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良・平安時代・中世・近世―
2回目	時期区分―縄文時代の時期区分（草創期・早期・前期・中期・後期・晩期）―
3回目	旧石器時代の遺跡―各期の特徴となる石器，環状ブロック―
4回目	旧石器時代の終わりと縄文時代の開始
5回目	縄文時代①―草創期～早期の遺跡と土器・弓矢の出現―
6回目	縄文時代②―前期～中期，環状集落，海進―
7回目	縄文時代③―後期～晩期，環状列石に代表される大規模施設と習俗―
8回目	縄文時代から弥生時代へ―北海道と沖縄を除く地域にみられる変化―
9回目	弥生時代の時期区分と各時期の遺跡
10回目	弥生時代から古墳時代へ―時代区分の基準が異なることに注意―
11回目	古墳時代①―古墳の種類と各部の名称，その変化，埴輪について―
12回目	古墳時代②―豪族居館と初期宮衛―
13回目	奈良・平安時代の遺跡―官衛・寺院・竪穴住居が使用される最後の時代―
14回目	中世・近世の遺跡―かわらけ・陶磁器による時期決定―
15回目	近現代の遺跡

◆参考文献

『縄文の豊かさと限界』（日本史リブレット）今村啓爾（山川出版社）￥800＋税
そのほか，巻末の参考文献にあたること。

科目コード	科　目　名	単位数
Q30600	考古学特講Ⅰ	4単位

教材コード　000149
教　材　名　考古学特講Ⅰ
著 者 名 等　竹石　健二・澤田　大多郎・野中　和夫

◆教材の概要

前半には，縄文式時代初期集落の諸問題についての考察，縄文式時代の専門工人集団の出現と交易について考察，縄文式時代の貯蔵形態の一つであるフラスコ形土坑についての考察，さらに，縄文式時代の土坑の性格についての考察を収めている。

後半には，弥生式時代の稲作以外の生産活動についての考察，弥生式時代の南関東における方形周溝墓の成立についての考察，多摩川流域における古墳の成立についての考察，さらに，所謂変則的敵古墳の諸問題についての考察を収めている。

◆学修到達目標

専門書，論文，発掘調査報告書を用いて，テキストの記述が正しいかどうか検証できるようになる。テキストはあくまで書かれた年代での研究到達点であるため，現在では新しい発見，または追認されていることがある。そこまで調べることが本課目の到達目標である。

◆学修方法・留意点

『考古学特講Ⅰ』には総数８編（縄文式時代４編，弥生式時代２編，古墳時代２編）の研究論文が収載されている。これを読むことによって，研究方法がどのようなものかをよく把握し，自らも資料を収集して，各地のあり方を検証してみるとよい。

◆学修計画

1回目	竪穴住居の出現と展開
2回目	撚糸文期の集落について―出現期の竪穴住居を用いた集落―
3回目	黒曜石の蛍光X線分析から分かる広域な地域間交流
4回目	石器の製作址および製作段階を知るための分析
5回目	土坑の種類①―貯蔵穴とは，時代や時期によって形態や配置が異なる―
6回目	土坑の種類②―陥し穴の形態，早期と中期と中期以降で異なることを知ろう―
7回目	土坑の種類③―陥し穴の配置からみた生業の方法復元
8回目	土坑の種類④―土坑墓について，屈葬と伸展葬，副葬品―
9回目	木製食料加工具の種類と出土遺跡
10回目	稲作以外の生産活動の根拠は何か，アプローチの方法を理解する
11回目	方形周溝墓の出現と展開，方形周溝墓から前方後方墳への変化
12回目	南関東における方形周溝墓の展開と古墳成立への変遷
13回目	弥生時代の居住域と墓域について，具体例を調べる
14回目	前方後円墳の成立と展開―大和政権との関わり，古墳の変化と権威を示すもの―
15回目	変則的古墳の分布地域とその特徴

◆参考文献

各論文の最後に記載してある註（注）がこれにあたるが『考古学入門』（通信教育教材）の巻末に一覧表にしてあるものも参照するとよい。また，各地で刊行されている発掘調査報告書は資料を収集するうえで必要である。

科目コード	科　目　名	単位数
Q30800	日本史特講Ⅰ	4単位

教材コード　000151
教　材　名　日本史特講Ⅰ
著 者 名 等　中村　順昭・高村　隆・横山　則孝・楠家　重敏

◆教材の概要

本テキストは，日本史の古代・中世・近世・近現代の時代ごとに，4 名の執筆者がそれぞれの専門研究分野についてまとめた論文 12 本を収録した「論文集」の形態となっています。これは，特講が，概説科目等とは違い，多くの場合，その講座を担当する教員が日頃とり組んでいる研究テーマについて，より専門的な内容にふみ込んで行われていることにかんがみ，特徴をテキストに反映させようと考えたことによります。

◆学修到達目標

日本史における特定テーマへのアプローチや叙述法を知るために，各時代それぞれの研究法・叙述法の方法論が理解できるようになることを目標とします。その目標を達成するため，①日本史における研究の進め方・記述の仕方を身につけ，②先行研究と最新の研究とのつながりを考え，③注釈の付け方や論の進め方への知識を獲得し，④未知の用語や学説に対して積極的に調べる姿勢を身につける，ことをめざします。

◆学修方法・留意点

各時代の論文を徹底的に読み込み，難解な内容を理解できるように学修してください。最初から内容を理解することはできません。難解な用語は常に調べるよう習慣化し，それぞれの時代の基礎的事項を事前に確認してください。基本事項の理解に不足を感じた場合は，日本史概説などによって基礎知識を補充しておくことが大切です。各論文を読む時には，著者の主張は何か，何を根拠に論じているか，先行研究の何を批判しているのか，史料をどのように解釈しているのかなどを常に意識しておきましょう。

◆学修計画

1 回目	古代（1）　農民の官人身分獲得	位子貢進と白丁
2 回目	古代（2）　下級官人の出身階層	写経生・農村
3 回目	古代（3）　奈良時代の都城造営	平安時代の都城造営
4 回目	古代（4）　造営事業の労働力	役夫徴発の変化
5 回目	中世（1）　鎌倉期の上総守護	室町期の上総国国衙
6 回目	中世（2）　北条氏領	上総国国衙と上杉氏
7 回目	中世（3）　応安の大争論と千葉氏	国行事職
8 回目	中世（4）　大塔合戦と国人領主	信州村上氏・大文字一揆
9 回目	近世（1）　新番組の成立事情	『落穂集』記載記事との比較
10 回目	近世（2）　田沼意次の老中罷免	徳川家治政治の特色
11 回目	近世（3）　徳川家斉の将軍就任	松平定信の入閣
12 回目	近世（4）　松平定信登用の老中	老中合議制（幕閣会議）
13 回目	近代（1）　日中関係史	日本西アジア関係史
14 回目	近代（2）　日本西アジア国別交流史	前近代の日本・アフリカ関係史
15 回目	近代（3）　近代の日本・アフリカ関係史	日英関係史

◆参考文献

各論文に注記されている参考文献
『岩波講座日本歴史』『岩波講座日本通史』（岩波書店）
※日本歴史は 1960 年代・1970 年代・2010 年代，日本通史は 1990 年代です。図書館で閲覧のこと

科目コード	科　目　名	単位数
Q30900	日本史特講Ⅱ	4単位

教材コード　000558
教　材　名　『大学の日本史　3近世』
著者名等　杉森　哲也　編
出版社名　山川出版社
ＩＳＢＮ　9784634600331

◆教材の概要

本教材は，Ⅰ～Ⅴ部で構成され，更に各部が全20章によって区切られています。各章はさらに節にわかれ，章により，その内容の難易度が変わります。冒頭は統一国家成立という一般的政治史ですが，その多くは社会をつくりあげるいくつかの重要な要素に着眼し，それらを深く追求する内容となっています。本教材を通して，近世国家・近世社会とは何かを学んでもらいたい。

◆学修到達目標

近世を知るために，基本的な社会や国家の枠組み・構造について理解できるようになることを目標とします。その目標を達成するため，①テーマに対する着眼点の置き方を考えることができる，②先行研究と最新の研究とのつながりを考えることができる，③史料の使い方や解釈の仕方を身につける，④未知の用語や学説に対して積極的に調べる姿勢を身につける，ことをめざします。。

◆学修方法・留意点

印刷教材で学修を進める時，各章を独立して勉強するだけでは学修効果が出ません。まずテキストの全体像を把握し，続いて，特定のテーマに即したできごとや政策を理解します。論文とは少々異なる文体ですが，先行研究（過去の研究成果）を踏まえた記述となっています。特講科目の特性上，教材に書かれている内容を理解するのみにとどまらず，教材記載の参考文献や，関連する研究書や雑誌掲載論文を積極的に検索・購読し，学説としての位置づけを意識してください。同時に，つい人物や政治史に重点を置きがちな学修に陥ることなく，避けがちな身分の問題や村社会いったテーマに対しても正面から取り組み，テーマへの着眼，論の進め方，歴史資料の使い方について学んでください。そして最後は全体を通して，「近世国家」「近世社会」とは何かを論じられるようにしておきたい。

◆学修計画

1回目	日本史のなかの近世	世界史のなかの近世
2回目	織田政権と寺社・朝廷	豊臣政権と朝廷／対外政策
3回目	江戸幕府の成立	藩政の成立
4回目	キリスト教禁教と幕府	日本型華夷秩序の概要
5回目	織豊期・江戸初期の朝廷	天皇・公家集団と幕末維新への展望
6回目	近世初期の日本と東アジア	統一政権における対外政策
7回目	「鎖国」用語の問題	「鎖国」の研究史
8回目	「鎖国令」の内容	「四つの口」の諸相
9回目	東アジアにおける首都	近世の町・京
10回目	非人集団の社会	非人集団の展開・由緒
11回目	惣荘と開発	身分的周縁と地域社会
12回目	村絵図からみる近世の村	村明細帳からみる近世の村
13回目	従来の村落像との比較検討	中世村から近世村へ
14回目	新興海運流通勢力の登場	海運流通と全国市場
15回目	開港と伝統,	教材全体の振り返り

◆参考文献

『岩波講座日本歴史』『岩波講座日本通史』（岩波書店）
※日本歴史は1960年代・1970年代・2010年代，日本通史は1990年代です。図書館で閲覧のこと
そのほか各章に記された参考文献を参照のこと

科目コード	科　目　名	単位数
Q31000	東洋史特講Ⅰ	4単位

教材コード　000507
教　材　名　東洋史特講Ⅰ
著 者 名 等　須江　隆・加藤　直人・松重　充浩・髙綱　博文

◆教材の概要

本書は，東洋史に関する専門的な研究論文から構成されたものである。

本書は，第一編「両宋変革」と宋代中国の社会像，第二編清朝史料の世界，第三編近代中国東北地域経済史の研究，第四編「租界都市」上海を内容とする。

◆学修到達目標

本書の学修を通じて高度な内容の学術論文に直接ふれ，それを読解する力を養うことを目的とする。

◆学修方法・留意点

各論文を学修する際には，第一に解説を熟読して研究史上の位置をよく理解し，第二に論文の課題を明確に把握した上で，註記を参照しながら論証の展開課程を詳細にたどる。第三にその論文の明らかにした点を認識する。以上のことをノートに要点をまとめながら行うことが望ましい。

◆学修計画

1回目	「唐宋変革」論と「両宋変革」論
2回目	日本の宋代地域史研究の現状と課題
3回目	日本における宋代地域史史料研究の現状と課題
4回目	ある北宋知識人の日常と生涯
5回目	清朝史料の世界
6回目	清代起居注の研究
7回目	19世紀後半，オロチョン人の編旗とブトハ問題
8回目	張作霖政権研究史について
9回目	張作霖による在地懸案解決策と吉林省督軍孟恩遠の駆逐
10回目	営口・西義順の倒産―張作霖地方政権の地方掌握過程
11回目	「租界都市」上海論
12回目	植田捷雄の「上海租界問題」論
13回目	「上海租界問題」への日本側の対応
14回目	日本占領下の「国際都市」上海
15回目	「対華新政策」下における上海の外国人

◆参考文献

本書の各章における註にあげられている研究文献を参照すること。

科目コード	科　目　名	単位数
Q31100	東洋史特講Ⅱ	4単位

教材コード　000508
教　材　名　東洋史特講Ⅱ
著 者 名 等　髙綱　博文

◆教材の概要

本書は，孫文の「最後の獅子吼」として有名な「大アジア主義」講演（1924年11月28日）についてさまざまな側面から歴史的に検証を試みたものである。従来，同講演の意図は「反日本帝国主義」とするものと「日中提携・日中親善」とするものが主要な解釈であったが，本書では孫文の対外戦略論や帝国主義認識を再検討することにより，第三の解釈がありえることを論証している。

◆学修到達目標

本書は既存の学説を疑い，新たな仮説を提示してそれを史料に基づき明らかにするプロセスを学んでいただくことを学修目標としている。

◆学修方法・留意点

本書は既存の学説を疑い，新たな仮説を提示してそれを史料に基づき明らかにするプロセスを学ぶことを基本的な学修目標としており，そのため孫文の「大アジア主義」に関する主要な史料を掲載している。

本書を学修する際には関係史料を熟読して論証のあり方を十分に吟味すること。

◆学修計画

1回目	孫文の「大アジア主義」研究についての課題
2回目	孫文の対外戦略論を考える
3回目	孫文の「反帝国主義」路線
4回目	孫文の帝国主義観
5回目	孫文の＜日中ソ提携論＞の起源
6回目	孫文の＜日中ソ提携論＞の形成
7回目	ワシントン体制と日中ソ提携論
8回目	孫文の日中ソ提携論
9回目	孫文の「大アジア主義」講演に対する日本の反応
10回目	胡漢民の「大アジア主義」解釈
11回目	蔣介石の「大アジア主義」解釈
12回目	汪精衛の「大アジア主義」解釈
13回目	中国コミュニストによる孫文の「大アジア主義」解釈
14回目	戦後日本における孫文の「大アジア主義」解釈
15回目	孫文の「大アジア主義」講演をめぐって

◆参考文献

本書の各章における註にあげられている研究文献を参照すること。

科目コード	科　目　名	単位数
Q31200	西洋史特講Ⅰ	4単位

教材コード　000156
教　材　名　西洋史特講Ⅰ
著 者 名 等　坂口　明・藤井　潤・土屋　好古・藤井　信行

◆教材の概要

本書は，西洋史に関する専門的な研究論文から構成されたものである。本書の学修を通じて高度な内容の学術論文に直接ふれ，それを読解する力を養うことを目的とする。本書は，第一編ローマ帝政期の社会，第二編トーマス･ミュンツァーの思想，第三編帝政期ロシアの社会と労働者，第四編ミュンヘン協定（1938年）とイギリス外交政策を内容とする。各編の解説は学修の手引きであり，はじめに熟読すること。

◆学修到達目標

教材の内容を暗記し単に知識を獲得するのではなく，それぞれの論文の論理構成，論証のプロセス，史料の扱い方などを学び，歴史学というものがどのような営みであるのかを理解することにより，自らも学問的に歴史を考察できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

各論文を学修する際には，第一に解説を熟読し研究史上の位置をよく理解し，第二に論文の課題を明確に把握した上で，註記を参照しながら論証の展開課程を詳細にたどる。第三にその論文の明らかにした点を確認する。以上のことをノートに要点をまとめながら行うことが望ましい。

◆学修計画

1回目	ローマ帝政前半期のイタリアにおける土地所有と農民の状態
2回目	ローマ帝政前半期のアフリカと小アジアにおける農民，状況改善の努力の限界
3回目	私的アリメンタ基金の実例
4回目	アリメンタ基金の位置付け，贈与行為の意味と限界
5回目	トーマス・ミュンツァーの思想形成期
6回目	アルチュテット滞在期のトーマス・ミュンツァー
7回目	トーマス・ミュンツァーの洗礼観
8回目	近代都市社会における下層民衆と社会的逸脱行為
9回目	ロシアにおける都市の秩序とサブカルチャー，および統合政策
10回目	1905年1月の「血の日曜日」事件とその衝撃
11回目	「血の日曜日」事件死傷者の分析とその後の労働運動の展開
12回目	研究史的考察をとおしてミュンヘン協定を考える
13回目	協定が国民的政策であったことを「タイムス」紙の記事などから検証する
14回目	チェンバレンの議会スピーチなどにみられる外交政策の19世紀からの外交政策の伝統
15回目	ミュンヘン協定とイギリス民主主義を考える

◆参考文献

各論文の註にあげられた研究文献を参照すること。

科目コード	科　目　名	単位数
Q31700	古文書学	4単位

教材コード　000502
教　材　名　『新版　古文書学入門』
著 者 名 等　佐藤　進一
出 版 社 名　法政大学出版局
I S B N　9784588320118

◆教材の概要

本書は古文書学の入門書としてスタンダードと言って良い名著である。唯一のものと言ってもいいほどである。しかし入門とは易しいという意味ではないので初心者にとってはやや難解な部分もある。

◆学修到達目標

一番重要なことは，日本史を研究する上でなぜ古文書学が必要なのかということをしっかり理解できることである。その上で，古代から中世にかけての古文書について，様式とその機能について一通り理解できるようになる。併せてある程度和製漢文（変体漢文）が読めて内容が理解できるようになるまで到達できることが望ましい。

◆学修方法・留意点

テキストの本文だけでなく，所載の史料にまで丁寧に目を通すこと。教材の概要でも述べたが，初心者にはやや難解であるので，繰り返し何度も学習する必要がある。また，適宜他の参考書を使用して学習することを勧める。

◆学修計画

1回目	古文書とは何かを理解する
2回目	古文書学が，学問としてどのように発達してきたのかを理解する
3回目	古文書がどのように伝来し，現在も残っているのかを理解する
4回目	古文書がどのように伝来し，現在も残っているのかを理解する
5回目	古文書がどのように伝来し，現在も残っているのかを理解する
6回目	古文書の様式として，公式様文書について理解する
7回目	古文書の様式として，公式様文書について理解する
8回目	古文書の様式として，公家様文書について理解する
9回目	古文書の様式として，公家様文書について理解する
10回目	古文書の様式として，武家様文書について理解する
11回目	古文書の様式として，武家様文書について理解する
12回目	古文書の様式として，武家様文書について理解する
13回目	古文書の様式として，以上の三様式に収まらない文書，特に起請文や荘園文書について理解する
14回目	古文書の様式として，以上の三様式に収まらない文書，特に起請文や荘園文書について理解する
15回目	古文書の様式として，以上の三様式に収まらない文書，特に軍忠状や譲状について理解する

◆参考文献

『古文書入門ハンドブック』飯倉晴武著（吉川弘文館）
その他，教材にあげられた諸文献

科目コード	科　目　名	単位数
R20200	経済史総論	4単位

教材コード　000161
教　材　名　経済史総論
著 者 名 等　岡本　清造

◆教材の概要

経済の流れを古代，中世，近代，現代の順序で学んでいく。原始時代から古代奴隷制社会，中世封建社会をへて近世資本制社会へ変化・発展する過程の具体的な事実を学び，農業，工業，商業，都市を軸に経済の発展過程を把握していく。次に，工場制手工業（マニュファクチュア）から機械及び動力の発明による産業革命に重点をおいて，その変化が経済活動全般にどのような影響を与えたかを考えていく。そして，その延長として経済恐慌，独占，帝国主義について言及していく。

◆学修到達目標

1. 人類の歴史を経済史的視点から古代，中世，近代，現代の順で学ぶことで，生産力の向上とともに社会的分業が進展し貨幣経済（商品経済）が発展してきたこと，またそれに伴い生産関係も変化してきたことなどを理解し，それらについて説明することができるようになることを目的とする。
2. さらに，前近代社会と近代以降の社会との違いについても説明できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

① 原始共産制社会の形成・発展，古代奴隷制社会の成立・発展。
② 中世封建的農奴制社会の成立・発展，中世都市，手工業，商品貨幣経済の発達。
③ 近世資本制社会の成立，商業の発達，原始的蓄積，商人資本と産業資本。
④ 産業革命とその結果・影響，経済的自由主義，労働者階級，恐慌。

◆学修計画

1回目	経済史を学ぶ意義について
2回目	原始共産制社会の形成・発展・崩壊
3回目	古代奴隷制社会の成立―ギリシャ
4回目	古代奴隷制社会の発展・崩壊
5回目	古代ローマにおける古代奴隷制社会
6回目	中世封建的農奴制社会の成立
7回目	中世封建的農奴制社会の発展
8回目	中世封建的農奴制社会の変質
9回目	近世資本制社会への移行（1）資本の原始的蓄積過程
10回目	近世資本制社会への移行（2）資本主義生産の２つの道
11回目	近世資本制社会への移行（3）商人資本と産業資本
12回目	近世資本制社会の確立（1）産業革命の結果と意義
13回目	近世資本制社会の確立（2）経済恐慌の発生
14回目	資本主義経済の変容―金融資本主義
15回目	帝国主義

◆参考文献

※『西洋経済史概論（新版）』増田四郎著（春秋社）
※『一般経済史』堀江保蔵著（青林書院新社）
※『経済史』渡辺国広著（慶応義塾大学出版会）
※『経済史入門』小林良彰著（実教出版社）
※『一般経済史』　長岡新吉他編著（ミネルヴァ書房）
『経済史をやさしく学ぶ』　石川治夫著（中央経済社）

科目コード	科　目　名	単位数
R20300	経済学概論	4単位

教材コード　000610
教　材　名　『やさしく学べる経済学』　※経済学と同じ教材です
著 者 名 等　陸　亦群・前野　高章
出 版 社 名　文眞堂
I S B N　9784830951435

◆教材の概要

本教材は，はじめて経済学を学修する受講生を対象にしており，経済学という学問を通じて経済や社会の動きを分析・学修するために必要な「経済を透視する目」を養うための基礎的概念を包括的に学修することを目的としたものである。本教材は経済学の基礎であるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を一冊でまとめたものとなっている。本教材では経済学とはどのような学問であるのか，需要と供給の基礎理論とはどのようなものであるのかということから始まり，前半部分（第Ⅰ部）はミクロ経済学について整理されており，ミクロ経済学のとらえ方，家計の消費者行動，企業の生産者行動，労働市場からみる要素市場の均衡，市場の均衡と効率性，不完全競争市場と外部性などについて包括的にまとめられている。後半部分（第Ⅱ部）はマクロ経済学について整理されており，マクロ経済学のとらえ方，国民経済計算，国民所得の決定理論，貨幣市場の均衡と利子率，IS-LM モデルから財市場と貨幣市場の均衡および経済政策の効果，物価水準の変化などについてについて包括的にまとめられている。

◆学修到達目標

経済学の導入部分としてミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方を養うことを目標とする。ミクロ経済理論の学修を通じて，家計，企業，政府といった経済主体の行動をミクロ的な視点で捉え，またマクロ経済理論の学修を通じてマクロ経済の析手法を修得し，「経済を見る目」を養い，今日の経済の動きや経済政策について自分なりの考えを述べることができるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

本教材は，ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論のエッセンスが解説されている。学修するにあたり，①専門用語を確実に理解する，②各項目の要約をする，③論旨を箇条書きに組み立てる，④学修する経済理論の結論は何かを明確にする，という点に注意し，精読すること。

◆学修計画

1 回目	経済学の基本問題　－経済学とは－
2 回目	ミクロ経済学のとらえ方　－ミクロ経済学の視点－
3 回目	需要と供給の理論　－価格メカニズムと市場機構の理解－
4 回目	家計の行動　－効用最大化と最適消費－
5 回目	企業の行動　－利潤最大化と最適生産－
6 回目	生産要素市場の均衡　－労働市場の均衡－
7 回目	市場均衡と市場の効率性　－市場の効率性と経済余剰－
8 回目	不完全競争市場と外部性　－独占市場，独占的競争市場，市場の失敗と政府の介入－
9 回目	マクロ経済学のとらえ方　－マクロ経済学の視点－
10 回目	国民経済計算均　－国民所得の諸概念－衡国民所得と乗数－均衡国民所得のメカニズムについて－
11 回目	国民所得の決定理論　－衡国民所得と乗数効果－
12 回目	貨幣市場の均衡と利子率　－貨幣の需要と供給の関係－
13 回目	IS-LM モデルと財政金融政策　－経済政策の効果－
14 回目	開放経済モデルと経済政策の効果　－為替相場と経済政策－
15 回目	物価水準の変化と国民所得　－長期モデル，インフレーションとデフレーション－

◆参考文献

『入門ミクロ経済学　第 3 版』井堀利宏（新世社，2019 年）
『入門マクロ経済学　第 6 版』中谷巌（日本評論社，2021 年）

科目コード	科　目　名	単位数
R30300	価格理論	4単位

教材コード　000352
教　材　名　価格理論
著 者 名 等　植木　恒幸

◆教材の概要

この教材は,「経済学」や「経済学概論」を学び終わった通信教育部の学生諸君が,家計の行動や企業の行動,さらに市場メカニズムについてより詳しく知りたいと考えた時に学修の手助けになるようデザインされている。この教材のカバーする範囲は「経済学」や「経済学概論」とほぼ同じですが，異なる点は，より詳しく正確に説明するため数式を用いたりして，経済学への入門であった「経済学」や「経済学概論」の一歩進んだ内容を解説している。この教材の特徴は，このように入門レベルと初級，中級レベルを結びつけるように，やさしい記述から厳密な記述に従ってステップアップできるように構成されていることです。さらに，そのために随所にワンポイントレッスンや練習問題が準備されており，自然にミクロ経済学の要点を理解することができるように工夫されている。

◆学修到達目標

家計や企業が，個々のインセンティブに従って行動すると，その結果として社会はもっとも望ましい状態になる点を理解する。

市場経済を機能させる受容と供給の働きを理解することによって，様々な商品の価格はどの様に変化するのか，消費者はどの様に消費選択を行えば良いのか，企業が生産量や販売量を，どの様に決定すれば良いのかを理解する。

◆学修方法・留意点

経済学は,暗記するものではありません。論理を１つ１つ丁寧に積み重ねて理解してゆくことが肝要です。

教材のワンポイントレッスンや練習問題などを行って，理解度をチェックしながら学修することを強く薦めます。また，専門用語や図等を正しく理解することに努めて下さい。実際に，様々な図を描いてみると理解が深まります。

◆学修計画

1回目	消費者行動の理論・生産者行動の理論
2回目	需要と供給
3回目	家計の行動
4回目	家計の最適行動
5回目	スルツキー方程式の応用
6回目	市場需要
7回目	企業の行動
8回目	費用曲線
9回目	費用最小化
10回目	利潤最大化とと費用最小化
11回目	供給曲線
12回目	完全競争市場の理論と不完全競争市場の理論
13回目	市場：受容と供給【再論】
14回目	不完全競争市場
15回目	市場と政府の役割

◆参考文献

教材の「参考文献」を参照してください。

科目コード	科　目　名	単位数
R30500	日本経済史	4単位

教材コード　000416
教　材　名　『日本経済史 1600-2015 ―歴史に読む現代―』
著 者 名 等　浜野　潔・中村　宗悦　他
出 版 社 名　慶応義塾大学出版会
I S B N　9784766423358

◆教材の概要

本教材は，近年の日本経済史の研究成果をもとに執筆された大学生・一般向けの日本経済史のテキストである。江戸時代から現代までのおよそ 400 年間の日本経済の歴史を，経済成長，政策，対外関係を中心に概説している。本教材の特色は，各章の区分が一般的な歴史の時代区分と異なっている点にあり，江戸時代の経済と明治以降の経済との連続性や，第二次世界大戦の戦前と戦後の経済の関係などを捉え直すことを目的としている。また各章末には「歴史に読む現代」として現代の経済問題を歴史的な視点から考えることができるよう工夫されている。

◆学修到達目標

日本経済の発展の過程と要因について体系的に理解し，現代の日本経済の諸問題について歴史的な視点から考える能力を身につける。具体的には，(1) 近世社会経済の発展の特徴，(2) 近世と近代の経済発展の関係性，(3) 近現代の日本経済の発展の要因，(4) 国際的な関係の中における日本経済の位置づけ，などを理解できることが目標となる。

◆学修方法・留意点

学習に当たっては，まずはテキストを熟読しその内容を理解することが重要である。前提となる日本史の基本的な知識が不足する学生については，高等学校「日本史 B」の教科書を用いて復習すると良い。参考文献のうち，1. はテキストの内容をさらに深く学習したい学生向け，2. は近現代の日本経済に関する統計・資料集である。

◆学修計画

1 回目	1. 近世の成立と全国市場の展開 (1)　1.0 経済指標から見た江戸時代　1.1 大開墾の時代　1.2 海運の整備
2 回目	1. 近世の成立と全国市場の展開 (2)　1.3「鎖国」と貿易の展開　1.4 元禄から享保へ
3 回目	2. 田沼時代から松方財政まで (1)　2.0 移行期の経済構造　2.1 政策の推移 (1)　2.2 政策の推移 (2)
4 回目	2. 田沼時代から松方財政まで (2)　2.3 産業の展開　2.4 対外関係の推移
5 回目	3. 松方デフレから第 1 次世界大戦まで (1)　3.0　戦前期日本における経済成長　3.1 近代経済成長の開始
6 回目	3. 松方デフレから第 1 次世界大戦まで (2)　3.2 諸産業の発展と構造変化　3.3「小さな政府」から「大きな政府」へ
7 回目	3. 松方デフレから第 1 次世界大戦まで (3)　3.4 日本とアジア
8 回目	4. 第 1 次世界大戦から昭和恐慌まで (1)　4.0 国際システムの転換と日本経済　4.1 第 1 次世界大戦と日本経済
9 回目	4. 第 1 次世界大戦から昭和恐慌まで (2)　4.2 1920 年代の日本経済　4.3 経済政策と金解禁問題
10 回目	4. 第 1 次世界大戦から昭和恐慌まで (3)　4.4 世界恐慌と昭和恐慌　4.5「高橋財政」と 1930 年代の日本経済
11 回目	5. 戦時経済から民主化・復興へ (1)　5.0「連続」と「断絶」の時代　5.1 戦時統制経済の形成と崩壊
12 回目	5. 戦時経済から民主化・復興へ (2)　5.2 敗戦と戦後改革
13 回目	5. 戦時経済から民主化・復興へ (3)　5.3 インフレーション下の経済復興　5.4 ドッジ・ラインから特需景気へ
14 回目	6. 高度経済成長から平成不況まで (1)　6.0 戦後経済の成長と停滞　6.1 高度成長のメカニズム　6.2 高度経済成長の終焉と構造調整
15 回目	6. 高度経済成長から平成不況まで (2)　6.3 バブル経済とその崩壊　6.4「失われた 10 年」から「失われた 20 年」へ

◆参考文献

1. 『日本経済史　近世―現代』杉山伸也（岩波書店，2012 年）
2. 『近現代日本経済要覧』三和良一・原朗編（東京大学出版会，2007 年）

科目コード	科　目　名	単位数
R30600	西洋経済史	4単位

教材コード　000163
教　材　名　西洋経済史
著 者 名 等　小林　良彰

◆教材の概要

古代から中世，近代をへて現代に至るまでの経済の歴史を学ぶ。そこには理論と事実が含まれているので，その２つを組み合わせて理解し，書かなければならない。事実だけの書きっぱなしでは不十分である。理論だけでもよくない。理論を事実で裏付けていくとよい。古代社会の国家，商工業からはじまり，中世封建社会の領地，農業，商業，工業を理解し，それを土台をしてマニュファクチュア，市民革命，産業革命を学び，経済恐慌など現代経済の諸問題を知るようにつとめる。

◆学修到達目標

古代から近代までの経済の歴史を学び，そこから経済史的意義について理解できる。

◆学修方法・留意点

① 古代国家，古代の商工業，封建制度，中世の農業，領地の構造。
② 中世の商業，中世の工業，中世の都市，マニュファクチュア，商業資本，商業革命。
③ 絶対主義の経済的内容，主要な絶対主義国，市民革命の経済的内容。
④ イギリス産業革命，主要諸国の工業化，経済恐慌と経済的改革。

◆学修計画

1回目	原始共同体から古代国家に進む過程
2回目	古代の商工業
3回目	中世封建制度のあり方と領地の中の支配構造
4回目	三圃制度
5回目	中世の商業，工業の発展過程
6回目	マニファクチュアの意義
7回目	商業資本の役割
8回目	商業革命
9回目	絶対主義が出現するための理由
10回目	イギリス，フランスにおける絶対主義の成立
11回目	市民革命の経済的内容
12回目	イギリス産業革命，その原因，経過，結果
13回目	イギリス以外の国の産業革命の特色
14回目	貿易，農業，労働の問題点
15回目	経済恐慌と改革

◆参考文献

※『一般経済史』堀江保蔵著（青林書院新社）
※『西洋経済史概論（新版）』増田四郎著（春秋社）
※『経済史』渡辺国広著（慶応義塾大学出版会）
※『西洋経済史の論争と成果』小林良彰著（三一書房）

科目コード	科　目　名	単位数
R30800	農業経済論	4単位

教材コード　000486
教　材　名　『農業経済学』
著 者 名 等　荏開津　典生・鈴木　宣弘　共著
出 版 社 名　岩波書店
I S B N　9784000289221

◆教材の概要

『農業経済学』は，食料･農業･農村について，経済学を用いて理解しようとするものである。本書の構成は，「経済学と農業的世界」,「経済発展と農業」,「食料の需要と供給」,「農業生産と土地」,「農業の経営組織」,「農産物の市場組織」,「農産物貿易と農業保護政策」,「世界の人口と食料」,「食生活の成熟とフードシステム」,「農業の近代化」,「資源・環境と農業」,「日本の農業と食料」と幅広い内容からなり，農業経済学に関して基礎から包括的に理解することができる。

◆学修到達目標

経済学の基本的な知識によって，農業に存在する社会的な問題について包括的に理解する。

◆学修方法・留意点

本教材では，ごく初歩的なミクロ経済学の理論が用いられている。その多くは本文を読み進めていけば理解できる内容であるので，大筋が理解できれば，細かな点でわからない部分があっても読み進めてかまわない。まずは，本書を通読し，農業経済学の全体像を把握することが重要である。そのうえで，各回の学修計画を参考にじっくり取り組んでほしい。

◆学修計画

1回目	教材を通読し，農業経済学の全体像を把握する。
2回目	第1章「経済学と農業的世界」では，農業の本質を知り，経済学における農業的世界を理解する。
3回目	第2章「経済発展と農業」では，経済発展に伴う農業という産業の特徴をミクロ経済学で理解する。
4回目	第3章「食料の需要と供給」では市場システムにおける食料の特徴をミクロ経済学で理解する。
5回目	第4章「農業生産と土地」では，生産の理論を用いて農業生産を理解する。
6回目	第5章「農業の経営組織」では，農業経営の典型的な形態である家族農業について理解する。
7回目	第6章「農産物の市場組織」では，不安定な農産物市場における対策として農業協同組合と政府の農産物価格政策について理解する。
8回目	第7章「農産物貿易と農業保護政策」では，工業製品とは異なる農産物貿易の特徴と食料安全保障としての保護政策を理解する。
9回目	第8章「世界の人口と食料」では，世界の食料問題を人口，生産，分配の視点から理解する。
10回目	第9章「食生活の成熟とフードシステム」では，農場と消費者とを結ぶ食品産業にも視点を広げ，食生活を取り巻く状況を理解する。
11回目	第10章「農業の近代化」では緑の革命をはじめ慣習的農業の近代化について，その影響を理解する。
12回目	第11章「資源・環境と農業」では，農業の持続可能性について現状と課題を理解する。
13回目	第12章「日本の農業と食料」では，日本の農業・食料の特質を理解し，日本農業の政策の変遷から現在に至る経緯を理解する。
14回目	第12章を参考に，現在の日本の農業政策について理解する。
15回目	終章「農業政策と農業経済学」では，農業経済学の役割を理解する。

◆参考文献

『食料・農業・農村白書』（各年）農林水産省
『新版　農業がわかると社会が見えてくる　高校生からの食と農の経済学入門』生源寺眞一著（家の光協会）

科目コード	科　目　名	単位数
R30900	工業経済論	4単位

教材コード　000166
教　材　名　『新版・現代工業経済論』
著 者 名 等　金田　重喜
出 版 社 名　創風社
I S B N　9784883520275

◆教材の概要

資本主義経済とは何か。資本主義経済の仕組み，その生成と発展が歴史的に展開してきたことを工業の成立と発展を通して原理的に理解すること，これがこの教材から学ぶことです。工業をになう企業が自由に競争しあう原始的な小企業であった時代の学修から工業の発展の基礎理論を学ぶ。工業をになう企業が市場支配力を持つ巨大企業として出現した時代（今日のこと）から独占資本主義時代の資本主義の仕組みとその動きの原理を理論的に（独占理論として）学ぶ。

◆学修到達目標

工業の発展の要因とその発展の形態・特徴を理解する。

◆学修方法・留意点

教材で学ぶべきことは，大きく２つあること（学修計画のポイント）を忘れないでおくことです。教材には，理論的理解のために数多くの歴史的な事情や細かい事例が掲げられています。しかし，それは理論を理解するための証拠を掲げてあることですから，理解のポイントは，上記の（学修計画のポイント）を忘れない点にあるのだということです。

◆学修計画

1回目	工業が国民経済と国際貿易に占める位置
2回目	工業の種類
3回目	工業と他の産業の関係
4回目	工業が存立する地域
5回目	工業が資本主義社会で営まれている意味
6回目	産業革命についての諸見解
7回目	イギリスの産業革命と工業化の進展
8回目	アメリカの産業革命と工業化の進展
9回目	資本主義的工業の基礎理論
10回目	自由競争と生産の大規模化
11回目	資本の集中・集積と独占の形成
12回目	独占という新しい競争
13回目	独占の社会全体にまで及ぼす影響
14回目	日本の工業の発展
15回目	発展途上国の工業の開発

◆参考文献

まず初歩的な古典の本として，①『賃労働と資本／賃金，価格および利潤』マルクス著（新日本出版社）と②『帝国主義論』レーニン著（新日本出版社）がよいのでしょう。次に，もっと進んだ工業経済論の学修のためには，教材の各章の末尾に掲げられた参考文献を１つ１つ読むことが良いでしょう。③もちろん，現場を知ることは，基本の基本ですから，新聞記事や企業の現場の見学も大切。

科目コード	科　目　名	単位数
R31000	日本経済論	4単位

教材コード　000499
教　材　名　『日本経済読本　第22版』
著 者 名 等　金森　久雄・大森　隆
出 版 社 名　東洋経済新報社
I S B N　9784492100370

◆教材の概要

教材の内容構成は，「日本経済の歩み」，「日本の経済政策」，「財政赤字問題と財政再建」，「地方経済と地方財政」，「デフレ下の金融政策」，「企業行動と競争力」，「雇用問題」，「国民生活」，「少子高齢化」，「国際収支・為替レート」，「資源エネルギー問題」，「環境問題」，「世界経済の変化」，「日本経済の課題と再生」など幅広い分野にわたって，それぞれ理論・歴史・現状・政策（制度）を含めた形でまとめられている。

◆学修到達目標

1. 日本経済の現状と課題を知り，それを説明できるようになることを目的とする。
2. 日本経済の個別的・専門的問題の現状と課題を知り，それを日本経済全体との関連の中で説明できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

教材の内容構成で示したように，教材は幅広い分野にわたり，それぞれ理論・歴史・現状・政策（制度）を含めた形でまとめられている。学修にあたっては，まず「日本経済の歩み」と「日本の経済政策」の歴史部分を精読してこれまでの「日本経済の歩み」について理解を深めてほしい。その上で個別的・専門的問題へと学修を進めてほしい。その場合，個別的・専門的問題だけの理解に留まるのではなく，日本経済全体との関連を視野に入れて理解することが重要である。また，本文の上には基礎的な用語説明もついているのでそれも併せて読んでほしい。

◆学修計画

1回目	日本経済の歩み
2回目	日本の経済政策
3回目	日本経済全般の課題　　＊下記の項目については関心のあるものから先に学修しても構わない。
4回目	財政問題（財政赤字の拡大・累積と財政再建）
5回目	異次元の金融政策の効果とリスク
6回目	地方経済の現状と地方財政
7回目	企業行動と競争力
8回目	雇用問題（労働力の減少と非正規雇用の増加）
9回目	国民生活の現状（家計消費の現状，所得格差）
10回目	少子高齢化と社会保障
11回目	国際収支と円レート
12回目	資源エネルギー問題
13回目	環境問題
14回目	世界経済の変化と日本
15回目	日本経済の課題と再生

◆参考文献

『入門・日本経済（第5版）』浅子和美・篠原総一編（有斐閣）
『最新日本経済入門（第5版）』小峰隆夫・村田啓子著（日本評論社）

科目コード	科　目　名	単位数
R31100	国際経済論	4単位

教材コード　000281
教　材　名　国際経済論
著 者 名 等　加藤　義喜・南　雅一郎・陸　亦群

◆教材の概要

国際経済論は現代では非常に幅広い分野を対象とするが，本テキストは次の４つの章で構成し，バランスのとれた内容とすることとした。つまり世界経済の歴史や現状を扱った第１章，国際貿易の基本理論として重要な比較優位の理論とその主要な展開をまとめ，続いて保護貿易論や貿易政策について説明した第２章，貿易を含むすべての国際取引を対象とする国際収支の概容とその国民経済との関係，および外国為 替の分析を扱った第３章，そして国際通貨制度を扱った第４章である。

◆学修到達目標

国際経済学の基礎的な理論の枠組みについて学習し，その政策的なインプリケーションについて考察できるようになることを目的とする。国際経済システムの歴史的な変遷について学習し，時間軸の中で現在の国際経済システムを位置づけ，これからの世界経済の在り方について，自身のアイディアをふまえて考察きるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

一部に数式やグラフによる説明があるが，これらの理解を含めて経済学の基礎勉強ができていることが望ましい。数式なども機械的な理解でなく経済的な意味を考えて理解して欲しい。

◆学修計画

1回目	世界経済の生成と発展及び第一次世界大戦の影響：　パクス・ブリタニカと第一次大戦前後の状況
2回目	第二次世界大戦後の世界経済の発展とその特徴：　GATT/IMF 体制
3回目	GATT/IMF 体制の変質とニクソンショック以降の世界経済
4回目	国際貿易の基礎理論　比較優位・ヘクシャー＝オリーン定理と生産要素比率
5回目	国際貿易の標準モデル
6回目	近代貿易理論：　レオンティエフ逆説，プロダクトサイクル仮説
7回目	貿易政策と国内産業の保護：関税，数量規制，補助金と経済厚生
8回目	国際収支表とマクロ経済バランス：　国際収支統計の仕組みと貯蓄・投資バランス
9回目	日本の国際収支と貯蓄・投資バランスをどう理解するか：弾力性アプローチと貿易乗数
10回目	国際マクロ経済と財政・金融政策：　資本移動規制化・自由化と為替制度選択
11回目	外国為替相場の考え方：期待収益率の均衡と為替相場，PPP，マネタリー・アプローチ
12回目	為替相場とマクロ経済：　DD-AA-XX 分析
13回目	国際金融システムの歴史的変遷：金本位制とブレトンウッズ体制
14回目	外国為替制度選択と最適通貨圏：　変動相場制，固定相場制，ドル化，カレンシーボード制
15回目	為替リスク管理とデリバティブ：　通貨オプションの基礎

◆参考文献

テキストに記載している参考文献を適時，参照されたい。

科目コード	科　目　名	単位数
R312S0	アメリカ経済論	4単位

教材コード　000575
教　材　名　『第2版　アメリカ経済論入門』
著 者 名 等　宮田　由紀夫・玉井　敬人
出 版 社 名　晃洋書房
I S B N　9784771030343

◆教材の概要

本教材は,「第1章　アメリカの政治経済システム」「第2章　19世紀から20世紀に初頭の経済発展」「第3章　マクロ財政・金融政策」「第4章　ミクロ経済学と競争政策」「第5章　企業システムと産業構造」「第6章　所得格差と貧困問題」「第7章　地域発展の歴史と都市化」「第8章　貿易・国際金融体制の変化」「第9章　アメリカ経済をとりまく最近の諸問題」から成っている。各章で必要な経済理論が説明されており,経済学の理論を通じてアメリカ経済を理解することが可能となっている。

◆学修到達目標

アメリカ経済の発展構造とその特徴を長期的な観点から学修し，現在のアメリカ経済が日本経済および世界経済に与えている影響を理解することを目標とする。具体的には，アメリカ経済に関する記事やニュースなどの内容や問題点を理解し，世界経済との関連性を考え，解決策等を提示できる能力を養うことを目指した科目である。

◆学修方法・留意点

経済学（ミクロ経済学・マクロ経済学）に関する理論および概念が出てくるため，他の専門書および教科書等に目を通し，しっかりと理解すること。また，アメリカ経済の全容が理解できるように，教科書全体に関して学修してほしい。

◆学修計画

1回目	アメリカ経済を学ぶ枠組み　アメリカの政治経済システム
2回目	小さな政府と金融制度の確立
3回目	世界大恐慌の発生とニューディール政策
4回目	ケインジアン経済政策とマクロ経済政策の理論
5回目	実際のマクロ経済政策と金融規制
6回目	独占企業の理論　アメリカにおける支配的企業への対策
7回目	合弁とカルテルへの規制
8回目	企業システムと産業構造
9回目	所得格差と貧困問題
10回目	経済学における格差問題
11回目	地域の発展と都市化
12回目	貿易に関するミクロ的・マクロ的特徴　ブレトン＝ウッズ体制
13回目	自由貿易と通商政策
14回目	サブプライムローン問題とリーマンショック
15回目	最近の諸問題（医療制度改革，移民問題，通商政策）

◆参考文献

『アメリカ経済の歩み』　榊原胖夫・加藤一誠著（文眞堂）
『現代アメリカ経済』　河村哲二著（有斐閣アルマ）
『現代アメリカ経済分析』　中本悟・宮崎礼二編著（日本評論社）

科目コード	科　目　名	単位数
R313S0	中国経済論	4単位

教材コード　000576
教　材　名　『現代中国経済論』 第2版
著 者 名 等　梶谷懐・藤井大輔　編著
出 版 社 名　ミネルヴァ書房
I S B N　9784623082247

◆教材の概要

本教材は，「序章　中国経済への招待」，「第1章　20世紀の中国経済」，「第2章　社会主義の模索と市場経済化」，「第3章　農業・農村・農民（三農）問題」，「第4章　企業体制改革とその行方」，「第5章　地域発展戦略と産業・人口の集積」，「第6章　財政制度改革と中央―地方関係」，「第7章　世界最大の資本大国の金融システム」，「第8章　貧困，失業および所得格差」，「第9章　人口と社会保障」，「第10章　エネルギー問題」，「第11章　経済発展と多様化する環境問題」，「第12章　対外貿易と直接投資」，「第13章　香港・台湾の経済と中国との関係」，「第14章　中国と近隣諸国との経済関係」，「終章　中国経済の行方」から成っている。そして，各章は「第Ⅰ部　中国経済100年の歩み」，「第Ⅱ部　産業発展と政府・企業」，「第Ⅲ部　経済発展を制約する要因」，「第Ⅳ部　世界の中の中国」という四つのカテゴリーに分布され，経済発展史という縦軸と，各経済領域の問題という横軸からなる2次元構成によって中国経済の全貌が描かれている。

◆学修到達目標

日本と大きく異なる中国という国の仕組みや経済建設の経緯を学ぶことによって，中国経済に対する理解を深め，現在起きている中国経済関連事象や経済政策の本質を理解する。

◆学修方法・留意点

社会主義国家という世界的にみても数少ない国家制度を理解するには，新聞や雑誌などの文字媒体だけでなく，Youtubeなどのプラットフォームを活用し，中国経済関連の写真と映像をみつけてみることを薦める。とりわけ，現在の中国の若者にとってもあまりなじみのない計画経済時代の映像をみれば，視覚的体感を通じて中国経済発展史に対する理解をさらに深めることが可能である。

◆学修計画

1回目	中国経済の特徴　中国経済を理解する角度
2回目	20世紀前半の中国経済　共産党政権が成立する前の中国経済の状況
3回目	社会主義の模索と市場移行　社会主義経済の概念と特徴および市場経済（資本主義経済）への移行
4回目	農業・農村・農民関連問題の原因　伝統的農業大国としての中国にとっての農村経済の重要性
5回目	企業体制の再構築　国有企業体制の特徴と改革の必要性
6回目	地域開発政策の展開と産業・人口の集積　地域開発の目的，政策と効果
7回目	財政制度改革と中央―地方関係　財政制度に反映されている中央と地方の力関係
8回目	金融システムの特徴　金融改革の特徴とマクロ金融調節手段の変化
9回目	貧困，失業と所得格差　経済発展に伴って顕著化になった格差問題の特徴
10回目	人口と社会保障　少子高齢化の深刻化に伴う社会保障制度の変化
11回目	エネルギー問題　経済発展とともに急拡大したエネルギーの需要に応える対策
12回目	経済発展と多様化する環境問題　経済発展と環境保護のトレードオフから両立へと転換する対策
13回目	対外貿易と直接投資　経済発展の大きな牽引力である対外貿易の特徴
14回目	香港・台湾の経済と中国との関係　緊密になりつつある香港・台湾と中国大陸の経済関係
15回目	世界2位の経済大国の経済外交　中国と他国の経済協力と連携

◆参考文献

『中国経済入門　高度成長の終焉と安定成長への途』南　亮進，牧野　文夫　編集（日本評論社, 2016年）
『現代中国の経済改革』呉敬璉著，青木昌彦監訳，日野正子訳，（NTT出版，2007年）

科目コード	科　目　名	単位数
R31400	経済開発論	4単位

教材コード　000605
教　材　名　『現代開発経済入門』
著 者 名 等　陸　亦群・前野高章・安田知絵・羽田　翔
出 版 社 名　文眞堂
I S B N　9784830950827

◆教材の概要

本教材は，経済開発問題の歴史的推移を踏まえながら，理論と政策（応用）を中心に体系的に経済開発論について学ぶことができるように構成されている。第1章は経済開発とは何か，発展途上国とは何か，という経済開発論の導入部分が論じられている。第2章は歴史的側面から世界経済における発展途上国の開発問題について論じられており，第3章は基本的な開発理論の展開が論じられている。第4章は経済開発の源泉である国際貿易を取り上げ，貿易政策と貿易理論について論じられており，また，第5章は途上国や新興国の開発戦略について論じられている。第6章では伝統的に議論されている経済発展と人口問題について，人口増加と経済成長や農村と都市間の人口移動などについて論じられている。第7章と第8章は，農村開発と都市化政策について農村開発の意義や成長拠点としての都市化や集積の経済について論じられている。第9章は東アジア地域の経済発展の経験から，経済発展のための海外市場との相互依存関係について論じられている。第10章は経済発展の際の開発援助政策について論じられている。

◆学修到達目標

発展途上国の経済開発がどのように変遷してきたのか，という点を歴史的側面，理論的側面，政策的側面から学ぶことにより，現在の発展途上国の抱えている課題及びその解決策について説明できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

経済開発論は国際経済学の分野であるため，理論的側面を読み進めるには，経済学および国際経済論の基礎理論についてある程度理解していることが求められる。歴史的側面の部分は，本文を注意深く読み進め，各時代の世界経済の状況や国際政治の動向などについても念頭に置いてもらいたい。

◆学修計画

1回目	経済開発とは何か
2回目	開発問題へのアプローチ
3回目	開発問題の歴史的展開－南北問題の発生について－
4回目	開発問題の歴史的展開－グローバル化時代の経済開発について－
5回目	開発問題への理論的アプローチ－基本理論の理解－
6回目	開発問題への理論的アプローチ－開発経済理論の展開－
7回目	経済発展と国際貿易－国際貿易の意義と貿易政策－
8回目	経済発展と国際貿易－国際貿易理論の展開－
9回目	開発戦略の展開－産業政策の展開と新興国のキャッチアッププロセス－
10回目	開発戦略の展開－開発戦略の時代的推移と政府の役割－
11回目	経済発展と人口問題
12回目	経済発展と農村開発
13回目	経済発展と都市化政策
14回目	東アジアの経験と経済開発
15回目	経済発展と開発援助

◆参考文献

『トダロとスミスの開発経済学』マイケル･P･トダロ，ステファン･C･スミス著（国際協力出版会，2010年）
『開発経済学入門』戸堂康之著（新世社，2015年）
『アジア開発経済論』セイジ・F・ナヤ著（文眞堂，2013年）
『開発経済学入門（第3版）』渡辺利夫著（東洋経済新報社，2010年）

科目コード	科　目　名	単位数
R31600	地方財政論	4単位

教材コード　000606
教　材　名　『地方財政を学ぶ』
著 者 名 等　沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸
出 版 社 名　有斐閣
I S B N　9784641184350

◆教材の概要

私たちの暮らしに身近な地方自治体（都道府県や市町村など）の財政について取り上げる。地方自治体の財政について，国家財政との関係からその特質を把握するとともに，自治体の経費，予算，収入について学び，その成り立ちを確認する。さらに，今日の地方自治体が抱える諸課題について，財政運営の視点から考える。

◆学修到達目標

地方自治体の財政について，国と地方の関係から日本の地方自治の特質を把握するとともに，地方財政の機能と役割について理解することを目指す。さらに，経費（歳出）面・収入（歳入）面から自治体財政を把握し，その構造を確認する。あわせて，自治体が財政運営を行うにあたり，それを決定・執行・監査する予算制度について理解する。

このほか，明治期以降の日本の地方自治と地方財政の歩みについて学ぶとともに，地域社会の今日的課題に対する地方自治体の対応について，財政面から考察する。さらに，住民にサービスを提供する際，地方公営企業，地方公社，第三セクターなどの組織が業務を担うことがあるが，これらの組織や制度の沿革，特質についても学ぶ。一連の学びを通じて，財政面からみた国と地方の関係を知り，地域における財政民主主義のあり方について考えることができるようになることを目標とする。

◆学修方法・留意点

各章の始めに示された問いを意識しながら，テキストを熟読し，内容の把握につとめてほしい。各章末の演習問題にも取り組もう。自分に身近な自治体の歳入・歳出の構成とその特徴について具体的に調べることで，テキストの内容を再確認することも大切である。一連の学びを通じて，国の制度改革や財政運営が，自治体の財政にどのような影響をもたらしているのかについて，考えてみよう。

◆学修計画

1回目	地方財政を学ぼう　－私たちの暮らしから地方財政について考える
2回目	日本の地方財政　－地方自治体の事務権限と財政について知る
3回目	政府間財政関係　－日本における国と地方の財政関係の特性を知り，地方財政計画について学ぶ
4回目	経費論　－地方自治体の支出構造について学ぶ
5回目	予算論　－地方自治体の予算ならびに予算過程について学ぶ
6回目	地方自治体の収入構造　－地方自治体の財源調達の仕組みについて学ぶ
7回目	地方税　－地方自治体が徴収する租税について，租税原則ならびに租税制度から考察する
8回目	地方交付税　－国から地方への財源保障の仕組みについて学ぶ
9回目	国庫支出金　－国から地方への補助金を通じた統制について考える
10回目	地方債　－地方自治体の借入金について考える
11回目	地方財政の歴史的展開　－明治期からの地方財政制度について考察する
12回目	持続可能な地域づくりと地方財政　－地方自治体の地域振興策について財政の視点から考える
13回目	対人社会サービスと地方財政　－福祉や教育などのサービスについて地方財政の視点から考える
14回目	地方公営企業，第三セクター等　－地方自治体が関わる水道や病院などの事業の財政を学ぶ
15回目	地方財政の展望　－財政難の時代の地方財政について考える

◆参考文献

総務省（各年度）『地方財政白書』では，毎年の地方財政の状況を知ることができる。
また総務省ウェブサイトに，全国都道府県･市町村の「決算カード」をダウンロードできるページがある。
（URL　https://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/card.html）

科目コード	科　目　名	単位数
R31700	租税論	4単位

教材コード　000467
教　材　名　『新版　租税論』
著 者 名 等　高木　勝一
出 版 社 名　八千代出版
I S B N　9784842915326

◆教材の概要

本教材は大別すると次の3つの部分に分けられる。

(1) 租税総論。第1章租税の基礎理論と租税体系。
(2) 租税各論。第2章所得税, 第3章法人税, 第6章住民税, 第7章事業税, 第9章消費課税, 第10章～12章(資産課税，相続税・贈与税，固定資産税など)。
(3) 税に関する付随的記述。第4章フリンジ・ベネフィット，第5章キャピタル・ゲインとロスおよび納税者番号制度，第8章国際課税制度，第13章シャウプ勧告。

◆学修到達目標

現代租税制度の機能について学習する。さらに，各種租税の仕組みを考察することにより，各租税の意義と各租税が抱える諸問題について理解し，問題への対処のあり方について自分なりの視点から論ずることが出来るようになる。

◆学修方法・留意点

①租税の定義と目的，②課税の根拠，③租税原則，④負担の公平，⑤租税の転嫁，⑥租税の分類，⑦各租税の特徴，⑧シャウプ勧告，⑨キャピタル・ゲインとロス，⑩フリンジ・ベネフィット

◆学修計画

1回目	第1章：租税の理念を理解し，租税に関する用語，租税の分類，課税の根拠について学修する。
2回目	第1章：「租税原則と課税の公平性」,「租税の転嫁」,「租税の中立性と超過負担」,「わが国の租税体系と徴税機構」を学修する。
3回目	第2章：「所得税」の仕組みと所得税制度の持つ問題点を学修する。
4回目	第3章：「法人税」の仕組みを理解し，法人税制度の持つ問題点を学修する。
5回目	第4章：「フリンジ・ベネフィット」の意義を学修する。
6回目	第5章：「キャピタル・ゲインとロス」に関する意義と問題点を学修する。
7回目	第5章：「納税者番号制度」の意義と問題点を学修する。
8回目	第6章：「住民税」の仕組みを理解し，住民税の意義と問題点を学修する。
9回目	第7章：「事業税」の仕組みを理解し，事業税の意義と問題点を学修する。
10回目	第8章：「国際課税制度」の意義を理解し，国際課税の問題点を学修する。
11回目	第9章：「消費課税」の仕組みを理解し，消費課税の意義と問題点を学修する。
12回目	第10章：「資産課税の分類と地価税・富裕税」の仕組みを理解し、資産課税の意義と問題点を学修する。
13回目	第11章：「相続税・贈与税」の仕組みを理解し，相続税・贈与税の意義と問題点を学修する。
14回目	第12章：「固定資産税」の仕組みを理解し，固定資産税の意義と問題点を学修する。
15回目	第13章：第二次世界大戦直後の税制改革についての「シャウプ勧告」が戦後日本の税制の基盤となったことを学修する。

◆参考文献

『図説　日本の税制』毎年発行（財経詳報社）
『租税論の展開と日本の税制』宮島洋（日本評論社）
『要説：日本の財政・税制』井堀利宏（税務経理協会）
『財政学入門』楠谷清・他（八千代出版）
『租税論』林正寿（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
R31800	金融論	4単位

教材コード　000540

教　材　名　金融論　※金融機関論と同じ教材です。

著 者 名 等　谷川　孝美

◆教材の概要

金融とは，資金を必要としている経済主体（個人，企業，政府など）がその資金を調達することであり，資金に余裕がある経済主体がその資金を運用することである。教材は，この金融に関連する基本的な事柄や理論について平易な解説を試みたものである。その構成は，貨幣，資金の調達運用に関連する金利，金融取引において問題となる情報の非対称性，基本的な金融理論，中央銀行である日本銀行を中心とした日本の金融制度および日本の金融市場や金融機関からなっている。

◆学修到達目標

最近では，非伝統的金融政策とその影響が話題になっている。また，日々の生活では貨幣などをもちいて決済し，貯蓄，投資，借入などの金融取引をおこなっている。これらをふまえ以下のことを目標とする。

1. 貨幣の定義や金利の決定など，金融に関する基本的な事柄を学び，説明できる。
2. 日本の金融システムにおける特徴や歴史の概略を学び，説明できる。
3. 中央銀行である日本銀行の機能や役割を理解し，説明できる。
4. 金融政策について理論的な背景を含めて考察し，説明できる。

◆学修方法・留意点

金融理論の基礎をより良く理解するためには，経済学とくにマクロ経済学の基礎が重要となる。不安がある場合には，それらについて自ら確認することが大切である。

また，金融制度やデータなどは変化しているので，学修の際には，参考文献等で最新のものを確認すると良いであろう。

◆学修計画

1回目	金融とは何か，金融取引，決済
2回目	貨幣の歴史および定義
3回目	名目金利，実質金利
4回目	短期金利と長期金利の決定
5回目	リスク資産における金利の決定
6回目	金融における情報の非対称性問題
7回目	資金循環，日本の金融制度の特徴
8回目	日本の金融市場（インターバンク市場，短期金融市場）
9回目	日本の金融市場（長期金融市場）
10回目	金融仲介機関としての銀行の機能，役割
11回目	中央銀行とは何か
12回目	日本銀行の機能，役割
13回目	伝統的金融政策の目的と手段
14回目	非伝統的金融政策（ゼロ金利政策から長短金利操作付き質的量的金融緩和まで）
15回目	金融政策の理論

◆参考文献

『ベーシック＋（プラス）金融論』家森信善（中央経済社）
『日本の金融制度』鹿野嘉昭（東洋経済新報社）
『現代の金融入門【新版】』池尾和人（筑摩書房）
『ベーシック＋（プラス）金融政策』小林照義（中央経済社）
『日本銀行の機能と業務』日本銀行金融研究所編（有斐閣）
（日本銀行ホームページ http://www.imes.boj.or.jp/japanese/pf.html に同じものがあります）

科目コード	科　目　名	単位数
R31900	貨幣経済論	4単位

教材コード　000440
教　材　名　貨幣経済論
著 者 名 等　藤本　訓利・関谷　喜三郎

◆教材の概要

貨幣経済論では，貨幣が経済活動の中で果たす役割が考察される。そのため，本教材は，主に貨幣について考察する分冊１（前半部分）と，貨幣とマクロ経済との関係を考察する分冊２（後半部分）から構成されている。分冊１では，現代の貨幣の機能を明確にし，貨幣を定義した上で，今日流通している貨幣量（マネーサプライ）の概念について説明されている。そして貨幣量の供給面に関わる金融政策と，それに対する貨幣の需要に関する理論がまとめられている。また，分冊２では，貨幣量とマクロ経済との関係に関するケインズ理論『一般理論』体系や古典派の理論，IS-LM 分析，物価の決定理論に関する貨幣数量説や総需要・総供給分析，フィリップス曲線など，マクロ経済学の基礎理論が展開されている。

◆学修到達目標

この教材では，いわゆるマクロ経済学の基礎理論を貨幣面から考察したものであるが，現実のマクロ経済現象を読み解くマクロ経済学の構造を理解するため，最低限必要な「基礎知識」，「経済学の考え方」，「分析手法」を習得することが目標となる。

◆学修方法・留意点

貨幣経済の問題を理解する場合には，現代の貨幣についての認識が必要となる。また，マクロ経済および金融政策との関連が重要になるので，マクロ経済学についての知識と理解も必要である。

◆学修計画

1 回目	財市場・金融市場・労働市場（生産要素市場）における財と貨幣の循環をマクロ的に捉える
2 回目	貨幣の定義・機能・形態を理解したうえで，貨幣経済の特徴を明確にする
3 回目	現実に流通している貨幣（マネーサプライ）の概念や，マネーサプライと物価の関係，そしてマネーサプライが変動する要因について貨幣乗数の視点から考察する
4 回目	マネーサプライの変動に関連する金融政策について考察する
5 回目	わが国における金融政策の新しい政策手段について考察する
6 回目	貨幣の需要面に目をむけ，古典派の貨幣数量説を考察する
7 回目	ケインズ『一般理論』における貨幣の需要，すなわち「流動性選好説」を考察する
8 回目	貯蓄と投資の金融的関連として，家計や企業の貯蓄行動について分析する
9 回目	古典派の利子率決定理論やウィクセルの累積過程の理論を説明する
10 回目	ケインズ『一般理論』体系①：雇用の理論（労働市場分析）と有効需要の原理（財市場分析）を考察する
11 回目	ケインズ『一般理論』体系②：投資量の決定や利子率の決定（流動性選好説）を考察する
12 回目	IS-LM モデルによる財政・金融政策の効果について考察する
13 回目	現代貨幣数量説としてのマネタリズムの理論を分析する
14 回目	物価と国民所得の同時決定の理論（総需要・総供給分析）について考察する
15 回目	失業とインフレーションの関係（フィリップス曲線）について考察する

◆参考文献

『入門マクロ経済学』（第５版）中谷巌（日本評論社）

科目コード	科　目　名	単位数
R32000	経済統計学	4単位

教材コード　000174
教　材　名　経済統計学
著 者 名 等　阿部　喜三

◆教材の概要

経済統計学とは経済現象全般の統計的実証的分析および研究のための学問である。戦後のわが国経済は昭和 35 年の国民所得倍増計画以後，驚異的な高度成長をとげ，1 人当り国民所得は世界のトップクラスとなった。しかし，オイル・ショック以後の資源・エネルギー・環境の制約下で，現在のわが国経済は老齢化・国際化・情報化等の大きな変動期を迎えている。このため従来からの古典的経済理論や分析法では十分な対応ができにくく，統計学と経済学の総合化を目指した。

◆学修到達目標

経済統計は完全ではない．経済活動が常に動いているからであり，その動きを統計に反映させるまでには時間も要する．このため，経済統計の作成方法を理解して，利用する必要がある．

したがって，本科目の到達目標は経済統計の作成方法を理解した上で，現実経済の動きを分析できる能力の醸成である．

◆学修方法・留意点

① 経済時系列分析の手法：（例）最少自乗法，ロジスティック曲線，季節変動の調整など。
② 経済成長率（名目と実質値）の計算。
③ 景気観測の諸方法。
④ 標本調査と全数調査の比較検討。

◆学修計画

1 回目	経済時系列分析の構成要素（傾向変動・季節変動等）の計測
2 回目	物価統計や消費統計による国民生活の動向と生活水準分析
3 回目	消費者物価指数の作り方（ラスパイレス方式）と見方・使い方
4 回目	労働・賃金・生産性，週休 2 日制と定年制度等の動向分析
5 回目	国民総生産と国民所得の計算，金融取引表，国民貸借対照表
6 回目	日本経済の構造変化の分析
7 回目	鉱工業生産と農林水産業の動向分析
8 回目	資源・環境の制約下の産業構造の転換
9 回目	景気変動の分析と景気の予測
10 回目	貿易と国際収支の動向分析
11 回目	財政・金融・証券統計と今後の動向
12 回目	経済関数と確立変数の分布
13 回目	標本調査と全数調査との優劣点の比較
14 回目	品質管理と在庫管理の手法
15 回目	需要予測の方法と経営計画，最適計画法の目標

◆参考文献

統計学の基礎（入門書）：数多くの経済・経営を学ぶための統計学入門書が市販されている。
経済学・経営学入門：マクロ・ミクロの経済学の入門書が数多く市販されている。

科目コード	科　目　名	単位数
R32200	労働経済論	4単位

教材コード　000500
教　材　名　『よくわかる社会政策　雇用と社会保障　第3版』
著 者 名 等　石畑　良太郎・牧野　富夫・伍賀　一道
出 版 社 名　ミネルヴァ書房
I S B N　9784623085620

◆教材の概要

本書は，タイトルに「社会政策」という用語が使われているが，労働経済論を包含した広い概念で使われており，序論などの一部を除き，労働経済論のテキストとしても使えるようになっている。

とりわけ「Ⅰ．賃金」～「Ⅲ．雇用・失業」は，労働経済論の基礎的な研究領域であり，「Ⅵ．高齢社会」～「Ⅷ外国人労働者」は，労働経済論の応用分野をなしている。そして，それぞれの章において，資本主義経済がもたらす構造的な問題が平易に解き明かされ，統計データと経済分析に基づく労働市場の実態が示される。

そこで，本書をⅠ～Ⅲの賃金，労働時間，雇用の研究領域からなる前半部分と，Ⅵ～Ⅷの高齢社会・男女平等，外国人労働者の後半部分とに大別し，それぞれの章のテーマがどのように分析され，論じられているかを学修してほしい。

◆学修到達目標

雇用・失業・賃金・労働時間ならびに働き方・働かされ方に関する諸問題を経済学的に分析する視点を身につける。

◆学修方法・留意点

本書は，労働経済論の各論について論述しているが，本書だけで労働経済論の全体像を理解できるわけではないので，提示された参考文献はもちろん，他の関連書籍や雑誌論文，最新の統計などにも目を向けて，与えられた課題に対して自分が納得できる説明ができるまで，文章や資料を集め，それらをまとめることが望ましい。

なお，『よくわかる社会政策　第3版』は第2版の内容が更新され，節立てが変更されているので注意すること。

◆学修計画

1回目	賃金：日本の賃金システム（第Ⅰ章①～④）
2回目	賃金：成果主義賃金と同一価値労働同一賃金（第Ⅰ章⑤～⑥）
3回目	賃金：賃金問題と労働政策（第Ⅰ章⑦～⑩）
4回目	労働時間：資本主義社会における労働時間（第Ⅱ章①～②）
5回目	労働時間：日本の労働時間・休日制度（第Ⅱ章③～④，⑥～⑦）
6回目	労働時間：日本の長時間労働問題とワークライフバランス（第Ⅱ章⑤，⑧～⑩）
7回目	雇用・失業：失業と不安定就業（第Ⅲ章①～⑦）
8回目	雇用・失業：雇用保障と労働政策（第Ⅲ章⑨～⑪）
9回目	高齢社会：日本の高齢社会（第Ⅵ章①～⑤）
10回目	高齢社会：高齢社会と雇用政策（第Ⅵ章⑥～⑩）
11回目	男女平等：日本の男女間格差（第Ⅶ章①，④～⑥）
12回目	男女平等：男女平等に向けた取り組み（第Ⅶ章②～③，⑦～⑪）
13回目	外国人労働者：外国人労働者問題（第Ⅷ章①～②）
14回目	外国人労働者：日本の外国人労働者受け入れ政策（第Ⅷ章③～⑧）
15回目	外国人労働者：滞日外国人と多文化共生（第Ⅷ章⑨～⑩）

◆参考文献

『能力主義と企業社会』熊沢誠（岩波書店（岩波新書），1997年）
『労働経済』清家篤（東洋経済新報社，2002年）
『新しい労働社会』濱口桂一郎（岩波書店（岩波新書），2009年）
『労働経済白書』厚生労働省（Web各年版）

科目コード	科　目　名	単位数
R32300	情報概論	4単位

教材コード　000453
教　材　名　情報概論
著 者 名 等　寺沢　幹雄

◆教材の概要

本教材では，コンピュータを専門としない学生でも理解できるように，IT 化を支えるコンピュータとネットワークの基本を解説している。情報化についての一般的な基礎知識を始めとして，簡単なコンピュータの利用法，情報関連ビジネスの現状・トレンドなどについても述べている。IT パスポート試験や基本技術者試験などの練習問題も取り入れているので，情報関連の資格試験の概略的知識も得ることができる。

◆学修到達目標

コンピュータとネットワークの基本が理解できる

◆学修方法・留意点

IT 技術の進歩は速いので，新聞，雑誌などで常に最新の情報を得ることが大切。技術の進歩は相互に関係しあっているので，細部にとらわれるのではなく，全体の中での位置づけを意識すること。

◆学修計画

1 回目	コンピュータの基礎
2 回目	文書作成・ファイルとフォルダ・プレゼンテーション資料作成
3 回目	インターネット利用・IT 機器の現状
4 回目	データ通信技術・ネットワーク・インターネット技術
5 回目	ビジネスにおけるインターネット利用
6 回目	暗号化・セキュリティ
7 回目	コンピュータの構造・CPU の動作原理
8 回目	演算処理・情報量
9 回目	マルチメディア表現
10 回目	データ通信
11 回目	オペレーティングシステム
12 回目	表計算
13 回目	データベース理論・データベース記述
14 回目	プログラミングの基礎
15 回目	アルゴリズム

◆参考文献

IT パスポート試験教科書（出版社不問）
基本情報技術者試験教科書（出版社不問）

科目コード	科　目　名	単位数
R32600	経済地理学	4単位
S32200	経済地理	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000233

教　材　名　経済地理／経済地理学

著 者 名 等　佐藤　俊雄

◆教材の概要

経済地理学は，生活者，消費者，流通業者，および生産者らが時代や社会の変化のなかで，いかに地域的・空間的に行動し，またこうした変化に対応しているか，さらに，かれらがこうした変化に対して，どのように相互に作用し，適応し，また，計画的に，創造的に行動し，活動しているかを，経済活動および経済空間を通じて分析し，評価し，体系化することである。本教材は，このことを，生活空間，流通空間，生産企業空間，および地域・空間構造の分野に分けて論説している。

◆学修到達目標

下記の学修方法・留意点に即して学び，テキストに記載されている各章の内容とキーワードについて，正確に理解するとともに，それらを正しくかつ要領よくまとめて説明する能力を培う。

◆学修方法・留意点

まず，経済地理学の主要な対象である経済活動と経済空間を把握し，経済空間の普遍性と固有性の存在を認識したうえで，成熟社会における生活者の生活行動および生活空間の多様性を理解する。さらに，サービス化・情報化社会における小売企業および卸売企業の活動範囲としての流通空間，その空間的変化を捉え，そこに普遍性と固有性のあることを認識する。

つぎに，ソフト化・ハイテク化社会における生産企業の経済活動を展開する範囲（生産企業空間）を把握するために，とくにハイテク企業の立地，立地適応，および立地戦略を学修したうえで，もう一つの生産空間である農林生産空間が地方の時代，地域の時代，およびグローバルの時代に適応するべく固有化，あるいは普遍化していることを認識する。最後に，生活空間，流通空間，および生産企業空間が情報ネットワーク化され，経済的空間構造が究極的には多極連結情報ネットワーク型になることを理解する。

また，①「経済空間の普遍性と固有性」の存在をつねに念頭において，理論的把握から実践的把握へ，全体把握から部分把握へと学修を進める，②教材は第１章から読み返しながら熟読する，③キーワードに注目して教材末尾の索引を利用し，その意味を正しく理解する，④文中の引用文献や各章末尾の参考文献についても併読すると理解しやすいであろう。

なお，レポートについては大学生として相応しい小論文（作文）の書き方および原稿用紙の使い方で，明瞭な文章を用いて要領よく正確に楷書でまとめ，とくに小見出しや箇条書きは用いず，原稿用紙のボリュームをフルに活用する。また科目修得試験については簡潔明瞭に楷書でまとめるよう留意する。

◆学修計画

1 回目	経済活動と経済空間
2 回目	成熟社会の生活者と生活空間の質
3 回目	生活者の行動パターン
4 回目	サービス化・情報化社会の流通空間　流通企業の生活者・消費者変化への対応
5 回目	小売企業の空間的変化
6 回目	卸売企業の空間的変化
7 回目	生産企業活動のソフト化・ハイテク化
8 回目	ハイテク企業の立地，立地適応および立地戦略
9 回目	多国籍企業の組織と空間活動
10 回目	農業生産空間とソフト化
11 回目	グローバル・ネットワーク社会の地域・空間構造と地域経営　地域・空間構造のライフサイクルとパターン
12 回目	地域経営
13 回目	都市と農村の計画的共生
14 回目	地球資源と地球環境保全
15 回目	異文化コミュニケーション

◆参考文献

『ショッピング・センター』J. A. ドーソン著　佐藤俊雄訳（白桃書房）
『マーケティング地理学』佐藤俊雄著（同文舘出版）
『マネジメント―基本と原則―【エッセンシャル版】』P.F. ドラッカー著　上田惇生編訳（ダイヤモンド社）
『地方からの変革』平松守彦著（角川書店）

科目コード	科　目　名	単位数
R32800	外国史概説	4単位
S33300	外国史	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000148

教　材　名　外国史／外国史概説

著 者 名 等　長沼　宗昭・中村　英勝・林　義勝・松浦　義弘・岸田　達也・小島　淑男

◆教材の概要

歴史の理解のためには，まず何よりも基本的事実や概念を正しく把握しなければならない。本教材の西洋の部分では，市民社会の成立以降のヨーロッパを中心とした歴史が扱われている。ここで扱われた時代は，ヨーロッパが内部に矛盾をはらみながら，その支配を世界のすみずみに拡大していった時代であり，また，アジア諸地域ではヨーロッパの侵略がすすみ，その一方で民族の解放がすすむ時代でもあった。それは現代社会の諸問題が形づくられた時代でもある。

◆学修到達目標

本教材で取り扱われた事項と現代との関連に常に注意を払いながら，歴史的思考を養うことを目標とする。

◆学修方法・留意点

ブルジョア革命がそれまでの社会をどのように変革したか，また工業化との進展がヨーロッパ社会の中にどのような問題をもたらすことになったか，などに注意しながら，諸事象の関連を考える。

ヨーロッパの世界支配が，何を背景に，どのように進行したか，それがヨーロッパ内部や被支配地域で何を生み出したか，などに注意を払い，複雑な国際関係の展開を理解する。

アジア諸地域は，17 世紀以降，ヨーロッパ諸国の侵略により，オスマン帝国はその勢力下におかれ，インド・東南アジアは植民地とされ，さらに中国は半植民地となった。ヨーロッパ諸国の勢力下，植民地，半植民地となったアジア諸地域において，抵抗運動，民族の独立や主権を回復させる運動が展開された。中国では義和団運動後，結ばれた辛丑和約によって半植民地化が決定的となった。こうした中国には立憲運動と革命運動という 2 つの潮流があったが，孫文等の革命運動が勢力を得，辛亥革命により清朝を倒して中華民国を成立させた。

◆学修計画

1 回目	ブルジョワ革命の時代
2 回目	ナショナリズムの高揚
3 回目	帝国主義
4 回目	現代の世界
5 回目	西アジアの変動と革命
6 回目	インドの植民地化
7 回目	東南アジアの植民地化
8 回目	東アジアの半植民地化
9 回目	西アジアの変革
10 回目	インドの民族運動
11 回目	東南アジアの民族運動
12 回目	東アジアの変革
13 回目	中華民国の成立
14 回目	第一次世界大戦とアジア
15 回目	第一次世界大戦後のアジア

◆参考文献

【西洋】各章末に付されている参考文献。

【東洋】巻末に付されている参考文献のほかに，以下のものがあります。

『現代中国の歴史』久保亨等編（東京大学出版会）

『シリーズ中国近現代史　近代国家への模索』川島真（岩波新書）

科目コード	科　目　名	単位数
S20100	商学総論	4単位

教材コード　000356
教　材　名　商学総論
著 者 名 等　佐藤　稔

◆教材の概要

本書は，商業の概念やその研究対象などを考察していくことから始まる。そして，商品の社会的流通現象について示していく。また，流通機能を担う小売業や卸売業についてそれぞれ詳述していく。流通現象におけるモノ，情報，取引などの流れについても論じていく。以上，本書は商学の分野を体系的に理解するための教材となっている。

◆学修到達目標

商品・流通に関する基本的な知識を修得することができる。商業は，商品と人々をつなぐために必要な要素であり，この仕組みが日々の暮らしの中で活用されているという事実を理解することで，受動的に社会と関わるのではなく，能動的に社会を洞察していく力を養うことも目標とする。

◆学修方法・留意点

教材に登場するキーワードについて理解していく。商品や流通に関わる要素は社会の変化に伴って移り変わっていくため，それぞれのテーマごとに現代的な事例を参照していく。

◆学修計画

1回目	商業の概念，主な商業学説について
2回目	商業の研究，商業研究の対象と方法
3回目	流通の生成と発展，市場経済の成り立ちと現代の流通
4回目	商品の概念，取引対象としての商品について
5回目	流通機能の意義，流通機能の分析に関する研究
6回目	需給統一機能，需給統一の意義
7回目	物流機能，物流の意義と諸機能について
8回目	流通機構，流通機構の概念について
9回目	卸売業，卸売業の概念と機能について
10回目	商社，商社の概念と機能について
11回目	小売業，小売業の概念と役割について
12回目	小売業の商圏設定，商圏設定の意義とその手法
13回目	小売商業機関，小売業の類型とそれぞれの意味と特性
14回目	小売商業のチェーン化，チェーン・ストアの意味と特性
15回目	小売業の共同化・協業化，商業集積の意味について

◆参考文献

『現代の小売流通　第2版』懸田豊・住谷宏編著（中央経済社　2016）
『現代商業学』梅沢昌太郎編著（慶應義塾大学出版会　2010）
『商学通論　九訂版』久保村隆祐編（同文館出版　2016）

科目コード	科　目　名	単位数
S20200	経営学	4単位

教材コード　000617
教　材　名　『はじめての経営学』
著 者 名 等　日本大学商学部経営学科　編
出 版 社 名　同文舘出版
I S B N　9784495390358

◆教材の概要

本教材は，日本大学商学部の専門基礎科目「経営学入門1」のテキストでもあり，経営学を始めて学ぼうとする人すべてにとって有益となるように作られています。第1部の経営学の基本の第1章から第6章では，ある架空のラーメン店のストーリーが記述されていて，実務において理論がどのように応用されているかを理解する手助けとなっている。

◆学修到達目標

企業経営の基礎（経営管理），企業の戦略①企業戦略，企業の戦略②事業戦略，企業の組織①ミクロ戦略，企業の組織②マクロ戦略，企業のガバナンスを重点的に学習し，理論に基づいてビジネスに関連する現象を説明できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

この授業で提示したテキストに基づいて学習すると同時に，日々，ビジネスに関する情報を様々なメディアから得ることも大切です。

◆学修計画

1回目	企業経営の基礎（経営管理）：経営者の役割（事業の継続的展開，事業の展開方法の決定）
2回目	企業経営の基礎（経営管理）：経営者の役割（資源の運営，利害関係者の調整）
3回目	企業の戦略①企業戦略：企業戦略の定義，業界・企業のライフサイクル，成長の方向性を定める
4回目	企業の戦略①企業戦略：ビジネスの範囲の拡大，ビジネスの幅の拡張，ビジネスのフィードの拡大
5回目	企業の戦略②事業戦略：業界構造の分析，3つの基本戦略
6回目	企業の戦略②事業戦略：ブルーオーシャン戦略，市場地位別戦略と事業の仕組み
7回目	企業の組織①ミクロ組織論：働くことへの動機付け
8回目	企業の組織①ミクロ組織論：リーダーシップ，管理
9回目	企業の組織②マクロ組織論：組織設計の基礎，ライン部門とスタッフ部門
10回目	企業の組織②マクロ組織論：機能別組織と事業部制組織，経営環境と組織間関係のマネジメント
11回目	企業のガバナンス：株式会社とは
12回目	企業のガバナンス：コーポレートガバナンスと企業の社会的責任に関する理論
13回目	企業のガバナンス：日本の株式会社のコーポレートガバナンスと企業の社会的責任
14回目	経営学の現代的トピック：イノベーション，人的資源管理論，コーポレートファイナンス
15回目	経営学の現代的トピック：ベンチャー経営，中国経営・アジア経営，非営利組織

◆参考文献

伊丹敬之（2007）『経営を見る眼』東洋経済新報社。
川田利明（2019）『開業から3年以内に8割がつぶれるラーメン屋を失敗を重ねながら10年も続けてきたプロレスラーが伝える「してはいけない」逆説ビジネス学』ワニブックス。

科目コード	科　目　名	単位数
S20300	簿記論Ⅰ	4単位

教材コード　000454

教　材　名　簿記論Ⅰ

著 者 名 等　村井　秀樹

◆教材の概要

現代のビジネスの「読み，書き，そろばん」は，「英語，IT，簿記会計」です。簿記を学ぶことは，文系・理系に関わらず，すべてのビジネスパーソンにとって必要不可欠なものです。

テキストは，12 章から構成されています。第 1 編は，簿記の基礎理論を中心としてまとめられています。章のタイトルを見ますと，第 1 章 簿記の概要，第 2 章 複式簿記の構造，第 3 章 複式簿記一巡の手続き，第 4 章 商品です。第 2 編では，具体的な簿記上の会計処理についてであり，第 5 章 現金・預金，第 6 章 売掛金と買掛金，第 7 章 有価証券，第 8 章 受取手形･支払手形，第 9 章 固定資産，第 10 章 伝票，第 11 章 決算，第 12 章 財務諸表の作成です。各章のはじめに，「学修のねらい」を付けており，また本文中での重要用語は太字にしています。

◆学修到達目標

まず第 1 編のポイントは，簿記理論の概要をしっかり把握するということです。取引を借方・貸方に仕訳し，精算表を作成するという技術的なことも大切ですが，その根拠となった考え方を学ぶことがより重要です。したがって，簿記の種類，複式簿記の特徴，簿記上の取引，複式簿記の構造，決算の意味・内容等を十分理解することが大事です。

次に第 2 編でのポイントは，第 1 編の簿記理論の概要を踏まえた上で，具体的かつより複雑な取引についてその簿記上の処理方法を学修することです。ここでは，実際に数多くの仕訳問題を解く必要があります。具体的な取引としては，現金取引，当座 預金取引，未収金等のその他の債権・債務取引，有価証券取引，手形取引，固定資産取引，伝票制度等です。これらに関わる仕訳を正確に理解した上で，決算整理の必要性を認識し，精算表の作成へと進みます。

簿記論を学び，会計学を知り，そして会社の財務諸表を分析（会社の良し悪し）できるようになることを目的とします。

◆学修方法・留意点

簿記の習得には，問題を数多く解く必要があります。本テキストは，練習問題を適宜設けており，受講生がテキストに直接書き込めるようにしております。しかし，本テキストの練習問題だけでは，十分な力がつきません。必ず，市販の練習問題集を購入して，より多くの問題を解いていただきたいと思います。簿記論は，「習うより慣れよ」です。

◆学修計画

1 回目	簿記の概要　➢　簿記の起源，単式簿記と複式簿記，社会科学（経済学，経営学，法学等）の中での位置づけ
2 回目	複式簿記の基本的な構造　➢　複式（ダブル・エントリー）計算，貸借平均の原理，階梯計算，加法的減法
3 回目	複式簿記一巡の手続き　➢　仕訳→転記→総勘定元帳→試算表→決算整理仕訳→精算表→財務諸表
4 回目	決算　➢　決算整理の意義　，主な決算整理仕訳
5 回目	現金・預金　➢　現金出納帳，当座借越，小口現金，現金過不足
6 回目	売掛金と買掛金　➢　貸倒引当金の設定，その他の債権と債務
7 回目	有価証券　➢　売買目的有価証券，満期保有の債券，子会社・関連会社等株式
8 回目	受取手形・支払手形　➢　約束手形，為替手形，割引手形，裏書手形，手形売却損，評価勘定法
9 回目	商品　➢　3 分割法，仕入帳，売上帳，商品有高帳（先入先出法，移動平均法）
10 回目	固定資産　➢　有形固定資産の取得，売却，減価償却（直接法，間接法）
11 回目	純資産　➢　資本金（追加元入，引出等），引出金
12 回目	収益と費用　➢　受取手数料，旅費交通費，貸倒損失，償却債権取立益，支払利息等
13 回目	税金　➢　所得税，固定資産税
14 回目	証ひょうと伝票　➢　証ひょう，伝票（入金，出金，振替伝票），伝票の集計・管理
15 回目	決算　➢　試算表の作成，精算表（6 桁，8 桁），決算整理，損益勘定への振替，帳簿の締切，貸借対照表と損益計算書の作成

◆参考文献

参考文献を挙げます。

1. 渡部・片山・北村編『検定簿記講義 3 級商業簿記』中央経済社（最新版を求めること）
2. 渡部・片山・北村編『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』中央経済社（最新版を求めること）
3. 清村英之『簿記が基礎からわかる本（第 3 版）』同文舘　2019 年 1 月

さらに簿記を学び，日商簿記検定試験 3 級，2 級，1 級，税理士，公認会計士等の資格試験にチャレンジされたい方は，比較的大きな書店の簿記のコーナーを見てください。実際に手に取り，最も自分のレベルに合ったテキストを選んで頂き，学修して下さい。

科目コード	科　目　名	単位数
S30200	商法	4単位

教材コード　000451
教　材　名　商法
著 者 名 等　根田　正樹

◆教材の概要

本書は，商法（会社法を含む）の全体を一冊に集約し，できるだけ図表や資料などを用いるなどして商法・会社法の全体像についてわかりやすく著わしたものである。もとより4単位という制約があるところから，細部にわたる議論はできないが，この1冊を用いた自学自習で商法のあらましを理解できるものといえる。

◆学修到達目標

商法総論では，商法の体系や理念について理解する。商法総則では個人企業についての組織規則を理解する。

企業取引について締結から支払・決済（手形を含む）に至るプロセス，および企業取引の諸類型についてもその法規制を理解する。

会社などの企業組織法の総論的解説，株式会社の設立・株式・新株予約権・会社の経営機構などについて理解する。

◆学修方法・留意点

法律は制度であり，どのような制度であっても，設けられるについては必ず理由がある。いわゆる立法趣旨と呼ばれたり，制度趣旨といわれるものである。その視点から，本書の解説を読むと，商法・会社法がより理解しやすいといえる。当然のことであるが，他の法学関係科目と同様に，直接条文にあたりながら本書を読んでいただきたい。

◆学修計画

1回目	商業の意義
2回目	商法の法源と適用
3回目	商法総則：商人・商行為概念～商業登記
4回目	商法総則：商業帳簿～営業
5回目	企業取引法総論：企業取引とは～企業取引と代理
6回目	企業取引法総論：企業取引の営利性～商事債権の消滅
7回目	企業取引法各論
8回目	支払決済法
9回目	会社法：序説　組織法総論
10回目	会社法：株式会社～株式会社の機関
11回目	会社法：株主総会～代表取締役
12回目	会社法：会計参与～新株予約権
13回目	会社法：社債～定款変更・解散・清算
14回目	企業の組織再編－事業譲渡，組織変更，合併，会社分割，株域交換および株式移転
15回目	完全親会社の創設－株式交換および株式移転

◆参考文献

新聞の経済欄等には毎日のように商法・会社法などに関する記事がのっている。これらの事例とともに勉強すると，商法・会社法はより身近なものになろう。また，より深く勉強したい人は市販の判例解説・コンメンタール・解説書などを併用するとよい。

なお，インターネットの Wikipedia や Yahoo の百科事典などの利用も有益といえる。

科目コード	科　目　名	単位数
S30300	商品学	4単位

教材コード　000401
教　材　名　『現代商品論　第二版』
著 者 名 等　見目　洋子・神原　理
出 版 社 名　白桃書房
I S B N　9784561651888

◆教材の概要

本教材は,「序章」「第1章　商品の概念」「第2章　商品の品質と価格」「第3章　商品研究と史的変遷」「第4章　標準化と商品価値」「第5章市場の課題と商品開発」「第6章　商品デザインとパッケージ」「第7章　サービス経済における商品」「第8章　商品と市場の安全性」「第9章　ライフスタイルと消費行動」「第10章　ブランドの価値と役割」「第11章　商品と環境，そして環境コミュニケーション」「第12章　少子高齢社会における商品，市場創造」「第13章　商品と社会」からなっている。前半は現代商品の特性，市場の戦略的な課題を中心に学ぶ。後半は，商品の現代的価値，そして社会変化の中で商品の新たな課題を理解する。

◆学修到達目標

今日の市場における多様な商品化現象を通して，商品の概念や特性を理解し，消費や商品，市場の課題を発見し，分析するための基礎的能力を習得する。

◆学修方法・留意点

日ごろから，具体的な商品化現象に関心を持ち，理論や企業戦略，実際のビジネス現象に関する情報収集をすること。実際の商品やサービスの事例を挙げて説明できるように心がけてほしい。

◆学修計画

1回目	商品の概念　商品概念の理解，品質の構造と価格的側面の変化
2回目	商品研究の歴史的変遷　ヨーロッパ，日本，アメリカでの商品研究の比較
3回目	標準化と戦略的展開　標準化の意義と戦略的視点，商品価値の創造
4回目	市場における商品化現象　市場の課題と商品開発
5回目	市場における商品化現象　商品パッケージの現代的役割
6回目	サービス経済化の進展と商品　サービスの商品化プロセス
7回目	商品と市場の安全性　商品の安全性，製造物責任法
8回目	商品と市場の安全性　市場制度としての安全性確保活動，品質管理体制
9回目	ライフスタイルと消費行動　消費行動研究の変遷　新たなライフスタイルの出現
10回目	ブランドの価値と役割　ブランドの種類，差別化手段としてのブランド
11回目	ブランドの価値と役割　ブランド概念の高次化　ブランド・エクイティ
12回目	商品と環境　企業の環境主義経営，商品の環境品質
13回目	商品と環境　市民社会における環境コミュニケーション
14回目	少子高齢社会　生活福祉の概念，市場の課題と商品・サービスの開発
15回目	商品と社会　商品の市場性と社会性，ソーシャルビジネスの意義

◆参考文献

『21世紀の商品市場　―市場性と社会性の調和―』片岡寛・見目洋子・山本恭裕編著（白桃書房）
『わかりやすいマーケティング戦略　新版』（有斐閣アルマ）沼上幹（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
S30400	貿易論	4単位

教材コード　000439
教　材　名　貿易論
著 者 名 等　松原　聖・飯野　文

◆教材の概要

本書は2部構成であり，第1部は主に国際経済学の視点から，第2部は主に国際経済法の視点から貿易論を捉えている。

第1部では，日本の最近の貿易構造，貿易理論，保護主義，貿易実務，国際収支表，外国為替市場・為替レート，海外直接投資を扱っている。第2部では，世界貿易の動向と国際貿易体制（GATT・WTO体制），WTOが規律する物品およびサービスに関わる貿易ルール，地域経済統合，貿易紛争処理，投資紛争処理を取り上げている。

◆学修到達目標

1. 日本の貿易構造をデータ・理論両面から理解し，比較優位および保護主義の観点からこれらを説明できる。
2. 日本の国際収支および直接投資を理解し，国際経済・マクロ経済の観点からこれらを説明できる。
3. 外国為替市場および為替レートの日本経済への影響を理解し，関連する（貿易）実務の基礎を身に着ける。
4. 貿易政策の国際的枠組みや歴史的背景を学び，貿易に関する知識を身につける。それを踏まえて，現状を分析する能力を養う。貿易の現状に加え，貿易をめぐる諸課題（「非貿易的関心事項」等），貿易紛争の実態についても学習する。
5. 全体を通じて，貿易に関連する問題発見・問題解決能力の養成に努める。

◆学修方法・留意点

第1部，第2部を通じて，貿易が（日本）国内の個人や企業とどのように関わっているのかという視点を持ちながら学修することが重要である。インターネットなどを活用しながら，各章の内容の具体例を知りながら学修することにより，個々の説明について理解を深めることができる。参考文献や日々の新聞記事等を参考にして，経済にとって貿易がいかに重要であるのかを学んでほしい。

◆学修計画

1回目	日本の貿易の概要
2回目	比較優位の原理Ⅰ：リカードの貿易理論・補論　需要・供給分析
3回目	比較優位の原理Ⅱ：ヘクシャー・オリーンの貿易理論（その1）
4回目	要素賦存量とヘクシャー・オリーンの定理・自由貿易と経済発展
5回目	保護主義に関するいくつかの議論・産業転換に伴う調整コストや政治的決定から来る制約
6回目	貿易実務の基礎：貿易の基本的な流れ，保険・運輸の役割及び貿易手続きの電子化
7回目	国際収支表・日本の国際収支の長期的傾向とマクロ経済との関係
8回目	外国為替市場・為替レートと日本経済
9回目	日本の海外直接投資の現状・直接投資の理論および貿易との関係
10回目	世界貿易の動向と国際貿易体制
11回目	世界貿易機構（WTO）と貿易政策の諸手段：世界貿易機構（WTO）の全体像・関税と輸出入政策
12回目	GATT － WTOの基本原則
13回目	国内規制への対応：衛生植物検疫措置・貿易の技術的障害
14回目	WTO体制下における規律分野の拡大：農業貿易・サービス貿易
15回目	地域経済統合：地域経済統合の動向・地域経済統合とWTO協定との関係・原産地規則

◆参考文献

・『WTO・FTA法入門』小林・飯野他著（法律文化社，2016）
・『WTO・FTA・CPTPP（仮）』飯野著（弘文堂，2019夏刊行予定）
・『マンキュー入門経済学（第2版）』N.グレゴリー・マンキュー著，足立ほか訳（東洋経済新報社，2014年）
・『徹底解説　国際金融～理論から実践まで』清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著（日本評論社，2016年）

科目コード	科　目　名	単位数
S30500	マーケティング	4単位

教材コード　000182
教　材　名　マーケティング
著 者 名 等　長谷　政弘・佐藤　稔

◆教材の概要

本書は，前半部分の特に第一章から第四章まででマーケティングとは何かという基本的な考え方から，さまざまなあり方について示している。そして，それ以降の章で，マーケティングの重要な要素である製品，価格，チャネル，プロモーションなどについて詳述している。また，販売員の活動や店舗計画，ディスプレイなど，流通業に焦点を当てたマーケティングについても検討している。以上，本書はマーケティングの分野を網羅的に理解するための教材となっている。

◆学修到達目標

製品，価格，プロモーション，流通などのマーケティングの基礎的な知識を修得することができる。また，店づくりやディスプレイの手法，消費者行動などについて多面的に学ぶことで，社会の仕組みを理解することも目標とする。

◆学修方法・留意点

教材に登場するキーワードについて理解していく。マーケティングは変化し続けているため，それぞれのテーマごとに現代的な事例を参照していく。

◆学修計画

1回目	マーケティングの全体図　マーケティングの概念
2回目	ニュー・マーケティングの展開　ソーシャル・マーケティングについて
3回目	マーケティングの諸分野　サービスのマーケティングについて
4回目	マーケティング環境　消費者行動やマーケティングを取り巻くさまざまな要素について
5回目	マーケティング情報　マーケティング調査について
6回目	製品政策　新製品開発について
7回目	仕入計画　仕入計画と商品構成について
8回目	価格政策　価格決定の方式と価格戦略について
9回目	販売経路政策　販売経路の意義と機能
10回目	店舗計画　ストア・コンセプト策定プロセスについて
11回目	広告　広告の意義と特性
12回目	販売員活動　販売員の役割と管理
13回目	販売促進　販売促進の意義と手法
14回目	ディスプレイ　ディスプレイの基本的条件と演出手法
15回目	物的流通　物的流通の概念と諸機能

◆参考文献

『コトラー，アームストロング，恩藏のマーケティング原理』フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング，恩藏直人（丸善出版　2014）
『現代商業学』梅沢昌太郎編著（慶應義塾大学出版会　2010）
『マネジメント・テキスト　マーケティング入門』小川孔輔（日本経済新聞出版社　2009）

科目コード	科　目　名	単位数
S30600	保険総論	4単位

教材コード　000578
教　材　名　『はじめて学ぶリスクと保険（第4版）』
著 者 名 等　下和田　功
出 版 社 名　有斐閣
I S B N　9784641184206

◆教材の概要

「リスク社会」に生きるわれわれにとって，どのようにリスクに備えるかは重要な課題である。本教材は，リスクマネジメントのなかでも保険に焦点をあて，その仕組みや機能，歴史，市場など保険の全体像を体系的かつ段階的に学べる解説書である。具体的には，「第Ⅰ部　リスクと保険の基礎」「第Ⅱ部　個人・企業を取り巻くリスクと保険」「第Ⅲ部　保険経営の仕組みと特徴」「第Ⅳ部生活保障システムと社会保険」の4部から構成される。

◆学修到達目標

・リスクを処理する手段としての保険の仕組みや機能，コストを多面的に理解し，説明することができる。
・保険を利用する消費者の視点から，保険の内容を理解し，保険加入にそれを活用することができる。
・保険を提供する事業者の視点から，保険ビジネスや経営について理解し，説明することができる。
・社会保険の制度と課題を理解し，改善の方向性を示すことができる。
・生活設計における社会保険と民間保険の役割を理解したうえで，生活設計にそれを活用することができる。

◆学修方法・留意点

・専門用語が多いので，まずはキーワードの意味を理解することに心掛けて精読すること。
・練習問題を解くこと。なお，解答・解説は有斐閣のウェブサイトに掲載されている。
・保険に関するニュース記事を日頃から読むと理解が深まる。
・ウェブサイトなどを通じて，教材の最新内容をフォローアップすること。

◆学修計画

1回目	なぜ「リスクと保険」学ぶのか（序章）リスクとリスクマネジメントの基礎（1章，2章）
2回目	保険の仕組み（3章）
3回目	保険契約の基礎（4章）
4回目	リスクに対処する諸制度と保険の歴史（5章，7章）
5回目	保険の経済分析（6章）
6回目	保険可能なリスクと保険商品（8章，9章）
7回目	住まいの保険とくるまの保険（10章，11章）
8回目	けがと病気の保険と生命保険（11章，12章，13章）
9回目	新商品開発と保険の販売，アンダーライティングと契約保全，損害調査と保険金支払い（16章，17章，21章）
10回目	保険の財務（18章，19章）
11回目	保険者の企業形態，保険経営の組織・規律と業界再編成（15章，22章）
12回目	保険産業と監督システム（23章）
13回目	生活保障システムにおける社会保障・社会保険（24章）
14回目	年金保険，医療保険（25章，26章）
15回目	介護保険，労働保険（27章，28章）

◆参考文献

・教材（第Ⅰ部～第Ⅳ部の最後にある「理解を深めるために」）に関連サイトや参考文献が記載されているので参照すること。

科目コード	科　目　名	単位数
S30700	交通論	4単位

教材コード　000184
教　材　名　交通論
著 者 名 等　山上　徹

◆教材の概要

「交通論」の主要な研究領域とは，人・物・情報の場所的移動をいかにして経済的に克服するかにある。

本書では，交通の基礎的な理論をはじめ，歴史的な発達状況，さらに現代的な諸問題について論じるものである。とくに交通手段には，陸海空の多様な交通手段が存在しており，それぞれ機能上，長所・短所を論じ，またそれぞれ相互依存しながら「場所的距離の移転」という交通サービスに関する基本的な内容について論じるものである。

◆学修到達目標

第１編　交通サービスの特徴と物流活動では，①交通の語源と交通サービスの特性②交通ターミナルの役割と機能③流通活動における物流費とは何か④物流システムの目的と重要性を理解すること。

第２編　国際航空の特徴と観光行動では，①国際航空における交通需要の形態②観光の語源やどのような観光資源があるか③訪日外国人観光客の現状と問題④国際航空市場の自由化と空港間競争を理解すること。

◆学修方法・留意点

① 場所的距離の移転という特殊な活動が交通手段によって実現されることを理解すること。
② 各種の交通手段の機能上の特質を理解すること。
③ 国際交通の役割について理解すること。
④ コンテナ輸送について理解すること。

◆学修計画

1回目	交通現象と概念と研究領域・サービス産業と特徴
2回目	交通サービスの特徴と運賃・交通指向的産業の立地と自然独占
3回目	産業社会の変化と経済性・交通サービスとターミナル
4回目	流通活動における物流の重要性・物流の基本的サービス
5回目	技術革新と物流システム・物流のトレード・オフと在庫計画
6回目	商圏・背後圏の乖離と拡大
7回目	交通のグローバル化と航空輸送・航空輸送の期待と需要特性
8回目	航空輸送サービスとネットワーク・航空産業の自由化と系列化
9回目	国際航空期間と空の自由・
10回目	余暇・観光対象と国際的な人の流れ・旅行業とサービス内容
11回目	国際輸送・国際複合輸送
12回目	国際物流
13回目	海上コンテナ貨物と船積サービス・国際航空貨物の物流形態
14回目	国際輸送と運送証券
15回目	国際取引とサービス業・国際収支とサービス貿易

◆参考文献

※『国際物流のネットワークと港』山上徹著（白桃書房）
※『現代航空経済概論』山上徹監訳（成山堂書房）
※『交通経済学講義』岡野行秀編著（青林書院）
※『現代流通総論』山上徹著（白桃書房）

科目コード	科　目　名	単位数
S30800	証券市場論	4単位

教材コード　000185
教　材　名　証券市場論
著 者 名 等　西條　信弘・安井　昭・高嶋　勝平・佐藤　猛

◆教材の概要

証券市場の基本的事項を網羅（第Ⅰ部は証券市場総論，第Ⅱ部は資金調達論，第Ⅲ部は証券市場論，第Ⅳ部は国際証券市場論）し，しかもコンパクトにまとめられている。しかし最近の状況については各自補足すること

◆学修到達目標

証券市場の基本的な制度と理論を理解して日経新聞の証券欄が興味を持つようになることを目標とする

◆学修方法・留意点

科目習得試験（持ち込み可）を受けるは教科書等で以下の点をノートにまとめて準備することが必要である。

Ⅰ　証券理論の公式による説明【5行程度】
・DDM　・ROE，PER，PBR　MM理論の第2命題　・債券の利回り　・情報の効率性の表現式
・2銘柄のポートフォリオのリスクとリターン

Ⅱ　論述主要テーマ【10 － 15行】
修学計画に記載されたの5つのテーマ（①～⑤）

Ⅲ　最近の株式市場【3行】（各自あらかじめ調べおく）
・行動ファイナンスとは何か　・ESG投資とは何か　・5頭のクジラとは　・HFTとAI取引について
・マザーズ市場の特徴

◆学修計画

1回目	①証券取引所（沿革と組織）
2回目	①証券取引所（上場制度）
3回目	①証券取引所（取引制度）
4回目	①証券取引所（最近の状況）
5回目	②証券のファンダメンタルズ（株式）
6回目	②証券のファンダメンタルズ（社債）
7回目	③資金調達の推移（自社株買入れと格付け社債）
8回目	③資金調達の推移（時価発行）
9回目	③資金調達の推移（自社株買入れと格付け社債）
10回目	④公開企業システム（企業はだれのものか）
11回目	④公開企業システム（エージェンシー理論）
12回目	④公開企業システム（コーポレート・ガバナンス）
13回目	⑤デリバティブ取引（各取引の定義）
14回目	⑤デリバティブ取引（基本的取引形態）
15回目	⑤資デリバティブ取引（活用事例または応用事例）

◆参考文献

『証券理論の新体系』佐藤猛（税務経理協会　2016）（2019第2刷）

科目コード	科　目　名	単位数
S30900	広告論	4単位

教材コード　000599
教　材　名　『広告コミュニケーション』
著 者 名 等　雨宮　史卓
出 版 社 名　八千代出版
I S B N　9784842917634

◆教材の概要

本教材は，「第１章　プロモーションの役割と機能」「第２章　広告コミュニケーションにおける高価格製品とコモディティ製品」「第３章　企業と消費者間の共感性と広告コンセプト」「第４章　広告コンセプトとタイム・マーケット」「第５章　消費者行動とサービスに対する広告・プロモーション」「第６章　ブランドの基本的概念と種類」「第７章　ブランドを軸としたマーケティング戦略の展開」「第８章　製品ライフサイクルとブランド・ライフサイクル」「第９章　経験価値とブランド概念」「第10章　フード・ビジネスにおけるストア・ブランド」から成っている。前半は，マーケティング戦略とプロモーション戦略の関係を学んだ上で，プロモーションの一要素である「広告」とその戦略を事例と共に理解する。後半は，製品戦略の一領域を超え，独立した領域を築いている「ブランド」概念に焦点を当てる。

◆学修到達目標

広告及び宣伝，プロモーション，ブランド等の意義を理解し，マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また，ブランド戦略や広告戦略，及び広告コンセプトの立案についても考察し，広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。

◆学修方法・留意点

広告やブランドにおける様々な理論，戦略，概念等が出てくるので専門の辞書・辞典等に目を通して，言葉の意味をしっかり理解すること。また，教材全体を通して理解できるように心掛けて欲しい。

◆学修計画

1回目	マーケティング・ミックスとプロモーション・ミックスの関係　プロモーション戦略（PUSH 戦略と PULL 戦略）
2回目	プロモーションの種類　プロモーション活動の一要素としての広告
3回目	高価格製品における広告の機能と役割　コモディティ製品の特徴とコモディティ化
4回目	コモディティ製品のブランド戦略　ブランド・イメージと広告コミュニケーション
5回目	企業と消費者間の共感性と広告コンセプト　時間の概念と共感性
6回目	広告コンセプトとタイム・マーケット　タイム・マーケットの新たな視点と広告コンセプト
7回目	消費者行動における消費者シグナルと商品ベネフィット　消費者行動における，商品と製品・サービスの違い
8回目	サービスの特徴　サービスの評価基準と広告・プロモーション
9回目	ブランドの基本的概念と定義　競争優位の源泉，資産価値としてのブランド概念
10回目	ブランドの種類と差別化の手段　ブランド・エクイティの有効性
11回目	広告コミュニケーションからとらえたブランド・エクイティ　企業にとってブランドを拡張することの意義と目的
12回目	製品の基本的概念と類型　製品ライフサイクルとブランド・ライフサイクル
13回目	経済価値としての経験価値　経済価値の変遷
14回目	総称ブランドの役割と機能　ニーズの段階と総称ブランド及び，経験価値の関係性
15回目	フード・ビジネスの分類と食に対するブランド性　ストア・ブランドの機能と役割

◆参考文献

『わかりやすい広告論』石崎徹編（八千代出版，2013 年）
『製品・ブランド戦略』青木幸弘・恩蔵直人編（有斐閣アルマ，2004 年）
『電通広告辞典』電通広告辞典プロジェクトチーム編（電通，2008 年）

科目コード	科　目　名	単位数
S31000	商業政策	4単位

教材コード　000187
教　材　名　商業政策
著 者 名 等　梅沢　昌太郎

◆教材の概要

科目名は「商業政策」であるが,「流通政策」と読み替えて教材が作成されている。この教材では流通論をマクロのマーケティングつまり流通政策とし，事業経営からの戦略をミクロ・マーケティングと位置づけている。そのマクロとミクロのジレンマと統合から，戦略と政策のあり方を考察している。さらに流通政策固有の問題として，政策決定のプロセスを考察し，地域づくりとの関連を考察している。また，政策と戦略の計画を作成するためのデータの扱い方も学ぶ。

◆学修到達目標

生産者は生産の主体であり，消費者は消費の主体であって，流通の主体は商業者である。経済活動の一つである流通は,その役割を与える生産と消費の時代背景や社会環境によって姿を変えている。そのため,商業と流通は我々の生活に日常的な主題である。人々が生活していく上で,消費者としての側面は切り離せないため,マーケティング概念を基本に置き,商業・流通の政策と戦略の関連を体系的に理解する。

◆学修方法・留意点

① マーケティング論との関連に留意してください。
② 生産と消費を結ぶ流通を自分自身の問題としてとらえ,生活者の視点から政策と戦略を考えてください。
③ 購買行動をする際に,好奇心を持って小売店等をながめ，新聞をよく読んでください。
④ 商業政策や流通政策に関する，自分なりの論を形成する努力をしてください。
⑤ 教材全体をとして理解できるように心掛けてください。

◆学修計画

1回目	マーケティングにおける管理不能変数と管理可能変数　消費者・生活者のニーズと流通政策
2回目	ミクロ・マーケティングにおける流通の位置づけ　マクロのマーケティングとしての流通論
3回目	環境保護と流通の戦略　環境を意識したマーケティング戦略
4回目	事業戦略としての流通戦略　物流―ロジスティック概念への変化
5回目	小売業の業態開発　流通政策とCVS
6回目	サービスの特性　サービスの種類
7回目	流通革命の担い手としてのスーパー・マーケット　小売の輪と大規模チェーン・システム
8回目	流通における卸売業の位置づけと機能　卸売業の生き残り戦略
9回目	物流の戦略と政策　新しい生活産業への展開
10回目	グローバル化と情報流通　流通システムの大変革
11回目	ブランド戦略とコンフリクト　フード・サービスとストア・ブランド
12回目	サービス化と地域振興　消費者サービスへの認識
13回目	意思決定プロセスと流通行政　流通政策の動向
14回目	流通政策と法　流通政策の今後の課題
15回目	計量的分析　戦略立案のための分析手法

◆参考文献

『現代商業学』梅沢　昌太郎編（慶應義塾大学出版会，2010年）
『新・流通と商業』鈴木安昭著（有斐閣，2016年）

科目コード	科　目　名	単位数
S311S0	金融機関論	4単位

教材コード　000540

教　材　名　金融論　※金融論と同じ教材です。

著 者 名 等　谷川　孝美

◆教材の概要

資金の調達運用である金融取引が行われる金融市場では，銀行などの金融機関が重要な役割を果たしている。金融市場および金融機関を知ることは，金融に関する理解を深めるものとなる。教材は，金融に関連する基本的な事柄や理論からはじまり，金融市場および金融機関について平易な解説を試みたものである。金融機関論として重要な部分は，金融の基礎理論は言うまでもなく，日本の金融市場および金融システム，さらには，日本の金融機関について解説している部分となる。

◆学修到達目標

日々の生活における決済や金融取引にはさまざまな金融機関が重要な役割を果たしている。金融機関論では，これらをふまえ以下のことを目標とする。

1. 貨幣の定義などの金融に関する基本的な事柄などを学び，説明できるようになる。
2. 銀行，証券会社等の金融機関が果たしている機能，役割を理解し，説明できるようになる。
3. さまざまな金融機関，金融市場を含めた我が国の金融システムなどを理解し，考察できるようになる。
4. 日本の金融システムにおける特徴や歴史の概略を学び，説明できるようになる。

◆学修方法・留意点

金融機関論をより良く理解するためには金融論の基礎が重要となる。不安がある場合にはそれらについて自ら確認することが大切である。

また，金融機関および金融制度は変化しているので，学修の際には参考文献だけでなく，新聞などの経済ニュースを確認すると良いであろう。また，「学習の手引き」に掲載されている各金融機関をとりまとめている協会等のホームページで最新のデータなどを確認することが重要である。

◆学修計画

1回目	金融とは何か，金融取引
2回目	金融の基礎としての貨幣の定義
3回目	金融の基礎としての長期，短期の指標金利
4回目	情報の非対称性問題，逆選択，モラルハザード，金融機関の情報生産を考える
5回目	直接金融，間接金融，市場型間接金融
6回目	日本の資金の流れ，資金循環
7回目	預金取扱金融機関の機能と役割
8回目	協同組織金融機関としての信用金庫，信用組合
9回目	金融商品取引業者（証券会社）の機能と役割
10回目	保険会社の機能と役割
11回目	ノンバンクとしての事業信用会社（リース会社）
12回目	ノンバンクとしての消費者信用会社（クレジットカード会社）
13回目	公的金融機関の機能と役割
14回目	日本の金融システムの変遷（競争制限的規制時代）
15回目	日本の金融システムの変遷（規制緩和，日本版ビッグバン）

◆参考文献

『ベーシック＋（プラス）　金融論』家森信善（中央経済社）
『日本の金融制度』鹿野嘉昭（東洋経済新報社）
『はじめて学ぶ保険のしくみ（第2版）』家森信善（中央経済社）
『入門証券市場論　第3版補訂（有斐閣ブックス）』釜江廣志（有斐閣）
『金融機関マネジメント：バンカーのための経営戦略論』川本裕子（東洋経済新報社）

科目コード	科　目　名	単位数
S31200	国際金融論	4単位

教材コード　000432
教　材　名　国際金融論
著 者 名 等　宅和　公志・山倉　和紀

◆教材の概要

この教材では，普段ひとりで学修をすすめなければならない通信教育部生が国際金融に関する基礎知識を一通り習得できるように配慮しつつ，いま国際金融の世界で起きている新しい動きや変化についても学修できるようになっている。国際金融の世界で起きていることとは，内外の金融市場の一体化であり，金融現象の世界化である。それに伴い，いまや金融の世界では国境なるものは大きな意味をもたなくなってきている。つまり金融の世界は，シームレスの（国境のない）グローバルな領域になりつつあり，インターナショナルな（国と国との狭間の）領域は失われつつある。教材はそうした現状認識のもとに書かれている。なお，教材の構成は大きく分けて，第1編（1～4章）基礎的な概念や仕組み，第2編（5～6章）国際金融の主要な理論やモデル，第3編（7～9章）国際通貨制度の歴史，第4編（10～12章）国際金融市場とその他諸問題，からなっている。

◆学修到達目標

(1) 国際金融に関する基本的な用語・概念・仕組みを説明できる。
(2) 国際通貨制度の発展をふまえて，現代のそれを説明できる。
(3) 各種の国際金融市場を整理し，その特徴と課題を説明できる。
(4) 国際金融の世界で生じている課題や問題に積極的な関心をもつ。

◆学修方法・留意点

教材には現実の経済データや事例が豊富に盛り込まれているが，現実の経済は日々刻々と変化している。学修のさいには，参考文献・資料などを参考に最新のデータを確認すること。とくに国際収支統計（第4章）については，教材発行後の2014年に発表形式（分類方法）が大幅に変更されたので，最新の参考文献などで現行のそれを確認していただきたい。

◆学修計画

1回目	外国為替の仕組み
2回目	外国為替市場と為替レート（1）外国為替市場
3回目	外国為替市場と為替レート（2）為替レート
4回目	為替リスクと先物取引（1）為替エクスポージャーの分類と特徴
5回目	為替リスクと先物取引（2）為替リスクの管理方法
6回目	国際収支統計と対外取引
7回目	国際金融の基礎理論
8回目	国際金融理論と資本移動
9回目	国際通貨制度（1）金本位制から国際金本位制へ
10回目	国際金融制度（2）IMF体制から為替フロートへ
11回目	経済通貨同盟と欧州単一通貨ユーロ
12回目	国際金融市場（1）ユーロカレンシー市場とオフショアセンター
13回目	国際金融市場（2）グローバルな金融市場の現状
14回目	国際協調とBIS規制
15回目	通貨危機と国際通貨制度改革

◆参考文献

『国際金融のしくみ』（第4版）秦忠夫・本田敬吉・西村陽造（有斐閣　2012）
『身近に感じる国際金融』飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩（有斐閣 2017）
「国際収支統計季報」および「金融経済統計月報」（日本銀行）
上記以外の参考文献や統計資料については，教材の各章末の文献リストを参照していただきたい。

科目コード	科　目　名	単位数
S31300	商業英語Ⅰ	2単位

教材コード　000190
教　材　名　商業英語Ⅰ
著 者 名 等　石川　英夫

◆教材の概要

役に立つ英語とは，決してむずかしい英語ではない。しかも日本人の英語である。完璧を期す必要はない。まず日本語に強くなろう。それから英語になじもう。中学・高校で使った教科書を大切にして，時々読みかえそう。

やさしい表現が，英語学修では重要な働きをする。しかし，会話上手が全てではない。実直な，ドイツ弁も強味を発揮する。そして最も必要なことは，英語も人間が話し，聞き，読むものであり，その底には「良き人間関係」が必須であるということである。

◆学修到達目標

英語をビジネスに役立てるとしたら，ビジネス相手と心と心のつなぎをしっかり結ぶには，どうしたらよいか。そこには双方向きのコミュミケーションが要請される。お互いに「信号」を出しあおう。ひんぱんに交信しよう。この姿勢を確立すれば，「商談」も「交渉」も必ずうまく行く。これは，英語に限らず，日本語を含む全ての言語にあてはまるものである。だから，英語を出来るだけ面白く，肩の力を抜いて勉強したい。「ストーリー」が面白く，楽しければ，自然に英語と親しくなり，覚えかつ自分の目的，目標のために使いたくなる。本講には，面白いはずの「ストーリー」をもりこんだ。

◆学修方法・留意点

率直に，面白く読めるようにこの教材は書いてある。とにかく通読してください。そしてわからないところは赤ペンでマークする。自分なりに徹底的に使いこんでください。その結果，教材が汚れ，きたなくなって大いに結構。むしろそれが各々の勤勉，努力の証である。新品同様の，きれいな教材にしておかないように。

◆学修計画

1回目	商談・交渉とは
2回目	商談・交渉とヒューマンリレーション
3回目	商談・交渉における英語の双方向性
4回目	商談・交渉＝対等のゲーム
5回目	商談・交渉におけるマナー
6回目	商談・交渉における本論の意味
7回目	商談・交渉＝人と知恵のゲーム
8回目	商談・交渉におけるコミュニケーション：己を知ること
9回目	商談・交渉における注意力や心配り
10回目	商談・交渉におけるジョークやユーモア
11回目	商談・交渉における文書化①：文書化のメリットなど
12回目	商談・交渉における文書化②：契約文書についてなど
13回目	商談・交渉における国際化とは①：国際化の波について
14回目	商談・交渉における国際化とは②：先手を取ることとは
15回目	まとめ

◆参考文献

※『英語でビジネス交渉！』石川英夫著（研究社）電子版もあり
『英語力を上げる辞書 120％活用術』住出勝則著（研究社）
『メジャーリーグで覚えた僕の英語勉強法』長谷川滋利著（幻冬舎）

科目コード	科　目　名	単位数
S31400	商業英語Ⅱ	2単位

教材コード　000191
教　材　名　商業英語Ⅱ
著 者 名 等　石川　英夫

◆教材の概要

役に立つ英語とは，決してむずかしい英語ではない。しかも日本人の英語である。完璧を期す必要はない。まず日本語に強くなろう。それから英語になじもう。中学・高校で使った教科書を大切にして，時々読みかえそう。やさしい表現が，英語学修では重要な働きをする。しかし，会話上手が全てではない。実直な，ドイツ弁も強味を発揮する。そして最も必要なことは，英語も人間が話し，聞き，読むものであり，その底には「良き人間関係」が必須であるということである。

◆学修到達目標

英語に通じ，英語を身につけると，面白いこと，エキサイティングなことが数限りなく起こる。自分の長年にわたる国際経験から，そのような例をとりあげてみた。英語を身につけると人生さえ変わる。いい方向に変わる。友人の輪が広がる。そこには，充実感や充足感がある。英語を通じて，楽しみや興奮や満足を覚え，新知識を吸収し，新体験を蓄積し，高度な人格形成を図れる。本講にもりこんだ例を精読して，いいところは大いに真似してもらいたい。自分ならもっとよく出来ると思ったら，どんどんやって欲しい。容易なことではないが，英語の学修の要語は「真似ること」である。

◆学修方法・留意点

率直に，面白く読めるようにこの教材は書いてある。とにかく通読してください。そしてわからないところは赤ペンでマークする。自分なりに徹底的に使いこんでください。その結果，教材が汚れ，きたなくなって大いに結構。むしろそれが各々の勤勉，努力の証である。新品同様の，きれいな教材にしておかないように。

◆学修計画

1回目	プレゼンテーションの英語
2回目	国際交流日記
3回目	日本人とアメリカ人の国民性の違い
4回目	ネゴシエーションの英会話術① capable negotiation など
5回目	ネゴシエーションの英会話術②誤解がない議論方法
6回目	ビジネス・交渉においてプレッシャーをかけるとは
7回目	ビジネス会話入門①：あいさつ，別れの挨拶
8回目	ビジネス会話入門②：食料品店にて，電話による会話，医院にて
9回目	ビジネス会話入門③：会社紹介，訪問者に対して，支払い交渉
10回目	アメリカ生活体験
11回目	日米におけるサラリーマン事情
12回目	英語のユーモア
13回目	日本人の国際化
14回目	手紙の書き方
15回目	まとめ

◆参考文献

※『英語でビジネス交渉！』石川英夫著（研究社）電子版もあり
『英語力を上げる辞書120％活用術』住出勝則著（研究社）
『メジャーリーグで覚えた僕の英語勉強法』長谷川滋利著（幻冬舎）

科目コード	科　目　名	単位数
S32000	観光事業論	4単位

教材コード　000417
教　材　名　観光事業論
著 者 名 等　佐藤　俊雄

◆教材の概要

本書は，観光事業を新しい視点で学問的に体系づけようと試みたものである。どこが新しい視点かというと，一つは，観光という概念を，観光者が「何らかの光を観る・観たい行為」と観光関連事業者が観光者のこの欲求や期待に応えるために「何らかの光を魅せる活動」とを一体的に捉えた点である。もう一つは，したがって，従来の観光の概念にある観光者の脱生活場所，遠距離移動，脱日常性，非日常的事象との遭遇，そして元の場所に戻るという一連の行動やそれにともなう観光関連事業者の諸活動はおのずと観光の付随的現象であるとする点である。こういう視点に立つことによって新しい観光事業の本質を捉えることができる。つまり本書は，観光事業を，観光者の限りない欲求や期待に応え魅力をもたせ，観光者に光を通じて充実感や満足感を与えることを目的とした，目立たない裏方的な支援・代行事業であると位置づけ，その活動の諸過程を明示したものである。

◆学修到達目標

単に学問として学習するのではなく，観光事業の実践にかかわる一人のメンバーとして，あるいはこれからそのメンバーに加わるつもりで学修すると，観光事業をより身近に，しかもより動態的かつ能動的に理解すること。

◆学修方法・留意点

ここで学ぶ観光事業論は，一般的にいわれる「観光産業論」,「観光研究」，あるいは「観光学」などという名のもとでの観光のための研究報告や理論とは異なり，限りなく処方的実践論である。実践的ではあるが，観光という分野はそれだけで総合的な意味をもち合わせているので，総合的な実践論である。したがって，本書を学修する際は，自らが広い視野に立つ観光事業者の一員である，あるいは将来観光事業に携わるつもりで，頭で知識だけを学ぶのではなく，からだで身になるもの会得することを心掛けることが肝要である。

◆学修計画

1回目	観光産業とのかかわりや位置づけ
2回目	観光事業の必要性，その目的や役割
3回目	観光政策の立案
4回目	観光政策，その主要な対象
5回目	観光計画およびその立案方法
6回目	観光地の開発計画と保全計画
7回目	樹立した計画の具体的事業化および資金計画
8回目	観光政策や観光計画を実行するための組織づくり
9回目	観光事業にかかわる組織の役割分担
10回目	観光地の開発と保全
11回目	観光地開発・保全事業の実践的活動
12回目	観光地事業組織の経営とマーケティング
13回目	私的観光関連事業者のマーケティング活動のポイント
14回目	観光事業活動の効果
15回目	観光事業に関する今後の主要な五つの課題

◆参考文献

通信教育教材で十分。あとは，教材内の各章末の引用文献および参考文献のなかから関心のある図書を抽出するとよい。

科目コード	科　目　名	単位数
S32100	商業史	4単位

教材コード　000555
教　材　名　『イギリス帝国の歴史―アジアから考える―』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　秋田　茂
出 版 社 名　中央公論新社
I S B N　9784121021670

◆教材の概要

本教材は，序章「現代アジアの経済的再興とイギリス帝国」，第1章「環大西洋世界と東インド―長期の18世紀」，第2章「自由貿易帝国とパクス･ブリタニカ」，第3章「脱植民地化とコモンウェルス」，終章「グローバルヒストリーとイギリス帝国」からなっている。本教材の前半では，現代インドの経済発展と現代イギリスの金融自由化を概観した上で，イギリスがアイルランドから大西洋世界へ進出した17世紀前半以降のイギリス帝国史を分析し，「長期の18世紀」を経て，19世紀中葉の自由貿易帝国主義時代に至るまでの過程を考察している。本教材の後半では，19世紀中葉以降のジェントルマン資本主義の発展と多角的決済機構の成立，そして19世紀第4・4半期以降のアフリカ分割とチェンバレン関税改革構想の敗北，さらには第一次・第二次世界大戦と並行して進展した脱植民地化の過程を考察している。

◆学修到達目標

現代世界のグローバルな資本主義世界経済を確立したイギリスの商業的役割について理解し，イギリス帝国と資本主義世界経済の歴史的変遷を説明できるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

本教材を学習する手順としては，序章からノートを作成しながら読み進めるしかないが，世界史の知識がある程度必要となるので，世界史辞（事）典や百科事典を適宜活用すると良い。

◆学修計画

1回目	現代アジア経済とイギリス帝国
2回目	イギリス帝国の起源
3回目	商業革命とイギリス帝国
4回目	北米植民地とアメリカ独立革命
5回目	東インド会社とアジア貿易
6回目	イギリス産業革命の歴史的起源
7回目	旧植民地体制の解体
8回目	自由貿易帝国主義
9回目	ジェントルマン資本主義
10回目	ヘゲモニー国家イギリスと近代日本
11回目	イギリス帝国のソフトパワー
12回目	帝国からドミニオン，コモンウェルスへ
13回目	ヘゲモニー国家から構造的権力へ
14回目	脱植民地化の進展とスターリング圏
15回目	パクス・アメリカーナと帝国の終焉

◆参考文献

本教材巻末に記載の「主要参考文献」を利用すると良い。特に，平田雅博『イギリス帝国と世界システム』（晃洋書房，2000年），アンドリュー・ポーター（福井憲彦訳）『帝国主義』（岩波書店，2006年），秋田茂・木村和男・佐々木雄太・北川勝彦・木畑洋一編『イギリス帝国と20世紀』（全5巻，ミネルヴァ書房，2004～2009年）の利用はすすめておきたい。また，古代から近世までの商業史については，谷澤毅『世界流通史』（昭和堂，2017年）が参考になる。

科目コード	科　目　名	単位数
S32700	中小企業論	4単位

教材コード　000488
教　材　名　『現代中小企業の新機軸』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　永山　利和
出 版 社 名　同友館
I S B N　9784496047978

◆教材の概要

中小企業問題は，市場経済の発展に従って時代によって異なった課題を持ちながら，常に市場経済の中心に位置してきた。今日経済のグローバリゼイションの流れの中では世界市場を相手にする多国籍企業が主体のように見なされがちである。だが，建設，製造，商業・流通，サービスの各分野で「隠れた主役」を演ずるのが中小企業である。この教材は現代日本の中小企業の状況を多角的に研究した共同作業の結果である。

◆学修到達目標

① 中小企業動向を概観とし，その個別経営および経営組織の役割ならびに行政との連携を理解する。
② 中小企業は地域性をもった事業活動体であり，国・地方の行政と政策連携の必要性を理解する。
③ 中小企業の存在は，労働者の雇用と地域の人々の暮しに深くかかわることを理解する。

◆学修方法・留意点

中小企業にも光と影がある。影の部分が解決不能な事態と考えられがちであるが，世界の経済史を通じてみると分かるように，中小企業発展の条件を探求することが国民経済，地域経済発展に大きな役割を演じてきた。中小企業政策こそ経済政策の基礎であるという命題を理解してほしい。

◆学修計画

1回目	現代中小企業研究の視点
2回目	経営理念と資本論
3回目	現代中小企業運動の展開
4回目	地方自治体の政策立案と統計の役割
5回目	グローバル経済下の地域経済・中小企業問題
6回目	産業集積における中小製造企業
7回目	大都市東京の中小企業
8回目	地場産業における中小企業の技術
9回目	商店街の役割
10回目	地域における中小建設業
11回目	中小企業基本法改正後の中小企業政策
12回目	産業クラスター政策
13回目	地域経済の振興と地方自治体
14回目	コミュニティ金融
15回目	中小企業における福利厚生・中小企業の暮らしの実態と社会保障の課題

◆参考文献

『産業構造転換と中小企業』吉田・森本・永山編（ミネルヴァ書房）
『現代中小企業の存立構造と動態』福島久一（新評論）
『世界経済史』中村勝己（講談社学術文庫）

科目コード	科　目　名	単位数
S32800	会計学	4単位

教材コード　000482
教　材　名　会計学
著 者 名 等　勝山　進・村井　秀樹・吉田　武史

◆教材の概要

社会には，営利を目的とした企業と営利を目的としない企業（組織）が存在するが，企業や組織の成果は，「財務諸表」という形で把握される。本講座（教材）は，前者の営利企業を対象として編集してある。本教材は，全体を3部に分けてまとめてある。第1部は，企業会計を学ぶに当たって理解しておかなければならない基礎やそれに係る必要事項を体系的にまとめてある。第2部は，基本的財務諸表である貸借対照表と損益計算書の作成方法やそこに含まれる具体的な項目についてまとめている。第3部は，財務諸表作成時の具体的，かつ個別的な会計基準についてまとめている。第1部は，第1章から第4章までを範囲とし，第2部は，第5章から第17章までを範囲とし，第3部は，第18章から第29章までを範囲としている。

◆学修到達目標

(1) 会計学の基礎概念および貸借対照表や損益計算書の形式やその会計上の考え方を理解し，説明することができることを目的とする。
(2) 貸借対照表や損益計算書を作成する場合の具体的な個別の会計基準を学び，深く考えることができることを目的とする。
(3) 会計の国際的な動向を学び，グローバル経済への理解を深めることができることを目的とする。

◆学修方法・留意点

会計学のうち，特に財務会計を学修する際の最も重要なキーワードは，「適正な」期間損益計算であるが，近年は，この損益計算に加えて，利益観が「純資産の増加」という「資産負債アプローチ」が加味されていることに留意する必要がある。

◆学修計画

1回目	会計の基礎と会計の理論構造
2回目	企業会計制度と会計原則
3回目	貸借対照表の基礎と現金預金会計
4回目	有価証券会計と棚卸資産会計
5回目	有形固定資産会計，無形固定資産会計と繰延資産会計
6回目	負債の会計，社債会計と引当金会計
7回目	純資産の会計
8回目	損益計算書の基礎と収益・費用の会計
9回目	国際会計
10回目	外貨換算会計と研究開発費会計
11回目	退職給付会計と税効果会計
12回目	減損会計とストックオプション会計
13回目	リース会計と資産除去債務会計
14回目	企業再編会計と連結会計
15回目	キャッシュ・フロー会計と包括利益会計

◆参考文献

『財務会計講義』桜井久勝（中央経済社）（最新版を利用すること）。
『はじめての会計学（第6版）』日本大学会計学研究室編（森山書店，2019年）
『財務会計入門（第2版）』藤井秀樹（中央経済社，2017年）

科目コード	科　目　名	単位数
T10100	現代教職論	2単位

教材コード　000541
教　材　名　『現代教職論』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　羽田　積男・関川　悦雄　編
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002205

◆教材の概要

本書は1998（平成10）年の教育職員免許法改正により新設された「教職の意義等に関する科目」（本学では「現代教職論」）のテキストとして編纂されている。この科目では，教師としての資質や必要とされる能力について考え，教職とはどのような仕事であるのかを理解し，また法制上の身分や責任を理解することで，教育者としての意識を高めることが期待されている。将来の職業として「教職」を選択する上で，自らにその資質があるのかを問いかけることも目指された科目である。その意味では，他の教職科目に比べて，教職課程の履修者が最初に学ぶべき科目，すなわち教職の入門的な科目という性格をもっている。

◆学修到達目標

次の事項について理解を深め，教員としての意識を高めることができる。①教職の意義とは何か。②教員に必要とされる資質・能力とは何か。③学校教育という独特の社会における意義や教員の同僚性について。④教員の職務や身分上の問題について。⑤生徒の成長・発達差の理解。⑥教員としての生活や日常について，具体的にイメージすることができる。

◆学修方法・留意点

テキスト（『現代教職論』）の内容を読み，各章ごとの「知識確認の設題」に取り組む。この教科は「教員としてどのような意識や行動が必要なのか」を考え，資質や能力を習得することがねらいとされている。そのため，各章の内容ごとに「教員とは何をするべきなのか」「私は教員としてどう考えるべきなのか」という視点をもってほしい。つまり，ノートに記すなら「テキストに記された知識（として学べたこと）」に加えて「（このことについて）教員として考えねばならぬこと」という欄をつくるのが有効である。

そして，テキストに加えて，教育に関する情報（ニュースや審議会答申，教育問題に関する記事等）をスクラップするとともに，そこでも（自身が）「教員として何をするべきなのか」を考える習慣づけが重要なこととなる。テキストから学び，自身の視点を定めてより深く学び続け，さらに情報・知識を広めていきながら「教育現場」を具体的に捉えていけるようにと進めていくことが必要である。

◆学修計画

1回目	教職の意義とは何か　【序章】
2回目	学校と教員の歴史（明治期～戦前期の「近代学校制度」導入と発展について）【第1章-1】
3回目	学校と教員の歴史（戦後の教育改革と教員像の変化）【第1章-2】
4回目	教員の養成　①教育職員免許法　②大学における教員養成課程　【第2章-1～4】
5回目	教員の養成　③教育実習，介護等体験活動（現場実習）【第2章-5～7】
6回目	教員の仕事と役割　①学習指導と教育課程　②校務分掌と学校経営・学級経営【第3章　前半】
7回目	教員の仕事と役割　③教育課程外の諸活動（生徒指導，進路指導，道徳教育，教育相談，地域活動）【第3章　後半】
8回目	教員の資質と能力　教員の専門性　【第4章-1～3】
9回目	中央審議会等の答申にみられる「求められる資質能力」【第4章-4】
10回目	教員の地位と身分～関係法令を読む　【第5章】
11回目	教員の研修における資質能力の形成　【第6章-1～3】
12回目	教員の評価　【第6章-4】
13回目	教職への進路（第7章を読み，準備すべき事項をまとめる）【第7章】
14回目	教職への進路（「チーム学校」に関する情報を検索し，文献類の内容をまとめる）【第7章＋全体】
15回目	教職の意義とは何か（テキスト全体を総括し，自身の教職への意識を論述にまとめる）【全体の総括】

◆参考文献

本書（テキスト）に提示されている「参考文献」を参照されたい。文部科学省ホームページや学習指導要領等を入手し，内容を理解しておくことが望ましい。

科目コード	科　目　名	単位数
T10200	教育原論	2単位

教材コード　000199
教　材　名　教育原論
著 者 名 等　関川　悦雄・北野　秋男

◆教材の概要

主なる教育思想家の核となる教育思想について理解を深めながら，全体として教育思想の歴史的系譜を理解したい。とりわけ，近代教育の中心的である人間の内面形成，近代教育の中心的テーマである人間の内面形成，近代的な教授学思想，新教育運動，公教育の成立と発展など，重要なテーマに関する教育思想の内容を理解する。教育思想に関連する「ビデオ」や資料などを参考にして，より深く教育思想を理解するとともに，現代的な教育問題との関連についても理解を深めることとする。

◆学修到達目標

現代の教育問題を考える上で，教育に関する様々な思想の歴史的展開に学ぶことは重要である。教育の様々な問題を思想的に学びながら「教育とは何か」を自覚的に問いたいと考える。特に内面形成を重視する教育の目的論や学校教育の展開に影響を及ぼした教授学思想の歴史的展開を中心としながら，多様な教育理念や実際の教育，そして学校との関連を理解する。

1）現代にも通底する「教育」の諸概念の誕生や起源を知り，その意味や重要性を理解できる。
2）代表的な教育思想家の教育思想を理解し，かつ現代的な意味を考える。
3）教育の目的論を重点的に取り上げ，教育思想における人間の内面形成を理解する。
4）一斉教授や個別教授など近代教授学思想の歴史的系譜の展開を理解している。
4）近代公教育制度の成立と展開を思想的な面からも理解している。

◆学修方法・留意点

テキストを丁寧に読んでおくこと。事前に読んでおけば，ポイントや重要な箇所を理解できることになる。各思想家の教育思想を調べる場合には，思想家の著した著作物も読んで，優れた教育思想の内容を理解することが重要である。また，現代的な視点からも，思想内容を検討することも重要である。

◆学修計画

1回目	教育思想を学ぶ意味と課題（序章），学習の留意点など
2回目	古代・中世の教育思想（特に人間の内形成の萌芽）
3回目	自律的な人間形成と習慣の形成（ロック）
4回目	子どもの発見，子どもの発達と消極的教育法（ルソー）
5回目	近代教授学思想の萌芽（コメニウス）
6回目	博愛主義的教育と直観教授（ペスタロッチ）
7回目	科学的教育学と教授課程の定型化（ヘルバルト）
8回目	幼稚園教育の創設と幼児教育思想（フレーベル）
9回目	公教育思想の展開と制度化の歴史（ホーレス・マン）
10回目	欧米における新教育運動の展開（デューイ）
11回目	フリー・スクール思想と世界的運動の系譜（ニイル）
12回目	子どもの誕生～近代社会と子ども観～（アリエス）
13回目	教師と生徒の関係性（ブーバー）
14回目	脱学校論と現代教育の批判（イリイチ）
15回目	現代教育の課題（終章）

◆参考文献

特になし

科目コード	科　目　名	単位数
T10400	教育の歴史	2単位

教材コード　000419
教　材　名　『教育の歴史　教育史』
著 者 名 等　小野　雅章・羽田　積男・関川　悦雄・永塚　史孝

◆教材の概要

西洋の教育史は，教職課程における重要な学修分野の一部である。また西洋の教育は，我が国の近世期に伝えられ，特に明治時代に入ると我が国の草創期の学校教育は西洋の教育に大きな影響を受けて成立・発展した。こうした事実は教育の実践に不可欠の教職教養の一部である。我が国の教育を深く学ぼうとする時，必然的に西洋の教育の歴史を学ぶことが求められる。できれば近世における我が国の寺子屋などを念頭において比較の視点を入れながら学修を進めて欲しい。

◆学修到達目標

西洋の啓蒙時代以降の教育は，我が国の教育の直接的なモデルともいえるもので，その十全な理解は強く求められる。教育の発展は社会の発展に伴っており，また社会を導いてきたことを理解することが重要である。西洋における古典古代期の教育から現代の世界の教育については勿論のこと，また特にわが国の教育との史的関係性について誰にでも説明できるようになることが大切である。

◆学修方法・留意点

西洋の教育の歴史は，社会と人間の営みの反映である。教材巻末の「主要参考文献」を見ながら，さらに入手可能な文献を活用して，自身の興味あるところから学んでいくことが望まれる。現在の教育の問題をどのように考えればよいか，西洋の教育の歴史を参考にしながら，自問自答しながら学んで欲しい。また電子媒体やインターネットなども積極的に活用して欲しい。

◆学修計画

1回目	古典古代期の教育　西洋教育の原点としての古典古代期のギリシャの諸学校
2回目	中世の教育　キリスト教と聖職者の学校　中世大学の成立と諸学問
3回目	ルネサンスと教育　文法学校　中等教育学校の成立
4回目	宗教改革と教育　マルチン・ルターと教育　カトリックの教育
5回目	17世紀リアリズムの教育　コメニウスの『大教授学』の意義
6回目	絶対主義から啓蒙の時代へ　ヨーロッパ諸国・アメリカの教育の進展
7回目	18世紀啓蒙の時代と教育　ロックとルソーの登場と『エミール』の教育史上の意義
8回目	18世紀啓蒙の時代と教育　バゼドウとペスタロッチの教育史上の意義とその影響
9回目	フランス革命とコンドルセの公教育論　産業革命期の教育　ベル・ランカスター・オーエン
10回目	近代公教育の成立（ドイツ，イギリス，フランス，アメリカなどにおける初等教育）
11回目	公教育を導く教育思想　ヘルバルト，フレーベル，スペンサーなどの登場と教育史上の意義
12回目	公教育の進展（ドイツ，イギリス，フランス，アメリカ，ロシアなど）
13回目	20世紀の教育（統一学校運動，大学の変革，新教育の展開）
14回目	20世紀の教育，デューイの登場とアメリカの教育，脱学校論の意義
15回目	21世紀の教育，学校教育と生涯学習，その先へ（21世紀は子どもの世紀になれるか）

◆参考文献

教材巻末に参考文献リストあり。新しいものは図書館やネット検索などで調べて活用すること。

科目コード	科　目　名	単位数
T20100	教育の社会学	2単位

教材コード　000421
教　材　名　『教育社会学　教師教育テキストシリーズ5』　（補遺別冊）
著 者 名 等　久冨　善之・長谷川　裕
出 版 社 名　学文社
I S B N　9784762028489

◆教材の概要

本教材は，教育社会学の基本的な理論や概念，視点をコンパクトに伝える教科書であるが，同時に，各章は，現代の教育の特質や課題を，教育社会学の観点から分析・考察した論文集として読むことができるようにもなっている。

教材全体は難解なわけではないが，ところどころに難しい理論や概念が登場したり，込み入った論理展開の部分があったりする。だから，初学者が十分に理解するためには，線を引きながらの熟読や，くり返し読み返すことが必要である。

◆学修到達目標

現代教育のさまざまなトピックを社会学的な視点から考察することで，教育を広い社会的文脈に位置づけて理解できるようになることをめざす。近現代社会における学校の性格や社会的役割を多面的に理解し，学校で生起している諸問題を理解し，適切な情報の吟味，学校経営や指導の考え方ができるようになる。

◆学修方法・留意点

① 教材をよく読み，理解する。線を引きながら読み，くり返し読んでみる。
② 教材を，現代社会におけるさまざまなニュースや，身近な経験と照らし合わせながら読んでみる。
③ 重要なことは，暗記ではなく，「なるほど」といレベルで理解することである。
④ 教材を読みながら考えること，思いつくことがあれば，欄外に書き付けておいて，読み返すとき，自分なりの考えをみせてください。

◆学修計画

1回目	教職と教育社会学
2回目	教育の社会性とは
3回目	子育て・教育への教育社会学のアプローチ―教師にとっての意味
4回目	学校という制度と時間
5回目	学校という制度と空間
6回目	学校で「教える」とは，どのようなことか
7回目	教師と生徒との関係とは，どのようなものか
8回目	学校教師とはどのような存在か
9回目	若者は今をどのように生きているか
10回目	＜移行＞の教育社会学
11回目	子育て・教育をめぐる社会空間
12回目	エージェントの歴史的変容と今日・未来
13回目	学校の階級・階層性と格差社会―再生産の社会学
14回目	国民国家・ナショナリズムと教育・学校―その原理的考察
15回目	教育改革時代の学校と教師の社会学

◆参考文献

教材の章末に掲げてある文献のほか，次のようなものを挙げておきたい。

※『リーディングス　日本の教育と社会』（全10巻）（日本図書センター）
『教育には何ができないか』広田照幸著（春秋社）
『教育不信と教育依存の時代』広田照幸著（紀伊国屋書店）
『日本を滅ぼす教育論議』（講談社現代新書）岡本薫著（講談社）

科目コード	科　目　名	単位数
T20200	教育制度論	2単位

教材コード　000579
教　材　名　『教育学へのアプローチ～教育と社会を考える 18 の課題～』
著 者 名 等　北野　秋男
出 版 社 名　啓明出版
I S B N　9784874480342

◆教材の概要

現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために，以下のトピックを取り上げ，講義・グループ学習と討論・課題発表・レポート作成を組み合わせた多角的な授業を展開する。トピックの』内容は，近代公教育制度の成立（教育の権利と義務），現代の学校を取り巻く制度改革や地域との連携，教師の職務と専門性，学力と評価制度，教育委員会制度の改革，学校と地域の連携（コミュニティ･スクール），学校における危機管理と学校安全への対応などである。

◆学修到達目標

現代の国内外の学校制度改革の様々な動向を，基礎的事項や用語を中心に，分かりやすく解説する。その際に，社会の状況や歴史的背景を理解し，その変化が現代の学校教育にもたらす影響や課題を検討する。また，現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために，政治・経済・福祉・文化などの社会的観点からのアプローチも取り入れ，教育に関する広範囲で深い視野を育成しつつ，教育への基礎的・基本的な視座を養うことを目標にする。

1）教育政策や教育改革の動向を正しく理解し，社会変化の状況を確認できる。
2）現代の公教育制度の意義・原理・構造を法的・制度的に理解し，身に付ける。
3）学校制度や教育行政・教育経営の仕組みを理解できる。

◆学修方法・留意点

テキストを丁寧に読んでおくこと。その際には，日本の教育制度の特徴や問題点などを念頭に置きながら読み進めること。新自由主義的な方向へと進み，我が国の教育制度改革の全体像を大まかに理解しておくこと。

◆学修計画

1 回目	現代の教育改革と教育制度，教育制度を学ぶ視点
2 回目	欧米と日本における近代公教育制度の成立と展開
3 回目	教育の権利と義務，学習権思想，「憲法」や「教育基本法」の理解
4 回目	アメリカの学校選択制度，日本における学校選択制度導入の経緯と課題
5 回目	学級の運営と経営，生徒指導のあり方
6 回目	教師の職務内容と教師の専門性（研修制度）
7 回目	学習指導要領の変遷と学力観の推移
8 回目	教育委員会制度の歴史と課題，改正教育委員会制度の課題
9 回目	学校・教師と地域連携（コミュニティ・スクール配置の経緯）
10 回目	コミュニティ・スクールの全国的動向と事例
11 回目	学力評価とテスト（学校・地域・家庭の連携）
12 回目	学力テスト体制と学力向上策（都道府県における学力向上政策）
13 回目	日米の格差社会の現状，格差と教育・学力への影響
14 回目	特別支援教育の歴史と現状，課題と改善点
15 回目	学校の事件・事故・災害と学校安全への取り組み

◆参考文献

『地域運営学校成功への道しるべ』北野秋男著（ぎょうせい）

科目コード	科　目　名	単位数
T20400	国語科教育法Ⅱ	2単位

教材コード　000444
教　材　名　『あたらしい　国語科教育学の基礎』（『新訂　国語科教育学の基礎』）
著 者 名 等　山元　隆春・難波　博孝・山元　悦子・千々岩　弘一
出 版 社 名　渓水社（広島）
I S B N　9784863275362

◆教材の概要

本教材の七章の構成は、一、戦後の学習指導要領の変遷を読む・書く・聞く・話すの４項目でどのように実践されるか。二、書くことの表現指導を明治期から平成期までたどる。三・四は読むことの内容で、文学教材と説明的文章とに分けて捉える。五、読書教育について。六、話すこと、聞くこと。七、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項となっている。これら各章の内容は常に巻末にある学習指導要領と照応しながら、学習指導における実践内容として捉えることが求められている。

◆学修到達目標

戦後「学習指導要領」の変遷を捉え、それぞれの時代が要請した国語科教育を考察する。そこから求められる「指導力・教授法」について検討することにより、あるべき道筋が判断できるようになる。

◆学修方法・留意点

指導要録の変遷をたどる中から、改訂の基本方針にみられる改善の具体的事項を捉えてみる。そこから新時代に対応した国語教育の指針を踏まえ、国語科に求められている内容を考察してみよう。

◆学修計画

1回目	国語科教育の意義・目標と構造：国語科教育と国語教育，意義と目標
2回目	国語科教育の意義・目標と構造：戦後国語教育の構造，学習指導要領の歴史と課題
3回目	表現教育の研究：作文教育の変遷（明治期～平成期）
4回目	表現教育の研究：表現能力と文種、指導過程
5回目	表現教育の研究：記述前・中・後の指導方法
6回目	文学教育の研究：目標と内容，教材研究法
7回目	文学教育の方法：指導過程と方法，論文作成の手引き
8回目	説明的文章教育の研究：教育の現状、目標と内容、その教材
9回目	説明的文章教育の研究：教材研究法、教育の方法、論文作成の手引き
10回目	読書教育の研究：目標と内容，読書能力論・教材論
11回目	読書教育の研究：その方法論，ブックトーク，読みの交流，情報の収集など
12回目	音声言語教育の研究：目標，内容と領域，スピーチ，会話など
13回目	音声言語教育の教材：コミュニケーション能力の評価，指導事例
14回目	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項：概観，目標，内容
15回目	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項：教材研究法，書写指導について，論文作成の手引き

◆参考文献

『中学校学習指導要録』『高等学校学習指導要録』（文部科学省）
『日本の教育がよくわかる本』池上彰（PHP 文庫）
『新しい学力』斎藤孝（岩波新書）

科目コード	科　目　名	単位数
T20600	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2単位

教材コード　000587／000589

教　材　名　平成29年告示『中学校学習指導要領解説社会編』／平成30年告示『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』

著 者 名 等　文部科学省

※本教材は，文部科学省のホームページでダウンロードができます。
※社会科・地理歴史科教育法Ⅰと同じ教材です。

出 版 社 名　東洋館出版

ＩＳＢＮ　9784491034713／9784491036410

◆教材の概要

「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとする『中学校学習指導要領解説社会編』と『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』を教材とする。中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）において，これからの教育課程や学習指導要領は，子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容等の全体像を分りやすく見渡せる「学びの地図」であるべきとして，①何ができるようになるか，②何を学ぶか，③どのように学ぶか，④子供一人一人の発達をどのように支援するか，⑤何が身に付いたか，⑥実施するために何が必要かという 6 つの枠組みが示されている。

◆学修到達目標

1. 学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の目標と内容を理解できる。
2. 社会科・地理歴史科の背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用できるとともに発展的な学習内容について探究し，それを学習指導に生かすことができる。
3. 社会科・地理歴史科の基礎的な学習指導理論を理解するとともに，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけている。
4. 社会科・地理歴史科の実践研究の動向を知り，授業設計の向上に主体的に取り組むことができる。

◆学修方法・留意点

① 1 回目は，今回の学習指導要領改訂に至った背景や社会科教育をめぐる現代的課題について，学習指導要領の前文・総則を読み込むとともに，中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成 28 年 12 月）を参照し，理解できるよう学修すること。

② 2 ～ 6 回目は，中学校社会科〔歴史的分野〕の目標を資質･能力の 3 つの柱（社会的事象の歴史的な「見方・考え方」にも着目）で整理するとともに，内容について理解し，「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。

③ 7 ～ 10 回目は，高校地歴科および〔歴史総合〕〔日本史探究〕〔世界史探究〕の目標を資質・能力の 3 つの柱（社会的事象の歴史的な「見方・考え方」にも着目）で整理するとともに，〔歴史総合〕の内容について理解し，「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。

④ 11 ～ 15 回目は，上記③の目標から，〔日本史探究〕〔世界史探究〕の内容について理解し，「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。

◆学修計画

1 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕と高校地歴科〔歴史総合〕〔日本史探究〕〔世界史探究〕をめぐる現代的課題
2 回目	中学校社会科および〔歴史的分野〕の目標，資質・能力の 3 つの柱，見方・考え方，学び方
3 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕内容 A「歴史との対話」の構成と留意点
4 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕内容 B「近世までの日本とアジア」の構成と留意点
5 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕内容 C「近現代の日本と世界」の構成と留意点
6 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価
7 回目	高校地歴科および〔歴史総合〕〔日本史探究〕〔世界史探究〕の目標，資質・能力の 3 つの柱，見方・考え方，学び方
8 回目	高校地歴科〔歴史総合〕内容 A「歴史の扉」内容 B「近代化と私たち」の構成と留意点
9 回目	高校地歴科〔歴史総合〕内容 C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の構成と留意点
10 回目	高校地歴科〔歴史総合〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価
11 回目	高校地歴科〔日本史探究〕内容 A「原始・古代の日本と東アジア」B「中世の日本と世界」の構成と留意点
12 回目	高校地歴科〔日本史探究〕内容 C「近世の日本と世界」D「近現代の地域・日本と世界」の構成と留意点
13 回目	高校地歴科〔世界史探究〕内容 A「世界史へのまなざし」B「諸地域の歴史的特質の形成」の構成と留意点
14 回目	高校地歴科〔世界史探究〕内容 C「諸地域の交流・再編」D「諸地域の結合・変容」E「地球世界の課題」の構成と留意点
15 回目	高校地歴科〔日本史探究〕〔世界史探究〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価

◆参考文献

雑誌『社会科教育』明治図書出版（毎月発行）
雑誌『歴史地理教育』歴史教育者協議会（毎月発行）

科目コード	科　目　名	単位数
T20800	社会科・公民科教育法Ⅱ	2単位

教材コード　000587／000592
教　材　名　平成29年告示『中学校学習指導要領解説社会編』／平成30年告示『高等学校学習指導要領解説公民編』
著 者 名 等　文部科学省
※本教材は，文部科学省のホームページでダウンロードができます。
※社会科・公民科教育法Ⅰと同じ教材です。
出 版 社 名　東洋館出版／東京書籍
ＩＳＢＮ　9784491034713 ／ 9784487286331

◆教材の概要

中学校社会科及び高等学校公民科の授業の実際について，最新の教育動向を踏まえて学んでいく。中等学校教員として，自分が授業を担当する際，どのように教材研究をするのか，また生徒に対してどの学習方法をもって授業を展開していくのかについて学習する。実践に必要な知識・指導方法・指導技術について，具体的な討議や様々なグループワーク，模擬授業などを通して身につけることを目標にする。

◆学修到達目標

1. 学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の目標と内容を理解できる。
2. 社会科・公民科の背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用できるとともに，発展的な学習内容について探究し，それを学習指導に生かすことができる。特に「倫理」分野について理解を深める。
3. 社会科・公民科の基礎的な学習指導理論を理解するとともに，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

◆学修方法・留意点

①社会科・公民科における教育目標，育成を目指す資質・能力などの内容についての社会科教育原理を理解するとともに，②社会科・公民科（倫理）の学習指導と授業設計の方法について身につける。

◆学修計画

1回目	社会科の学びが変わる：社会科・公民科をめぐる現代的課題
2回目	社会科の目標と内容：「公民的資質・能力」の育成と「社会的な見方・考え方」を活用した社会科授業の構造化
3回目	社会科の成り立ちとその歩み：学習指導要領の変遷
4回目	社会科の教育課程と教科書：学習指導要領と社会科・公民科のカリキュラム・マネジメント
5回目	「倫理」―目標，内容，教材研究の視点
6回目	教材研究①―哲学研究の進展，枠組み
7回目	教材研究②―哲学者の研究，時代区分
8回目	教材研究③―哲学者の研究，代表的な思考（考えさせる授業）
9回目	社会科の授業をどうやればいいのか（社会科の授業技術）：「どのように学ぶか」と「何ができるようになるか」，学習指導案と新聞・情報機器の活用の仕方・掲示物等の作成
10回目	社会科の学習指導と評価
11回目	新学習指導要領の内容（1）「公共」科に期待されること
12回目	新学習指導要領の内容（2）「倫理的主体となる私たち」
13回目	新学習指導要領の内容（3）「主体的な学び」「深い学び」の実践
14回目	「公共」で重視される思考力と授業イメージ
15回目	ふり返り：これからの社会科・公民科について考える

◆参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』（平成29年年7月告示　文部科学省）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民科編』（最新版のものを使用予定　文部科学省）
現行学習指導要領に準拠した中学校社会科教科書と高等学校公民科教科書。

科目コード	科　目　名	単位数
T21000	英語科教育法Ⅱ	2単位

教材コード　000490
教　材　名　『新しい時代の英語科教育の基礎と実践』
著 者 名 等　JACET 教育問題研究会
出 版 社 名　三修社
I S B N　9784384056822

◆教材の概要

本書は第1部理論編として日本の英語教育・教師論等の実践背景としての理論がまとめられている。第2部は実践編で4技能スキルや文字と音声指導また語彙について，第3部は実践編―授業計画と実践―から成る。テキストの最後に掲載されている資料編は，日本の英語教育しの変遷や学習指導要領の改訂等・英語教育の必携書に当たる資料が掲載。これらを統合していかに自分なりの英語授業を講義するかが大事である。

◆学修到達目標

論理を踏まえ，どう実践指導を考えるかが大事である。理論から実践すべき授業をどう関連付け自分の授業を構築していくかを計画し学修目標に近づけるようにすることが目標となる。

◆学修方法・留意点

日本の英語教育及び変遷・第2言語習得論・教授法または英語教育に関連する専門用語を理解する。

◆学修計画

1回目	オリエンテーション　各指導の概要
2回目	実践論　　リスニング指導（1）音声と文字指導
3回目	リスニング指導（2）リスニングの基本
4回目	リスニング指導（3）リスニングの指導と実践
5回目	スピーキング指導（1）スピーキングの基本
6回目	スピーキング指導（2）双方のやり取りと実践
7回目	スピーキング指導（3）発表と実践
8回目	リーディング指導（1）リーディングの基本
9回目	リーディング指導（2）リーディングの指導と実践
10回目	ライティング指導（1）ライティングの基本
11回目	ライティング指導（2）ライティングの指導と実践
12回目	文法指導：言語使用を重視した文法指導法
13回目	語彙と辞書指導（1）語彙指導：受容語彙と発表語彙
14回目	今求められる英語教育
15回目	まとめとテスト

◆参考文献

『中学校学習指導要領』文部科学省
『高等学校学習指導要領』文部科学省

科目コード	科　目　名	単位数
T21200	商業科教育法Ⅱ	2単位

教材コード　000619
教　材　名　『商業科教育論　21世紀の商業教育を創造する』
著 者 名 等　日本商業教育学会　編
出 版 社 名　実教出版
I S B N　9784407344578

◆教材の概要
商業教育の必要性や意義の理解の上に，わが国の商業教育の歩みや高等学校学習指導要領に基づく教科「商業」についての広範囲な知識などを学び，これらを基に指導計画の作成や授業展開についての知識・技術に関する学修へと，その学びが進められるように項目の配列がなされている。そして，その後，現在の学校運営上欠かすことのできない項目についての学修を深め，商業教育における課題と展望について考察するという内容などで構成されている。

◆学修到達目標
・学習指導要領（教科「商業」の目標･構造･各科目の目標･内容･内容の取扱い）について理解するとともに，その説明ができる。
・学習指導案を作成し模擬授業ができ，これを踏まえた授業改善ができる。
・教科の学習評価を踏まえた授業評価ができる。
・高等学校学習指導要領を踏まえた商業科の教育課程の編成ができるとともに，発展的な学習内容を探究し，学習指導への位置付けを考察することができる。
・教科「商業」における多様な実践研究の動向を知り，授業改善に生かすことができる。

◆学修方法・留意点
・商業教育の必要性や意義を理解した上で学修を進める。
・高等学校学習指導要領の教科「商業」についての変遷を理解する。特に，各改訂の背景を踏まえて各時代の学習指導要領の特徴の他，教材に記されている項目ごとの内容の理解を深める。
・学修計画ポイントを踏まえて，具体的な教科の指導法について十分に検討することが大切である。特に，学習指導案の作成や実際授業を行う上での知識や技術について，十分理解を深めておくことが重要である。
・学修計画のポイントの③などを踏まえて，教育課程の意義や編成などについても十分に理解を深めておくことが大切である。その際，商業科教育法Ⅰの教材である『高等学校学習指導要領解説　商業編』の該当箇所などを参考にするとよい。
○学修計画のポイント
・ページ 8 ～ 192
高等学校学習指導要領に基づく教科「商業」についての広範囲な知識を習得する。
①商業教育の必要性と意義及び高等学校学習指導要領の教科「商業」の変遷についての理解を深める。
②平成 30 年告示の高等学校学習指導要領の教科「商業」について，必要な内容の理解を深める。
③指導計画と授業展開に関する知識や技術の理解を深める。
・ページ 193 ～ 201
現在の学校運営上に欠かすことのできない項目についての理解を深める。
①体系的な商業教育の意義，社会に開かれた教育課程などについての理解を深める。
②社会が求める力を育む商業教育，魅力ある商業教育についての考察をする。

◆学修計画

1 回目	商業教育の意義と必要性
2 回目	我が国の商業教育の歩み
3 回目	高等学校学習指導要領と商業教育
4 回目	商業科の教育課程編成と実施
5 回目	商業科教育における学習指導の理念と方向性
6 回目	商業科教育における主体的・対話的で深い学び
7 回目	各分野の指導①基礎科目
8 回目	各分野の指導②マーケティング分野
9 回目	各分野の指導③マネジメント分野
10 回目	各分野の指導④会計分野
11 回目	各分野の指導⑤ビジネス情報分野
12 回目	各各分野の指導⑥総合科目
13 回目	指導計画の理念と作成
14 回目	学習評価の理念と実際
15 回目	魅力ある商業教育

◆参考文献
『高等学校学習指導要領』文部科学省（東山書房）
『高等学校学習指導要領解説・商業編』文部科学省（実教出版）
商業科目の教科書（ビジネス基礎，簿記，情報処理など）

科目コード	科　目　名	単位数
T21300	道徳教育の理論と方法	2単位

教材コード　000543
教　材　名　『道徳教育の理論と方法』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　羽田　積男・関川　悦雄　編
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002281

◆教材の概要

本教材は，週1時間の「道徳の時間」が「特別の教科」として道徳科になり，教員を目指す皆さんは今まで以上に道徳教育について学ぶ必要があるという観点でもって，編まれた。この観点から，道徳教育を行うためには，まず自らが「道徳とは何か」を自問自答しながら，道徳教育の歴史や道徳性の発達に関する基礎知識を習得していることが求められ，さらに，道徳についての思索を深めつつ，学校全体にわたる道徳教育の目標・内容，道徳科の目標・内容・指導計画と実際の指導，そして道徳科の成立に伴う「新しい道徳授業」を模索することを，主な内容とした。

◆学修到達目標

1　道徳とは何か，自問自答できる。
2　道徳性を構成する諸様相，小学校と中学校にわたるその道徳性の発達について系統的に理解できる。
3　道徳教育と道徳科のそれぞれの目標・内容・指導計画を理解し，これらに沿って実際の指導ができる。
4　新しい道徳授業をつねに模索し続けることができる。

◆学修方法・留意点

1　道徳の定義，道徳教育の歴史，道徳性の発達，今日の学校における道徳教育の目標・内容・全体計画を整理する
2　道徳科と他の教育活動との関係や道徳科の目標・内容・内容の取扱い，道徳科の指導計画と実際の指導，新しい道徳授業スタイルをまとめる。

◆学修計画

1回目	道徳とは何か，その定義を考える。
2回目	道徳に関する事例を多角的に検討し，徳目主義の問題点と道徳教育の可能性を考える。
3回目	戦前の道徳教育の歴史：修身科における道徳教育の推移や教育勅語体制の確立，戦時期の国民学校における修身科教育のありようを考察する。
4回目	戦後の道徳教育の歴史：修身科の廃止，「道徳の時間」の特設，「特別の教科」としての道徳科の成立の流れを検討する。
5回目	道徳性の発達（1）：道徳性を構成する諸様相にはどんなものがあるか。
6回目	道徳性の発達（2）:小学校児童の道徳性の発達と中学校生徒の道徳性の発達について系統的にとらえる。
7回目	学校における道徳教育（1）：道徳教育の目標と内容をとらえて，その適切な指導を考える。
8回目	学校における道徳教育（2）：道徳教育の全体計画の事例を参照しながら，その作成する際の配慮すべき事項と全体計画の意義と内容について考える。
9回目	道徳科の目標と内容（1）：道徳科の授業と，それ以外の教育活動における道徳教育との関係について考える。
10回目	道徳科の目標と内容（2）：道徳科の目指すべき目標を検討する。
11回目	道徳科の目標と内容（3）：道徳科の内容項目と，その取扱いの工夫について考える。
12回目	道徳科の指導計画と実際の指導（1）：道徳科の指導計画の立案と，それに沿った道徳授業を展開する。
13回目	道徳科の指導計画と実際の指導（2）：道徳科の指導方法の模索と評価の意義について考える。
14回目	新しい道徳授業を求めて（1）:「考え，議論する道徳の授業」を実践するには，どんな工夫が必要なのかを検討する。
15回目	新しい道徳授業を求めて（2）：上記の（1）に基づいて，実際に模擬授業をしてみる。

◆参考文献

参考文献は上記の教科書の中に明示してある。また，必要に応じてそのつど紹介する。

科目コード	科　目　名	単位数
T21500	特別活動論	2単位

教材コード　000591
教　材　名　『特別活動・総合的学習の理論と指導法』
著 者 名 等　関川　悦雄・今泉　朝雄
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002397

◆教材の概要

本教材は，学校教育における教科外活動について，それの教育課程化の進行やそれの教育的意義を基本的に理解し，その上で学習指導要領における特別活動，すなわち学級活動・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事などの各目標・内容・指導法・評価について体験的に理解できるようにすることなどを主な内容とする。

◆学修到達目標

1　学校教育における教科外活動の教育課程化の進行とそれの教育的意義を理解できる。
2　学級活動・ホームルーム活動の教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できる。
3　生徒会活動・学校行事などの教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できる。

◆学修方法・留意点

1　教科外活動の教育課程化の意味・その進行，自由研究の新設・特別教育活動の成立・特別活動の誕生を整理する。
2　学級活動・ホームルーム活動の理論と指導法・評価の要点をまとめる。
3　学校行事・生徒会活動の理論と指導法・評価の要点をまとまる。

◆学修計画

1回目	特別活動―教科外活動の歴史とそれの意義について考える。
2回目	教科外活動の教育課程化の理論とその進行過程について考える。
3回目	自由研究・特別教育活動・特別活動の誕生について考える。
4回目	現行の教育課程における特別活動の位置づけをとらえる。
5回目	学習指導要領における学級活動の位置づけとその目標・内容をみる。
6回目	学習指導要領におけるホームルーム活動の位置づけとその目標・内容をみる。
7回目	学級活動の指導法や進路指導・生徒指導との関係についてとらえる。
8回目	ホームルーム活動の指導法や進路指導・生徒指導との関係についてとらえる。
9回目	学習指導要領における学校行事の位置づけとその目標・内容をみる。
10回目	学習指導要領における生徒会活動の位置づけとその目標・内容をみる。
11回目	学校行事・生徒会活動の指導法を整理する。
12回目	学校行事・生徒会活動の指導計画の立て方について考える。
13回目	特別活動における集団の指導理論と合意形成・意思決定を考える。
14回目	特別活動における評価・カリキュラムマネジメント・指導体制について検討する。
15回目	まとめ・整理

◆参考文献

参考文献については上記の教科書の中で明示している。必要に応じてそのつど提示する。

科目コード	科　目　名	単位数
T21700	教育の方法・技術論	2単位
T24000	教育方法・ICT 活用論	2単位

教材コード　000341／000620　　配本申請時セットコード 200009

教　材　名　教育の方法･技術論／『ICT活用の理論と実践』　※2冊組み

著 者 名 等　壽福　隆人／稲垣　忠・佐藤　和紀　編著

出 版 社 名　（通信教育教材）／北大路書房

I S B N　　―　　／ 9784762831805

◆教材の概要

教材「教育の方法・技術論」においては現代教育の現状を考えるにあたって，その前提となる教育方法・教授論のあゆみについてまず整理している。

さらに学習指導要領とカリキュラムについての基礎的概念を理解できるようにまとめている。これらをふまえて，後半では実際の授業づくりに必要な教育の技術をさまざまな角度から解説している。学習指導案を作成し，授業を行い，教育評価を行っていけるよう，教育実践を強く意識した構成となっている。

教材「ICT の活用と理論の実践」においては ICT 教育の発展，GIGA 教育の推進において，これからの教師に求められる資質や具体的な技術について学べるような構成となっている。

◆学修到達目標

これからの子どもに求められる資質・能力を育成するために，情報機器を活用した授業展開ができる教師の育成めざし，教育方法学，教育技術論を基礎として，ICT 教育の発展や GIGA スクール構想を推進できる教師の育成を目指す。

◆学修方法・留意点

本教材の記述をそのままレポートとして書き写すようなことがあってはならない。教育方学の歴史的発展や現状の学校教育に見られる諸問題にも加味しながら，自分の言葉でまとめるよう努力することが求められる。

◆学修計画

1 回目	教育学における教育方法学の位置について学ぶとともに, ICT 教育を踏まえた授業改善の必要性を考える。
2 回目	教育方法学の理論と実践を歴史的に学び，ICT を活用した授業実践の必要性を明らかにする。
3 回目	わが国近代公教育の成立と教授法研究の歴史と教育方法学理論の基本を理解する。
4 回目	一斉教授法の成立と問題点に注目し，個を育てる教育方法の重要性とその技術について考察する。
5 回目	学習集団の編成とそれに適した指導法について考察し，学校における ICT 環境の整備について考える。
6 回目	教具･教育機器を用いた学習を実践して，特別に支援を必要とする生徒への指導技術について考察する。
7 回目	教具･教育機器を用いて生徒が自ら学ぶ授業の指導技術と ICT を効果的に用いる方法について検討する。
8 回目	教師の役割と教具・教育機器の利用を通して，ICT を用いた授業の構成方法と指導方法を検討する。
9 回目	学習指導案の種類と目的を考察し，学習指導案作りについて学ぶ。
10 回目	学習指導案作成のための教材研究の方法を ICT 技術の活用を通して進める方法を実践的に検討する。
11 回目	教具・教育機器の発達（1）古典的教具を用いた授業の実践。
12 回目	教具・教育機器の発達（2）映像メディアを用いた授業の実践。
13 回目	教具・教育機器の発達（3）ICT を用いた教育の実践。
14 回目	評価法の種類と歴史及び意義 ICT 技術の利用を加味して考察する。
15 回目	通知表・指導要録作成の意義と方法を ICT 技術の利用方法を加味して考察する。

◆参考文献

『中学校学習指導要領』（文部科学省）
『高等学校学習指導要領』（文部科学省）
『中学校学習指導要領解説』（文部科学省）
『高等学校学習指導要領解説』（文部科学省）

科目コード	科　目　名	単位数
T21800	地理学概論	4単位

※この科目は文理学部哲学専攻・史学専攻のみ配当です。

教材コード　000529
教　材　名　『マシューズ＆ハーバート　地理学のすすめ』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　森島　済・赤坂　郁美・羽田　麻美・両角　政彦　共訳
出 版 社 名　丸善出版
I S B N　9784621089002

◆教材の概要

本書は，地理学の本質とその意義に迫る重要な視点と論点を数多く提供し，自然地理学分野と人文地理学分野をバランスよくまとめながら，地理学全体の特徴と「統合地理学」に可能性を見出している。地理学には，地形，植生，土壌，気候変動など自然の実体としての地球表面を研究対象とする自然地理学と，地球表面に居住する人々やその移動，居住地，彼らの認知，土地利用，資源，空間のあり様などを研究対象とする人文地理学とがある。その強みはこの二元性から生み出されており，自然と社会を捉える架け橋として機能する点にある。本書はそれぞれの分野の専門家によって書き下ろされ，拡大する地理学の魅力が具体例を交えながらまとめられている。

◆学修到達目標

地理学の本質とその意義を理解する。

◆学修方法・留意点

本書に掲載された「コラム」には，地理学の本質を理解する上で重要なキーワードの説明が詳しく行われている。巻末の文献や索引も参照しながら，本書の内容について事典等で調べるなど，学修を進めることが求められる。図・表・写真については略記されている箇所もあることから，原典にあたると一層理解を深めることができる。参考文献に挙げた上野ほか（2015）は人文地理学分野に関して，また水野（2015）は自然地理学分野に関する入門書であり，より深く地理学を学ぶ上で有用な文献となる。

◆学修計画

1回目	地理学とは何か
2回目	地理学の出発点とその本質
3回目	地理学の発展の主要な5段階とその重要な特徴
4回目	地生態圏と，その空間スケールの差異とそれらの相互作用
5回目	自然地理学の有用性と役割
6回目	人文地理学の研究方法とその変化の過程
7回目	人文地理学の目的と方法の変化
8回目	人文地理学の方法論上の特徴
9回目	地理学としての共通基盤
10回目	中央概念と一般概念の共有化
11回目	自然地理学と人文地理学のフィールドワークの方法
12回目	図化技能と数的技能の特徴
13回目	地理学に求められるリテラシー
14回目	人文地理学と自然地理学それぞれの新たな研究例
15回目	地理学の将来的発展に関する3つのシナリオ

◆参考文献

『地理学概論（第2版）』上野和彦・椿真智子・中村康子編（朝倉書店，2015年）
『自然のしくみがわかる地理学入門』水野一晴（ベレ出版，2015年）

科目コード	科　目　名	単位数
T21900	**地誌学**	4単位
T22000	**地誌学概論**	4単位
T22100	**地理学概論**（地誌を含む）	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000557

教　材　名　地誌学／地誌学概論／地理学概論（地誌を含む）

著 者 名 等　永野　征男・羽田　麻美

◆教材の概要

本教材は，世界を「地誌的な視点」から捉えることを目標にしている。その際に，全世界を網羅すると概観的な内容に終始し，学術的な見方が薄れてしまう。そこで世界における日本の立ち位置を知ること を重点に，最も関係が深いアメリカ合衆国を事例として，日米関係をグローバルに考える構成となっている。“合衆国が見えると日本が見えてくる”ことを目ざして，文化・社会・経済・政治・民族といった地誌学の 主要な課題を，具体的な事象を軸に，多くの資料を駆使しながら解き明かしていく。

◆学修到達目標

多民族多文化国家を地誌的に捉えることを通して，日本社会の国際的な見方や将来像を理解することができる。

◆学修方法・留意点

① 日米関係を通じて，つねに背後に横たわる全世界の動向に注目すること。
② 国家間の比較・対比が，単なる類例の学習に終わることが無いように注意すること。
③ 地域諸相を創り出す根源が，人間社会にあることを全章から学ぶこと。
④ さまざまな地域事象を見る際に，他の学問領域と比べ地誌的視点の特異性に注目すること。

◆学修計画

1回目	ガイダンスおよび「地誌学」の見方・考え方
2回目	アメリカ合衆国の地名分析からみえる国家形成の特徴
3回目	合衆国の民族（1）「先住アメリカ人」の現状を再認識
4回目	合衆国の民族（2）「アジア系移民」とくに日系移民の歴史
5回目	合衆国の民族（3）「宗教集団」をアーミッシュ社会にみる
6回目	エスニックとエスニシティ問題を総括
7回目	合衆国の大学教育を追随する日本の高等教育の諸問題
8回目	合衆国の産業（1）日米貿易における農産品の動向
9回目	合衆国の産業（2）西海岸における農業生産の特徴
10回目	合衆国の産業（3）巨大な航空機製造に協働する日本企業
11回目	合衆国の産業（4）急速な展開をみせる先端技術産業の日米対比
12回目	アメリカ文化の特徴を娯楽産業の世界展開にみる
13回目	資料分析（1）地図から地域社会を読み解く
14回目	資料分析（2）「地形図」の読み方を実習する
15回目	総括・国家や地域社会を地誌的に捉えることの重要性とは

◆参考文献

教科書の各章の末尾に，入手しやすい文庫本から学術専門書まで，複数冊を呈示してある。日本国内の刊行本が主であるが，課題ごとの著名な海外刊行物も併せ掲載してあるので参照のこと。

科目コード	科　目　名	単位数
T22200	人文地理学概論	4単位

※この科目は法学部・文理学部史学専攻・経済学部のみ配当です。

教材コード　000422
教　材　名　人文地理学概論　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　永野　征男

◆教材の概要

人文地理学の研究対象地域の中から都市地域を取り上げて，多くの学問領域が研究している都市社会を，地理学的な視点で分析している。したがって，各地域に生起する様々な人文現象を，地理的な手法を用いて分析調査する意義と特徴等について学ぶ。

とくに本書の最大の特徴は，日常の都市生活の中で，市民として関わる多くの法的規制を，都市の急速な変容と併せて解説している点にある。つまり，都市社会の変容過程には多くの法律がこれまでにも関与してきた。それらの内容の理解にとっては，具体的な多くの地域調査例をもつ地理学が，もっとも有効であると考えることから出発している。

◆学修到達目標

地域社会の主要な「場」である都市社会について，世界との比較検討を行い都市が持つ特色について整理するとともに，日本における都市の歴史的変容過程の分析と現在の都市問題（特に伝統的都市の保存・保全など）について地理学的視点から理解・説明することができるようになることを目的とする。

◆学修方法・留意点

本書に付帯する「学習指導書」を利用し，本文と併せて理解することが重要である。

◆学修計画

1回目	身近な話題から都市を知る　— 住居表示から土地の歴史をみる —
2回目	地理学における都市研究の意義 — 都市再生とコンパクトシティ論 —
3回目	都市の領域とは — DID 人口・ｱﾒﾘｶ合衆国の都市域設定について —
4回目	わが国における都市の発達過程 —近世・近代における城下町の変容，100 万人都市江戸の都市形成—
5回目	歴史的風土の保全 — 現代の歴史的都市保全と法規制整備 —
6回目	歴史都市における中心地の転移 — 城下町川越の商業地発展と旧核心地の転移 —（事例研究 1）
7回目	古都における地域開発の諸問題 — 鎌倉の公共事業計画と埋蔵文化財の取り扱い —（事例研究 2）
8回目	「都市化」と地理学 — 先進国と発展途上国における都市化問題 —
9回目	日本における「都市化」問題 — 都市化の指標，都市計画法と生産緑地，都市農業の変容 —
10回目	大都市縁辺部のニュータウン開発 — 田園都市構想の意義 —
11回目	ニュータウン建設と都市問題 — レッチワース・ミルトンキーンズの都市建設 —
12回目	土地区画整理事業の特性と問題点 — 事業組合方式と都市開発，「環境共生」とは —
13回目	都市再開発 — 相模原市の工場跡地利用による都市開発 —
14回目	都市の外延的拡大と中心市街地の衰退 — 鹿沼市における大型店進出と都心の変化—（事例研究 3）
15回目	大都市周辺における沿岸部の埋立事業と地域変容 —横浜市金沢地区の都市化対応 —（事例研究 4）

◆参考文献

各章の末尾に，単行本を中心として多くの学術論文を掲げてある。その部分を参照すること

科目コード	科　目　名	単位数
T22300	自然地理学概論	4単位

※この科目は法学部・文理学部史学専攻・経済学部のみ配当です。

教材コード　000236

教　材　名　自然地理学概論

著 者 名 等　小元　久仁夫・前島　郁雄・松井　健・立石　友男

◆教材の概要

自然環境は人類の生活や生業の舞台である。したがって世界各地の自然環境の構成要素や，その特徴について学ぶことは極めて重要である。本書は，地形・気候・土壌・植生についてグローバルな視点からとらえるとともに，地域的なことからも理解を深めるような内容となっている。

◆学修到達目標

自然地理学において，もっとも基本的な要素である地形・気候・土壌・植生について学ぶ。地域の自然を深く知ることで，環境の中の位置づけを理解し，風景のでき方を解き明かす基礎知識を得ることができる。

◆学修方法・留意点

地形形成営力と世界各地でみられる地形の特色，気候要素・気候因子と世界の気候帯の分布と特色，土壌の成因・区分・分布と世界の土壌の特徴，植物帯の特徴・区分・分布と気候や土壌との関係について理解すること。

◆学修計画

1回目	地表に働くエネルギーと斜面の物質移動
2回目	水の循環と流水による地形
3回目	海岸地形と氷河地形
4回目	地形面と地形発達
5回目	大気中のエネルギーと気候
6回目	環境としての気温
7回目	大気の循環と風
8回目	降水の特性
9回目	土壌の生成
10回目	土壌の分類
11回目	世界と日本の主な土壌
12回目	土壌の地理的分布
13回目	植物・植生のさまざまな区分
14回目	世界の森林帯
15回目	日本の植生と森林帯

◆参考文献

『発達史地形学』貝塚爽平著（東京大学出版会）
『やさしい気候学』仁科淳司著（古今書院）
『大学テキスト土壌地理学』浅海重夫編（古今書院）
『景観の分析と保護のための地生態学入門』横山秀司編（古今書院）

科目コード	科　目　名	単位数
T22400	漢字書法	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（国文学）のみ配当です。

教材コード　000237／000238　配本申請時セットコード200002
教　材　名　漢字書法手本／漢字書法教本（学修指導書）　※2冊組み
著 者 名 等　津金　孝邦

◆教材の概要

本書は，「漢字書法」の基礎を手本と教本の2冊によって学べるようにできている。この2冊をペアで使用することによって，実技学習も学習意義を理解できるように配慮されている。つまり，教本の内容を確認しながら，手本を用いて技法を身につけることで，書写を指導する上で必要な知識と実技が同時に修得できる仕組みとなっている。詳しくは，手本の「学習のはじめに」，および「学習方法」を参照の上，学習効果を高めてほしい。なお，本書では中国の書跡・作家を通じて「漢字書法」を学ぶが，日本の漢字作品や仮名についても参考文献を通じて，補ってほしい。

◆学修到達目標

漢字や仮名の成り立ちや，各書体の成立・特徴・文字の造形の変遷を説明できるようになる。また，文房四宝の基礎知識を身につけ，説明できるようになる。実技を通して，執筆法や用筆法など，基本的な技法を身につける。書作品の内容を理解し，鑑賞する習慣を身につける。

◆学修方法・留意点

書の定義，書の用具・用筆法を理解した上で，楷書・行書の成り立ちや特徴，技法を学ぶこと。テキストを通して中国書道史を概観し，楷書・行書以外の書体の成り立ちや特徴も理解を深めること。また，参考書を用いて，仮名の成り立ちについても調べること。

◆学修計画

1回目	書の定義，臨書について，書道の用具や用筆法について学ぶ
2回目	太古～秦の書を通して，文字の成り立ちや篆書について学ぶ
3回目	漢・三国の書を通して，隷書について学ぶ
4回目	六朝～隋の書を通して，草書・行書について学ぶ
5回目	唐～元の書を通して，楷書について学ぶ
6回目	楷書の基本を学ぶ　欧陽詢「九成宮醴泉銘」手本 p11・12
7回目	楷書の基本を学ぶ　欧陽詢「九成宮醴泉銘」手本 p13・14
8回目	楷書の基本を学ぶ　虞世南「孔子廟堂碑」手本 p15・16
9回目	楷書の基本を学ぶ　虞世南「孔子廟堂碑」手本 p17・18
10回目	行書の基本を学ぶ　王羲之「蘭亭序」手本 p19・20
11回目	行書の基本を学ぶ　王羲之「蘭亭序」手本 p21・22
12回目	行書の基本を学ぶ　王羲之「集字聖教序」手本 p23・24
13回目	行書の基本を学ぶ　王羲之「集字聖教序」手本 p25・26
14回目	草書の基本を学ぶ　孫過庭「書譜」手本 p27 ～ 30
15回目	明～中華民国の書を通して，書の表現や鑑賞について学ぶ

◆参考文献

『書の古典と理論』全国書道学会編（光村図書，2013）
『書道講座』新装版　第1～7巻（二玄社，2009～2010）
『書道テキスト』（大東文化大学書道研究所，2006～2011）
『書の総合事典』（柏書房，2010）
NHK高校講座「書道Ⅰ」（http://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/shodou/）

科目コード	科　目　名	単位数
T22500	かな書法	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（国文学）のみ配当です。

教材コード　000239／000240　配本申請時セットコード200003
教　材　名　かな書法手本／かな書法教本（学修指導書）　※2冊組み
著 者 名 等　藤木　正次

◆教材の概要

テキストは書写を指導する知識・技術を養い，とりわけ「かな書法」の基礎を手本と教本の2冊によって学べるようにできている。この2冊をペアで使用することによって，実技学習も学習意義を理解できるように配慮されている。つまり教本の内容を確認しながら，手本の技法を身につけることで，知識と実技が同時に修得できる仕組みになっている。詳しくは，テキストの「手本の学び方」および「まえがき」に記してあるので，参照の上学習効果を高めてほしいと思う。なお，本書では「かな書法」を日本の書跡・作家を通じて学ぶが，かなの源流となる漢字や中国の名跡についても参考文献を通じて補ってほしい。

◆学修到達目標

日本独自の「仮名」の成立を理解し，古筆の知識を深めることを目的としている。
実技においては，繰り返しの練習によって用筆法を修得する。

◆学修方法・留意点

書の定義，書の用具・用筆法を理解した上で，かなの成り立ちや特徴，技法について学ぶこと。テキストを通して，かなの特徴を理解した上で，漢字の成り立ちについて調べることも重要である。

◆学修計画

1回目	いろは単体：用具用材
2回目	いろは単体：基本用筆
3回目	変体かな：文字の成り立ち
4回目	変体かな：字母の確認
5回目	連綿（二字）のいろいろ
6回目	連綿（二字）のいろいろ：方法を学ぶ
7回目	連綿（多字）のいろいろ：流れを学ぶ
8回目	かなにおける簡略と行のゆれ
9回目	散らし書きの分類：いろいろな古筆より
10回目	秋萩帖：草仮名を理解する
11回目	高野切第一種：優雅さを学ぶ
12回目	高野切第三種：平明さを学ぶ
13回目	継色紙：散らし書き　特徴を学ぶ
14回目	寸松庵色紙：構成を学ぶ
15回目	関戸本古今集：古筆の特徴をとらえる

◆参考文献

『書の古典と理論』全国書道学会編（光村図書，2013）
『書道講座』新装版　第1～7巻（二玄社，2009～2010）
『書道テキスト』（大東文化大学書道研究所，2006～2011）
『書の総合事典』（柏書房，2010）

科目コード	科　目　名	単位数
T22600	法学通論	4単位
T22700	法律学概論（国際法を含む）	4単位

※同一内容で科目名称が学部によって異なる科目（ii ページ参照）

教材コード　000241
教　材　名　『現代法学入門（第4版）』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　伊藤　正己・加藤　一郎
出 版 社 名　有斐閣
I S B N　9784641112568

◆教材の概要

本書は今日の日本の法学についての概説書です。本書の内容は難しいものではなく，学生のみなさんにとっても理解しやすいものです。なので，本書は職業をもつ通信教育部の学生には最適の教科書であるといえます。

本の厚さもさほどではなく，しかも説明の分かりやすいものですが，その分内容は極めて要約・圧縮されているのでよく「読みこなす」ことが必要です。およそ3回読みかえせば内容が理解できるようになるはずです。読む回数を重ねるにつれて，書かれていることの新たな意味内容を理解（発見）するようになるでしょう。

本書は，法学の教養をはぐくむのにピッタリなテキストです。そして，本書を法学のテキストとして学ぶことで，必然的にコモン・センス（common sense）を身につけることができるようになると思います。この科目を履修する皆さんが法学の教養を具備した，コモン・センスあふれる良識人になってくれることを祈念しています。

◆学修到達目標

日本の法律を学ぶ上で必要な基礎的な思考方法・知識を習得することを目的に，基本的な理念と原則を習得し，その上で憲法・民法・刑法・労働法・国際法などの内容とそれによって形成される制度を学習します。その学習を通して，上記の法学の教養を具備したコモン・センスあふれる良識人を養成します。

◆学修方法・留意点

教科書は平易な言葉で書かれていますが，読み飛ばすのではなく，一語一語に注意を払いながら，よく読むようにしてください。そして，基本的な法原則の名称とその内容（定義）を正しく理解するように努めて下さい。また，対立する概念については，両者はどの点が異なるので対立しているのか，という点を意識するようにしてください。上記の点に留意しながら，テキスト全体を精読し，必要ならばノートをとるようにしましょう。

◆学修計画

1回目	ガイダンス
2回目	法と常識
3回目	法と社会生活，法の目的，権利と義務
4回目	法と裁判
5回目	裁判の基準となるもの（法源）
6回目	法の解釈
7回目	法の分類
8回目	国家と法
9回目	犯罪と法
10回目	家族と法
11回目	財産と法
12回目	契約と法
13回目	労働と法
14回目	国際社会と法
15回目	法の発展

◆参考文献

本書の各章や節の末尾に紹介されているもののほかに，
『法学入門［4版］』五十嵐清（日本評論社）
『高校から大学への法学［2版］』君塚正臣編（法律文化社）
『憲法［2版］』齋藤康輝＝高畑英一郎（弘文堂）
『ベーシック労働法［第6版補訂版］』浜村彰ほか（有斐閣）

科目コード	科　目　名	単位数
T22800	政治学概論	4単位

※この科目は文理学部哲学専攻・史学専攻のみ配当です。

教材コード　000243
教　材　名　政治学概論
著 者 名 等　杉本　稔・山田　光矢

◆教材の概要

本教科書は「第１章　科学としての政治学」「第２章　政治現象と政治権力」「第３章　政治社会の史的変遷」「第４章　近代政治制度の理論と構造」「第５章　政治過程と政治参加」の５章構造である。第１・２章は政治現象とはいかなる現象なのか，またその政治現象を研究する政治学とはいかなる学問なのかという問題を検討している。第３章は政治現象から展開される場としての政治社会を歴史的に，第４章は政治現象が展開される制度的枠組みを理論と制度の両面から，第５章では政治現象が展開されるプロセスを採り上げている。これらの各章の相互ｎ関連性を念頭に置きつつ学んでほしい。

◆学修到達目標

民主政治とはどのようなものであるのかを，理論･歴史･制度･分析の方法論等を通じて理解されるものと，各国で時代や社会背景などによって異なった制度や組織によって営まれている民主政治の実態を理解されるものを前提に，日本にとって望ましいと思われる民主政治のあり方について自分自身の考えを確立する。

◆学修方法

政治は時代や文化や社会などによって大きく異なった形態をとる。そうした政治改革の歴史や政治制度の内容や特色を各国ごと整理し，それらを伝統的な手法や科学的な手法で分析して行く。加えて流動的な現代政治の特徴を，マスメディア等を通じて逐次報道される情報を通じて理解する。

◆学修計画

1回目	政治とはどのようなものなのかを，国家や集団を例に考え，多様な考えがあることを理解する
2回目	政治学の学問としての特性を理解する
3回目	伝統的政治学と科学的政治学の特徴から政治学の研究方法を理解する
4回目	政治権力を伝統的手法と科学的手法から分析し，それぞれの学問的特性と考えを理解する
5回目	少数支配の法則，支配の正当性，権力の安定化等の論点や強調している特徴を理解する
6回目	リーダーシップとフォロワーの関係を科学的政治学の視点から理解する
7回目	絶対主義王政の下で生まれた近代自然法思想の特徴と近代市民革命の関係について理解する
8回目	近代市民社会と制限民主政治，現代大衆社会と大衆民主政治の特色を理解する
9回目	大衆民主政治とイデオロギー・ポリアーキー・多元的国家論・正義論等を理解する
10回目	権力分立制における大統領制・議院内閣制・半大統領制の特徴を理解する
11回目	国家形態と一院制・二院制の関連，選挙制度と政権の形態の関係などについて理解する
12回目	政治過程，政治文化，投票行動などについて理解する
13回目	政党の機能や政党制と選挙制度の関連等について理解する
14回目	圧力団体の機能やネオ・コーポラティズムの関係から参加民主政治の目的等を理解する
15回目	これまで学んできたことを中心に，民主政治のあるべき姿や方向性を理解する

◆参考文献

『政治学』吉野篤編・山田光矢他著（弘文堂）
『民主主義対民主主義』アンドレ・レイプハルト著・粕谷裕子訳（勁草書房）
『デモクラシーの政治学』杉本稔著（北樹出版）

科目コード	科　目　名	単位数
T22900	職業指導	4単位

※この科目は商学部のみ配当です。

教材コード　000455
教　材　名　職業指導
著 者 名 等　野々村　新

◆教材の概要

本教材では，主として高等学校における本来の進路指導の意義・目的とそれを達成するために行われる指導の領域，指導方法，指導体制および進路指導の基礎理論等について概観している。また，平成 16 年度に導入されたキャリア教育の意義，目的，理念，それと進路指導との関係についても解説している。

◆学修到達目標

教科書から得た知識をふまえて，教育や社会の動向を理解できる。

◆学修方法・留意点

中央教育審議会答申，教育基本法と学校教育法の改正，および学習指導要領の改訂等に留意する必要がある。

◆学修計画

1 回目	進路指導の意義と基本理念
2 回目	進路指導の機能と原理
3 回目	進路指導の歴史的発展
4 回目	進路指導の基礎理論
5 回目	個人理解
6 回目	進路情報の理解と活用
7 回目	啓発的経験の指導
8 回目	進路相談
9 回目	進路先決定の指導・援助
10 回目	追指導と進路指導の評価
11 回目	進路指導の管理・運営
12 回目	新学習指導要領による進路指導の効果的実践
13 回目	進路指導の現状と今後の方向
14 回目	わが国におけるキャリア教育の導入と意義
15 回目	わが国におけるキャリア教育の現状と今後の方向

◆参考文献

『改訂　生徒指導・教育相談・進路指導』野々村新ほか（編著）（田研出版）
『最新　生徒指導・進路指導論』吉田辰雄（編著）（図書文化社）

科目コード	科　目　名	単位数
T23000	心理学概論	4単位

※この科目は商学部のみ配当です。

教材コード　000247
教　材　名　心理学概論
著 者 名 等　大村　政男

◆教材の概要

基礎的事項について，心理学史のなかで重要な事項をわかりやすい表現でまとめたものになっています。

心理学については新しい知見もありますが，まずは心理学の歴史上において，基本的に重要な事項をよく学べるように編成してあります。

◆学修到達目標

心理学の基礎を学び，教職に生かす知識を習得することを目指します。

◆学修方法・留意点

(1) 発達･認知･学習･知能について，よく事例を読みながら学びましょう。人間はいかにして外界を認知し，その情報をとどのように理解して利用に適応していくかを，自分の経験を通して考えることが大切です。
(2) 性格とその診断法について学びましょう。心理学の中では，個人差を知ることが大きなテーマであり，それは心理的支援や教職おいて一人ひとりの生徒の理解を進める上で重要な事柄です。心理学の研究対象は人間です。科学的な見方で人間を理解していくことが大切です。血液型による性格理解の問題についてしっかり理解しましょう
(3) 臨床心理学・精神分析学に関する基礎と問題を学びましょう。まずは，自分の動機づけられた行動を内観したり，自分の欲求不満や葛藤を分析したりすることが大切です。他者の理解の前に，「自分」の理解が大切です。
(4) 犯罪心理学の中に知覚関係の知識を入れて理解しやすくしています。また，人間関係の理解のために，社会心理学の学修が重要になっています。
(5) 心理学史では，心に関する研究の背後なる考え方の大きな流れをつかんでください。
(6) 人間の科学的研究においては，統計法・研究法の理解が欠かせません。ここでは基本的な事項だけ取り扱っていますので，自分で問題を作って，実際に計算してみてください。
(7) それぞれの内容について，参考文献を参照して学びを深めてください。

◆学修計画

1回目	発達心理学
2回目	認知心理学
3回目	学習心理学
4回目	知能心理学
5回目	性格心理学
6回目	性格診断法・性格検査
7回目	血液型心理学の問題
8回目	動機づけの心理学
9回目	臨床心理学
10回目	精神分析学
11回目	心理療法
12回目	犯罪心理学
13回目	社会心理学
14回目	心理学史
15回目	心理学基礎統計法・心理学研究法

◆参考文献

『心理学概説』厳島行雄・横田正夫編（啓明出版　2014）
『発達と学習』内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎編（弘文堂 2016）

科目コード	科　目　名	単位数
T23100	発達と学習	2単位

教材コード　000593
教　材　名　『教職ベーシック　発達・学習の心理学　新版』
著 者 名 等　柏崎　秀子
出 版 社 名　北樹出版
I S B N　9784779305917

◆教材の概要

本科目の教材は教職課程における勉学を念頭に執筆されたものである。教員にとって必要とされる発達と学習に関する基礎知識が幅広く取り上げられている。

◆学修到達目標

教育に関わる発達と学習の諸問題に関する知識を獲得し，それらを有機的に関連づけて説明できるようになる。また，そうした知識を幼児，児童，生徒の学習を支援するために活用できるようになる。

◆学修方法・留意点

学習計画の各単元の内容が，教材の複数の章や節に点在して記載されていることもある。離れた章と章の間にも関連性があるということである。 こうした関連性にも注目してほしい。

なお，本教材はあくまでも発達と学習に関わる問題を知る入門書に過ぎない。教育の現場では , より専門的かつ実践的な知識が求められることもある。本教材に掲載されている参考文献を足がかりにして自ら文献を探すということもしてほしい。

◆学修計画

1 回目	発達とは何か。発達における量的変化と質的変化。発達観の変遷。
2 回目	発達の基本原理（遺伝と環境，発達の方向性・順序性・異速性，臨界期など）
3 回目	認知発達に関する発達理論（ピアジェ，ヴィゴツキー，ブルーナーの理論など）
4 回目	人格発達に関する発達理論（エリクソンの理論）
5 回目	乳児期における心身の発達（知覚能力の発達，言語の獲得，愛着行動など）
6 回目	幼児期における心身の発達（身体能力，認知能力，情緒の発達など）
7 回目	児童期における心身の発達（個性化と社会化）
8 回目	青年期における心身の発達（青年期の心理的葛藤）
9 回目	学習の基礎的理論　連合説（条件づけ理論）に基づく学習理論
10 回目	学習の基礎的理論　認知説に基づく学習理論
11 回目	学習方法の分類と学習時に生じる諸現象
12 回目	学習と動機づけとの関連（特に成長欲求に基づく動機づけとの関連）
13 回目	集団づくりと集団学習
14 回目	様々な教授法（学習者主体の教授法と教育者主導の教授法について）
15 回目	学習の評価に関する諸問題。発達障害

◆参考文献

教材に掲載されている書籍以外の参考図書として以下のものを薦めたい。

『発達と学習（現代の認知心理学 5)』市川伸一編著（北大路書房）

科目コード	科　目　名	単位数
T23200	特別支援教育概論	1単位

教材コード　000590
教　材　名　『特別支援教育：共生社会の実現に向けて』
著 者 名 等　吉田　武男　監修
出 版 社 名　ミネルヴァ書房
I S B N　9784623081523

◆教材の概要

教員養成課程の中で，特別支援教育に関する最も基本となる科目である。障害児教育に関する制度・歴史をはじめ，様々な障害やその他，教育的支援ニーズを持つ，児童，生徒の教育・心理・生理・指導法について概説する。また障害のある児童，生徒にとどまらず，個々の違いを認識しつつ，様々な人々が活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育について，理解を深める。

◆学修到達目標

特別支援学校，特別支援学級だけでなく，通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする児童，生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学んでいけるよう，①児童，生徒の学習上又は生活上の困難を理解し，②指導の方法を身につけ，③個別の教育的ニーズに対して，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を身につける。

◆学修方法・留意点

授業前半については指定教科書に沿って修学を進めること。11回目以降は各自，指定教科書だけではなく，参考文献に挙げた図書などから，テーマに沿ったものを各自選択し，学修を進めること。14回目15回目については，「もし自分の担任，担当するクラスに，教育的支援ニーズを持つ児童，生徒がいたら」と仮定し，児童，生徒の状況から，14回目は自分の担当教科の1時間分の指導案を実際に作成してみること，15回目はどのようなクラスづくり，学校づくりをしていくか，具体的に各自でいくつか事例として検討し，まとめておくこと。

◆学修計画

1回目	特別支援教育の理念と制度（教科書　第1章）
2回目	インクルーシブな学校と特別な支援が必要な障害のない児童生徒（教科書　第2章）
3回目	特別支援教育の歴史と特別支援教育の教育課程（教科書　第3章，第4章）
4回目	視覚障害の理解と教育（教科書　第5章）
5回目	聴覚障害の理解と教育（教科書　第6章）
6回目	知的障害の理解と教育（教科書　第7章）
7回目	肢体不自由の理解と教育（教科書　第8章）
8回目	自閉症・情緒障害の理解と教育（教科書　第10章）
9回目	言語障害の理解と教育，病弱・身体虚弱の理解と教育（教科書　第9章，第11章）
10回目	学習障害の理解と教育，注意欠陥・多動性障害の理解と教育（教科書　第12章，第13章）
11回目	連携支援Ⅰ：医療と福祉の連携（教科書　第14章）
12回目	連携支援Ⅱ：就学前の早期支援と就学支援，および学齢期以降の移行支援，「個別支援計画」と「個別の教育支援計画」（教科書　第14章）（参考図書）
13回目	連携支援Ⅲ：地域における相談支援体制の構築，特別支援教育コーディネータの意義と役割（教科書第14章）（参考図書）
14回目	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり：「指導案の作成」（参考図書等）
15回目	特別支援教育の視点を取り入れた学校・クラスづくり（参考図書等）：対象の児童，生徒だけではなく，彼らを含んだ「クラス」「学校」をどのように作り運営していくのかを検討しまとめる

◆参考文献

「共生社会の時代の特別支援教育　第1巻　新しい特別支援教育　インクルーシブ教育の今とこれから」柘植雅義編（株式会社ぎょうせい）
「共生社会の時代の特別支援教育　第2巻　学びを保障する指導と支援」柘植雅義編（株式会社ぎょうせい）
「共生社会の時代の特別支援教育　第3巻　連携とコンサルテーション」柘植雅義編（株式会社ぎょうせい）
「改訂版 特別支援教育の基礎：確かな支援のできる教師・保育士になるために」宮本信也（東京書籍）
「発達障害の早期発見・早期療育・親支援（ハンディシリーズ発達障害支援・特別支援教育ナビ）」本田秀夫（金子書房）
「よくわかる特別支援教育［第2版］（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）」湯浅恭正編（株式会社ミネルヴァ書房）
その他各種，指導案作成，授業づくりに関する図書

科目コード	科　目　名	単位数
T23300	教育課程論	2単位

教材コード　000594
教　材　名　『教育課程を学ぶ』
著 者 名 等　山田　恵吾・藤田　祐介・貝塚　茂樹・関根　明伸
出 版 社 名　ミネルヴァ書房
I S B N　9784623083817

◆教材の概要

本教材は，教育課程の基礎的な知識と理論を，その歴史をふまえながらわかりやすく解説している。特に，歴史的な展開を通して各時代の教育課程の特質と課題を捉えることで理解を深め，「ゆとり教育」以降の教育課程改革の動向や，現在の教育課程の課題についても解説されている。「教育課程」とは，教育内容の仕組みを学ぶこととともに，教育内容をめぐる様々な事柄や問題について総合的な理解を深めることを目指す科目である。

◆学修到達目標

1. 教育課程の基礎的な原理を理解する。
2. 各時代の社会的背景や動向を踏まえた学習指導要領の変遷を理解する。
3. 学校現場におけるカリキュラム・マネジメントの基礎的力量を身に付ける。

◆学修方法・留意点

テキストを熟読しておくこと。その際には，各校種の学習指導要領及び解説も合わせて熟読することが望ましい。また，教育内容をめぐる様々な事柄や問題について総合的な理解を深める必要があることから，学校現場における最新の課題（「子どもの貧困」，「教員の多忙化・働き方改革」「生涯学習」など）の文献にも目を通しておくことが望ましい。

◆学修計画

1回目	教育課程とは何か（1）：教育課程と学校教育
2回目	教育課程とは何か（2）：学力問題と教育課程
3回目	教育課程の構造と理論（1）：教育課程の構造と理論
4回目	教育課程の構造と理論（2）：生活とカリキュラム
5回目	教育課程行政と学習指導要領（1）：教育課程行政
6回目	教育課程行政と学習指導要領（2）：学習指導要領
7回目	学校における教育課程の編成と教育評価：教育目標と全体計画
8回目	学校における教育課程の編成と教育評価：教育評価の特徴と課題
9回目	教科書の制度と沿革
10回目	日本の教育課程改革の展開（1）：明治期から大正期の教育課程
11回目	日本の教育課程改革の展開（2）：昭和戦前・中期の教育課程
12回目	日本の教育課程改革の展開（3）：戦後教育改革と教育課程
13回目	日本の教育課程改革の展開（4）：「新教育」批判と「教育内容の現代化」
14回目	日本の教育課程改革の展開（5）：「ゆとり」から「確かな学力」まで・総合的な学習の時間
15回目	日本の教育課程改革の展開（6）：新学習指導要領・カリキュラム・マネジメント

◆参考文献

文部科学省　小学校学習指導要領・解説
文部科学省　中学校学習指導要領・解説
文部科学省　高等学校学習指導要領・解説
『子どもの貧困対策と教育支援』末冨芳編著（明石書店　2017）
『「学校における働き方改革」の先進事例と改革モデルの提案』藤原文雄編著（学事出版　2019）
『迷走・暴走・逆走ばかりのニッポンの教育　なぜ，改革はいつまでも続くのか？』布村育子（日本図書センター　2013）
『現代教育概論　第四次改訂版』佐藤晴雄（学陽書房　2017）
『学力問題のウソ　なぜ日本の学力は低いのか』小笠原喜康（PHP 研究所　2008）

科目コード	科　目　名	単位数
T23400	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位

教材コード　000591
教　材　名　『特別活動・総合的学習の理論と指導法』
著 者 名 等　関川　悦雄・今泉　朝雄
出 版 社 名　弘文堂
I S B N　9784335002397

◆教材の概要

本教材は，学校教育における教科外活動について，それの教育課程化の進行やそれの教育的意義を基本的に理解し，その上で学習指導要領における特別活動，すなわち学級活動・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事などの各目標・内容・指導法・評価について体験的に理解できるようにすることなどを主な内容とする。加えて，総合的学習の意義・全体計画・指導法なども扱っている。

◆学修到達目標

1　学校教育における教科外活動の教育課程化の進行とそれの教育的意義を理解できる。
2　学級活動・ホームルーム活動の教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できる。
3　生徒会活動・学校行事などの教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できる。
4　総合的学習（総合的探究）の意義・全体計画の立て方・指導法などを理解できる。

◆学修方法・留意点

1　教科外活動の教育課程化の意味・その進行，自由研究の新設・特別教育活動の成立・特別活動の誕生を整理する。
2　学級活動・ホームルーム活動の理論と指導法・評価の要点をまとめる。
3　学校行事・生徒会活動の理論と指導法・評価の要点をまとまる。
4　総合的学習（総合的探究）の意義・全体計画・指導法などをまとめる。

◆学修計画

1回目	特別活動―教科外活動の歴史とそれの意義について考える。
2回目	教科外活動の教育課程化の進行と自由研究・特別教育活動・特別活動の誕生について考える。
3回目	現行の教育課程における特別活動の位置づけをとらえる。
4回目	学習指導要領における学級活動・ホームルーム活動の位置づけとそれらの目標・内容をみる。
5回目	学級活動・ホームルーム活動の指導法や進路指導・生徒指導などとの関係についてとらえる。
6回目	学習指導要領における学校行事・生徒会活動の位置づけとそれらの目標・内容をみる。
7回目	学校行事・生徒会活動の指導法を整理する。
8回目	学校行事・生徒会活動の指導計画の立て方について考える。
9回目	特別活動における集団の指導理論と合意形成・意思決定を考える。
10回目	特別活動における評価・カリキュラムマネジメント・指導体制について検討する。
11回目	総合学習の歴史とその誕生について考える。
12回目	学習指導要領における総合的学習の意義などについてとらえる。
13回目	総合的学習の全体計画・単元計画の立て方とその実例を検討する。
14回目	総合的学習と主体的・対話的で深い学びとの関係について考える。
15回目	総合的学習の評価とその方法について考える。

◆参考文献

参考文献については上記の教科書の中で明示している。必要に応じてそのつど提示する。

科目コード	科　目　名	単位数
T23500	国語科教育法Ⅰ	2単位

教材コード　000469
教　材　名　『新版　中学校・高等学校　国語科教育法』
著 者 名 等　野地　潤家・湊　吉正
出 版 社 名　おうふう
I S B N　9784273036447

◆教材の概要

本書は全十二章と巻末の国語科関係法規資料とから構成されている。すなわち、新しい国語科教育，国語科教育の構造，国語科の指導課程，学習指導案の作成，ジャンル別教材研究と指導例（現代文）（古典），言語教材研究と指導例（言語）（音声），作文指導について，国語科における総合的な学習と指導例，国語科指導の充実と活性化，国語科教育の歴史，教育実習の課題と留意点，付録に国語教育関係法規が加わる。それらを①教育課程の意義，②その編成の方法について，③ジャンル別指導法，の三点に視点を据えて読み解いて行く。そこから国語教育の基幹となる事柄を把握し，関連法規の求める時代や地域に根ざした国語教育像を追究して行くことである。

◆学修到達目標

学習指導要領が求める国語科教育の意義と内容を理解する。具体的なジャンルに即して、それぞれ異にする指導法を考察することにより、教育現場で求められる教授法を身につけることができるようになる。

◆学修方法・留意点

読解に当たっては，座右に用語解説書を備え，不明な用語は検索し，ノートに取りながら読み進めるようにする。多様なジャンルの指導法は、具体的な学習指導案を作成しながら検討することである。

◆学修計画

1回目	新しい国語科教育：国語科教育の目標，内容，課題
2回目	国語科教育の構造：言語の種々相と国語科の構造 言語・文学と国語科教育
3回目	国語科の指導過程：規定するものと構想、指導過程とは、読みの問題、学習過程と言語活動
4回目	学習指導案の作成：意義とねらい
5回目	学習指導案の作成：指導案の形式
6回目	ジャンル別教材研究と指導例：現代文：小説，評論，論説文，詩歌
7回目	ジャンル別教材研究と指導例：古典：物語，随筆，和歌，漢文
8回目	言語教材研究と指導例：中学校：漢字・表記・語彙・口語文法，書写
9回目	言語教材研究と指導例（言語）：高等学校：漢字・表記・文法・語彙
10回目	言語教材研究と指導例（音声）：朗読，話し方，コミュニケーション（中学）話芸，演劇（高校）
11回目	作文指導について：メモ・ノートの取り方、要約指導（中学）関連学習による作文指導（高校）
12回目	国語科における総合的な学習と指導例：学校教育における総合的な学習の課題，国語科における指導例
13回目	国語科指導の充実と活性化：開拓と産出，ティームティーチング，コンピュータ，インターネット，評価と留意点
14回目	国語科教育の歴史：読むこと・書くこと教育，言語事項指導の展開，国語教育史
15回目	教育実習の課題と留意点：学習指導案作成時の留意点

◆参考文献

『中学校学習指導要録』『高等学校学習指導要録』（文部科学省）
『国語科重要用語 300 の基礎知識』大槻和夫編（明治図書）
『名指導書で読む筑摩書房なつかしの高校国語』筑摩書房編（ちくま学芸文庫）

科目コード	科　目　名	単位数
T23600	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2単位

教材コード　000587／000589

教　材　名　平成29年告示『中学校学習指導要領解説社会編』／平成30年告示『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』

著 者 名 等　文部科学省

※本教材は，文部科学省のホームページでダウンロードができます。
※社会科・地理歴史科教育法Ⅱと同じ教材です。

出 版 社 名　東洋館出版

ＩＳＢＮ　9784491034713／9784491036410

◆教材の概要

「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとする『中学校学習指導要領解説社会編』と『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』を教材とする。中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）において，これからの教育課程や学習指導要領は，子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容等の全体像を分りやすく見渡せる「学びの地図」であるべきとして，①何ができるようになるか，②何を学ぶか，③どのように学ぶか，④子供一人一人の発達をどのように支援するか，⑤何が身に付いたか，⑥実施するために何が必要かという 6 つの枠組みが示されている。

◆学修到達目標

〈到達目標〉
1. 学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の目標と内容を理解できる。
2. 社会科・地理歴史科の背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用できるとともに発展的な学習内容について探究し，それを学習指導に生かすことができる。
3. 社会科・地理歴史科の基礎的な学習指導理論を理解するとともに，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけている。
4. 社会科・地理歴史科の実践研究の動向を知り，授業設計の向上に主体的に取り組むことができる。

◆学修方法・留意点

① 1 回目は，今回の学習指導要領改訂に至った背景や社会科教育をめぐる現代的課題について，学習指導要領の前文・総則を読み込むとともに，中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成 28 年 12 月）を参照し，理解できるよう学修すること。
② 2 ～ 6 回目は，中学校社会科〔歴史的分野〕の目標を資質･能力の 3 つの柱（社会的事象の歴史的な「見方・考え方」にも着目）で整理するとともに，内容について理解し，「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。
③ 7 ～ 10 回目は，高校地歴科および〔歴史総合〕〔日本史探究〕〔世界史探究〕の目標を資質・能力の 3 つの柱（社会的事象の歴史的な「見方・考え方」にも着目）で整理するとともに，〔歴史総合〕の内容について理解し，「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。
④ 11 ～ 15 回目は，上記③の目標から，〔日本史探究〕〔世界史探究〕の内容について理解し，「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。

◆学修計画

1 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕と高校地歴科〔歴史総合〕〔日本史探究〕〔世界史探究〕をめぐる現代的課題
2 回目	中学校社会科および〔歴史的分野〕の目標，資質・能力の 3 つの柱，見方・考え方，学び方
3 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕内容 A「歴史との対話」の構成と留意点
4 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕内容 B「近世までの日本とアジア」の構成と留意点
5 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕内容 C「近現代の日本と世界」の構成と留意点
6 回目	中学校社会科〔歴史的分野〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価
7 回目	高校地歴科および〔歴史総合〕〔日本史探究〕〔世界史探究〕の目標，資質･能力の 3 つの柱，見方･考え方，学び方
8 回目	高校地歴科〔歴史総合〕内容 A「歴史の扉」内容 B「近代化と私たち」の構成と留意点
9 回目	高校地歴科〔歴史総合〕内容 C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の構成と留意点
10 回目	高校地歴科〔歴史総合〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価
11 回目	高校地歴科〔日本史探究〕内容 A「原始・古代の日本と東アジア」B「中世の日本と世界」の構成と留意点
12 回目	高校地歴科〔日本史探究〕内容 C「近世の日本と世界」D「近現代の地域・日本と世界」の構成と留意点
13 回目	高校地歴科〔世界史探究〕内容 A「世界史へのまなざし」B「諸地域の歴史的特質の形成」の構成と留意点
14 回目	高校地歴科〔世界史探究〕内容 C「諸地域の交流・再編」D「諸地域の結合・変容」E「地球世界の課題」の構成と留意点
15 回目	高校地歴科〔日本史探究〕〔世界史探究〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価

◆参考文献

雑誌『社会科教育』明治図書出版（毎月発行）
雑誌『歴史地理教育』歴史教育者協議会（毎月発行）

科目コード	科　目　名	単位数
T23700	社会科・公民科教育法Ⅰ	2単位

教材コード　000587／000592

教　材　名　平成29年告示『中学校学習指導要領解説社会編』／平成30年告示『高等学校学習指導要領解説公民編』

著 者 名 等　文部科学省

※本教材は，文部科学省のホームページでダウンロードができます。
※社会科・公民科教育法Ⅱと同じ教材です。

出 版 社 名　東洋館出版／東京書籍

ＩＳＢＮ　9784491034713 ／ 9784487286331

◆教材の概要

「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとする『中学校学習指導要領解説　社会編』と『高等学校学習指導要領解説　公民編』を教材とする。中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）において，これからの教育課程や学習指導要領は，子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容等の全体像を分りやすく見渡せる「学びの地図」であるべきとして，①何ができるようになるか，②何を学ぶか，③どのように学ぶか，④子供一人一人の発達をどのように支援するか，⑤何が身に付いたか，⑥実施するために何が必要かという 6 つの枠組みが示されている。

◆学修到達目標

1. 学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の目標と内容を理解できる。
2. 社会科・公民科の背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用できるとともに，発展的な学習内容について探究し，それを学習指導に生かすことができる。
3. 社会科・公民科の基礎的な学習指導理論を理解するとともに，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけている。
4. 社会科・公民科の実践研究の動向を知り，授業設計の向上に主体的に取り組むことができる。

◆学修方法・留意点

① 1 回目は，今回の学習指導要領改訂に至った背景や社会科教育をめぐる現代的課題について，学習指導要領の前文・総則を読み込むとともに，中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成 28 年 12 月）を参照し，理解できるよう学修すること。

② 2 ～ 7 回目は，中学校社会科〔公民的分野〕の目標を資質･能力の 3 つの柱（現代社会の「見方･考え方」にも着目）で整理するとともに，内容について理解し，「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。

③ 8 ～ 12 回目は，高校公民科および〔公共〕〔政治・経済〕目標を資質・能力の 3 つの柱（人間と社会の在り方についての「見方･考え方」にも着目）で整理するとともに，〔公共〕の内容について理解し，「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。

④ 13 ～ 15 回目は，上記③の目標から，〔政治･経済〕の内容について理解し，「主体的･対話的で深い学び」の視点で授業設計できるよう学修すること。

◆学修計画

1 回目	中学校社会科〔公民的分野〕と高校公民科〔公共〕〔政治・経済〕をめぐる現代的課題
2 回目	中学校社会科および〔公民的分野〕の目標，資質・能力の 3 つの柱，見方・考え方，学び方
3 回目	中学校社会科〔公民的分野〕内容 A「私たちと現代社会」の構成と留意点
4 回目	中学校社会科〔公民的分野〕内容 B「私たちと経済」の構成と留意点
5 回目	中学校社会科〔公民的分野〕内容 C「私たちと政治」の構成と留意点
6 回目	中学校社会科〔公民的分野〕内容 D「私たちと国際社会の諸課題」の構成と留意点
7 回目	中学校社会科〔公民的分野〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価
8 回目	高校公民科および〔公共〕〔政治・経済〕の目標，資質・能力の 3 つの柱，見方・考え方，学び方
9 回目	高校公民科〔公共〕内容 A「公共の扉」の構成と留意点
10 回目	高校公民科〔公共〕内容 B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の構成と留意点
11 回目	高校公民科〔公共〕内容 C「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の構成と留意点
12 回目	高校公民科〔公共〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価
13 回目	高校公民科〔政治・経済〕内容 A「現代日本における政治・経済の諸課題」の構成と留意点
14 回目	高校公民科〔政治・経済〕内容 B「グローバル化する国際社会の諸課題」の構成と留意点
15 回目	高校公民科〔政治・経済〕の教材研究・学習指導案・模擬授業・学習評価

◆参考文献

雑誌『社会科教育』明治図書出版（毎月発行）

科目コード	科　目　名	単位数
T23800	英語科教育法Ⅰ	2単位

教材コード　000580
教　材　名　『行動志向の英語科教育の基礎と実践』
著 者 名 等　JACET 教育問題研究会編
出 版 社 名　三修社
I S B N　9784384058765

◆教材の概要

この教材は，大きく分けて3つのパートから成り立っている。まず，第一部が理論編，第二部が実践編，そして第三部実践編Ⅱ～授業計画と実践～である。第一部の理論編では，外国語教育の目的と意義，第二言語習得と教授法，そして英語教師論等が説明されている。第二部の実践編では，4技能習得に加えて，技能統合型の指導，インタラクション，そして異文化指導の基礎概念と指導法が展開されている。最後の第三部では，授業実践と評価等について総合的に学習する。

◆学修到達目標

英語学習の過程，英語教授法・第二言語習得理論の具体的な歴史・概要を知りそれらを現在の英語学習者のニーズや学習環境に応じて実行できるようになる技術を身に付ける。第二言語習得理論の過去・現在を知ることにより，今後の英語教育業界における山積する問題についても考察し，よりよい「行動する進化する英語教師」となることを目標とする。

◆学修方法・留意点

かなり，ボリュームのあるテキストなので，ゆっくりと時間をかけて計画的に読み込んでいくことをお勧めする。副題に書いてある通り，省察をしながら読み込んでいくことにより「教師は成長する」ことができると思うからである。理論的な知識から，実践的な内容へと段階を踏んで進んでいけば，英語科教育法の一般的なしかしながら先端の知識を手に入れることが出来ると思われる。

◆学修計画

1回目	第1章：外国語教育の目的と意義
2回目	第2章：英語教育課程及び学習指導要領
3回目	第3章：第二言語習得と様々な教授法
4回目	第4章：学習者論及び自律的学習者とは何か
5回目	第5章：英語教師論　教員として求められる資質とは何か
6回目	第6章7章：インプット　リスニング及びリーディング
7回目	第8章9章：アウトプット　スピーキング及びライティング
8回目	第10章：技能統合型の指導　インタラクション
9回目	第11章：文法指導
10回目	第12章：語彙指導
11回目	第13章：異文化指導の基礎概念と指導法
12回目	第14章：授業計画に必要な知識
13回目	第15章：授業計画　授業案の作成の概要と留意点
14回目	第16章：授業実践
15回目	第17章：評価　CEFR と Can-Do リスト　観点別評価　適切な評価とは

◆参考文献

『国際語としての英語・進化する英語教育法』松柏社

科目コード	科　目　名	単位数
T23900	商業科教育法Ⅰ	2単位

教材コード　000618

教　材　名　『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　商業編』

著 者 名 等　文部科学省　※本教材は，文部科学省のホームページでダウンロードができます。

出 版 社 名　実教出版

ＩＳＢＮ　9784407348637

◆教材の概要

平成30年に告示された高等学校学習指導要領は，令和4年度の入学生から学年進行により実施される。この学習指導要領の第3章第3節「商業」について，本教材は，その改善の趣旨並びに内容を解説したものである。

教材は改訂の趣旨，商業科の目標，商業科の科目編成，商業科の各科目（20科目の各科目の目標，内容とその取扱），各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱いという構成になっている。

◆学修到達目標

・商業高校における商業教育の意義や役割について理解するとともに，その説明ができる。
・高等学校学習指導要領（商業）の変遷及び学習指導要領（教科「商業」の目標･構造･各科目の目標･内容･内容の取扱い）について理解するとともに，その説明ができる。
・高等学校学習指導要領を踏まえた商業科の教育課程の編成ができるとともに，発展的な学習内容を探究し，学習指導への位置付けを考察することができる。

◆学修方法・留意点

各科目の指導法や教育課程の編成については，学修計画で示した事項を踏まえて考察し，実際の指導法や教育課程の編成例を自らが検討（作成）してみることが大切である。この検討（各科目の指導法や教育課程の編成法）により，教師としての実践力が養われていく。その際，商業科教育法Ⅱの教材である『商業科教育論　21世紀の商業教育を創造する』の該当箇所なども参考にするとよい。

1．総説の理解
　①　学習指導要領の改訂の経緯や趣旨，要点などを簡潔にまとめ理解する。
　②　商業の各科目相互の指導を通して商業科の目標の達成を目指していることなどを理解する。
　③　20科目の位置付けや各分野において育てる能力を理解する。

2．商業科の各科目の目標及び内容とその取扱いの理解
　商業の各分野に関する教育内容全般にわたっての基礎的な科目としての「ビジネス基礎」･「ビジネス･コミュニケーション」をはじめ，総合的科目に属する2科目，マーケティング分野に属する3科目，マネジメント分野に属する3科目，会計分野に属する5科目，ビジネス情報分野に属する5科目の計20科目について，その目標，内容の構成及び取扱い，そしてその内容を十分に理解する。

3．各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱いの理解
　指導計画の作成に当たっての配慮事項，内容の取扱いに当たっての配慮事項，実験・実習の実施に当たっての配慮事項，総則に関する事項を理解する。

◆学修計画

1回目	高等学校学習指導要領改訂の経緯及び基本方針，趣旨及び要点
2回目	高等学校学習指導要領商業科の目標
3回目	高等学校学習指導要領商業科の内容構成
4回目	商業科の各科目①　ビジネス基礎・課題研究
5回目	商業科の各科目②　総合実践・ビジネス・コミュニケーション
6回目	商業科の各科目③　マーケティング・商品開発と流通
7回目	商業科の各科目④　観光ビジネス・ビジネスマネジメント
8回目	商業科の各科目⑤　グローバル経済・ビジネス法規
9回目	商業科の各科目⑥　簿記・財務会計Ⅰ
10回目	商業科の各科目⑦　財務会計Ⅱ・原価計算
11回目	商業科の各科目⑧　管理会計・情報処理
12回目	商業科の各科目⑨　ソフトウエア活用・プログラミング
13回目	商業科の各科目⑩　ネットワーク活用・ネットワーク活管理
14回目	各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い① 指導計画の作成に当たっての配慮事項・内容の取扱いに当たっての配慮事項
15回目	各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い② 実験・実習の実施に当たっての配慮事項・総則に関する事項

◆参考文献

『高等学校学習指導要領』文部科学省（東山書房）
『商業科教育論　21世紀の商業教育を創造する』　日本商業教育学会（実教出版）
商業科目の教科書（ビジネス基礎，簿記，情報処理など）

科目コード	科　目　名	単位数
T30100	国語科教育法Ⅲ	2単位

教材コード　000545
教　材　名　『中学校　高等学校　国語科指導法』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　益地　憲一　編著
出 版 社 名　建帛社
I S B N　9784767920924

◆教材の概要

本書は「国語科教育の指導法を具体的実践に即してまとめる。時代や社会の要請に応えるものと不易の言葉の教育の実現に資する」と記されるコンセプトの元に、豊富な実践例を取り込み、具体的な指導案を例示して現場に即した展開例を上げている。一方、メディアリテラシーを念頭に新時代に対応した国語力のあり方を探り、人間存在の根幹に通じる不易の事柄として、言葉の教育の重要性が語られる。各章で述べられる内容は、コラム欄とも相俟って相互に確認できる構成となっている。

◆学修到達目標

新たな時代が要請する国語科教育について、対応できる授業力とは何かを考察する。様々な実践例から検討を加えることにより、変化し続ける時代に即応する授業力を身につけることができるようになる。

◆学修方法・留意点

授業の三要素としての生徒・教師・教材に目を据え、授業構築力を構想、実践、反省の三つに捉える。従来の教師主導型による一斉授業方式の反省から、学習者尊重という、一見生徒の側に寄り添った指導法が、逆に無責任な、生徒の興味本位の迎合的な授業に陥っていないか警鐘を鳴らす。これら総合的な視点に立った本教材から新時代の動向を探り、国語教師としてのあるべき役割を学びたい。

◆学修計画

1回目	国語教育と国語科教育：意義と位置づけ，中学・高校の目標、構造、内容，学力観，不易と流行
2回目	授業とは：授業の三要素，授業に学ぶなど
3回目	国語科における教材・学習材：種類，発掘，教材から学習材へ，あり方，もたらすものなど
4回目	国語科教師の役割：資質と能力，役割，専門性の高揚
5回目	発達段階からみた中学生・高校生：中学生，高校生における発達段階について
6回目	国語の授業づくり：授業力とは，教室の活性化，学習者主体の授業，その指導計画
7回目	話すこと聞くことの指導：目標，対話能力について，指導の実際と課題，教材研究と扱い
8回目	書くことの指導：表現の観点と系統性指導の観点，実践例の即した指導のポイント
9回目	読むことの指導：読むことの現状，授業づくりに向けて
10回目	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導：新設の趣旨，伝統的な言語文化とは何か，漢字・書写の内容など
11回目	高等学校における特徴ある指導：中学校との連携，カリキュラムの編成，発展的な学びとは
12回目	読書指導：フィクション本とノンフィクション本の指導の差異，読書の将来像
13回目	授業研究：実践研究の展開，授業研究の方法と実際など
14回目	学習指導と評価：評価の意義，中学学習指導における評価，これからの評価
15回目	国語科教育の課題と発展：リーディング・リテラシーの育成，求められる教師のプロフェッショナルなど

◆参考文献

『中学校学習指導要録』『高等学校学習指導要録』（文部科学省）
『橋本式国語勉強法』橋本武（岩波ジュニア新書）
『教師力をアップする100の習慣』大塚謙二（明治図書）

科目コード	科　目　名	単位数
T30200	国語科教育法Ⅳ	2単位

教材コード　000446
教　材　名　『国語科の教材・授業開発論』
著 者 名 等　町田　守弘
出 版 社 名　東洋館出版社
I S B N　9784491025049

◆教材の概要

教師が教材を読んで分からせるという、トップダウン方式を改め、可能な限り生徒の側に立つサブカルチャーに着目して、新しい教材開発、授業開発を検討する。教師自らが多様なメディアに目を配り、楽しく力のつく教材開発に取り組む姿勢が求められる。単なる知識の伝授に留まらない、学習者主導型へと転換が求められている。示される具体的事例から、学び取る姿勢と現代における国語教育の再検討を期したい。

◆学修到達目標

いわゆる形骸化した一斉授業方式にイノベーションを導入する。生徒たちの文化を捉え、理解を助ける補助教材を考察することにより、授業に興味を引かせ、飽きさせない授業の構築ができるようになる。

◆学修方法・留意点

サブカルチャーを取り込んだ教材は、ともすれば安易に流れやすい面がある。「活動あって指導なし」の事態を避けるためにも、更なる工夫と授業公開による批判の場が求められる。一方、評価が定まった定番教材には教科書の名作も存する。それら不易流行の真贋を見定めることも求められる。

◆学修計画

1回目	魅力ある言語活動のイノベーション：国語科の教材開発と授業開発
2回目	国語科教材開発と授業開発のために：サブカルチャー教材の可能性を探る
3回目	国語科教材開発と授業開発のために：基盤創り，メタ授業としての要素など
4回目	「話すこと・聞くこと」言語活動のイノベーション：実践的課題，授業構想のために
5回目	「話すこと・聞くこと」言語活動のイノベーション：対話と討論，発表力を育てる
6回目	「話すこと・聞くこと」言語活動のイノベーション：「お笑い」からの構想，演劇の授業開発
7回目	「書くこと」言語活動のイノベーション：学習者の現実に即した作文，創作を取り入れた実践
8回目	「書くこと」言語活動のイノベーション：興味・関心・意欲の喚起，交流作文の可能性
9回目	「読むこと」「見ること」言語活動のイノベーション：授業開発に向けて，メディアリテラシーを考える
10回目	「読むこと」「見ること」言語活動のイノベーション：教室の文化を生かす，子ども文化と一体化した読書
11回目	「読むこと」「見ること」言語活動のイノベーション：「子どもの権利条約」を読む，学習用語の扱い
12回目	「読むこと」「見ること」言語活動のイノベーション：「投げ込み」授業を考える，思考力・表現力の養成
13回目	「読むこと」「見ること」言語活動のイノベーション：「見ること」の言語活動，読解力と関連した教材開発など
14回目	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の言語活動を創る：古典に親しむための授業開発
15回目	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の言語活動を創る：「国語総合」における効果的な古典の扱い，漢字・語彙指導の工夫

◆参考文献

『中学校学習指導要録』『高等学校学習指導要録』（文部科学省）
『実践国語科教育法』町田守弘（学文社）
『高等学校国語科授業実践報告集』アクティブラーニング編（明治書院）

科目コード	科　目　名	単位数
T30300	英語科教育法Ⅲ	2単位

教材コード　000225
教　材　名　『英語科教育法セミナー』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　浪田　克之助・熊取谷　哲夫
出 版 社 名　英宝社
I S B N　9784269640153

◆教材の概要

この教科書は，英語科教育に際し有益となる以下の項目について編纂されたものです。
① 学習者の心理的要因の分析（第一章）
② 学習される言語知識の中核である文法の教授法（第二章）
③ 受動的知識を能動的知識に転換するための訓練法（第三章）
④ 学習目標に対して学習結果が占める座標と今後の方位の測定の方法（第四章および第五章）
⑤ 効果的な指導法を考える上での教授理論とその実践方法（第六章）

◆学修到達目標

本授業では，教科書の第一章，第二章，第三章，第四章を扱い，以下の到達目標を掲げます。
① 書かれている内容を精確に理解できていること。
② 各章末にある Exercises を正しく解答できるようになること。
③ 各章の内容を踏まえて，理論的かつ実践的な英語科教授法を考案できるようになること。

◆学修方法・留意点

以下の学修計画に沿って学修してください（リポート課題に関係（関連）する章だけを読むのは厳禁です）。
学修した内容をいかに Listening / Speaking / Reading / Writing の 4 技能指導に応用するかを熟慮してください。その際，わかり易く明快に論じることが求められます。これは，和訳問題が出題された場合も同様で，正しい日本語であることはもとより，わかり易い日本語にすることが肝要です。英語の単なる直訳や日本語だけを読んでみても何を言っているのかわからないようなものは得点にはなりません（部分点もなし）。この点には十分注意してください。

◆学修計画

1 回目	外国語学習の条件：Introduction, Native ability, Age, Developed observational and discriminatory powers
2 回目	外国語学習の条件：Motivation, Short sessions, Regular and frequent sessions
3 回目	外国語学習の条件：Reinforcement, Maintenance of the learner's level, Input before output: staging of skills
4 回目	外国語学習の条件：Availability of graded materials, Snowballing, Direct learning
5 回目	外国語学習の条件：Conclusion, All Exercises
6 回目	学習者について：Introduction, Personality variables, Cognitive style variables
7 回目	学習者について：Language learning strategies and techniques
8 回目	学習者について：Individual learning styles and techniques
9 回目	学習者について：Conclusion, All Exercises
10 回目	文法の指導法：Introduction, Learner variables, Instructional variables, Learner and Instructional variables
11 回目	文法の指導法：Effective ways to Focus on Form, Effective ways to correct errors
12 回目	文法の指導法：Conclusion, All Exercises
13 回目	運用訓練の技術：Introduction, Audience participation strategies
14 回目	運用訓練の技術：Group role plays, Conclusion, All Exercises
15 回目	第一章から第四章までの総復習

◆参考文献

『中学校学習指導要領』（平成 29 年告示）文部科学省
『高等学校学習指導要領』（平成 30 年告示）文部科学省
『英語授業ハンドブック　中学校編』金谷憲（編集代表）大修館
『英語授業ハンドブック　高等学校編』金谷憲（編集代表）大修館

科目コード	科　目　名	単位数
T30400	英語科教育法Ⅳ	2単位

教材コード　000227
教　材　名　『Second Language Acquisition』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　Ellis, Rod
出 版 社 名　三善 Oxford University Press
I S B N　9780194372121

◆教材の概要

教室における英語教育は様々な視点から見ることが出来る。例えば，これを規定する法的な枠組みとか，教授者の視点とか，教授者から半ば独立して教授者を補助する ALT とか CALL（Computer Assisted Language Learning）などの視点，あるいは学習あるいは学習者からの視点である。本書は，最後に記した視点から，第 2 言語（英語）学習に関する過去の研究成果を要約したものである。取り上げられている問題は，第 2 言語学習と第 1 言語学習の知識・能力との関連，学習者の学習の動機あるいは方略，教育が学習に果たす役割，学習の進行過程，などである。

◆学修到達目標

様々な言語習得理論について学び，人間の言語習得のメカニズムについて考察することにより，実際の教育現場で言語習得理論を実践することが出来るようになる。

◆学修方法・留意点

本書は英語学習について，英語学習を論ずるための英語で書かれている。本書が，上記のような英語学習の理論を瞥見（べっけん）するためばかりでなく，今後，英語教育においてますます大きな役割を果たすことになると思われる ALT との打ち合わせなどに際して，十分な意思疎通を図るための言語を習得するために利用されることが望ましい。

◆学修計画

1 回目	Introduction
2 回目	Describing and explaining L32 acquisition
3 回目	The nature of learner language
4 回目	Interlanguage
5 回目	The acculturation model of L2 acquisition
6 回目	Acquiring discourse rules
7 回目	L1 transfer
8 回目	The role of consciousness in L2 acquisition
9 回目	Typological universals: relative clauses
10 回目	Universal grammar
11 回目	Individual differences in L2 acquisition
12 回目	Language aptitude
13 回目	Instruction and L2 acquisition
14 回目	Conclusion: multiple perspectives in SLA（Second Language Acquisition）
15 回目	Summary

◆参考文献

Ellis, Rod. *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford University Press.
Cook, Vivian. *Second Language Learning and Language Teaching*. Edward Arnold.
McLaughlin, Barry. *Theories of Second-Language Learning*. Edward Arnold.

科目コード	科　目　名	単位数
T30500	生徒指導・進路指導論	2単位

教材コード	①000581／②000582／③000583
教　材　名	①文部科学省『生徒指導提要』／②文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』／③文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』 ※本教材は，文部科学省のホームページでダウンロードができます。
出 版 社 名	①教育図書／②教育出版／③教育出版
I S B N	① 9784877302740 ／② 9784316300269 ／③ 9784316300580

◆教材の概要

① 「小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について，時代の変化に即して網羅的にまとめ，生徒指導の実践に即し教員間や学校間で教職員の共通理解を図り，組織的・体系的な生徒指導の取組を進めることができるように編集した生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書」（同書「まえがき」を山岸が修正）

② 「第１章　キャリア教育とは何か／第２章　中学校におけるキャリア教育の推進のために／第３章　中学校におけるキャリア教育の実践／ FAQ」

③ 「第１章　キャリア教育とは何か／第２章　高等学校におけるキャリア教育の推進のために／第３章　高等学校におけるキャリア教育の実践／ FAQ」

◆学修到達目標

生徒の利益になるよりよい教育実践のために，生徒指導，進路指導およびキャリア教育の関する基礎的な知識を十分に理解する。

◆学修方法・留意点

テキストを繰り返し読むこと。学校教育に関連するテレビニュースやネットニュースや新聞記事に積極的に触れるようにすること。

◆学修計画

1 回目	生徒指導の意義や原理（1）：教育課程における生徒指導の位置付け／各教科・道徳教育・総合学習・特別活動における生徒指導の意義や重要性
2 回目	生徒指導の意義や原理（2）：集団指導と個別指導の方法原理／生徒指導体制と教育相談体制
3 回目	生徒全体に対する生徒指導の進め方（1）：各教員の校務分掌／学校の指導方針と年間指導計画に基づいた組織的取組
4 回目	生徒全体に対する生徒指導の進め方（2）：日々の生徒指導の在り方（基礎的な生活習慣の確立，規範意識の醸成，自己肯定感の育成など）
5 回目	生徒全体に対する生徒指導の進め方（3）：生徒の自己肯定感が育成される場や機会の設定
6 回目	個別の問題を抱えた生徒に対する生徒指導の進め方（1）：生徒指導にかかわる主な法令の理解（校則，体罰，停学，退学など）
7 回目	個別の問題を抱えた生徒に対する生徒指導の進め方（2）：暴力行為・いじめ・不登校などの定義と対応の在り方
8 回目	個別の問題を抱えた生徒に対する生徒指導の進め方（3）：生徒指導における今日的な課題の例示と対応の在り方（インターネットや性に対する課題，児童虐待問題など）／専門家や関係諸機関との連携の在り方
9 回目	進路指導・キャリア教育の意義と原理（1）：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け／学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
10 回目	進路指導・キャリア教育の意義と原理（2）：進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制，家庭や関係諸機関との連携の在り方
11 回目	ガイダンスとしての指導（1）：職業体験活動とキャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメント
12 回目	ガイダンスとしての指導（2）：進路指導・キャリア教育における全体指導とガイダンス
13 回目	カウンセリングとしての指導（1）：進路指導・キャリア教育における個別指導とカウンセリング
14 回目	カウンセリングとしての指導（2）：キャリア形成における自己評価とポートフォリオ
15 回目	カウンセリングとしての指導（3）：キャリア・カウンセリングの理論と方法

◆参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領』
文部科学省『高等学校学習指導要領』

科目コード	科　目　名	単位数
T30600	教育相談	2単位

教材コード　000498
教　材　名　教育相談／教育カウンセリング論
著 者 名 等　植松　紀子

◆教材の概要

教材の内容は，大別すると「カウンセリング」と「教育相談」「学校教育相談」に関する内容となっている。

「カウンセリング」ではその歴史・定義・目的・必要性，カウンセリングの種類，およびその理論と方法，カウンセラーの資質（基本的態度）について取り上げている。

「教育相談」では，その意義・目的・必要性について取り上げている。

「学校教育相談」では，学校現場での教育相談の特質と学校教育相談担当教師の役割などについて取り上げている。進路相談，不適応問題，特別支援教育などとの関連についても触れている。

◆学修到達目標

カウンセリングの全般的な意義・目的・歴史やその必要とされる背景が理解できる。
学校教育相談の意義・目的を把握し，学校教育相談がなぜ必要になったかという歴史的背景と現状について理解できる。

◆学修方法・留意点

①「カウンセリング」の領域に関して

カウンセリングがどのような必要性から生まれ，現在では，人間に対して何を行う事を目的として実践されるのかについて十分に理解する。また，カウンセリングの効果を高めるためにカウンセラーにはどのような資質が求められるかについて，よく認識することが重要である。

②「教育相談」「学校教育相談」の領域に関して

専門機関で行う「教育相談」とは異なり，「学校教育相談（教育カウンセリング）」は，単に児童生徒の問題・悩みの解決のみを目的とするものではないことを理解する。
教師は，どのような態度で児童生徒に接するべきかなどについても，よく理解する必要がある。

◆学修計画

1回目	カウンセリングとは何か
2回目	カウンセリングの理論と方法
3回目	教育相談とは何か
4回目	学校教育相談の歴史
5回目	学校教育相談の意義・目的と特質
6回目	学校教育相談の必要性
7回目	学校教育相談の理論的基盤
8回目	学校教育相談の実際
9回目	学校教育相談の方法
10回目	進路相談の意義と実践
11回目	不適応問題と学校教育相談
12回目	特別支援教育
13回目	特別支援学校・特別支援学級について
14回目	学校外機関との協力・連携
15回目	心理アセスメントとは何か

◆参考文献

『改訂　生徒指導・教育相談・進路指導』野々村新他編著（田研出版）

科目コード	科　目　名	単位数
U20100	学校経営と学校図書館	2単位

教材コード　000584
教　材　名　『改訂学校経営と学校図書館』
著 者 名 等　中村　百合子　編
出 版 社 名　樹村房
I S B N　9784883673612

◆教材の概要
学校図書館運営に関する基本的な理念と理論を概説する。社会の変化の中で，学校図書館と司書教諭はどのような役割を果たすのか。学校図書館の根本を考えながら資格取得を目指していく。

◆学修到達目標
続く非常事態において学校図書館と司書教諭はどのような役割を果たすのが望ましいかを考え続ける力をつける。

◆学修方法・留意点
自身の経験の中の学校図書館にとらわれず，学校教育の中で学校図書館がどうあるべきか，現在の児童生徒を取り巻く社会問題や教育行政の状況とリンクさせながら考えること。

◆学修計画

1回目	司書教諭になるための学習
2回目	福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会
3回目	これからの学校教育とあるべき学びの形
4回目	メディアと人間の循環
5回目	学校の中の図書館
6回目	学校図書館の歴史（アメリカ）
7回目	学校図書館の歴史（日本）
8回目	日本の学校図書館の現状
9回目	学校図書館の目的と機能
10回目	学校図書館の図書館サービス
11回目	学校図書館の教育活動
12回目	学校図書館の担当者
13回目	学校図書館のマネジメント
14回目	学校図書館の設計
15回目	学校図書館研究と学校図書館の発展

◆参考文献
※『学校図書館を創る』山本みゆき著（長崎出島文庫）
※『子どもが生きる学校図書館』熱海則夫・長倉美恵子編著（ぎょうせい）
その他，テキストに掲載されている参考文献も活用してください。

科目コード	科　目　名	単位数
U20200	学校図書館メディアの構成	2単位

教材コード　000389
教　材　名　『分類・目録法入門―メディアの構成―』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　志保田　務・井上　祐子・向畑　久仁・中村　静子
出 版 社 名　第一法規
I S B N　9784474069541

◆教材の概要

本書は学校図書館における資料の選択・収集，蔵書構成，資料組織法（分類・件名・目録）について解説している。学校図書館において資料を選択・収集する上での諸問題，教育方針と学習方法に即した蔵書コレクションの形成，主題による組織化として分類・件名，書誌による組織化として目録について解説している。

◆学修到達目標

・学校図書館の資料の種類と特性，および資料の収集と選択について説明できて，図書資料の分類法・目録規則について理解できることを目的とする
・図書資料の分類記号の意味と資料の目録の記述の記載内容を判断できる。図書資料の主題を判断して，分類記号を付与できて，図書資料の目録を作成できることを目標にする。

◆学修方法・留意点

主に図書資料を中心に選択・収集，蔵書構成における問題を把握して，主題を分析して記号化する分類作業と，書誌情報を作成する目録作業について重点的に理解を図りたい。

◆学修計画

1回目	学校図書館リソーセスの種類と構成，学校図書館法における図書館資料の定義
2回目	学校図書館の実態（図書購入費と学校図書館の面積），選択と廃棄の基準，図書館の自由に関する宣言と資料の選択収集の問題
3回目	分類の意義と分類法の歴史，日本十進分類法のしくみと補助表，日本十進分類法（NDC）の解説 10 類（総記）
4回目	日本十進分類法（NDC）の解説 2　1類（哲学・宗教），2類（歴史・伝記・地理）
5回目	日本十進分類法（NDC）の解説 3　3類（社会科学），4類（自然科学），5類（技術）
6回目	日本十進分類法（NDC）の解説 4　6類（産業），7類（芸術）
7回目	日本十進分類法（NDC）の解説 5　8類（言語），9類（文学），資料の配架と著者記号
8回目	日本目録規則（NCR）の解説 1　目録の意義と目録規則の歴史
9回目	日本目録規則（NCR）の解説 2　記入：標目と記述，標目指示，その他の要素
10回目	日本目録規則（NCR）の解説 3　記述と書誌事項
11回目	日本目録規則（NCR）の解説 4　標目
12回目	資料目録法演習：目録の作成
13回目	MARC と OPAC の解説と利用目録の意義と機能
14回目	件名標目とその活用　分類記号と件名標目
15回目	学校図書館の資料構成

◆参考文献

『日本十進分類法（新訂 9 版）』（日本図書館協会　1995）
『日本十進分類法（新訂 10 版）』（日本図書館協会　2014）
『日本十進分類法（新訂 10 版簡易版）』（日本図書館協会　2018）
『日本目録規則　1987 年版（改訂 3 版）』（日本図書館協会　2006）
『基本件名標目表（第 4 版）』（日本図書館協会　1999）
『中学・高校件名標目表（第 3 版）』（全国学校図書館協議会　1999）
『小学校件名標目表（第 2 版）』（全国学校図書館協議会　2004）

科目コード	科　目　名	単位数
U20300	学習指導と学校図書館	2単位

教材コード　000585
教　材　名　『学習指導と学校図書館（司書教諭テキストシリーズⅡ）』
著 者 名 等　江竜　珠緒・富永　香羊子・村木　美紀
出 版 社 名　樹村房
I S B N　9784883672530

◆教材の概要

学校図書館の活用に関して司書教諭が担う学習指導の意義，方法，その内容について概説している。「学習と図書館との関係」「学校図書館の情報資源活用に必要な知識・スキルと，それらを学ぶための情報リテラシー教育」「学校図書館を活用した授業実践と学習事例」の３つの部分から構成されており，学校図書館における具体的な事例等も豊富に収録している。

◆学修到達目標

探究的な学習に学校図書館がどう関わっていくか考え，関与する学校での教育課程に活かすことができる。

◆学修方法・留意点

① 自らが「調べ学習･情報検索の達人」になるよう,「実際に調べてみる」ことを前提に学修を進めること。
② 自らの教科に関することを中心に，自分が調査可能な得意分野を見つけ，あるいはつくっていくこと。
③ 児童生徒をとりまくメディアの状況は変化していく。テキストに書かれていない最新の情報についても学修するよう心がけること。

◆学修計画

1回目	学習と図書館
2回目	『学習指導要領』にみる学校図書館
3回目	探究的な学習の理論と図書館の情報資源
4回目	学習指導における問題の設定
5回目	情報リテラシーの内容と指導方法
6回目	情報リテラシーと探究的な学習の事例①
7回目	情報リテラシーと探究的な学習の事例②
8回目	情報リテラシーと探究的な学習の事例③
9回目	レファレンスサービスによる学習支援
10回目	教職員のための学校図書館活用へのアプローチ
11回目	小学校における学校図書館の活用事例①
12回目	小学校における学校図書館の活用事例②
13回目	中学校・高等学校における学校図書館の活用事例①
14回目	中学校・高等学校における学校図書館の活用事例②
15回目	探究的な学習成果の評価と図書館の情報資源の活用

◆参考文献

『学習指導と学校図書館』堀川照代ほか（日本放送出版協会）（放送大学教材）
『インターネット時代の学校図書館―司書・司書教諭のための「情報」入門』根本彰監修（東京電機大学出版局）
その他，テキストに掲載されている参考文献も活用してください。

科目コード	科　目　名	単位数
U20400	読書と豊かな人間性	2単位

教材コード　000607
教　材　名　『読書と豊かな人間性（探求　学校図書館学第４巻）』
著 者 名 等　「探求　学校図書館学」編集委員会
出 版 社 名　公益社団法人全国学校図書館協議会
ＩＳＢＮ　9784793322778

◆教材の概要

読書の意義や読書教育の歩みについて述べ，学校図書館では，どのように読書活動をし，環境を整備したらよいのかを具体的に明らかにしている教材である。この教材を学ぶことによって，司書教諭としては最低知っておかなくてはならない読書活動の種類や必要な仕事についても，理解することができる。

◆学修到達目標

読書をすることによって，なぜ「豊かな人間性」が育まれるのかを理解し，子どもと本を結ぶための方法を具体的に知ることができる。

◆学修方法・留意点

章ごとに，内容をよく理解すること。第Ⅷ章は，読書指導の具体的な内容になるが，テキストには，概容しか述べられていないので，実際の読書活動については，インターネットの動画なども活用し，どのような活動なのか，どのような効果が期待できるのかを調べてみることが重要である。

◆学修計画

1回目	読書の意義と目的
2回目	読書教育の歴史
3回目	読書指導と学校図書館　～読書に関する教育施策～
4回目	子どもの読書環境　～子どもの読書の実態と学校図書館の現状～
5回目	発達に応じた読書指導
6回目	子どもの本の種類と提供
7回目	読書環境の整備
8回目	子どもと本を結ぶための方法①　～読み聞かせ・ブックトーク・ストーリーテリングなど～
9回目	子どもと本を結ぶための方法②　～ビブリオバトル・読書会・リテラチャーサークルなど～
10回目	各教科等での読書指導・探究的な学習と読書指導
11回目	読書活動の実際①　～小学校・中学校での読書活動例～
12回目	読書活動の実際②　～高校・特別支援学校での読書活動例～
13回目	読書活動の推進と司書教諭・学校司書
14回目	個に応じた読書指導
15回目	地域社会との連携

◆参考文献

『読む力は生きる力』（脇　明子著，岩波書店）
『橋をかける　子供時代の読書の思い出』（美智子著，文藝春秋）

科目コード	科　目　名	単位数
U20500	情報メディアの活用	2単位

教材コード　000473
教　材　名　『探求学校図書館学第５巻　情報メディアの活用』
著 者 名 等　探求学校図書館学編集委員会　編著
出 版 社 名　公益社団法人全国学校図書館協議会
ＩＳＢＮ　9784793322785

◆教材の概要

本書は学校教育と学校図書館における情報メディアの活用について解説している。情報とメディアの語源と定義，情報メディアの種類と特性，オンライン系の情報源としてのインターネットの活用，ディスク系の情報源としてのCD（CD-ROM，CD-R，CD-RWなど），DVD-ROMなどの原理と活用，著作権をめぐる今日的な課題，情報社会の光と影として，学校教育で情報メディアを活用する上での諸問題を論じている

◆学修到達目標

・情報メディアとは何か，情報メディアの特性を説明できる。情報メディアの活用によって学校の教科授業を活性化する方法を考案できるようになることを目的とする。
・学校図書館における著作権に関して説明でき，資料の活用と著作権の制限について法律の条文から判断できるようになることを目的とする。
・情報メディアから必要な情報を引き出し，活用して，表現できることを目標とする

◆学修方法・留意点

現在,学校図書館では紙に印刷された資料（印刷メディア）以外の情報メディアが急激に導入されている。学校図書館におけるオンライン系・ディスク系の情報源の特性を理解して，情報メディアに関する視点を持ち，児童生徒が学習の場で活用できる方法を考察することが目的である。著作権，情報モラルなどの今日的な問題についても考察したい。

◆学修計画

1回目	情報とメディアの定義，メディアの種類，高度情報社会における学校図書館の役割
2回目	メディアの歴史，文字情報とメディア，粘土板から紙へ，新しいメディアの登場
3回目	インターネットと検索技術（1）インターネットの歴史と機能，Webpageとリンク機能
4回目	インターネットと検索技術（2）サーチエンジンの種類と特長，検索方法と検索結果の評価
5回目	インターネットと検索技術（3）情報検索演習
6回目	半導体とコンピュータの仕組み，半導体の種類とその利用，コンピュータ・システムの構成
7回目	ディスク系のメディアの利用　CD・DVD・Blu-rayの原理とその利用
8回目	メディアの種類と情報の性質
9回目	情報メディアと著作権（1）知的財産権法における著作権，著作物の定義，著作権の発生と保護
10回目	情報メディアと著作権（2）著作権の制限，図書館における著作権
11回目	情報メディアと著作権（3）電子メディアと著作権
12回目	情報社会の光と影（1）情報社会がもたらした利便性と情報モラル（ネチケット）
13回目	情報社会の光と影（2）有害サイトとフィルタリング，コンピュータウィルス
14回目	学校教育における情報メディアの活用
15回目	情報社会の進展について

◆参考文献

『インターネットの光と影―被害者・加害者にならないための情報倫理入門（Ver.6)』情報教育学研究会（IEC）情報倫理教育研究グループ編　北大路書房　2018
『みんなで学ぼう学校教育と著作権－著作権の基本から指導まで』森田盛行著　全国学校図書館協議会　2019
『教育現場と研究者のための著作権ガイド』上野達弘著　有斐閣　2021

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ20100	生涯学習論	２単位

教材コード　０００４３６
教　材　名　『生涯学習概論』
著 者 名 等　佐藤　晴雄
出 版 社 名　学陽書房
Ｉ Ｓ Ｂ Ｎ　9784313611443

◆教材の概要

生涯学習および社会教育に関する基礎基本をまとめた入門書であり，大学で生涯学習論を学ぶ各位を対象としテキストである。

◆学修到達目標

・学習プログラムとは何かを整理し，学習プログラムのタイプ，学習プログラムの編成の視点，を本書から学修してゆく。実際に行われている学習プログラムを，博物館などを例に挙げて理解を深める。
・社会教育施設について学修を行う。公民館，図書館，博物館，その他社会教育施設についての理解を深める。

◆学習方法・留意点

予習を必ず行ってくること。特に博物館で行われている学習プログラムについて，リサーチを行うこと。

◆学修計画

1回目	オリエンテーション
2回目	生涯学習と社会教育
3回目	生涯学習と社会教育の歴史
4回目	生涯教育論の登場
5回目	生涯学習と学校教育
6回目	生涯学習の方法と内容
7回目	生涯学習と社会教育の計画
8回目	学習プログラムの編成
9回目	生涯学習関連行政の仕組み
10回目	生涯学習と社会教育職員
11回目	生涯学習と社会教育施設
12回目	生涯各期の教育課題
13回目	生涯学習と社会教育をめぐる課題
14回目	自治体における関連事例の検討
15回目	総括（生涯学習のゆくえ）

◆参考文献

特になし。

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ20300	博物館概論	２単位

教材コード　０００４９２
教　材　名　『新時代の博物館学』
著 者 名 等　全国大学博物館学講座協議会西日本部会
出 版 社 名　芙蓉書房出版
Ｉ Ｓ Ｂ Ｎ　9784829505519

◆教材の概要

本書は，平成 23 年「博物館法」改正に伴う新教材で，「博物館概論」のほか「博物館経営論」・「博物館資料論」・「博物館資料保存論」・「博物館展示論」・「博物館情報・メディア論」・「博物館教育論」が収められている。つまり，実習を除く全ての開講科目について，ねらいと内容が列挙されている。そのうち，「博物館概論」では，博物館学の定義・目的，博物館の定義・歴史・現状と課題等々の基礎的知識を理解することを目標としている。

◆学修到達目標

博物館とは何か，「博物館法」の定義をはじめとして，国際的な代表的な会議での「博物館」の定義と目的について学ぶ。そのうえで「博物館学」の定義と目的について考える。博物館の機能では，調査・研究，資料の収集，資料の整理・保存，展示・普及活動の 4 つの柱とその関係を知り，学芸員の役割を学ぶ。また，博物館の種類では，資料・機能・博物館法・設置者等々による分類を理解し，博物館を支える国内・国際的な規則，諸制度を学ぶ。博物館の歴史では，博物館の語源である古代ギリシャやエジプトのプトレマイオス朝に始まり，欧米や日本の近代以前の博物館，18・19 世紀以降の近・現代の博物館史を学ぶ。現代の博物館では，教育普及活動における学校との連携・融合，生涯学習機関としての役割，地域社会との関係について考える。そのうえで，博物館の現状と課題を考える。

◆学修方法・留意点

博物館に関する基礎的知識なので，教科書を熟読すること。そのうえで，参考書を利用して理解を深めること。

◆学修計画

1 回目	博物館とは何か　ことばの意味　目的・機能
2 回目	博物館の分類
3 回目	博物館法と関連法規
4 回目	博物館学とは何か　博物館学の体系化
5 回目	学芸員の役割
6 回目	博物館組織の基本と運営
7 回目	博物館の歴史 1：近代以前
8 回目	博物館の歴史 2：近代
9 回目	博物館の歴史 3：現代
10 回目	学校教育と博物館
11 回目	生涯学習機関としての博物館
12 回目	地域社会と博物館
13 回目	文化財保護・文化創造と博物館
14 回目	博物館の現状と課題 1：変化する社会環境
15 回目	博物館の現状と課題 2：社会福祉と情報化社会

◆参考文献

『新しい博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本支部会編（芙蓉書房出版）
『新編博物館概論』鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕司編（同成社）
『博物館の歴史』高橋雄造（法政大学出版局）

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ20400	博物館経営論	２単位

教材コード　０００４７５
教　材　名　『新博物館学―これからの博物館経営―』
著 者 名 等　小林　克
出 版 社 名　同成社
Ｉ Ｓ Ｂ Ｎ　9784886214881

◆教材の概要

博物館を運営していくためには，形態面と活動面における適切な管理･運営が求められる。その上で，ミュージアム・マネージメントという概念の理解と実践内容が問われている。それらを学びあわせて，博物館との連携についても理解を深める。

◆学修到達目標

博物館を運営していくためには，博物館資料とともに施設・設備，職員は不可欠である。今日，重要視されているミュージアム・マネージメント，ミュージアム・マーケティングという概念の理解と実践について理解する。

◆学修方法・留意点

本書のみにたよることなく，参考文献も参照して勉強すること。

◆学修計画

1 回目	博物館経営とは何か
2 回目	博物館運営の方法 1：独立行政法人制度
3 回目	博物館運営の方法 2：PFI・指定管理者制度
4 回目	博物館運営の方法 3：新公益法人制度
5 回目	博物館の行財政制度と事業
6 回目	博物館の施設と整備，管理体制
7 回目	ミュージアム・マネージメントの内容と課題
8 回目	博物館の経営評価　①自己評価　②外部評価委員会　③利用者
9 回目	博物館を支える組織　友の会，賛助会員制度，ボランティア
10 回目	博物館の連携（ネットワーク）活動の目的・種類
11 回目	博物館と学校との連携
12 回目	博物館と地域との連携
13 回目	指定管理博物館の現状と課題
14 回目	直営博物館の現状と課題
15 回目	これからの博物館運営・経営とは

◆参考文献

『博物館経営論』大堀哲編（樹林房）
『博物館と地方再生』金山喜昭（同成社）

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ20600	博物館資料論	２単位

教材コード　０００４９３
教　材　名　『博物館資料論（改訂新版）』
著 者 名 等　佐々木　利和・湯山　賢一
出 版 社 名　放送大学教育振興会
ＩＳＢＮ　9784595313455

◆教材の概要

博物館における資料とは何か。

博物館資料の収集，整理保管等に関する理論や方法について，各々の専門分野の研究者によって項目を定め，具体的に述べている。また，資料に関する調査・研究，資料保存に関する調査・研究の重要性を解き，あわせて調査・研究成果の還元や，収集した資料の公開についても理念を交えて紹介する。

◆学修到達目標

博物館活動を持続するためには，資料収集が必要となる。収集した資料は，活躍するためには資料化が求められる。資料の分類，受入れ手続，登録は欠かすことができない。資料を細部まで観察することで，修復を要するものもある。必要に応じてレプリカ保存もある。博物館資料の取扱いにおいては，古文書・アーカイブス資料，考古･民族（民俗）系資料，美術系資料，自然系資料と犯意が広く，それぞれ留意点が異なる。それぞれの特徴をよく理解しておく必要がある。資料の収集，整理・保管において，博物館資料に関する研究や資料保存に関する研究は重要であることを理解する。

◆学修方法・留意点

まずは，教科書を熟読すること。執筆者によって，視点が異なる場合もあるので，最新の参考書を交えて勉強すること。

◆学修計画

1 回目	博物館資料とは何か　多様性と本質
2 回目	博物館資料の採集の理念
3 回目	博物館資料採集の手順と方法
4 回目	一次資料と二次資料
5 回目	博物館資料の整理 1：基本台帳・管理台帳・学術台帳
6 回目	博物館資料の整理 2：データベースにより資料情報の公開
7 回目	博物館資料の調査研究の意義と目的
8 回目	博物館資料調査・研究成果の還元
9 回目	博物館の資料調査 1：古文書
10 回目	博物館の資料調査 2：民俗資料
11 回目	博物館の資料調査 3：考古資料
12 回目	博物館の資料調査 4：絵画資料
13 回目	博物館の資料調査 5：写真資料
14 回目	博物館の資料調査 6：自然系資料
15 回目	博物館資料調査の実例

◆参考文献

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本支部会編（芙蓉書房出版）
『博物館学講座』第 5 版新版博物館資料論　青木豊他（雄山閣）
『博物館資料保存論』（通信教育教材）

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ20700	博物館資料保存論	２単位

教材コード　０００４７７
教　材　名　『文化財保存環境学（第２版）』
著 者 名 等　三浦　定俊・佐野　千絵・木川　りか
出 版 社 名　朝倉書店
Ｉ Ｓ Ｂ Ｎ　9784254102758

◆教材の概要
文化財や博物館資料を保存するための環境について，温度やや湿度。光，空気汚染，振動，地震などの劣化要因を挙げ，劣化要因が引き起こす被害の大きさと事故発生率から危険度を評価し優先順位をつけて対策を立てる方法を解説。

◆学修到達目標
博物館活動は，主として実物資料を展示・活用することによって成り立っている。展示が頻繁に行われるならば資料は消耗することになる。資料を持続的に展示活用するには，劣化・損傷のリスクを小さくしなければならい。そのためには資料が劣化するメカニズムを知り，取り扱や展示収蔵方法に関する知識を取得する必要がある。保存知識とリスク軽減対策について基礎的なの能力を養うことを目的としている。

◆学修方法・留意点
博物館資料保存論は，博物館資料を持続的に活用することを目的にした科目である。テキスト他の文献をよく読み，またウエッブサイトを閲覧して博物館資料の保存に関する情報を集めて，なぜ保存することが必要か，そして対策はどうのようにしたらよいかを博物館活動に即して理解してほしい。学習によって得られた知識を具体化するために博物館や美術館を見学して，博物館と云う現場でそれらがどのようにして行かされているか検証してほしい。

◆学修計画

1 回目	博物館資料の保存の意義＊授業の進め方の説明。　＊博物館資料はどのような性質を持っているか。 ＊博物館資料をなぜ保存しなければならないのか。
2 回目	博物館資料の製作技術　＊日本画・甲冑・陶磁器の材質と製作技術　＊資料の機能と使用方法
3 回目	博物館資料の劣化と損傷　＊リスク管理　＊劣化・損傷の要因
4 回目	博物館照明　＊博物館照明とは。　＊光色・色温度・照度など。　＊光による劣化　＊照明光源・照明基準
5 回目	博物館の温度・湿度管理　＊温度・湿度変化による劣化。　＊湿度とは，温湿度の管理基準。　＊湿度調整。
6 回目	博物館の空気汚染　＊野外展示物および室内展示物に関する空気汚染の影響。　＊空気汚染のモニタリング
7 回目	博物館資料の虫害とカビ　＊虫の種類と虫害の特徴　＊カビの発生・成長の特徴
8 回目	IPM および防除対策　＊ IPM とは　＊燻蒸による対策
9 回目	国宝・重要文化財の公開承認施設　＊承認基準について　＊公開要項について
10 回目	博物館・美術におけるリスク管理　＊博物館におけるリスクとは　＊事故の例について　＊火災事例について ＊自然災害の事例について
11 回目	大震災における文化財被害とレスキュー活動　＊被害の状況について　＊現場でのレスキューについて ＊一時保管場所での応急処理について
12 回目	保存修復概論　＊考古資料の保存理念　＊修復記録について。
13 回目	出土金属製品の保存・修復　＊腐食について。　＊修復処置について。　＊修復後の保存管理について。
14 回目	史跡の保存整備と野外博物館　＊史跡整備の理念　＊史跡整備と保存技術　＊史跡の活用と保存
15 回目	野外博物館の役割と保存　＊動態保存について　＊近代化遺産の保存について

◆参考文献
＊『通論考古学』濱田耕作（雄山閣）
＊『文化財保存科学ノート』沢田正昭（近未来社）
＊『正倉院の歴史と保存』米田雄介（吉川弘文館）
＊『文化財を探る科学の眼』平尾良光他（国土社）
＊『保存科学入門』京都造形大学（角川書店）
＊『史跡整備の手引き』文化庁文化財部（同成社）
＊『ものが壊れるわけ』松浦俊輔訳（河出書房新社）
＊『図解日本画用語事典』東京藝術大学文化財保存学（東京美術）
＊『紙と本の保存科学』園田直子（岩田書店）
＊『文化財の保存環境』東京文化財研究所（中央公論美術出版）
＊『学芸員のための展示照明ハンドブック』藤原工（講談社）
＊『博物館資料の臨床保存学』神庭信幸（武蔵野美術大学出版局）
＊各項目のウエッブサイトの閲覧

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ20800	博物館展示論	２単位

教材コード　０００５９８
教　材　名　『博物館学Ⅱ博物館展示論・博物館教育論』　※博物館教育論と同じ教材です。
著 者 名 等　大堀　哲・水嶋　英治
出 版 社 名　学文社
Ｉ Ｓ Ｂ Ｎ　9784762022852

◆教材の概要

本書は，博物館における「展示」の意義を学び，その上で理論・実践に関わる知識や技術の理解・習得を目的としている。内容は，展示論・教育論の両部門を包含しているが，「博物館展示論」では，主に下記の計画にもとづき，第１部「博物館展示論」第１～８章を対象とする。

◆学修到達目標

「展示」の意義や種類，計画と製作，博物館の「展示」機能に関する諸問題など総合的に理解できる。

◆学修方法・留意点

博物館における展示は，博物館の経営理念や収集資料の特性に応じて検討することが必要である。博物館展示論は，経営論・資料論・教育論をはじめとした各論との密接な関連によって成立する。本科目の学修においては，本書だけに頼らず，コース必修科目で指定されている教材や，教材で提示されている参考文献を使い，さらには博物館を実際に見学して展示方法を学ぶことで理論・方法論を実感することができる。積極的にさまざまな博物館施設に足を運び，数多くの展示を見学・体感して貰いたい。

◆学修計画

１回目	博物館における「展示」とは
２回目	コミュニケーションとしての展示
３回目	展示の歴史
４回目	展示の形態
５回目	展示の分類
６回目	専門分野別展示
７回目	展示解説の方法と種類
８回目	展示パネルと解説書
９回目	展示計画の概要
10回目	展示製作と展示業者
11回目	展示の評価
12回目	「博物館活動」を展示する
13回目	常設展示のリニューアルとマネジメント
14回目	デジタル化の進展と展示
15回目	社会的弱者と展示

◆参考文献

特になし

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ20900	博物館教育論	２単位

教材コード　０００５９８
教　材　名　『博物館学Ⅱ博物館展示論・博物館教育論』　※博物館展示論と同じ教材です。
著 者 名 等　大堀　哲・水嶋　英治
出 版 社 名　学文社
Ｉ Ｓ Ｂ Ｎ　9784762022852

◆教材の概要

本書は，博物館における「教育」の意義を学び，その上で理論・実践に関わる知識や技術の理解・習得を目的としている。内容は，展示論・教育論の両部門を包含しているが，「博物館教育論」では，主に下記の計画にもとづき，第２部「博物館教育論」第１～７章を対象とする。

◆学修到達目標

博物館における教育活動の基本理論やその実践に関する知識と方法を習得し，博物館教育に関して総合的に理解できる。

◆学修方法・留意点

博物館教育は，収集資料の特性，展示情報，展示方法，博物館経営など，さまざまな部門との関連で成り立っている。よって，本科目の学修は本書だけに頼らず，コース必修科目で指定されている教材や，教材で提示されている参考文献を使ったり，複数の博物館を実際に見学したり，博物館主催の各種のイベントなどに参加することで，一層の理解の深化が期待できる。

◆学修計画

1回目	博物館教育と学校教育・社会教育
2回目	博物館教育の意義と理念
3回目	博物館教育と生涯学習
4回目	博物館における学びの特性
5回目	博物館固有の教育方法
6回目	博物館教育の手法
7回目	博物館教育プログラムの種類
8回目	博物館教育プログラムの企画と実施
9回目	博物館教育活動の評価
10回目	博物館の教育サービス
11回目	博物館と学校教育
12回目	博物館の教育担当者
13回目	博物館におけるエデュケーターの役割
14回目	生涯学習の場としての博物館
15回目	博物館教育の課題

◆参考文献

特になし

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ21000	博物館情報・メディア論	２単位

教材コード　０００４８０
教　材　名　『博物館経営・情報論』
著 者 名 等　佐々木　亨・亀井　修・竹内　有理
出 版 社 名　放送大学教育振興会
ＩＳＢＮ　9784595308260

◆教材の概要

本書は，「博物館情報・メディア論」において，博物館における「情報」の意義・活用，ならびに「メディア」を通じた情報発信の課題などを理解することを目的とする。さらに，情報提供と活用に関する基礎的能力の学習・修得をめざしていく。

◆学修到達目標

博物館の成り立ちやその役割を知り，その次に博物館に必要な情報化の作業やその技術，そして公開と活用がどのような形態で行われているかを捉え，博物館のもつ情報やその活用方法が理解できる。

◆学修方法・留意点

情報では「博物館資料論」,情報発信は「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館教育論」と関連性が高い。そのような点をかんがみ，本書での学修のみに頼らず，学芸員としての資質を養うためにも，その他のコース必修科目教材とあわせながら学修することで，一層の理解の深化が期待できるだろう。また，実際にどのような発信をしているのかは，実際に博物館を見学してみるとよい。

◆学修計画

1回目	ミュージアムになぜ経営が必要か
2回目	博物館の人材・組織・財政・各種団体
3回目	マーケティングと利用者調査
4回目	事業評価の手法とシステム
5回目	公立博物館の経営形態
6回目	博物館とそれに取り巻く人々・社会
7回目	博物館教育の歴史と今後の方向性
8回目	博物館教育の理論
9回目	展示へのアプローチ
10回目	地域連携とボランティア
11回目	博物館における情報
12回目	博物館活動の情報化
13回目	情報技術と博物館
14回目	博物館経営と情報論
15回目	博物館にとって本当に必要なものは何か

◆参考文献

『博物館情報論（新版・博物館学講座)』加藤有次他編（雄山閣出版）

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ21200	民俗学	４単位

教材コード　０００４９１
教　材　名　『図説　日本民俗学』
著 者 名 等　福田　アジオ・古家　信平・上野　和男・倉石　忠彦・高桑　守史
出 版 社 名　吉川弘文館
ＩＳＢＮ　9784642080279

◆教材の概要

民俗学の研究成果を，写真等を示しつつ，コンパクトにまとめている。先行研究のリストが付されていないので，各自で検索し入手する必要がある。

◆学修到達目標

この教材については，1分冊と2分冊とを範囲指定しない。2通のリポートは，民俗学全体のなかから研究テーマを設定してよい。

① 教科書はページ順に読むのではなく，目次と索引を活用しながら，自分が関心をもったトピックから読解し，その主題の議論とキーワードを理解する。②リポートで論じたいキーワードについて，サイニィ（http://ci.nii.ac.jp/），Google Scholar（http://scholar.google.co.jp/）などの学術情報検索システムと公立図書館・大学図書館を利用して先行研究を入手し，特定の研究テーマについて理解を深める。先行研究を読解することで論文の書き方（議論展開の形式）を理解する。ウェブサイト情報だけの利用では合格水準に達しない。③読者に伝えたい自分の発見を軸にして，リポート（論文）のアウトライン（論文の設計図）を構成する。アウトラインに基づいて，自分の発見を読者に説得力ある形で伝える。論じるテーマを小さく絞り具体化することが，論文成功の秘訣である。どこにでも書いてあるような常識的知識や蘊蓄を書き写しても学術的な論文にはならない。

◆学修方法・留意点

民俗学とは何かを理解するより，むしろ民俗学によって何が見えてくるのかを，各自の具体的な関心とすりあわせて考えていただきたい。地元図書館の地域資料コーナーを利用したり，博物館・資料館で知見を広めることが望ましい。自分の経験のなかで疑問を育て，独自の研究テーマを設定することが重要である。身近な高齢者に往時の生活体験についてインタビューを試みるような積極性が期待される。

◆学修計画

1回目	教科書の目次と索引をみて民俗学の領域を知る。関心をもったキーワードを書き出す。
2回目	研究したいキーワードについて，教科書の該当ページを読み理解する。リポートに引用できそうな部分を記録する。
3回目	発見した関連キーワードで，先行研究・参考文献を検索する。
4回目	先行研究・参考文献を入手する。入手困難な文献については図書館スタッフに相談する。
5回目	先行研究・参考文献を読解する。リポートに引用できそうな部分を記録する（どの本の何ページか）。
6回目	Cinii Articles で学術雑誌に掲載された論文を検索する。論文の形式を意識しながら読解する。
7回目	集めた情報を取捨選択し，リポートのアウトライン（論文の設計図）を作成する。
8回目	さらに論点を絞り込み，関連情報を集め，議論を深める。
9回目	リポートのアウトラインを再検討し，構成しなおす。
10回目	アウトラインにもとづいて，リポート1通めを作成する。
11回目	先行研究（学術論文）をまねて，引用表示する。
12回目	返却されたリポートへの採点者コメントを確認し，2通めリポートの作成にいかす。
13回目	再度，必要な情報を集め，リポートのアウトラインを作成する。
14回目	アウトラインにもとづいて，リポート2通めを作成する。
15回目	返却されたリポートへの採点者コメントを確認し，試験答案にいかす。

◆参考文献

『日本民俗大辞典』『民俗小事典食』『沖縄民俗辞典』『日本民俗宗教辞典』など，専門分野ごとの事典類の活用も有効である。

科目コード	科　目　名	単位数
Ｙ２１３００	文化人類学	４単位

教材コード　０００４２４
教　材　名　『文化人類学のレッスン［新版］』　（学修指導書別冊）
著 者 名 等　梅屋　潔・シンジルト（共編）
出 版 社 名　学陽書房
Ｉ Ｓ Ｂ Ｎ　9784313340268

◆教材の概要

人間についての総合的研究―それが文化人類学である。そしてまた，文化人類学は各地の様々な文化や社会などを比較する学問でもある。グローバル化が進む現代において「自分とは異なる現象」を「比較」することは，すなわち自分自身を知ることにもつながる。そのような視点を養いつつ，初学者にもわかりやすく文化人類学の世界を理解できるよう，本書は構成されている。「文化」のとらえ方について，文化人類学の成立以前と以後を学説史的に振り返り，さらに生物（動物）としての「人間」をするべく，本書はさまざまな事例や方法論を紹介しながら展開される。

◆学修到達目標

文化人類学は机上の学問ではなく，自身の日常のあらゆる場面と密接に関連した学問である。「異文化」と思われがちな現象の中にも，我々の日常において共通した考え方があったり，我々の文化の礎となるものも存在する。そういった人類全般の文化相対的な考え方を身につけ，文化の構造・機能を多角的に理解できるよう努める。

◆学修方法・留意点

我々「人間」について理解を深め，「人間」にとって「文化」がどのように関わっているのかを，自分自身で理解できるまで本教材および参考文献を熟読の上，自分自身で理解できる言葉に置き換えながら「文化人類学」の世界をとらえてほしい。

◆学修計画

1 回目	文化と未来①　文化人類学成立以前における異文化のとらえ方
2 回目	文化と未来②「文化」（culture）の定義・諸学説
3 回目	フィールドワーク①　方法論や必要性について
4 回目	フィールドワーク②　有名な実例を理解する
5 回目	動物と人間　人間が他の動物と異なる点について理解する
6 回目	環境と生活　様々な文化が存在する理由（原因）について
7 回目	セクシャリティとジェンダー　性差に関する問題点や研究事例について
8 回目	家族と親族「家族」に関する諸学説・定義を理解する
9 回目	民族と国家　国家を形成する集団（民族）意識について
10 回目	儀礼と分類　人間の一生における区切りと行為
11 回目	宗教と呪術「宗教」の定義と文化との関連性を理解する
12 回目	交換と経済　人類学における「経済」の意味
13 回目	グローバル化　国際化の進む現代における文化人類学研究の意味
14 回目	「文化」と人間の関係性について（まとめ 1）諸学説をまとめていく
15 回目	「民族」と異質性について（まとめ 2）諸現象をまとめていく

◆参考文献

『文化人類学入門』（増補改訂版）祖父江孝男著（中公新書　1990 年）
『文化人類学 15 の理論』綾部恒雄編（中公新書　1984 年）
『文化人類学の歴史』M.S. ガーバリーノ著（新泉社　1987 年）
『人間のための鏡』クラックホーン著（サイマル出版会　1971 年）
『補強版ストレス・スパイラル』服部慶亘著（人間の科学新社　2004 年）

DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY

〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部